

伝統的資源活用型観光地における
観光客の意識に関する研究
-中国成都市を対象として-

山梨大学大学院
医学工学総合教育部
博士課程学位論文

2017年9日

劉 岩

目次

第1章 序章	
1-1 研究の背景	1
1-1-1 現代の中国観光の背景	1
1-1-2 中国古鎮開発の背景	6
1-2 研究対象	9
1-2-1 研究対象、事例の選定の理由と前提	9
1-2-2 研究対象地の選定	10
1-3 研究目的	13
1-3-1 研究目的の構成	13
1-3-2 各研究目的の相互関係	15
1-4 研究方法と研究流れ	17
1-4-1 研究方法	17
1-4-2 研究の流れ	18
1-5 研究の位置付け	20
1-5-1 既存研究に対する位置づけ（中国側）	20
1-5-2 既存研究に対する位置づけ（日本側）	22
1-5-3 既存研究に対する位置づけ（欧米側）	23
1-5-4 本研究の特徴と意義	24
1-6 論文の構成	26
<第1章における註記>	30
<第1章における参考文献>	33
第2章 研究対象と研究の枠組み	
2-1 四川省の概要	36
2-1-1 一般概要	36
2-1-2 地理と自然の状況	37
2-1-3 地名の由来	38
2-1-4 四川省の経済発展	38
2-2 成都市の概要	41
2-2-1 一般概要	41
2-2-2 成都市の観光資源	43
2-2-3 成都市の観光資源の分類	43
2-2-4 成都市の観光収入及び来訪者数	44
2-3 研究対象の定義	46
2-4 事例対象地域選定の理由	49
2-4-1 寛窄巷子の概況	50
2-4-2 錦里の概況	53
2-4-3 文殊院周辺の概況	56
2-4-4 黄龍溪古鎮の概況	59
2-4-5 安仁古鎮の概況	62
<第2章における註記>	66

<第2章における参考文献>	67
第3章 アンケート調査概要	
3-1 第3章の目的.....	68
3-2 アンケート調査.....	68
3-3 アンケート項目.....	70
3-4 アンケート集計結果.....	76
3-4-1 被験者の概要.....	76
3-4-2 来訪意思.....	78
3-4-3 観光客の期待度.....	79
3-4-4 観光地毎の印象の違い.....	82
3-4-5 観光客の嗜好性.....	86
3-4-6 観光客の満足度.....	87
3-4-7 観光客の重視する観光要素.....	92
3-5 第3章のまとめ.....	95
<第3章における注記>	99
<第3章における参考文献>	100
第4章 総合的満足度に影響を及ぼす要因の探索	
4-1 第4章の目的.....	101
4-2 観光地満足度に影響を与える要因の評価.....	102
4-3 分類回帰樹木法.....	104
4-3-1 分類回帰樹木の特徴.....	104
4-3-2 分類回帰樹木法の分析の流れ.....	104
4-3-3 多変量回帰樹木法の説明.....	105
4-4 総合的満足度に影響を与える要素.....	107
4-5 第4章のまとめ.....	110
<第4章における注記>	113
<第4章における参考文献>	114
第5章 CS分析による地域資源の強みと弱みの探索	
5-1 第5章の目的.....	115
5-2 CS分析の概要.....	116
5-2-1 CS分析とは.....	116
5-2-2 CS分析の分析手順.....	117
5-3 CS分析に見られる地域全体の傾向.....	119
5-3-1 地域全体における分析可能性に関する検討.....	119
5-3-2 地域全体におけるCS分析の結果.....	120
5-4 CS分析に見られる地域別の傾向.....	124
5-4-1 錦里におけるCS分析の結果.....	124
5-4-2 寛窄巷子におけるCS分析の結果.....	128
5-4-3 文殊院におけるCS分析の結果.....	131
5-4-4 黄龍溪古鎮におけるCS分析の結果.....	134
5-4-5 安仁古鎮におけるCS分析の結果.....	137

5-4-6	5つの地域の比較	140
5-5	改善度を踏まえた提案	144
5-5-1	地域全体における改善課題	144
5-5-2	地域別における改善課題	146
5-5-3	地域別における改善課題の比較	149
5-6	第5章のまとめ	152
	<第5章における註記>	155
	<第5章における参考文献>	156
第6章	観光客における期待度と満足度に関する分析	
6-1	第6章の目的	158
6-2	期待度に関する分析	159
6-2-1	地域全体の期待度に関する分析	160
6-2-2	地域別の期待度に関する分析	162
6-3	満足度に関する分析	164
6-3-1	地域全体の満足度に関する分析	165
6-3-2	地域別の満足度に関する分析	167
6-4	期待度と満足度のギャップに関する分析	171
6-4-1	地域全体における期待度と満足度のギャップについて	173
6-4-2	地域別における期待度と満足度のギャップについて	176
6-5	初回来訪者とリピーターの検討	194
6-6	第6章のまとめ	196
	<第6章における注記>	201
	<第6章における参考文献>	202
第7章	テキストマイニングによる自由記述に関する分析	
7-1	第7章の目的	204
7-2	使用データ	204
7-3	分析の流れ	205
7-3-1	テキストマイニング分析に適用できるテキスト・データの準備	205
7-3-2	テキストマイニングを利用したデータの解析の流れ	206
7-4	テキストマイニングの結果	207
7-4-1	基本情報及び単語頻度	207
7-4-2	単語頻度解析	207
7-4-3	評判抽出について	209
7-4-4	評判抽出ネットワーク	209
7-4-5	ネットワーク分析について	212
7-4-6	ネットワーク分析の結果	212
7-5	第7章のまとめ	215
	<第7章における注記>	216
	<第7章における参考文献>	216
第8章	伝統的観光地の観光客と商業者の意識に関する比較	
8-1	第8章の目的	217

8-2 アンケート調査及び調査の概要.....	218
8-2-1 アンケート調査の概要.....	218
8-2-2 アンケート調査の内容.....	219
8-3 被験者の概要.....	223
8-4 商業者の重視度.....	225
8-4-1 分析方法.....	225
8-4-2 商業者の重視度と観光客の評価の関連.....	225
8-4-3 地域別の検討.....	227
8-5 地域に対する商業者の意識.....	229
8-6 第8章のまとめ.....	232
<第8章における注記>.....	233
<第8章における参考文献>.....	233
第9章 考察	
9-1 各章の結論の相互関係.....	234
9-2 第9章のまとめ.....	242
第10章 結論と今後の課題	
10-1 結論.....	243
10-2 提言.....	255
10-3 今後の研究課題.....	263
<第10章における注記>.....	265
<第10章における参考文献>.....	266
謝辞.....	267
添付資料	
資料1 中国歴史文化名城.....	268
資料2 中国歴史文化名鎮.....	269
資料3 中国歴史文化名村.....	273
資料4 伝統的生活文化.....	277
資料5 伝統的食.....	279
資料6 テキストマイニングの概要.....	280
資料7 自由記述（中国語）.....	283
資料8 自由記述（日本語）.....	286
資料9 観光産業の法律法規について.....	289
資料10 観光業の改革・発展促進に関する国务院の若干の意見.....	292
参考・引用文献	
<中国語文献>（アルファベット順）.....	294
<日本語文献>（50音順）.....	296
<英語文献>（50音順）.....	301
<インターネット>.....	302

表目次

表 1-1	2001～2015 年に中国 GDP と観光収入推移及び増加率	3
表 1-2	2001～2015 年に中国国内観光者数と国内観光収入の推移	4
表 1-3	中国古鎮の分布一覧	11
表 1-4	中国古鎮における東部、中部、西部の分布状況	11
表 1-5	観光開発モードの一覧	21
表 2-1	四川省の概要（人口、面積、主要産業）	36
表 2-2	四川省と中国全体の経済成長率の推移	39
表 2-3	2010～2014 年における四川省観光状況	40
表 2-4	成都市観光資源の分類	43
表 2-5	2001～2015 年に成都市観光者数と観光収入の推移	45
表 3-1	観光客の期待する要素	72
表 3-2	観光客の満足した要素	73
表 3-3	観光客の属性	77
表 3-4	観光客の来訪意思	78
表 3-5	地域全体における期待度	79
表 3-6	地域別における期待度	81
表 3-7	歴史資源に対する開発課題と基盤整備に対する開発課題と調査地点の関係	85
表 3-8	伝統的地域に求める嗜好性	86
表 3-9	地域全体における満足度	88
表 3-10	地域別における満足度	91
表 3-11	地域全体における重視する観光要素の上位 5 項目	93
表 3-12	地域別における重視する観光要素の上位 5 項目	94
表 4-1	地域別の総合的満足度の要約	103
表 4-2	終結ふしと調査対象地の関係	108
表 5-1	CS 分析による地域全体における観光要素の重要度と満足度の偏差値	122
表 5-2	CS 分析による錦里における観光要素の重要度と満足度の偏差値	126
表 5-3	CS 分析による寛窄巷子における観光要素の重要度と満足度の偏差値	129
表 5-4	CS 分析による文殊院における観光要素の重要度と満足度の偏差値	132
表 5-5	CS 分析による黄龍溪古鎮における観光要素の重要度と満足度の偏差値	135
表 5-6	CS 分析による安仁古鎮における観光要素の重要度と満足度の偏差値	138
表 5-7	5 地域の比較の結果（1）	142
表 5-8	5 地域の比較の結果（2）	143
表 5-9	地域全体における観光要素の改善度（数字）は優先改善項目順位	145
表 5-10	地域別における観光要素の改善度（数字）	151
表 6-1	地域全体における観光客の期待度	161
表 6-2	地域別における観光客の期待度	163

表 6-3	地域全体における満足度	166
表 6-4	地域別における満足度 (1)	169
表 6-5	地域別における満足度 (2)	170
表 6-6	期待度と満足度の対応表	172
表 6-7	地域全体における期待度と満足度のギャップ	175
表 6-8	地域別における期待と満足度の平均値.....	176
表 6-9	景観における期待度・満足度のギャップ (地域別)	178
表 6-10	文化における期待度・満足度のギャップ (地域別)	182
表 6-11	飲食購買における期待度・満足度のギャップ (地域別)	185
表 6-12	保養における期待度・満足度のギャップ (地域別)	188
表 6-13	寛窄巷子における期待度と満足度のギャップ	189
表 6-14	錦里における期待度と満足度のギャップ.....	190
表 6-15	文殊院における期待度と満足度のギャップ	191
表 6-16	黄龍溪における期待度と満足度のギャップ	192
表 6-17	安仁古鎮における期待度と満足度のギャップ	193
表 7-1	自由記述調査の結果	204
表 7-2	文数・単語数・単語語種別.....	207
表 7-3	品詞出現回数.....	207
表 7-4	ことばネットワーク係り受け頻度表 (観光後の感想)	214
表 8-1	商業者が予測する観光客ニーズの要素	220
表 8-2	観光客の属性	223
表 8-3	商業者の属性	224
表 8-4	観光客の期待度・満足度と商業者の重視度	226
表 8-5	観光客の期待度・満足度と商業者の重視度 (地域別)	228
表 8-6	商業者の地域に対する意識	230
表 8-7	商業者の観光地の方向性に対する意識	230
表 8-8	商業者の行動実態.....	231
表 8-9	観光客の地域に対する印象	231
表 8-10	商業者の暮らしに対する意識	231
表 8-11	商業者の意識・暮らし・行動の相関.....	231
表 9-1	観光要素の維持・継承・改善にかかわる判断基準.....	235
表 9-2	各観光要素に関する課題	241

図目次

図 1-1	2001～2016 年に中国 GDP と観光収入の増加率	3
図 1-2	2001～2015 年に中国国内観光者数と観光収入の推移	4
図 1-3	各研究目的の相互関係.....	16
図 1-4	本調査の流れ	19
図 1-5	論文の構成	27
図 2-1	西部大開発地域	37
図 2-2	四川省と全国の経済成長率（年別）	39
図 2-3	成都市の地図	41
図 2-4	2000～2015 年における成都市総額 GDP の推移	42
図 2-5	2001～2015 年に成都市観光者数と観光収入の推移	45
図 2-6	寛窄巷子の位置と主要な観光スポット	50
図 2-7	錦里の位置と主要な観光スポット	53
図 2-8	文殊院の位置と文殊院案内図	56
図 2-9	黄龍溪古鎮の位置と主要な観光スポット	59
図 2-10	安仁古鎮の位置と安仁古鎮の保護範囲図.....	62
図 3-1	本アンケートにおける観光要素	71
図 3-2	観光客アンケート用紙（表）	74
図 3-3	観光客アンケート用紙（裏）	75
図 3-4	観光開発の状況×観光地のクロス集計表に基づく対応分析の結果（括弧内は寄与率）	84
図 4-1	総合的満足度に影響を及ぼすと考えられるアンケート項目の一覧	103
図 4-2	アンケート調査に対する順序カテゴリカル応答に対する CART 法の結果	109
図 5-1	CS 分析ポートフォリオのポジションマップ（筆者作成）	118
図 5-2	改善度の算出方法	118
図 5-3	CS 分析による 5 地区全体課題の抽出	108
図 5-4	CS 分析による錦里の課題抽出	112
図 5-5	CS 分析による寛窄巷子の課題抽出	115
図 5-6	CS 分析による文殊院の課題抽出	118
図 5-7	CS 分析による黄龍溪古鎮の課題抽出	121
図 5-8	CS 分析による安仁古鎮の課題抽出	124
図 6-1	期待度におけるアンケート項目一覧.....	159
図 6-2	総合的満足度に影響を与えると考えられる要素.....	164
図 7-1	単語頻度分析の結果.....	208

図 7-2	観光客の観光後の評判抽出	210
図 7-3	観光客の観光後の感想に対するネットワーク分析の結果	214
図 8-1	商業者用アンケート用紙 (表)	221
図 8-2	商業者用アンケート用紙 (裏)	222

写真リスト

写真 2-1	街並み景観	52
写真 2-2	道側の屋台	52
写真 2-3	現代風の喫茶店	52
写真 2-4	露天休憩場所	52
写真 2-5	記念写真の観光客	52
写真 2-6	夜の食事風景	52
写真 2-7	錦里の入り口	55
写真 2-8	街並み景観	55
写真 2-9	夜のライトアップ	55
写真 2-10	店舗の風景	55
写真 2-11	伝統的切り紙	55
写真 2-12	川劇の土産物	55
写真 2-13	文殊院の入り口	58
写真 2-14	お線香供えの観光客	58
写真 2-15	文殊院街並み景観	58
写真 2-16	文殊院周辺の店舗	58
写真 2-17	文殊院周辺の仏教装飾	58
写真 2-18	食事店舗	58
写真 2-19	新開発区の水辺空間・歩行者空間・模擬的な伝統的建築物	61
写真 2-20	新開発区の水辺空間・歩行者空間・模擬的な伝統的建築物	61
写真 2-21	旧集落内に進出した観光客向けの店・娯楽施設	61
写真 2-22	旧集落内に進出した観光客向けの店・娯楽施設	61
写真 2-23	清時代の建物が多く残存する旧集落	61
写真 2-24	清時代の建物が多く残存する旧集落	61
写真 2-25	伝統的街並み景観	64
写真 2-26	住民の居住の街並み景観	64
写真 2-27	お茶屋体験の風景	64
写真 2-28	お茶屋体験の風景	64
写真 2-29	住民の麻雀の風景	64
写真 2-30	住民向けの裁縫店	64
写真 3-1	アンケート調査の様子	69
写真 3-2	アンケート調査の様子	69
写真 3-3	アンケート調査の様子	69
写真 3-4	アンケート調査の様子	69
写真 3-5	アンケート調査の様子	69
写真 3-6	アンケート調査の様子	69
写真 4-1	リアリティのある景観	112
写真 4-2	リアリティにかける景観	112

写真 6-1	街並み景観（錦里）	179
写真 6-2	歴史的建築物（文殊院）	179
写真 6-3	街並み景観（寛窄巷子）	179
写真 6-4	街並み景観（寛窄巷子）	179
写真 6-5	新規の建築物（安仁古鎮）	179
写真 6-6	街並み景観（安仁古鎮）	179
写真 6-7	街並み景観（黄龍溪古鎮）	179
写真 6-8	水路の景観（黄龍溪古鎮）	179
写真 6-9	井戸端の洗濯（安仁古鎮）	183
写真 6-10	野菜の日干し（安仁古鎮）	183
写真 6-11	路上の麻雀・トランプ（黄龍溪古鎮）	183
写真 6-12	路上の麻雀・トランプ（安仁古鎮）	183
写真 6-13	住民の生活様子（黄龍溪古鎮）	183
写真 6-14	住民向けの裁縫店舗（安仁古鎮）	183
写真 6-15	飲食店の店舗（錦里）	186
写真 6-16	川劇隈取り（錦里）	186
写真 6-17	仏教の商品（文殊院）	186
写真 6-18	飲食店の風景（寛窄巷子）	186
写真 6-19	露天の風景（黄龍溪古鎮）	186
写真 6-20	飲食店（安仁古鎮）	186
写真 6-21	家族団らんの撮影（安仁古鎮）	187
写真 6-22	お茶屋体験風景（安仁古鎮）	187
写真 6-23	観光客の散策様子（黄龍溪古鎮）	187
写真 6-24	線香供えの様子（文殊院）	187
写真 8-1	商業者向けの調査の様子	218

第1章 序 章

1-1 研究の背景

1-1-1 現代の中国観光の背景

中国は国土が広く、美しい山や川の自然の風光、悠久の歴史、輝かしい文化、多民族と、多様な資源を持つ。特産物も豊富で、地上にも地下にも豊かな文物が数多く残され、工芸品も素晴らしく、各地の名物料理も海外で広く知られている。全年を通じて四季折々に美しい景観・文化を楽しむことができる環境がある。中国の古代建造物として 2000 年以上の歴史を有する万里の長城、大運河、カーレーズ（坎児井）^{注1)} などのような天下またとないと言える名所旧跡も少なくない。中華民族の 5000 年以上の文化は絢爛たるものであったといえよう。中国の観光資源は多種多様で、大きな観光発展の可能性を秘めている。中国経済の発展と対外開放が進むにつれ、観光業も経済発展の新しい分野となっている。

中国は 1949 年 10 月 1 日に社会主義国として誕生してから、1978 年に改革開放路線への転換がなされる以前の時代においては、国際的な冷戦状態と国内的な政治不安定といった社会環境のもとに、観光事業のみならず、すべての分野が「政治優先」の原則に基づいて行われていたが、この時代の観光事業は極端に困難な環境の中で少しずつ進んでいった。しかし、1966 年～1976 年の「文化大革命」の時期には全国的な混乱状態が生じ、国の基礎となる農・工産業も甚大な影響を受けた。観光事業が発展する余地は全く存在しなかった。1980 年代から改革開放政策がはじまる。この改革・開放路線の一環として、観光事業は一躍脚光をあびることになり、拡大に向けての整備が急速に進められた。政府は観光業の需要に適応した人材の育成、施設の整備、観光資源の解放、管理体制の改善及び国内、海外市場の開拓などに尽力した^{注2)}。

21 世紀に入って中国の経済成長は著しく、世界の注目を集めている。とりわけ、観光を通じた経済発展という目的が重視され、実際に高度経済成長の維持および人々の生活水準の向上といった効果も見られる。国民の観光に対する価値観や行動は大きく変化しつつあり、国民の観光意欲も高まり、観光客数も年々増加している。大衆観光と新たな観光形態が同時発展する中国では、いまや観光産業が経済発展の大きな柱になりつつある。国家旅遊局は、観光がすでに中国の第三次産業のうち、最も活力と潜在力のある新興産業であり、経済の新しい成長分野になると見なしている。現代の観光産業は世界の人々の目を引く世界的規模をもつ「煙のない工業、形のない貿易」になり、重点が置かれる産業の一つである^{注3)}。

松村嘉久^{注4)} は、『中国政府は、改革開放後、「観光資源」の再発見と制度改革に積極的に取り組み、観光振興に着手し始めた。それ以前にも観光業は存在したが、政治主導が強く、経済活動とはみなされていなかった。建国後、長い間続いた東西冷戦時代、文化大革命による鎖国の期間には、中国の国際観光は政府の外交事業の一部として中央政

府の管轄下にあった。改革開放政策の進展と中国の経済発展につれ、観光業は国際交流の媒介役としてのみならず、外貨獲得の重要な手段の一つとして重視されるようになった。観光産業は経済発展の新しい推進力となり、地域産業の振興、文化交流の促進、人々の文化生活の多様化を支える産業として飛躍的に成長してきている』と指摘している。

表 1-1 及び図 1-1 は、2001～2015 年における中華人民共和国国内総生産（GDP）と中国国内観光収入の推移及び増加率を示している。中華人民共和国国内総生産を見てみると 2001 年から 2015 年までの 16 年間、中国の経済は急成長を遂げている傾向にある。それと同時に中国観光産業も順調に発展している傾向が見られる。2001 年に観光収入は 3522 億元であったが、2010 年には、12,580 億元、2015 年には、国内総生産 67.67 兆元（1 元約 16.7 円）に対して国内観光収入は 34,195 億元に達し、全 GDP に占める中国旅行業の貢献は 10%を超えていることが見てとれる。このような著しい伸び率が世界観光業の発展において、上位を占めることは注目される。最新情報により 2016 年に国内観光収入は急増し、3.9 兆元になっている。

表 1-2 は 2001～2015 年における中国国内の観光客数と観光収入の推移を示している。中国国内における 2001 年から 2015 年までの 15 年間の観光者数と観光収入を見ると、中国の観光産業は速いスピードで発展を果している傾向が見られる。2009 年の観光収入は 10,184 億元で 1 兆元の大台に乗った。2000 年から 2015 年までの 15 年間の年平均伸び率は 17.2%で、特に 2006 年から 2015 年までの 10 年間は平均 21.0%増に達している。中国国内の観光市場における 2015 年の観光者数は延べ 41.20 億人で、観光収入は 34,195 億元に達している。この間の観光者数と観光収入の伸び率はそれぞれ 14.1%、12.8%となっている。国内の観光市場は今後も年々増大していくと見込まれている。

また、中国国家観光局『中国観光発展報告 2016』によると、世界の観光産業がもたらした GDP の増加分のうち 6 分の 1 が中国の貢献によるものであり、雇用の増加の 4 分の 1 が中国の観光業によるものであった^{注5)}。

中国国家情報センターの分析によると、中国観光業の中国 GDP 寄与額は 7 兆 3400 億元に達し、全世界の観光業の GDP 寄与額の 14.5%を占め、全世界の GDP の 1.5%を占めた。中国の旅行業が生み出した雇用者数は 7911 万人に達し、全世界の旅行業が生み出した雇用者数の 27.8%を占めた。世界旅行ツーリズム協議会(WTTC)の最新レポートによると、全世界の 184 の国と 24 の地域のうち、観光業の GDP 寄与額が最も大きな国はアメリカと中国であった。2015 年の観光業の世界の GDP 寄与額は 7 兆 8600 億ドル（1 ドル約 6.1869 元（2015 年））であった。これは全世界の GDP の 10%を占める。雇用では観光業によって 2 億 8400 万人分の職が生み出された^{注6)}。

上記の分析から、中国は国内で観光産業が急速なスピードで発展していることだけではなく、中国の観光産業が驚くべきスピードで発展している姿は世界中の観光産業の注目も集めていくことが示唆される。

表 1-1 2001～2015 年に中国 GDP と観光収入推移及び増加率

年度	国内観光収入（億元）	増加率	GDP(兆元)	増加率
2001	3,522	10.9%	11.03	8.3%
2002	3,878	10.1%	12.10	9.1%
2003	3,442	-11.2%	13.66	10.0%
2004	4,711	36.9%	16.07	10.1%
2005	5,286	12.2%	18.59	11.3%
2006	6,230	17.9%	21.77	12.7%
2007	7,771	24.7%	26.80	14.2%
2008	8,749	12.6%	31.68	9.6%
2009	10,184	16.4%	34.56	9.2%
2010	12,580	23.5%	40.89	10.6%
2011	19,305	53.5%	48.41	9.5%
2012	22,706	17.6%	53.41	7.7%
2013	26,276	15.7%	58.80	7.7%
2014	30,312	15.4%	63.59	7.3%
2015	34,195	12.8%	67.67	6.9%

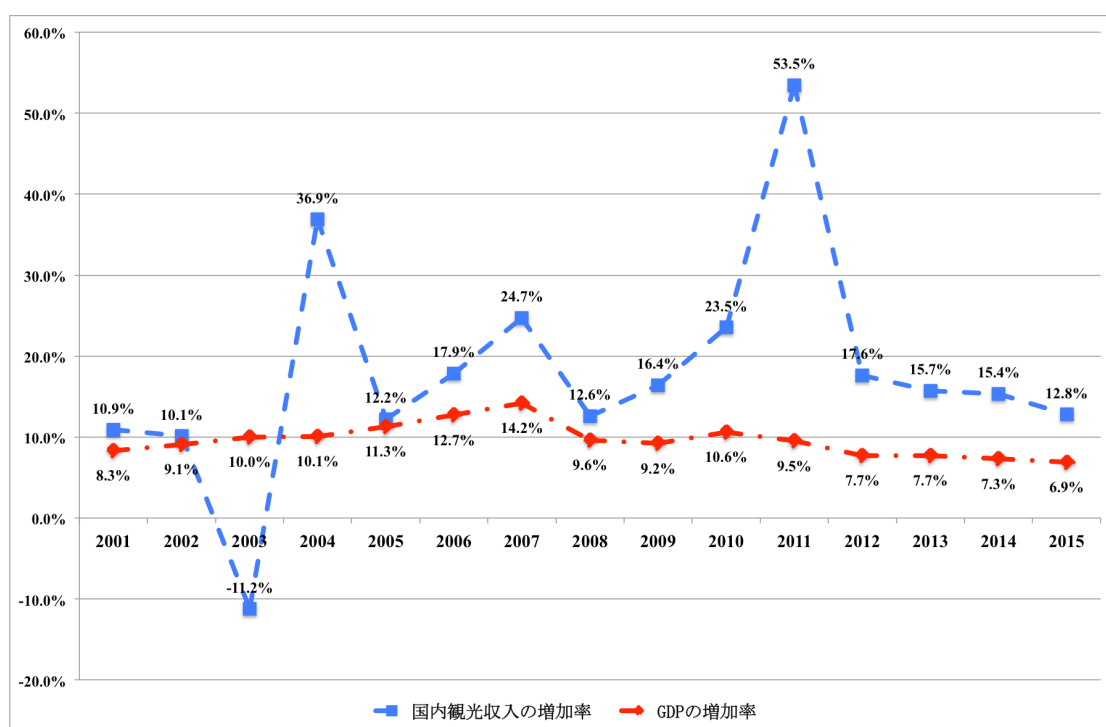


図 1-1 2001～2015 年に中国 GDP と観光収入の増加率

出所：中国国家统计局より筆者作成

表 1-2 2001～2015 年に中国国内観光者数と国内観光収入の推移

年度	国内観光者数(億人)	国内観光収入(億元)
2001	7.84	3,522
2002	8.78	3,878
2003	8.70	3,442
2004	11.02	4,711
2005	12.12	5,286
2006	13.94	6,230
2007	16.10	7,771
2008	17.12	8,749
2009	19.02	10,184
2010	20.13	12,580
2011	26.41	19,305
2012	29.57	22,706
2013	32.62	26,276
2014	36.11	30,312
2015	41.20	34,195

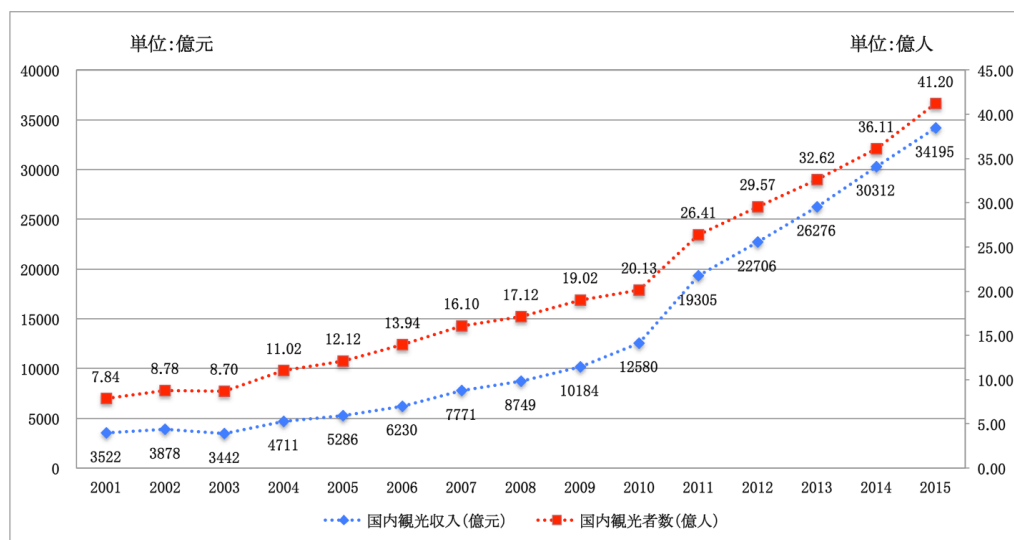


図 1-2 2001～2015 年に中国国内観光者数と観光収入の推移

出所：中国旅遊統計広報を基に筆者作成

国家観光局^{注7)}が発表した「2015年全国観光産業投資報告」によると、2015年の中国観光産業へ投資は1兆72億元に上り、前年比42%増加した。2016年観光投資は安定増加の流れを維持し、通年の直接投資は1兆2500億元に上り、2020年は2015年の倍になり、2兆元に達すると見込まれている。また、2016年開催された中国観光産業投融資促進大会で、国家観光局の李金局長は「中国観光産業はモデル転換・バージョンアップの転換期にあり、資本が各種の要素を統合し、産業発展を推進する上での重要な駆動力になっている。現在のような経済発展の新常態（ニューノーマル）の下、観光産業の発展を推進すれば、多くの関連産業の発展を効果的に牽引し、中国経済の供給側の質と効率を高め、経済の構成調整を促進することが可能になる」と発表した^{注8)}。

2015年には中国全国で観光投資の規模が拡大を続け、投資構造が徐々に改善され、投融資のホットポイントは旧来の製造業や不動産業から現代型観光産業へと移り変わりつつあることが指摘されている^{注9)}。

観光産業の急速な発展とともに社会へのポジティブな影響も脚光を浴びている。住民収入の増加、生活水準の向上、地域経済発展の促進、経済構造の改善、ショッピング販路の拡大といった経済への影響、生活様式の改善、娯楽場所・治安の防護能力の増強、地域間の文化交流の促進といった社会文化への影響、自然資源の保護、古い建築物と文物史跡の保護、地方の知名度の向上といった環境への影響が注目を集めている。その一方で、現在の中国政府は観光産業の更なる発展に力を入れているが、経済発展を優先にし、盲目的な観光開発を背景に物価の高騰、物資とサービスの欠如、住宅と物価の高騰、生活費用の高騰といった経済の問題、住民と観光客との関係の問題、偽民族の出現、文化の商品化といった文化の変容問題、交通の渋滞、汚染増加（騒音、大気、水、ゴミ問題など）といった環境問題などの様々なマイナス影響も生じている。

特に、中国の伝統的地域は豊かな自然、伝統・文化・歴史的景観などの資源に恵まれている。これらの多くは長い歴史を経て、住民の日常生活や経済活動によって構築されてきたもので、中国固有の資源として高い潜在的価値を有している。観光開発による正の影響の一方で、自然環境の悪化や農業離れによる生産力の低下、伝統的地域の魅力の低下、住民の流失による伝統的生活文化の消滅などの問題が顕著化している。実際、伝統的資源を観光資源とした観光開発を推進している伝統的地域が、経済効率の高い観光の推進によって住民生活の継続や伝統的生活文化・景観の維持が困難になるという状況に直面している例が見られる。

近い将来、中国の都市住民が豊かになるにつれ、伝統的地域の自然景観、伝統・文化、伝統的な食文化などに注目が集まるようになると想定される。伝統的資源を観光資源とした伝統的地域の観光開発の持続可能性に関する研究が重要な課題となり、これを検討する必要があると考えられる。

1-1-2 中国古鎮開発の背景

古鎮とは伝統的な景観・文化を持つ集落・地区のことである。ここでは古鎮の保全・開発の状況を概観してみたい。

1966 年にはじまる文化大革命期には伝統的生活文化の否定が国民に浸透し民衆による歴史文化遺産や生活文化資源の破壊が各地で起こった^{注10)}。文化大革命の 10 年間において、地域の固有財（歴史的ストック・伝統民俗・習慣・祭礼）という「中国伝統文化」を否定することにより、伝統文化というアメニティが大規模に破壊され、一部の文物旧跡や観光名勝は閉鎖され、観光事業は重大な損害を受けた。1978 年から、中国の政治、経済、社会など多くの領域で歴史的、戦略的転換を迎えた。その中で最も重要な変化は、改革開放の政策の実施であった。80 年代からは、改革開放政策に転換し、歴史文化への理解は少し回復していくが、都市発展方針によってもたらされた全国的な都市開発によって歴史的都市や伝統的な建造物の多くが存続の危機に面した。それに対して文化財保護の意識が高まり、1982 年に中華人民共和国文物保護法が制定された。保護の対象となる文化財は古代の遺跡から中華人民共和国の基礎を築いた革命運動の史跡に至るまで広範にわたる。特に重要な建築物などは「重要文化財」（原語は「重点文物」）に指定されるようになった^{注11)}。

それと同時に、周庄古鎮をはじめ、古鎮観光活動が始まり、1990 年代に、雲南省麗江古鎮、山西省平遥古城、安徽省皖南古村落が相次ぎ世界文化遺産に登録された。それを契機として、伝統的資源（古鎮）を観光資源とした観光開発が、注目されはじめた。

また、蘇杭地区における西塘、烏鎮といった水郷古鎮^{注12)}の観光開発による地域の経済成長、知名度の向上といった効果が顕著である。1992 年に中国政府は観光産業を第三次産業の重点発展産業に指定し、国内観光を積極的に発展させていく意見を提出した。こうした状況下、伝統的資源を観光資源とした開発が、理想的かつ重要な経済手段と考えられるようになってきた。

国連世界観光機関（UNWTO）のアジェンダ 21 に適応するため、中央政府は 1994 年 3 月に『中国アジェンダ 21』を提出した。これは、中国が 21 世紀に向けて素晴らしい将来を得るための新しい出発点であると同時に自然生態環境と伝統的資源の保全・活用について重視する方向性を見出している。

2003 年には歴史文化名鎮名村制度（歴史文化村鎮制度とも呼ばれる）が策定され、「面」的保護体系が徐々に整備される。保護対象も「点」（単体の文化財建造物）から建造物群や街区、さらに地区・村鎮に至る「面」へと拡大し、歴史的都市から国上全域に広がる農村地域の集落に及ぶことになった^{注13)}。

同年度、国家建設部と国家文物局の調査結果により、中国歴史文化名鎮に登録された古鎮は 126 箇所、中国歴史文化名村に登録された古村落は 108 箇所である。2006 年 4 月、環球遊報社をはじめ、全国 31 ケ都市類新聞が「外国人が一番観光に値する観光地」という調査活動を行った。その結果、江蘇周庄古鎮、安徽西遞宏村、広東開平古鎮砲（碉）

楼、広西陽朔西街、広西黄姚古鎮、上海朱家角、山西平遥古城との7つの古鎮が選ばれている。

中国政府は、ここ数年、内需拡大・産業構造の転換・雇用創出・内陸部発展等の効果が期待できる観光業の育成に力を入れており、観光に対するさまざまな方針を示し、観光による経済発展をバックアップしている。2009年12月に国務院が発表した「観光産業の加速発展に関する国務院意見」によると、「観光産業は戦略的産業であり、消費資源が少なく、他産業との連動性が高く、就業機会を多く創出でき、総合的効果が高い」と指摘している。その中で観光業を戦略的基幹産業として位置づけた。観光の利便性向上のための観光地を結ぶ交通網の整備、観光地のインフラ整備のほか、農村観光やエコツーリズム、「古村古鎮」(古い町村)観光、医療観光など観光商品の多様化を打ち出した。さらに、2015年の国内旅行者数を33億人(年平均10%増)、1泊以上の訪中旅行者数を9,000万人(同8%増)、中国人の海外旅行者数を8,300万人(同9%増)に増やすとともに、観光業収入を年平均12%増、観光業の付加価値の対GDP比を4.5%にするなどの目標が掲げられている。

2013年2月に「国民観光・レジャー綱要(2013~2020年)」が発表され、2013年10月には「改正旅行法」も施行されている。経済の急減速回避と加工業の改革・発展をさらに加速するために、2014年には「古鎮・農山村地域、少数民族地域・民族集落をはじめ、地域の特色と文化を発見し、伝統的資源を観光資源として観光産業を発展させる方針」が中央政府によって決定されるなど伝統的資源を活用する観光開発と資源保護の動きが加速している^{注14)}。

こうした背景の下で、過去から今日にかけて、伝統的資源を観光資源とした伝統的地域の観光は中国の観光業に必要不可欠の存在で重要な位置を占めていると言える。

一方で、伝統的資源を観光資源とした観光開発が急速に展開されることになってきた。特に第一産業、第二産業の産業基盤が脆弱し、自然資源・伝統的資源といった観光資源にすぐれている多くの地域では、その経済手段や経済基盤が限定されているがゆえに、観光産業が最大の経済活動として機能するケースが多く見られるようになってきた。伝統的地域の観光地化に伴い、伝統的建築を壊して本物そっくりな偽伝統的建築物の街並みが造られる、住民が少なくなり街が土産物屋街化する、伝統的集落の景観が多く破壊される、伝統的文化が消えてしまう、などの緊迫した状況に直面している状況も見られるようになってきた。

具体的例として、四川省の九寨溝は1992年にはユネスコの世界自然遺産に指定され、大量の観光者が国内外から押し寄せるようになり、1997年に観光客は18万人であったが、2002年には125万人に急増した。その結果、ゴミと汚水による汚染、大量の観光者の入山による森林被害などが引き起こされた^{注15)}。

湖南省西北部に位置する絶景の地で、ユネスコの世界遺産に指定されている武陵源には、観光開発と称して人工的建造物が粗製濫造され、ユネスコから自然が破壊されているとの警告を受けた^{注16)}。

江蘇省の古都蘇州では、市政府が管理してきた古い建築物を民間に売却し、「非政府資金」による修繕及び活用をはかる構想が実施されようとしていた。外国資本を含む民間企業は、大いに乗り気でそれを商売に活用しようとしていた。この蘇州市政府の構想は、改正法の制定により、直前で差し止められたが、文化遺産の安易な商業化の例は、全国に満ちている^{注17)}。

雲南省西双版纳の熱帯雨林は観光開発によって伐採され2分の1になった。湖北省四つの有名な湖は長湖と洪湖だけ残っている。多くの風景名所区の中で短期の経済利益を追求するため、豪華ホテル、レストラン、療養センター、娯楽施設などの建築物が建設された。このような乱開発は、自然・歴史文化景観の破壊に繋がっている。また、自然保護区・世界遺産地において伐採、鉱石の採掘、狩猟が行われることも生じ、地域共有資源としてのアメニティの被害を深刻させるようになった^{注18)}。

1998年、「中国人と生物圏国家委員会」は全国29省市以上の100ヶ所の自然保護区についてアンケート調査を実施した。その結果、「100ヶ所の保護区の中で、82ヶ所の自然保護区はすでにビジネス観光が展開され、44%の自然保護区にはゴミ公害が存在し、59%の自然保護区は自動車で観光客を送迎している。22%の自然保護区は観光の展開によって生態保護について負の影響を受けた。11%の自然保護区は資源退化の現象が出現した。61%の自然保護区はインフラストラクチャーの建設が景観、環境と不協調の現象を起こしている。」と指摘した^{注19)}。

1-2 研究対象

本論文では「伝統的資源を観光資源とした観光地」を研究対象とする。中国四川省成都市内及び成都郊外の寛窄巷子、文殊院、錦里及び成都郊外の黄龍溪古鎮と安仁古鎮を研究対象地とする。研究対象地の選定過程については第2章で詳しく述べる。

1-2-1 研究対象、事例の選定の理由と前提

中国の伝統的地域（古鎮・古村落）は古い街並み、風土、民俗文化財、人情、風俗、民話、礼儀、冠婚葬祭、行事、生活様式、芸術などの資源を有している。それらの資源は地域住民の知恵と手による積み重ねて形成されてきた結晶であり、国としても積極的に振興を図るべきものと位置づけ、所要の施策を講じてきたところである。

さらに、近年のゆとりと豊かさ志向の高まりの中で大都市の繁華と賑やかさと違い、国民生活に豊かさ、潤い、静かさと長閑な雰囲気を提供する伝統的地域が見直されるとともに、伝統的地域（古鎮・古村落）を来訪する観光客のニーズがますます高まっている。現在では、伝統的地域（古鎮・古村落）の観光活動は地域活性化を図る最も重要な手段として位置づけられ、盛んに行われている。伝統的地域に残る風習や地域の行事的文化の継承と発展を図るため、伝統的な生活文化を体験させ、先人の知恵や工夫、伝統の素晴らしさを観光客に気づかせることによって、古鎮観光のあらゆるものを魅力させることが中央政府によって提唱されている^{注20)}。

中国の伝統的地域（古鎮・古村落・歴史文化名城など）の関する一連の保護制度を概観すると、伝統的地域の伝統的資源の保護・保存の緊迫性に対する認識が高まっている傾向が見られる。1980年代以前の中国の歴史環境保全・文化財保護政策は文化建造物を主な対象とする「点」的保護が中心であったことから、80年代からは、経済改革開放及び都市計画や伝統的建造物の多くが存続の危機に面したことをきっかけに法律の制定はこれまでの「点」の保護から、歴史的都市を保護する歴史文化名城制度に象徴される「面」の保護へと発展を促した。1996年に歴史文化街区制度が策定され、2003年に歴史文化名城名村制度が生まれ、2008年に「歴史文化名城名鎮名村保護条例」が国務院に公布され、2014年に「古鎮・農山村地域・少数民族地域・民族集落をはじめ、地域の特色と文化を発見し、伝統的資源を観光資源とし、観光産業を発展させる」を中央政府が決定されること^{注21)}によって、2017年現在まで文化財保護は新たな段階に入り、歴史文化資源を活用する動きが加速していると言える。

伝統的資源を観光資源とした観光活動が普及し始めたのは21世紀に入ってからであり、古鎮はその観光の目的地として一般化した。古鎮観光について経済効果としての期待が高まり、伝統的第一次産業と第二次産業に代わる理想的な経済手段として位置づけられるようになったと指摘されている。そのようにして観光開発は観光客を受け入れる

観光目的の開発論や計画理論に関する議論が盛んに行われているようになったのである。

しかしながら、その一方で経済成長と利潤追求を優先する観光政策による建築形態や町並みの変容、急速な生活環境の変化による住民の減少や高齢化、生活様式の変化による伝統的生活文化の消滅といった様々な問題により、伝統的資源を観光資源とした観光開発を取り巻く環境は極めて厳しい状況にあり、このまま推移すれば伝統的地域の資源の存続すら困難な状況となりつつある。伝統的資源を観光資源とした観光開発が見直されることが緊急の課題であり、伝統的観光地に関する持続可能な観光開発の手法がより厳しく検討されねばならない。

以上の背景を踏まえて伝統的資源を観光資源とした伝統的観光地を研究対象とする。

1-2-2 研究対象地の選定

中国では古鎮文化は歴史が悠久であるが、現在まで保存されている古鎮はわずかであることが事実である。「中国古鎮旅遊発展趨勢研究報告」の調査結果によって中国は現在では 19,522 カ所の鎮と 14,677 カ所の郷を有しており、その中で 100 年以上の歴史をもつ古鎮・古村落は 223 カ所であり、中国の 24 省に分布している。気候の自然環境や地理位置によって分布の状況が違う。

表 1-3 は中国の古鎮の省分布状況を示したものである。浙江の古鎮の数が最も多く、39 カ所であり、続いては四川の古鎮は 38 カ所である。それに対して天津、新疆、内モンゴル、甘肅とチベットの古鎮の数が最も少なく、1 カ所しかない。上位 4 省はそれぞれ浙江省、四川省、江蘇省と安徽省であり、それぞれの数は、39 カ所、38 カ所、23 カ所、15 カ所である。浙江省、四川省、江蘇省と安徽省の古鎮の数を合計して全国の古鎮の総量の半分以上を占めており、52.27%である。表 1-4 は中国の古鎮の東部中部西部の分布状況を示したものである。表 1-4 からわかるように、中国の古鎮は主に東部に集中している。続いて、西部である。最後は中部である。三者を比較して東部と中部に大きな差異が見られないが、東西部と中部と比較すると、大きな差異が見られる。また、表 1-2 と 1-3 表と合わせて比較をすると、四川省の古鎮の数は 38 ヶ所であり、全国ではトップ 2 を占めており、西部において最も数が多いことがわかった。

表 1-3 中国古鎮の分布一覧

省	総計	比率 (%)	省	総計	比率 (%)
浙江	39	17.49%	湖南	5	2.24%
四川	38	17.04%	河北	4	1.79%
江蘇	23	10.31%	山西	4	1.79%
安徽	15	6.73%	陝西	3	1.35%
貴州	14	6.28%	山東	2	0.90%
重慶	13	5.83%	北京	2	0.90%
雲南	11	4.93%	湖北	2	0.90%
福建	11	4.93%	新疆	2	0.90%
上海	10	4.48%	天津	1	0.45%
江西	8	3.59%	内蒙古	1	0.45%
広西	7	3.14%	甘肅	1	0.45%
広東	5	2.24%	チベット	1	0.45%

出所：中国古鎮網より筆者作成

表 1-4 中国古鎮における東部、中部、西部の分布状況

区域	省	総量	比率
東部	浙江省、江蘇省、福建省、上海、広東省、山東省、北京、天津	94	42.15%
中部	安徽省、江西省、湖南省、河北省、山西省、陝西省、湖北省	41	18.39%
西部	四川省、貴州省、重慶、雲南省、広西省、内 蒙古省、甘肅省、新疆、チベット	88	39.46%

出所：中国古鎮網より筆者作成

さらに、歴史的背景を解説すると、中国沿岸の対外開放を推進し、沿岸地域の経済を躍進させてから、内陸部の開発を前進させるという「二個大局」が鄧小平によって提唱された。その背景で1999年、東部沿海と西部内陸の格差是正を最終目標に、内陸経済の自立的発展条件を整備することを目標とした国家プロジェクトである「西部大開発」戦略を実施し、中国西部の六省（山西、甘肅、青海、四川、雲南、貴州）、五自治区（寧夏、チベット、内モンゴル、広西、新疆）、一市（重慶）を開発し始め、この地域では、「地域開発論上には観光産業を経済手段として動かすことの問題が注目を集めている。

成都是四川省中部、四川盆地の西部にある岷江の中流に位置し、平原と丘陵や山地がそれぞれ面積の半分を占めている。成都是四川省の政治、文化、経済の中心地である。成都平原は土地が肥えている上に都江堰の大型の水利施設に恵まれ、古くから物産が豊かなため「天府の国」と呼ばれてきた。

歴史の文献によると紀元前5世紀の中頃、古蜀国の開明王朝九世が都を樊郷（今の双流県）から成都に遷都し、城壁と堀を構築した。成都是古くから中国西南部の要所として、三国時代は蜀漢の首都、五代十国時代は前蜀、後蜀の都として2300年の歴史を持っている。秦と漢の時代以来、成都是先進的な農業、手工業と発達している文化で名を知られており、現在に至るまでずっと中国西南部の政治、経済、文化の中心地、長江流域の重要な都市として発展してきた。漢の時代には成都是洛陽と並び「中国の五大都会」と呼ばれていた^{注22)}。

成都市は歴史的遺産が豊富であり、1982年に発表した「中国文化保護法」により、中国初の「歴史文化都市」の一つと決定され、「国家歴史文化名城」に指定されている。また2000年に始まった西部大開発の拠点都市として経済も活性化している。世界文化遺産に認定されている歴史的建造物が点在しており、また、チベットの玄関口として、多くの文化が残っている。そのため、歴史文化遺産と伝統的區域の保護を重視しながら、再開発が積極的に行われている。特に、伝統的區域の観光開発は、観光資源を一つの産業とする四川省において重要な位置づけにある。近年、成都市は「機能都市」から「文化都市」への転換が進み、歴史文化遺産を活用し、観光開発を行う傾向が盛んである。

以上の理由で伝統的な建造物の街並みや祭りなどの伝統行事、朝市など、街道が生んだ風景と個性的な文化が残されており、今後、中国政府が西南地区の開発をするにあたり、都市部では失われつつあるこれらの歴史文化資源と観光開発を両立させるモデル地域として、四川省成都市を事例として取り上げることにした。

1-3 研究目的

悠久の歴史を育む中国には、豊富な伝統的な観光資源が多く残されている。しかし、中国の地域間には資源、人材、インフラ整備などの面で大きな格差が存在している。この格差は単に歴史的、地理的な要因によって形成されただけではなく、1978年代から始まった改革開放の政策が影響するところも大きい。改革開放政策のもとで、国家は中国の東部地区の経済発展に重点をおいて、数々の優遇措置を講じてきたからである。本研究が対象地域とした四川省は、豊かな自然資源、伝統的資源といった特色のある観光資源に恵まれており、雲南省、貴州省と連結し、西南地域の発展から見て極めて重要な地域である。一方で、観光開発の発展により生態系や自然環境を破壊し、伝統や文化などを喪失する事例も出てきた。伝統的地域の観光資源を、持続的に観光開発を実施すると言葉でいうことは容易であるが、それを実施に移すのは相当に困難である。

近年、中国の市場経済発展に伴い中国人の国内観光者数は2015年時点で延べ40億人、観光収入は34,195億元に達している^{注23)}。こうした状況において、伝統的資源を活用した持続的な資源保護と観光開発によって地域を活性化するためには、伝統的地域を訪問する観光客に対する意識分析の研究が必要不可欠であり、観光客の観光地に対する需要の研究及び観光要素に対する意識の評価分析に対する定量的な研究は重要であると考えられる。しかしながら、中国における観光客の意識に関する定量的な研究は乏しい。

1-3-1 研究目的の構成

本研究は伝統地域の伝統的資源をいかに持続的に保全・開発するかを検討するための知見を得るため、中国四川省成都市の伝統的資源を活用する観光地を対象として、観光客の意識の実態を明らかにすることを目的とする。さらに、明らかにした実態に基づいて観光地の持続的な開発方法の提案を行う。

研究目的を達成するために、具体的には以下の5点を明らかにする。

- ① 観光客が期待・満足する要素を網羅的に設定し、各要素の期待度・満足度を明らかにする。さらに対象地の開発の程度と満足度の関係を明らかにする。さらにどの要素が強く影響を与えるのかを探索するために、CART法を用いた分析を行う。
- ② 研究対象地の観光資源の強みと弱みを明らかにする。ここではCS分析を用いて分析を行う。①で明らかにした考察対象の要因は満足の評価にばらつきが大きい要因に限定されるので、観光地の長期的な開発整備の方針を立てるための総合的分析を行うことを目的とする。

- ③ 観光客の地域に対する満足は来訪前の期待と来訪後の満足の関係によって変化することが考えられる。そこで、伝統的地域の各観光資源に対する、観光客の期待度と満足度の差異を明らかにする。
- ④ ①～③は仮説設定した期待・満足要素をもとに分析するが、さらに観光客に対する自由記述の情報を、テキストマイニング手法を用いて分析し、少数意見であっても取り残した課題を抽出する。

上記の観光客の意識を中心とする4つの目的を明らかにしていく上で、地域住民(特に観光地の住民の大部分を占め観光客に接する商業者)の意識の動向も今後の地域政策を検討する上で重要な鍵を握ると考えられる。そこで、商業者を対象にアンケート調査を実施し、観光客と商業者の意識を比較し、考察を進める。すなわち、

- ⑤ 「商業者の考える重要な観光要素」と「観光客が期待・満足している観光要素」の差異を明らかにする。

上記の成果を踏まえ、伝統的地域における伝統的資源を観光資源とした観光地の持続可能な観光開発に役立てる打開策を提案する。

1-3-2 各研究目的の相互関係

本研究の目的①～⑤の相互関係は図 1-3 の示したとおりである。

目的①と目的②では、満足度を中心として分析を行うものである。目的①は総合的満足度に特に強く影響を与える要素を明確にすることにある。つまり、影響を与えると考えられる 26 個の要素を、順序カテゴリ化 CART 法を用いて総合的満足度にネガティブな影響とポジティブな影響を与える観光要素を見出す。しかし、CART 法は目的変数に強い影響を与える説明変数を探索したものであり、目的変数である総合満足度の評価が分かれる（ばらつきの大きな）要因が強く反応する。多くの人が満足している要因、多くの人が不満の要因はこの分析方法には反応しにくい。すなわち、即効的に総合満足度を高めるための方策を検討する分析としては優れているが、長期的・持続的な方策を検討するためには課題が残っている。そこで目的②は、観光地の長期的な開発整備の方針を立てるために総合的分析をおこなう。

総合満足度にある要因が影響を与えるとどのような状況が考えられるか。期待通りに満足できれば、その要因によって観光地の評価は高くなり、期待していなかったが意外に満足した場合、その要因はさらに観光地の印象を高めるかもしれない。逆に期待に反して満足できなければその要因によって観光地の評価は大きく低下するだろう。観光客が観光地に来る前に抱いていた期待と、観光後の満足の実態を直接的に捉えていく必要がある。そのために目的③では観光客に対し、観光前の期待度と観光後の満足度のギャップを考察する。

以上の①～③に加えて目的④は、自由記述データを用いて広い課題を発見する。

本研究では、観光客の意識（目的①～④）を中心な目的として分析を展開するものであるが、観光客の意識に対して住民（商業者）の意識は同じか異なるかを知るために、観光客と商業者の意識を比較する「目的⑤」を補足した。すなわち、「観光客が期待・満足度している観光要素」と「商業者の考える重要な観光要素」の差異を明確化とするものである。

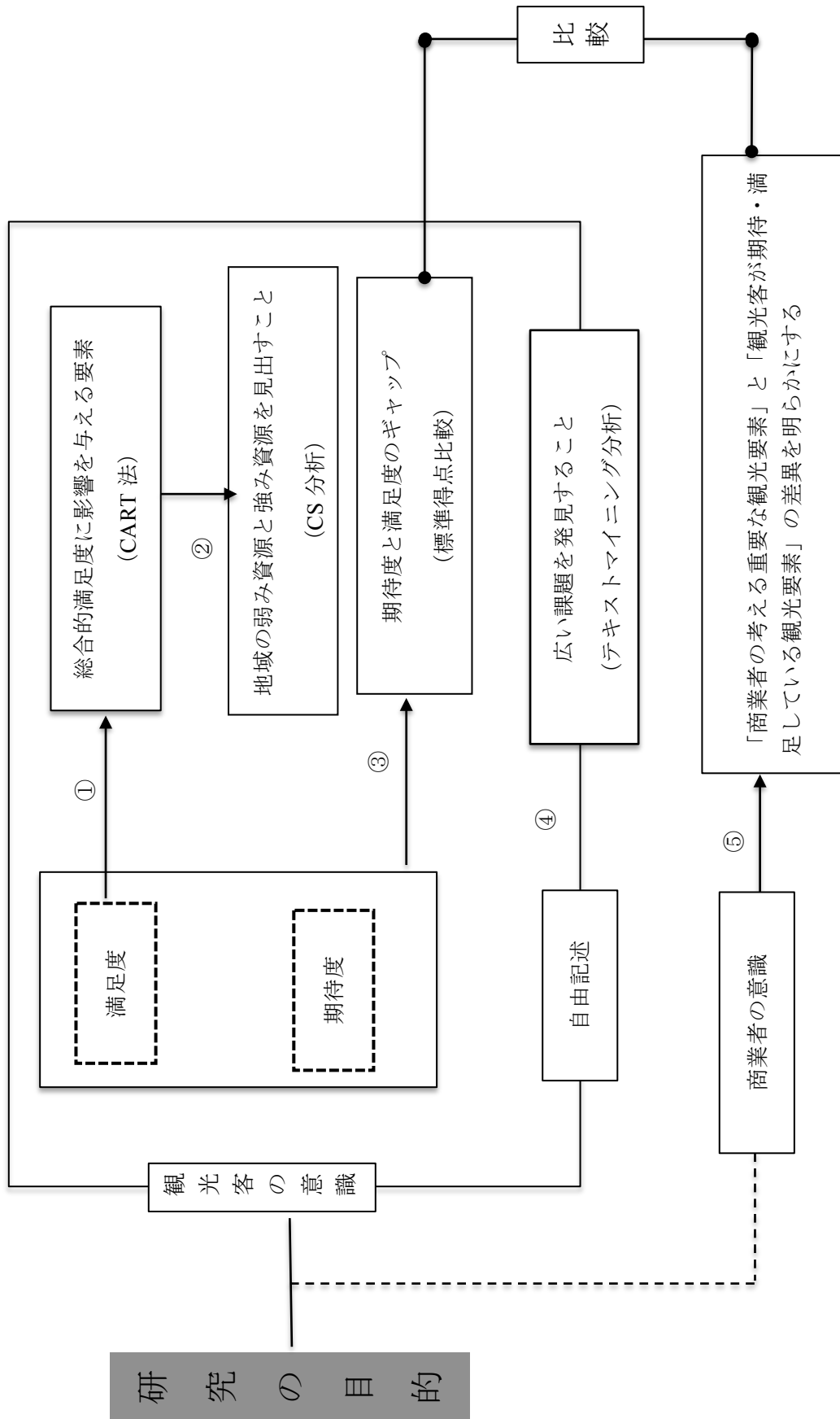


図 1-3 各研究目的の相互関係

1-4 研究方法と研究流れ

1-4-1 研究方法

中国の国内観光の社会背景及び発展状況の実態、伝統的観光地開発の発展に関する既存研究関連文献の調査を行う。前節に述べた研究目的を達成するために、文献等調査、現地調査、インターネット調査を実施した。伝統的観光地に関する持続的観光の可能性、問題点、政策設定などに関して検討する。各調査の目的や実施方法等の詳細は以下に示すとおりである。

(1) 文献等調査

研究テーマに関係する文献などの基礎調査では、「研究背景に関する中国における観光及び観光開発事業の実態や課題に関する基礎的な調査」「研究対象地の選定のための調査」そして「先行研究調査」の3つの分野で情報収集を行った。

「研究背景を明らかにするための調査」では、中華人民共和国国家統計局が公表している中国統計年鑑、国民経済和社会発展統計公報、中国旅遊年鑑、関係省庁の資料に加え、事例対象地域に関する自治体の統計資料や国内外の研究成果などを用いて、①中国観光事業の社会情勢の変化と地域課題、②伝統的資源を観光地資源とした観光地（特に中国の古鎮）の観光発展の背景及び問題点、③選定地域を取り巻く社会情勢と観光状況を明らかにし、本研究の背景を整理した。

「研究対象地の選定」では、中国古鎮網が公表している中国古鎮の数量、分布状況及び統計資料、関連書籍、報道資料などから、研究対象地を選定する。

研究対象となる四川省成都市の資源、歴史、経済発展の状況について整理し、特に観光資源を把握することに重点をおいて資料を収集し、アンケート項目を作成した。

「先行研究調査」では、事例対象地の自治体が作成し公表している行政資料、統計資料、開発資料、及び観光における日中両国の研究などの一連の資料を分類し、伝統的地域の観光地化の持続における可能性と、研究の位置づけ、及び観光開発による人口流失や人口過疎化などの様々な問題が生じている伝統的地域における地域の活性化に関わる観光開発の現状について整理し考察した。

(2) 現地調査

国内外の資料を調査と整理し、取得した資料を基にし、本研究では、四川省成都市市内の「寛窄巷子」「錦里」「文殊院」、郊外の「黄龍溪古鎮」「安仁古鎮」を伝統的観光地の調査対象地として取り上げ、意識の聞き取り調査と現地空間実態調査を行う。

現地調査の目的は

- ① 文献調査で整理した問題点を現地の状況に照らし合わせ、アンケート項目を設定した。
- ② 現地を直接観察し、関係者にはプレの聞き取り調査を行なってアンケート項目を検証した。
- ③ 成都市の観光資源とその分布状況について整理したうえで調査事例となる観光地の開発状況を把握した。
- ④ 2015年2月から3月、及び2015年9月から10月に、抽出した調査地域の観光状況について現地の聞き取り調査、アンケート調査、空間撮影調査と記録調査を実施した。本論文では以上の調査に基づき、データや資料の分析を交えつつ、論述を展開した。

(3) インターネット調査

データの多様性を確保するため、本研究では、上述した調査方法の他に、インターネット調査をした。具体的には、インターネット上の関連するブログ、写真などを収集し、同時にインターネット上に、ブログとして中国では広く普及し、学術研究などにも多用されている蚂蜂窩旅行網^{注24)}を使い、当該地域を来訪した観光客の動機、感想、心理を捉え、フィールドワークの調査成果を補った。

1-4-2 研究の流れ

本研究の流れを以下の通りに示す。

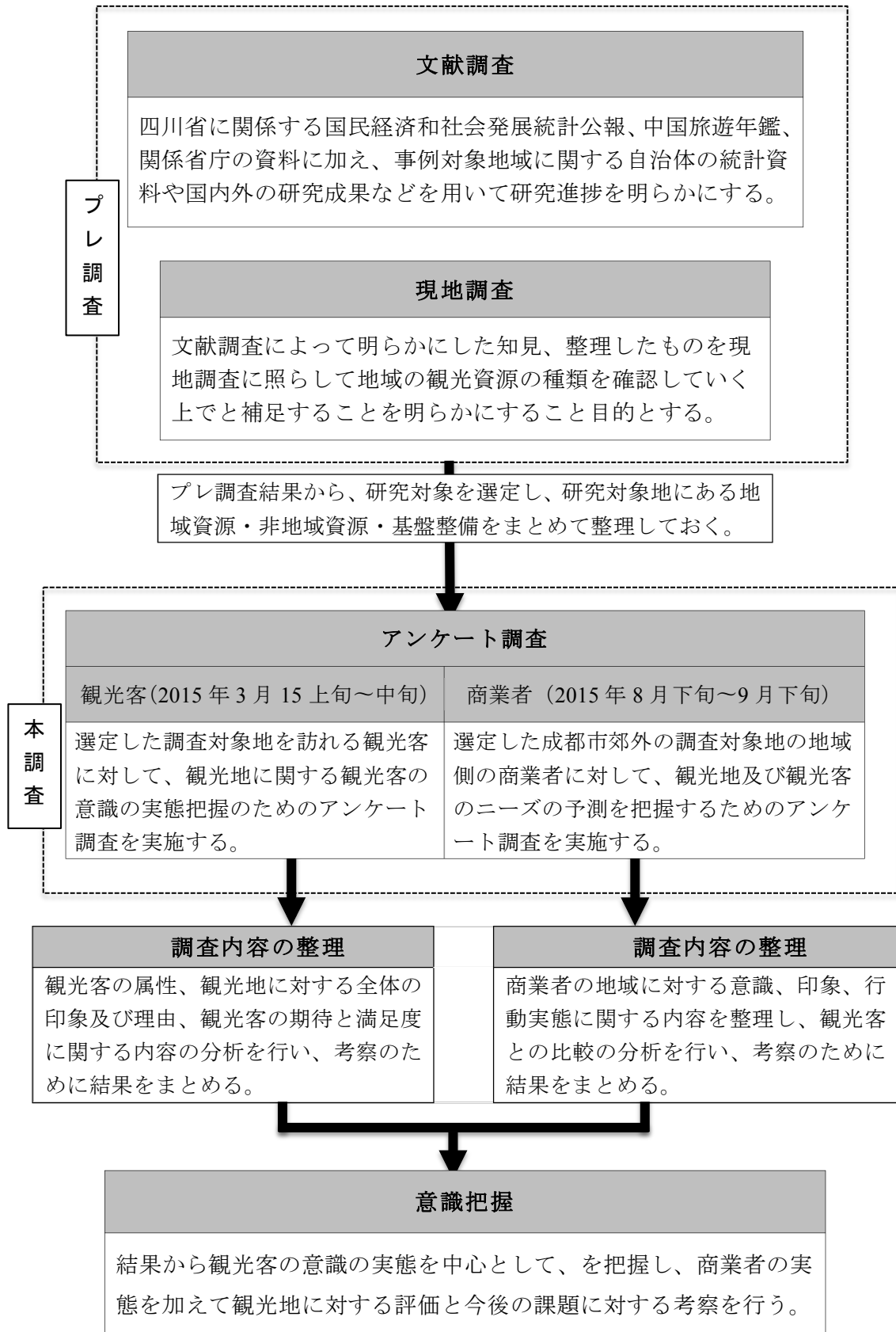


図 1-4 本調査の流れ

1-5 研究の位置付け

1-5-1 既存研究に対する位置づけ（中国側）

中国では、1980年代に古鎮観光が一般化する以前は、そもそも古鎮観光をする人自体が少数であった。したがって古鎮観光への関心は低く、それに関する研究成果はごく少数であり、散発的なものが見られるのみで系統だった議論は存在しなかった。1990年代になると、観光活動が一般化になり、古鎮・古村落開発または古鎮・古村落観光に対する関心が高まるようになり、事例紹介や調査報告書が相次いで出版されたようになった。1990年代以降に古鎮に関わる研究や議論を概観してみると、経済効果、環境・文化の保全、古鎮観光の開発と保護、古鎮の発展模試の探索（発展モデル）、古鎮観光の対策、古鎮観光の現況及び直面している問題点に着目されている。

観光地の経済効果に注目した研究として次の論文があげられる。

- ・ 倉^{注25)} は、朱家角古鎮を事例として、「地域の歴史文化に着目するだけではなく、マーケティングと効果的に結びつけることが重要である」と指摘している。
- ・ 徐^{注26)} は、「古鎮観光は地域に経済利益を与えるだけではなく、雇用の促進や基盤設備を整える効果があること」を指摘し、地域住民への利益還元の重要性を述べている。
- ・ 楊^{注27)} は、「他地域の観光資源と連携した相互効果による当該地域の経済発展を探っていくことが重要である」と指摘している。

観光地の環境・文化保全に焦点を当てた研究として以下の論文があげられる。

- ・ 何^{注28)} は「交通・電気通信といった基盤整備は古鎮観光の基礎である一方、民俗文化も古鎮観光の重要な要素である」と述べている。
- ・ 李^{注29)} は「経済利益を追求した観光施設の増加による環境破壊や原住民の流出による地域固有の民俗や習慣の変容、観光客のポイ捨てや落書きなどの非文明現象といった問題が起こること」を指摘している。
- ・ 李^{注30)} は「古鎮観光の持続的発展のために、経済利益だけに着目するのではなく、地域住民の信仰・冠婚葬祭・民俗風俗・工芸技術・食文化・イベントなどの維持こそが重要である」と述べている。
- ・ 孫^{注31)} は「寛窄巷子の保存再生の実施過程を調査し、行政のトップダウン型による住民立ち退きや歴史的建築物の取り壊しなどの問題点」を指摘している。
- ・ 山村他^{注32)} は観光地化による麗江旧市街地中心部における保護対象の民家へのインパクトについて考察した。その結果、保護対象の民家の用途変更には、世界遺産登録に起因する急激な観光地化に伴う先住民人口の転出、外部人口の流入が影響していると指摘している。
- ・ 山村^{注33)} は雲南省麗江市を対象とし、観光開発における地方民族文化資源の活用を考察した。その結果、インフラ面だけではなく、観光産品・ソフト開発飲食等の面でも地方民族文化の活用が強調されていると指摘している。

古鎮観光の開発、保護及び発展模試の探索に注目した研究は次の文献があげられる。

- ・ 秦^{注34)} は、「麗江、烏鎮、平遥と周莊古鎮の発展経緯に基づき、古鎮観光発展の中で、真似をせずに自分の特色を見出すべきである」と提唱している。
- ・ 楊^{注35)} は、「雲南省鄧諾古鎮を取り上げ、古鎮の伝統的文化が外来文化に影響され、消失しつつあるおそれがある」と強調している。
- ・ 張^{注36)} は「古鎮の地元住民は古鎮の伝統的資源を保護する意識が薄れつつある」と指摘している。
- ・ 鄭^{注37)} は、「烏鎮観光の発展を契機に古鎮観光を持続させるに観光事業者の家屋所有権、業種、経営形態及び自治体の関与を取り組んだ地域発展モデルと個々の事業者の経営モデル」を提出している。
- ・ 周^{注38)} は、「製品の開発と設計、利益の関係者、開発方法、開発中の問題点及び古鎮の保護と持続可能性の発展という五つの方面から古鎮は地域状況に合わせて特色のある製品と知名度の向上に力を入れるべき」と論じている。
- ・ 周^{注39)} は「黄龍溪古鎮を事例として取り上げ、店舗経営者の店舗を規制に従わずに改築する現象が氾濫し、古鎮全体の風貌に悪影響を与える」ことを指摘している。

中国の古鎮に対する観光開発方式は主に政府主導型、政府主導・民間企業参加型、経営権移譲型、社区開発型、総合開発型に分かれている。詳細を下記の表 1-5 に示す。

表 1-5 観光開発モードの一覧

開発方式	内容
政府主導型	観光資源の所有権・経営権・管理権・開発権は国家・政府・国有企業に属する。
政府主導 民間企業参加型	中央政府と地方政府、国有企業と私企業及び外資企業が観光産業の投資と経営に共同参加する。しかし、観光開発と観光市場の経営、管理はほとんど中央政府によって独占されている。
経営権移譲型	観光資源の開発権・経営権を民間企業に移譲し、政府は自己の職能を観光資源の法規・政策の制定・マクロ・マネジメントに限定する。
社区 ^{注40)} 開発型	古鎮の観光資源を独立の個体として開発され、社区の視点から、観光資源の最適化を求め、観光客のリピーターの向上に取り組む。
総合開発型	上記の開発方式を混用し、政府はマクロコントロールの担い手と位置づけられている。

出所：中国古鎮網より筆者作成

伝統的観光地の観光客の意識に関する研究としては次の論文があげられる。

- ・ 翟^{注41)} は、成都市寛窄巷子に來訪した観光客の嗜好と属性の関係を調べ、「18歳未満は現代景觀を好み、年長者は伝統的な景觀を好む」ことを指摘している。分

析は単純集計のみで、観光客の満足要因については触れていない。この年齢傾向は、伝統的観光地へのニーズの縮小を示唆している。

- ・ 張^{注42)}は、四川省九寨溝において観光客が求める要素を基本要素「食・宿泊・交通」と発展要素「遊覧（環境保全・基礎施設整備状況）・買物・娯楽（景観、自然、動物、空気、写真撮影など）」に分け、それらと満足度との関連を構造方程式モデリング（SEM）によって分析している。その結果、どちらの要素も満足度に影響を与えていることを指摘している。しかし、要素内の個別項目と観光客の評価との関係は言及されていないため、全ての要素が満足度に影響していることを示すのみである。
- ・ 王他^{注43)}は古村落観光の経験がある観光客に対して、「地域住民とのふれあい（住民との接触有無、住民のもてなし態度等）」「生活様式（風俗、食、祭等）の体験」「観光業者の行為評価（商品価格、商品の信頼、押し売りが無い等）」の3要素と満足度の関係をSEM分析で検討し、いずれの要素も満足度にプラスの影響を及ぼすと指摘している。他の要素を含めた全体における生活文化体験と満足度の関係については示されていない。

古鎮・古村落に限らずに、観光客の意識に関する研究としては、次の論文があげられる。

- ・ 翁^{注44)}他は安徽省皖北地区において、「県内からの観光客は自然環境を好み、県外からの観光客は歴史文化・民俗風俗を好む」ことを指摘している。しかし、歴史文化のどのような要素が影響を与えているかや、地区特徴との関連については言及されていない。
- ・ 鐘^{注45)}は中国における観光を3つの段階に整理し、「90年以前は自然環境地への観光が主流であり、90年代以降は遊園地・公園や農家楽（特に成都市で顕著）や登山が主流であり、今後は文化要素が観光業へ影響するだろう」と経験的に論じている。

1-5-2 既存研究に対する位置づけ（日本側）

日本国では日本に来訪する中国人観光客の意識調査に関する研究は少ない。

- ・ 佟^{注46)}は、東京に来訪経験のある中国人に首都圏で1日観光をすると仮定した場合に興味のある観光行動について聞いた。その結果、「寺社仏閣・古い街並み」「温泉」「演劇」「買い物」「テーマパーク」「観光農園・工場見学」の順に嗜好性が高かった。中国人は、地域資源の関係のない、爆買いなどの娯乐的観光への嗜好が強いイメージがあるが、日本の伝統的資源への興味が最も強いことが指摘されている。

日本では、マストツーリズム（団体旅行、娯楽型旅行）からオルタナティブツーリズム（個人旅行、地域資源を活かす着地型観光、学習体験型観光、歴史や生活文化を学ぶ体験する観光など）への進化が今後さらに進むことを指摘する文献は多く、近年の景観法制定や地方創生の政策にみるように伝統的資源活用への期待が高まっている。しかし、日本における伝統的観光地の研究は、建物・空間の変容、規制・保護制度、住民意識に関する研究蓄積は多いものの、観光客の意識に着目して分析するものが少ない。また、観光白書など国の統計調査によって観光客の意識は大まかには捉えられてはいるが、伝統

的観光地への意識については詳細に分析されていない。

伝統的街並み観光地における近年の観光客の意識に着目した研究として、

- ・ 倉澤他^{注47)} は、伝統的観光地の魅力要素について、国内の旅行雑誌記事を経年的に分析した結果、「歴史や建物の外観が普遍的な魅力要素である一方で、1990年代後半から食要素の占める割合が高くなっている」ことを指摘している。また、「長年にわたり、雑誌記事に登場する町並み観光地は、伝統的景観など普遍的な魅力要素を保ちつつも、時代に合わせた魅力要素（建築景観や歴史人物資源ではなく老若男女問わず楽しめる食等のソフト）を追加することで観光地魅力を維持している」と考察している。この指摘はオルタナティブ観光への進化は学習というやや重い活動だけではなく、気軽にその地方の文化を楽しませることが観光客ニーズに合うことを示唆している。
- ・ 羽生他^{注48)} は、「観光客が観光後に抱く観光地の評価(感想)は、個々人が抱いている観光地像との整合(あるいは不整合)から導き出されている面がある」と指摘している。この研究は、観光客が期待した観光地の構成要素(期待要素)の分析を通じて、観光地に対する評価との関連を明らかにすることを目的としている。その結果では、街並み型(高山)では、安定的に高い評価を得ているが、期待した要素に対する評価と観光地全体の評価とが良くも悪くも一致していない傾向にある。このことは現地において良くも悪くも意外性があることが評価に影響を与えていることが考えられると考察している。
- ・ 柳他^{注49)} は水辺を資源とする観光地における観光客と住民の観光に対する意識差異を考察し、観光客はスポット的な水辺要素だけでなくそれらを巡る散策を期待しているのに対し、住民は散策空間よりも、観光客が現状では満足していない「もてなしや交流」を重視しており意識の乖離を指摘している。

1-5-3 既存研究に対する位置づけ（欧米側）

伝統的地域に関する保護については、1964年5月3日「記念建造物及び遺跡の保全及び修復のための国際憲章」（ヴェニス憲章ともいい、英語：INTERNATIONAL CHARTER FOR THE CONSERVATION AND RESTORATION OF MONUMENTS AND SITES）が第二回歴史記念建造物関係建築家技術者国際会議によって決定され、世界においては、伝統的地域における歴史的建築物の保護に関する保護制度の先駆と言える。1976年、「歴史的地域に関する保護及び影響」（英語：The protection of historical regions and the suggestions for its contemporary role）が、国際連合教育科学文化機関によって発表され、「伝統的資源を活用した観光地の保護及び伝統的観光地を現代社会に融合させることが今後の開発の根本である」と指摘している。1987年、「歴史的都市街区保存憲章」（ワシントン憲章ともいい、英語：Charter on the Conservation of Historic Towns and Urban Areas）が決定され、「歴史的都市街区は自然環境と人為的環境を包括し、歴史的価値以外に伝統的都市文化価値を表現していると指摘している。

Wichens (2002)^{注50)} はギリシャの北部に位置するハルキディキ県を訪れた86名の観光客を定性的に調査した。その結果、同じ観光先であるが、観光客によって体験方式に

差異があることが指摘されている。

Pekoglu (2006)^{注51)} は建築評価方法を利用して伝統的地域の民居を保護すると提案している。

LiPing A.Cai (2002)^{注52)} はメキシコ州の多数の伝統的観光地を対象として考察した。その結果、多くの伝統的地域を一つのまとまり（英語：OWC、全称：old west country）とすること、すなわち近隣の伝統的地域との連携によって知名度を高めるとともに観光客を数多く呼び込むことができると指摘している。

以上のように、中国では、伝統的観光地における経済性を重視した開発に対する問題点が指摘されはじめ、伝統的観光地に対する観光客の意識の研究は緒についたところである。今後の伝統的観光地の開発を考えるために、オルタナティブ観光への意識変化が中国では進んでいるのかその実態を明らかにする必要がある。一方、日本と欧米においてもインバウンド観光における中国人観光客の嗜好性の現状については十分に把握されていない。本研究が捉える意識の動向は、現在は中国国内旅行にとどまっている中流層や若者の将来ニーズの芽を俯瞰することで、現在来日している富裕層の観光行動や意識とは異なる新たな知見を得られるものと考えられる。

上記の分析を踏まえて観光地における研究は様々な分野で活発な研究が行われている。しかしながら、こうした状況にもかかわらず、観光客の意識調査において、地域社会の社会的・文化的要素に対する視点の欠如或いは軽視が存在し、基礎的研究の蓄積も極めてわずかであるのが現状である。

1-5-4 本研究の特徴と意義

以上の既往研究に対して本研究は、

- ① 伝統的資源を観光資源とした観光地を訪れた観光客の意識に注目している
- ② 総合的満足度に影響を与える最も強い要素を抽出することに焦点をあてて検討していること
- ③ 調査対象地の資源に対する強みと弱みを明らかにしていること
- ④ 観光要素期待度と満足度のギャップを明らかにしていること
- ⑤ 観光客のコメントから新たな課題を発見していること
- ⑥ 観光客側だけではなく、地域側の住民・事業者の意識を考察し、観光客と比較していること
- ⑦ 伝統的資源を観光資源とした観光地の持続的可能な観光のための助言を示していること

に特徴がある。つまり、従来観光開発が重要な地域開発の手段として位置づけられ、そこで発生している様々な問題を分析する経験的評価の検討に対して、本研究では、観光客の意識に立脚した上で、伝統的資源を観光資源とした観光地に関わる個別の観光要素に対する観光客の意識構造の評価を CART 方法と CS 分析を用いて明らかにし、伝統的資源を観光資源とした伝統的観光地の持続可能な観光開発において、問題点を発見し、総合的な改善政策を提案した点に特徴がある。

現代は、従来型のマスツーリズムの弊害を克服する「持続可能な観光」の創出が課題となっており、その中から新たな観光形態が生み出されていると予想される。観光の大衆化と新たな観光形態が同時発展する中国では全国各地で中央政府、地方自治体や地域の有志、NPO や旅行者など様々な主体によって持続可能な観光を掲げた観光開発が行われている。本研究の課題は今後伝統的地域の観光地化における様々な問題が生じる地域において、持続的な観光振興に寄与するという点においても重要であると考えられる。

1-6 論文の構成

本論文は、伝統的資源を観光資源とする観光地において、持続可能な開発を図るための方策を探るために、①観光客の観光前の期待、観光後の満足、及び期待と満足の意識の差異を分析し、②総合的満足度に影響を与える要素を、CART法を用いて考察し、③観光客の意識に基づいて研究対象地の資源の強みと弱みをCS分析によって考察し、④観光客の意見からテキストマイニングによって課題を発見し、⑤さらに、観光客と商業者の意識を比較する、ことによって観光客の意識を明らかにし、今後の観光開発への知見を整理する。

論文の構成を下図に示し、各章の内容及び方法を説明する。

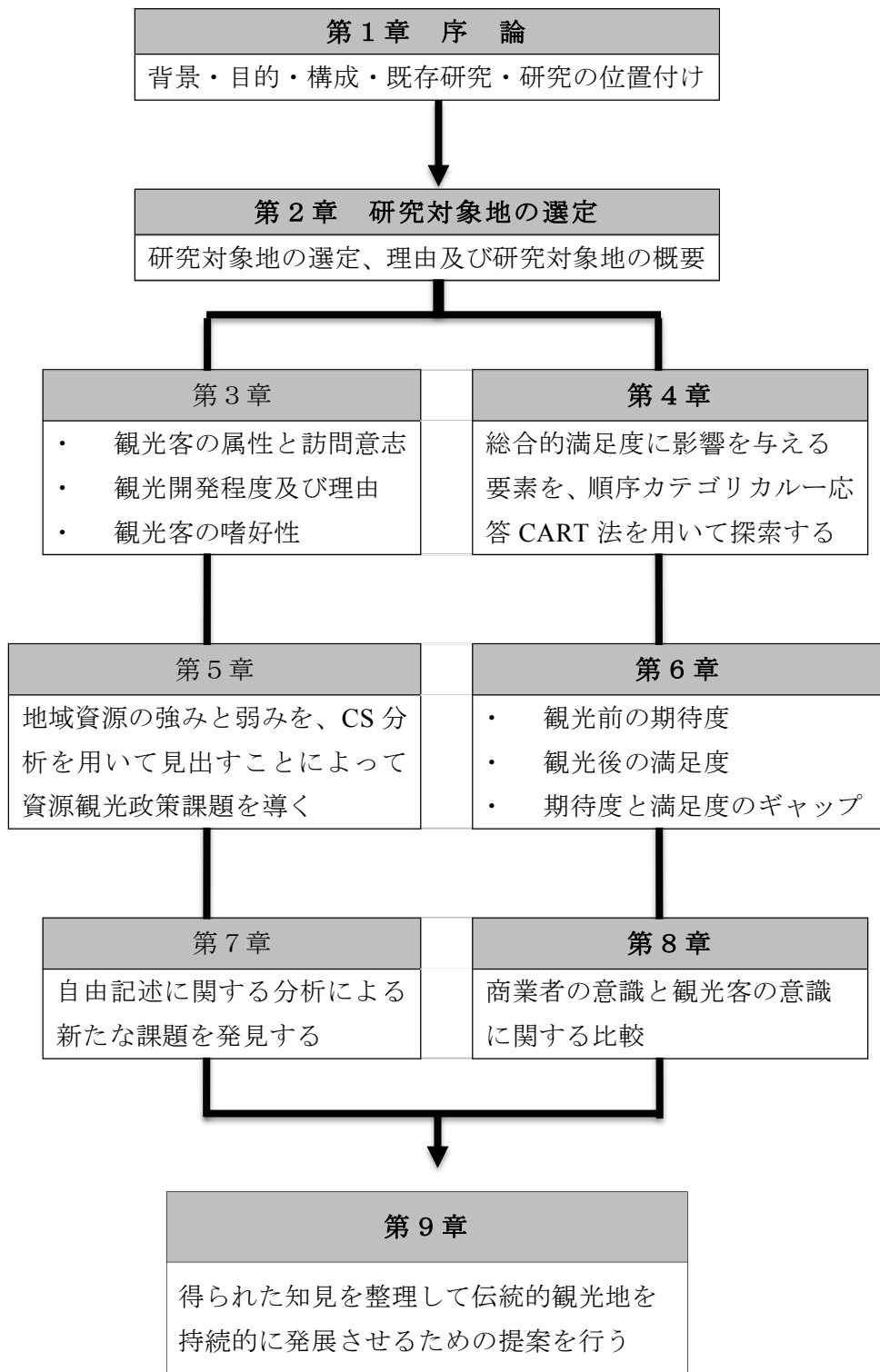


図 1-5 論文の構成

- 第1章 本研究の背景、目的を示すとともに、先行研究をレビューし、現在に至る様々な観光用語の定義、本研究の位置づけと本論文の構成について説明する。1990年代以降、中国伝統的地域に注目が集まり、21世紀に入り、伝統的地域における観光活動は急速な発展段階に入り、観光商品の増加、規模の拡大、分布範囲の広さなどの新しい観光ブームが起こったことが注目されてきている。伝統的資源を観光資源とした観光地の開発状況、地域開発論と計画論といった幅広い分野を検討するうえで、伝統的地域の持続可能な観光開発を推進する上での方策を探ることを目的とする。伝統的地域の観光に関する近年の動向と既往研究では、観光に関する近年の動向を整理する。また、中国の伝統的地域（主に古鎮・古村落）に関する研究の整理によって、経済効果、環境・文化の保全、古鎮観光の開発と保護、古鎮の発展模試の探索、古鎮観光の対策などの問題点を示す。
- 第2章 研究対象の四川省成都市の人口、地理、行政区、地域経済および観光発展状況等の概要を述べる。四川省成都市における伝統的資源を活かした伝統的観光地の中から、調査対象として寛窄巷子、錦里、文殊院、黄龍溪古鎮、安仁古鎮を選定した理由について述べる。また、研究事例の歴史、観光資源及び開発現況について概説する。
- 第3章 アンケート調査内容を説明し、調査結果のうち観光客の属性、観光地に対する開発程度の評価及び理由、観光地に対する嗜好性などの結果を示す。
- 第4章 観光要素を設定し、アンケート調査を用いて、総合的満足度にネガティブとポジティブな影響を与える要素を明らかにするために調査を行う。5つ調査対象地を来訪した観光客に観光地の総合的満足度及び総合的満足度に影響を与えらる26個の要素を5段階評価で回答してもらい、アンケートを行う。入手したデータを順序カテゴリカル応答に対するCART法を利用して分析を進める。
- 第5章 第4章の分析を踏まえて、CART法で得られた内容では捉えきれない情報を、CS分析を利用してより一層分析を試みる。調査地域が持続的な観光開発を実現するために、調査地域の強み資源と弱み資源を見出し、維持すべき資源、重点的に改善すべき資源を明確にする。
- 第6章 研究対象の5つの地域に来訪した観光客に対して、観光前はどのような要素に期待し、観光後はどのような要素に満足したかを質問し、期待と満足の実態を明らかにし、期待と満足のギャップを考察する。
- 第7章 観光客の観光後の自由記述の感想をもとにして、課題を補足的に見出すことを目的とする。具体的には、自由記述を、テキストマイニング手法を利用して分析する。自由記述を分析することによってアンケート紙面で得られない幅広い情報を探し出すことができると考えられる。
- 第8章 第3章から第7章までは、観光客の意識を中心として分析を展開しているが、

今後の観光開発を考える上で、地域側の意識動向が重要な鍵を握ると考えられる。したがって、本章では、観光客が期待し満足しているものと商業者が重視しているものは一致しているのか異なるのか、商業者はどのような観光地を目指しているのか、観光客側と地域側の意識を把握し比較する。

第9章 各章で述べた研究成果を取りまとめるとともに、本論文の成果を踏まえて、課題を解決する具体的な方案と今後の課題について述べる。

<第1章における註記>

注1) カーレーズ〔坎兒井〕とは、トルファン〔新疆ウイグル自治区の中部、天山山脈東側の南麓にある地域〕の気候・環境の特徴に基づいてつくられた地下水道のこと。中国の新疆ウイグル自治区トルファン（吐魯番）にある、飲用と灌漑(かんがい)用に造られた地下用水路。オアシスを潤す独特なもので、「カーレーズ」ともいう。特殊な灌漑システムであり、豎井戸、地下水路、出水口によって構成されている。新疆全体には 1600 本の坎兒井があるが、トルファン地区だけでも総延長 5000km に及ぶ 1000 本の坎兒井がある。世界で最も海から遠い、天山山脈の麓に位置する盆地の中央にある。ほかに有名な見どころは、高昌古城、交河古城、ボズクリク千仏洞、蘇公塔、艾丁湖などである。

注2) 参考文献 [11] と [28] による。

注3) 参考文献 [12] [13] と [14] による

注4) 松村嘉久：中国・民族の政治地理、pp.158、2000.

注5) 『中国観光発展報告 2016』、中華人民共和国国家旅遊 (<http://www.cnta.gov.cn>)

注6) 中国網 (<http://japanese.china.org.cn>) 2016 年 5 月 28 日

注7) 国家観光局は中国國務の直属機関の一つで、国内旅行・海外旅行を司る部署である。本部は北京にある。海外にも事務所を持っており、日本には東京都と大阪府にある。

注8) 人民網 (<http://www.people.com.cn/>) 2015 年 5 月 16 日

注9) <http://j.people.com.cn/n3/2016/0516/c94476-9058382.html>.

注10) 参考文献 [2] による。

注11) 参考文献 [14] [15] と [16] による。

注12) 水郷古鎮：上海や蘇州、杭州などを含む中国の江南エリアには、「水郷古鎮」と呼ばれる、水路で形成された街が存在する。そこは、長江という大河が運んだ土砂の堆積によって作られた土地である。運ばれた土砂が肥えた土だったことから、一帯は農業が盛んになり、さらに水路の存在が物資の交易としての役割も果たしたおかげで、現在のような街の発展まで至ったのである。

注13) 参考文献 [28] による。

注14) 国务院关于促进旅游业改革发展的若干意见、国发〔2014〕31号

注15) 参考文献 [3] による。

注16) <http://www.people.com.cn/>) 2002 年 11 月 26 日

注17) 注 16) と同じ

注18) 参考文献 [4] による。

注19) 注 18) と同じ

注20) 伝統的工芸品産業の振興に関する基本的な指針、經濟産業省告示第五百十九号

注21) 注 10) と同じ

注22) 楊慶雲 (2004)：市街地開發整備の事業化システムの考察 - 土地利用権回収・讓渡方式と土地區画整理事業方式を中心として - 、山梨大学大学院工学研究科博士後期課程博士論文、pp.19.

注23) 2015 年國民經濟と社会發展統計公報：<http://www.stats.gov.cn>

注24) 螞蜂窩旅行網は、中国からの個人旅行者の増加を背景に 2006 年成立し、2010 年から運営しはじめた個人旅行者の閲覧できる旅行攻略情報サイトである。螞蜂窩

旅行網のデータによれば、2015年9月30日時点で、アクティブユーザーが1億人を超えている。また、8,000万の人がそれを常用しており、コメント数は2100万を上回っている。現在では、螞蜂窩旅行網は中国旅行研究機関と長期連携し、アクティブユーザーに対してデータ分析をおこない、観光旅行者の動機、滞在先、観光形態などについて研究し、観光研究報告を定期的に発表することによって高く評価されている。

注25) 倉平(2002): 朱家角古镇旅游功能定位与开发问题讨论、上海商业职业技术学院学报、Vol.3、No.3、pp.45-46.

注26) 徐宏・何焱(2013): 古镇旅游开发中当地居民“旅游参与者”与开发者的利益博弈、北京第二外国语学院学报、Vol.1、pp.70-79.

注27) 杨福泉(2015): 略论“大香格里拉”品牌及丽江市、迪庆州文化与旅游的互动发展、中南民族大学学报(人文社会科学版)、Vol.34、No.1、pp.398-400.

注28) 何永彬(2002): 谈乡村古镇旅游产品开发、海峡两岸观光休闲农业与乡村旅游发展—海峡两岸观光休闲农业与乡村旅游发展学术研讨会论文集(下)、pp.398-400.

注29) 李益彬(2012): Conception on Tourism Resources Protection and Development of East Sichuan Ancient Towns、Proceedings of 2012 International Conference on Social Science and Education(ICSSE 2012)、Vol.10、pp.143-147.

注30) 李俊・陈琴・张述林・蒋焜富: 古镇民俗资源保护与传承研究、绵阳师范学院学报、Vol.30、No.2、pp.101-105、2011.

注31) 孫岳龍(2009): 持続可能な社会の構築に向けた街並み保存再生の研究-中国成都市の「寛窄巷子」の保存再生案を中心として-、青森大学地域問題研究所-地域社会研究、Vol.17.

注32) 山村高淑・張天新・藤木庸介・平田隆行・門永琢・柏原誉・金世峰(2005): 麗江旧市街地中心部における保護民居の実態とその保全上の課題について-観光地化が世界遺産都市・麗江に与える空間的・社会的インパクトに関する研究その2、日本建築学会大会学術講演梗概集.

注33) 山村高淑(1999): 中国雲南省の観光開発における地方民族文化資源の位置づけと開発方針に関する研究 - 麗江地区における観光開発の経緯とその戦略について - 、日本建築学会大会学術講演梗概集.

注34) 秦蓉(2007): 历史文化名鎮的旅游开发、乐山师范学院学报、Vol.22、No.1、pp.79-81.

注35) 杨国才(2002): 白族千年古村“诺邓”的保护与发展研究、云南民族大学学报(哲学社会科学版)、Vol.19、No.2、pp.67-74.

注36) 张冬婷・邱扶东(2011): 国内外古镇旅游研究综述、旅游学刊、Vol.26、No.3、pp.86-92.

注37) 郑世卿・王大悟(2012): 乌镇旅游发展模式解析[J]、地域研究与开发、pp.85-94.

注38) 周建明・张高攀(2009): 旅游小城镇旅游资源的开发与保护、中国建筑工业出版社.

注39) 周学军・武晓琳(2008): 论古镇的保护与旅游开发-以四川省双流县黄龙溪古镇为例、知识经济、Vol.1、pp.131-132.

注40) 社区: 簡単にいうと政府の統一主導下で地域住民が自己管理、自己サービスを図る住民の自治組織を指す。詳しく言えば、1930年代に中国の社会学領域に登場した用語で、中国の社会学者の費孝通氏が英語の“community”を中国語に訳したもので政策的な定義と学術的な定義には異なる部分があるが、「生活共同体」であることは共通している。社区は省・直轄市・自治区の下にある都市部の街道と鎮によ

り管理されるものであり、特別行政区を除いたあらゆる都市部に存在するもっとも基礎的な行政区画の単位である。1 居民委員会が管轄している地域は 1 社区とされる。

- 注41) 翟丽丽 (2014) : 成都市宽窄巷子历史文化街区游客景观偏好实证研究、经营管理者、Vol.16、pp.102.
- 注42) 张荣光・廖治学・骆毓燕 (2012): 基于 SEM 的游客需求要素分层分析与满意度关系研究-以九寨沟景区为例-、西南民族大学学报 (人文社会科学版)、Vol.10、pp.142-146.
- 注43) 王惠・陈紫薇・张凯 (2014): 古村落居民行为对游客心理承载力影响研究、中南林业科技大学学报 (社会科学版)、Vol.8、No.6、pp.1-5.
- 注44) 翁雨晴・李万莲 (2012) : 消费者皖北旅游意愿及其影响因素分析、绥化学院学报、Vol.31、No.1、pp.176-178.
- 注45) 钟章奇・李山・王铮・闫丹・刘华婷 (2014): 中国旅游业空间分异的 ABS 分析、地理研究、Vol.33、No.8.
- 注46) 佟碩 (2006) : 中国人観光者の首都圏-日観光への志向についての研究、立教ビジネスマジック研究、第 3 号、pp.267-279.
- 注47) 倉澤知久・十代田朗・津々見崇 (2012) : 旅行雑誌に見る町並み観光地の魅力に関する研究、第 27 回日本観光研究学会全国大学学術論文集、pp.125-128.
- 注48) 羽生冬佳・森田義規・小久保恵三・十代田朗・津々見崇 (2006) : 来訪者の観光地評価の構造に関する研究、日本造園学会 69(4)、pp.301-306.
- 注49) 柳雅聡・大山勲 (2014) : 観光地における観光客と住民の観光に対する意識に関する研究、土木学会関東支部、第 41 回技術研究発表会、IV-14.
- 注50) Wickens E (2002): The sacred and the profane : A tourist typology [J] . Annals of Tourism Research. 29 (3)、pp.834-851.
- 注51) Pekoglu B.an (2006): Architectural Evaluation Method for Conservation of Traditional Dwellings [J].Building Environment、Vol41、No.3 pp.386-394.
- 注52) LiPing A.CAI. (2002) : COOPERATIVE BRANDING FOR RURAL DESTINATIONS. ANNNALS OF TOURISM RESEARCH、Vol.29、No.3、pp.720-742.

<第1章における参考文献>

- [1] 張広帥 (2011) : 中国観光の発展過程とその特徴に関する一考察、北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院院生論集=Sauvage : Graduate students' bulletin、Graduate School of International Media、Communication and Tourism Studies、Hokkaido University、Vol.7、pp.71-79.
- [2] 劉岩・万可・李力・下川敏雄・大山勲 (2016) : 成都市および近郊地域における観光地開発の現況-中国における伝統的観光地の顧客ニーズ調査-、A Study on Current Situation of Tourism Development in Chengdu and the Suburb Area - Investigation of Affecting Factors of Tourist for Traditional Tourism Area in China - 、日本感性工学会論文、Vol.15、No.1、pp.163-172.
- [3] 清水苗穂子 (2015) : 中国における新たなエコツーリズムの潮流-国際環境 NGO の試み東アジア研究、第 42 号、pp.52.
- [4] 韓魯安 (2008) : 中国観光産業の課題と持続可能な観光への若干の展望、金沢大学術情報リポジトリ人間社会環境研究、第 15 号、pp.165-188.
- [5] 倉平 (2002) : 朱家角古镇旅游功能定位与开发问题讨论、上海商业职业技术学院学报、Vol.3、No.3、pp.45-46.
- [6] 徐宏・何焱 (2013) : 古镇旅游开发中当地居民“旅游参与者”与开发商的利益博弈、北京第二外国语学院学报、Vol.1、pp.70-79.
- [7] 杨福泉 (2015) : 略论“大香格里拉”品牌及丽江市、迪庆州文化与旅游的互动发展、中南民族大学学报(人文社会科学版)、Vol.34、No.1、pp.398-400.
- [8] 何永彬 (2002) : 谈乡村古镇旅游产品开发、海峡两岸观光休闲农业与乡村旅游发展—海峡两岸观光休闲农业与乡村旅游发展学术研讨会论文集(下)、pp.398-400.
- [9] 李益彬 (2012) : Conception on Tourism Resources Protection and Development of East Sichuan Ancient Towns、Proceedings of 2012 International Conference on Social Science and Education(ICSSSE 2012)、Vol.10、pp.143-147.
- [10] 李俊・陈琴・张述林・蒋焜富 (2011) : 古镇民俗资源保护与传承研究、绵阳师范学院学报、Vol.30、No.2、pp.101-105.
- [11] 孫岳龍 (2009) : 持続可能な社会の構築に向けた街並み保存再生の研究-中国成都市の「寛窄巷子」の保存再生案を中心として-、青森大学地域問題研究所-地域社会研究、Vol.17.
- [12] 秦蓉 (2007) : 历史文化名鎮的旅游开发、乐山师范学院学报、Vol.22、No.1、pp.79-81.
- [13] 杨国才 (2002) : 白族千年古村“诺邓”的保护与发展研究、云南民族大学学报(哲学社会科学版)、Vol.19、No.2、pp.67-74.
- [14] 张冬婷・邱扶东 (2011) : 国内外古镇旅游研究综述、旅游学刊、Vol.26、No.3、pp.86-92.
- [15] 郑世卿・王大悟 (2012) : 乌镇旅游发展模式解析[J]、地域研究与开发、pp.85-94.
- [16] 周建明・张高攀 (2009) : 旅游小城镇旅游资源的开发与保护、中国建筑工业出版社.
- [17] 周学军・武晓琳 (2008) : 论古镇的保护与旅游开发-以四川省双流县黄龙溪古镇为例、知识经济、Vol.1、pp.131-132.
- [18] 翟丽丽 (2014) : 成都市宽窄巷子历史文化街区游客景观偏好实证研究、经营管理者、Vol.16、pp.102.
- [19] 张荣光・廖治学・骆毓燕 (2012) : 基于 SEM 的游客需求要素分层分析与满意度关系研究-以九寨沟景区为例-、西南民族大学学报(人文社会科学版)、Vol.10、pp.142-146.
- [20] 王惠・陈紫薇・张凯 (2014) : 古村落居民行为对游客心理承载力影响研究、中南林

- 业科技大学学报（社会科学版）、Vol.8、No.6、pp.1-5.
- [21] 翁雨晴・李万莲（2012）：消費者皖北旅游意愿及其影响因素分析、绥化学院学报、Vol.31、No.1、pp.176-178.
- [22] 钟章奇・李山・王铮・闫丹・刘华婷（2014）：中国旅游业空间分异的 ABS 分析、地理研究、Vol.33、No.8.
- [23] 佟碩（2006）：中国人観光者の首都圏-日観光への志向についての研究、立教ビジネスデザイン研究、第3号、pp.267-279.
- [24] 倉澤知久・十代田朗・津々見崇（2012）：旅行雑誌に見る町並み観光地の魅力に関する研究、第27回日本観光研究学会全国大学学術論文集、pp.125-128.
- [25] 羽生冬佳・森田義規・小久保恵三・十代田朗・津々見崇（2006）：来訪者の観光地評価の構造に関する研究、日本造園学会 69(4)、pp.301-306.
- [26] 石森秀三（2008）：観光立国時代における観光創造-大交流時代における観光創造、北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院、pp.1-20.
- [27] 張広帥・森重昌之（2010）：中国の新農村建設における郷村観光の重要性に関する研究-大連市を事例として」、日本計画行政学会第33回全国大会研究報告要旨集、pp.133-136.
- [28] 馮旭・山崎寿一（2013）：中国における「歴史文化名鎮名村」保護制度の展開とモデル計画事例に関する考察-1980年以降の「面」的保護に着目して-、日本建築学会計画系論文集第78巻第684号、pp.373-382.
- [29] 国务院法制办农业资源环保制司・住房与城乡建设部法规司、城乡规划司（2009）：历史文化名城名鎮名村保护条例释义、知识产权出版社.
- [30] 葉華・浅野聡・戸沼幸市（1997）：中国における歴史的環境保全のための歴史文化名城保護制度に関する研究-名城保護制度の枠組みの整備過程の特徴と課題、日本建築学会計画系論文集、No.494、pp.195-203.
- [31] 王林・王駿（1987）：历史街区保护名城保护内容及方法、城市规划.
- [32] 山崎寿一・馮旭（2011）：生活地名による集落空間の分析手法-雲南省西双版纳ダイ族集落・曼海を例に一、日本建築学会計画系論文集、No.666、pp.1415-1422.
- [33] 趙勇・張捷・李娜・梁莉（2006）：历史文化村鎮保护体系及方法研究、地理科学、pp.497-505.
- [34] 龜井由紀子（2011）：歴史的環境保全地区における住民活動の機能評価に関する研究-樞原市今井町重要伝統的建造物群保存地区を事例として-日本建築学会系論文集、Vol.76、No.670、pp.2381-2386.
- [35] 吉田倫子・上村信行・宇高雄志（2007）：町並み保存地区内外の住民の町並み保存に対する意識の差異-竹原重要伝統的建造物群保存地区を事例として-、日本建築学会計画系論文集、No.618、pp.89-96.
- [36] 上村信行・吉田宗人・吉田倫子・宇高雄志（2013）：町並み保存地区における住民意識の時系列分析による伝建区制度の評価-竹原市竹原重要伝統的建造物群保存地区を事例として-、日本建築学会計画系論文集、Vol.78、No.688、pp.1283-1291.
- [37] 展鳳彬（2009）：中国の新型観光農家樂-四川省・成都市を事例に一、同志社大学大学院政策科学研究科、pp.241-246.
- [38] 楊慶雲（2004）：市街地開發整備の事業化システムの考察 - 土地利用権回収・譲渡方式と土地区画整理事業方式を中心として - 、山梨大学大学院工学研究科博士後期課程博士論文.
- [39] 古麗扎尔阿不都肉苏里（2010）：新疆ウイグル自治区における持続可能な観光発展、

神戸大学大学院総合人間科学研究科博士論文.

- [40] Wickens E (2002): The sacred and the profane : A tourist typology [J] . Annals of Tourism Research. 29 (3)、pp.834-851.
- [41] Pekoglu B.an (2006): Architectual Evaluation Method for Conservation of Traditional Dwellings [J].Building Environment、Vol41、No.3 pp.386-394.
- [42] LiPing A.CAI. (2002) : COOPERATIVE BRANDING FOR RURAL DESTINATIONS. ANNNALS OF TOURISM RESEARCH、Vol.29、No.3、pp.720-742.
- [43] 柳雅聡, 大山勲 (2014) : 観光地における観光客と住民の観光に対する意識に関する研究、土木学会関東支部、第 41 回技術研究発表会、IV-14.
- [44] 符靈芝 (2013) : 古鎮旅遊開發研究 - 以洪江古商城為例、The research of the old town tourism development case of HongJiang Ancient Commercial Town、北京林業大学修士論文.

第 2 章 研究対象と研究の枠組み

2-1 四川省の概要

2-1-1 一般概要

表 2-1 四川省の概要（人口、面積、主要産業）

省名	四川省（省都：成都市）			
面積	48.6 万 km ²			
人口	常住人口	8,204 万人	出生率	10.3%
	人口密度（2014 年）	167/km ²	死亡率	6.94%
			自然増加率	3.36%

出所：2015 年四川省国民経済・社会発展統計公報、四川統計年鑑 2015 を基に筆者作成

2015 年における四川省の常住人口は 8,204 万人であった。1980 年に 829.6 万人だった非農業人口は、2015 年には 3,913 万人まで増加した。都市化率は 47.69%と、2014 年比で 1.39 ポイント上昇した。

面積は、48.6 万 km²で、中国全体に占める割合は 5.1%である。日本（37.8 万 km²）の約 1.3 倍となっている。

四川省はもともと農業が盛んであるが、近年は IT を中心としたハイテク産業、大型機械、宝石、食品高度加工などを中心に工業の発展が見られる。四川省工業史上最大の投資プロジェクトである年間 80 万トンのエチレン生産、三峡ダムに次ぐ規模の水力発展所建設、西部地域における最初の地下鉄となる成都地下鉄 1 号線建設など、大型プロジェクトが進められている他、2007 年には成都市が重慶市とともに「全国都市農村統一総合改革試験区」として承認された。また、四川省には世界の企業トップ 500 内 269 社（2013 年）が進出しており、その多くは成都市に集中している。日系企業では、トヨタ自動車、イカーヨーカ堂、伊勢丹、コベルコ等が進出している他、近年では日本向け電子情報産業のアウトソーシング業務の拡大が注目されている。

2015 年の域内総生産(GRP)は、3 兆 103 億元となり、成長率は 7.9%となった。その内訳をみると、第一次産業は 3,677 億元(前年比 3.7%増)、第二次産業は 1 兆 4,293 億元(同 7.8%増)、第三次産業は 1 兆 2133 億元(同 9.4%増)となっている。第二次産業のウェイトが 47.5%と最も高いが、第三次産業のウェイトが次第に大きくなりつつある。

2-1-2 地理と自然の状況



図 2-1 西部大開発地域

出所：<http://image.baidu.com>

西部大開発戦略は、図 2-1 に示すように、四川、貴州、雲南、青海、甘肅、陝西の 6 省、内モンゴ、新疆ウイグル、チベット、広西チワン族、寧夏回族の 5 自治区、重慶の 1 特別市が対象地域とされる。本論文の対象都市である四川省成都市は西部大開発戦略対象地域都市の一つである。

四川省は中国西南部（四川省・貴州省・雲南省・チベット自治区）に位置し、その中央は盆地である。四川盆地は中国のほぼ中央南部に位置し、東西 300km に及ぶ。四川省は北西は青海省、北は甘肅省及び陝西省、東は重慶、南は貴州省及び雲南省、西はチベット自治区と接する。

四川省は亜熱帯地帯に位置し、複雑な地形と異なる季節風循環流の交替の影響を受けるため、気候は複雑かつ多様な様相を呈している。東部盆地は亜熱帯湿潤気候に属し、西部の高原は地形の作用で、垂直型の気候帯を主とし、南部の山地から北部の高原へと亜熱帯から亜寒帯に移り変わり、垂直の方向に亜熱帯から永久凍結帯などさまざまな気候がある。複雑かつ多様な気候は四川省の経済、特に農業生産の全面的な発展に役立っている^{注1)}。

四川省全体の森林総面積は 764 万に達し、珍しい樹木の種類も多い。メタセコイア、イチョウなどいわゆる「生きた化石」といわれる樹木の種類の 5 分の 1 は四川省に分布している。動物の種類も多く脊椎動物だけで、1100 種類もあり、全国の 40% を占め、国クラス保護指定の珍しい動物が 55 種もある。世界的に有名なジャイアントパンダは主に四川

省域内の四つの山脈の 36 の県と保護区内に生息している^{注2)}。

四川は自然資源と文化資源に優れている。探査により明らかになった鉱物資源は 132 種と多く、そのうちバナジウム、チタン、カルシウム、硫酸ナトリウム、螢石、天然ガス、硫化鉄鉱の埋蔵量は中国 1 位、チタンの埋蔵量は世界 1 位、バナジウムの埋蔵量は世界 3 位にランクされている。

世界にその名を馳せる九寨溝、黄竜、峨眉山-樂山大仏の三カ所の世界自然文化遺産を擁し、都江堰-青城山、蜀南竹海など 9 カ所の国家クラス景勝区、11 の国家森林公园、40 カ所の自然保護区、省クラスの景勝区 44 カ所を擁している。四川省は地形が複雑で高原、山池、峡谷、盆地、平原、川、湖、温泉、滝、カルスト地帯、丹霞地帯があるため、世界で稀に見る豊富な観光資源をもっている。

2-1-3 地名の由来^{注3)}

天険の要害に守られた急峻な山岳地帯に位置すること、東部に四川盆地が広がり内陸部にもかかわらず温暖で肥沃な米作地であることから「天府之国」と称される。気候が温暖で食料が豊富で、自然災害も少なく、住みやすい土地として知られてきた。古代の巴蜀の地であったが、秦によって滅ぼされ、後の三国時代には、劉備が蜀漢をこの地に建国し、魏・呉と覇権を争った。北宋が 1001 年にこの地域に益州路、梓州路、利州路、夔州路を設置し、「川峡四路」と呼ばれていたところ、略称が「四川路」と呼ばれていたことから、四川の名が始まった。その後元の時代には四川行省が設置された。

古代において多民族を融合した漢民族は今日四川省住民の主体になっている。漢民族のほかにまた多くの少数民族があるが、人口 5000 人以上の少数民族にはイ族、チベット族、チャン族、回族、蒙古族、リス族、満州族、ナシ族、ペー族、ブイ族、タイ族、ミャオ族、トウチャ族などがある。中国で二番目のチベット族の集中区、最大のイ族が集中に住んでいる地域と中国唯一のチャン族居住区も四川省にある。四川省域内のイ族は人口が最も多い少数民族で、主に大涼山・小涼山区と安寧河流域に住んでいる。チベット族とチャン族はそれぞれ、甘孜・阿は州・涼山州の木里チベット自治県などの高原地帯と岷江上流の茂県、ぶん川、黒水、松藩、北川地区に住んでいる。チャン族は中国で長い歴史をもつ民族の一つである。

2-1-4 四川省の経済発展

表 2-2 は四川省と中国全体の経済成長率の推移を示したものである。四川省の経済率は 2001 から 2011 年までの 12 年間、右肩上がりに伸びている傾向が見られるが、それ以降左肩あがりになっている傾向にある。2008 年経済発展が急減したことは四川大地震に起因すると考えられる。

四川省の経済は、中国全体の成長率を概ね上回る水準で推移しており、特に 2009 年以降は中国全体の成長率を大きく上回っていることが示されている。2015 年の成長率は 7.9%と、中国全体の成長率を 1.0 ポイント上回ったことが見てとれる。

表 2-2 四川省と中国全体の経済成長率の推移

年度	四川省の成長率	中国全体の成長率
2001	9.0	8.3%
2002	10.3	9.1%
2003	11.3	10.0%
2004	12.7	10.1%
2005	12.6	11.3%
2006	13.5	12.7%
2007	14.5	14.2%
2008	11.0	9.6%
2009	14.5	9.2%
2010	15.1	10.6%
2011	15.0	9.5%
2012	12.6	7.7%
2013	10.0	7.7%
2014	8.5	7.3%
2015	7.9	6.9%

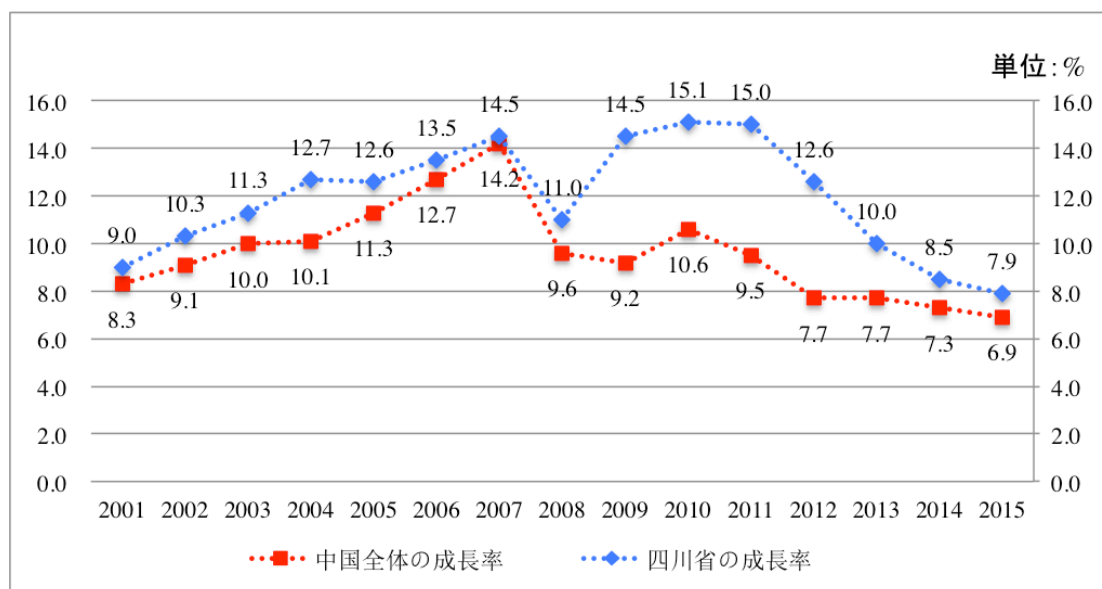


図 2-2 四川省と全国の経済成長率（年別）

出所：中国統計年鑑（各年版）、四川省統計年鑑（各年版）、2015年全国国民経済・社会
 発展統計広報、2015年四川省国民経済・社会発展統計広報を基に筆者作成

2-1-5 中国四川省の観光状況の概要

表 2-3 は四川省 2010～2014 年における中国四川省の観光状況の推移を示している。観光状況については主に旅行会社数、星ホテル、観光客数（訪中観光客数・国内観光客）及び観光収入（国際観光収入・国内観光収入）を示している。2010 から 2014 年にかけて四川省の旅行会社数は年々増加しており、2014 年にその数は 845 に達している。星ホテルは 2010 年から 2012 年までの増加した傾向が見られるが、それ以降は少しずつ減少している傾向にあり、2014 年度は 481 に減少し、2010 年を下回っているが、旅行会社数と星ホテルでは速いスピードで発展していると言える。

観光客数に着目すると、外国人の訪中観光客数でも国内観光客数でも増加している傾向が見られる。特に、2104 年度の観光客は延べ 53,790 万人で、それぞれ訪中観光客数は 240 万人、国内観光客数は 53,550 万人に達しており、2010 年度の訪中観光客数と国内観光客数の約 2 倍となっている。四川省の観光市場は年々増加しており、その規模は非常に大きいことがうかがわれる。

国際観光収入でも国内観光収入でも右肩上がりに伸びている傾向が見られる。2014 年の観光収入は、4,891 億元に達しており、それぞれ国際観光収入は 85,768 万ドル、国内観光収入は 4,838 億元に達している。この間の観光収入の伸び率は 2.4 倍、国際観光収入の伸び率は 2.6 倍、国内観光収入は 2.4 倍となっている。四川省の観光収入は経済発展を促進することを牽引していることが示唆される。

表 2-3 2010～2014 年における四川省観光状況

指標	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年
旅行会社数（軒）	744	761	810	832	845
星ホテル数（軒）	509	522	526	512	481
訪中観光客（万人）	105	164	227	210	240
外国人	75	114	151	147	170
港澳同胞	15	22	36	34	39
台湾同胞	15	28	40	29	32
国内観光客数（万人）	27,141	34,978	43,452	48,697	53,550
観光収入	1,886	2,449	3,280	3,877	4,891
国際観光収入（万ドル）	35,409	59,383	79,815	76,476	85,768
国内観光収入（億元）	1,862	2,411	3,230	3,830	4,838

2-2 成都市の概要

2-2-1 一般概要



図 2-3 成都市の地図

出所： <https://ja.wikipedia.org/wiki/成都市>

成都市は四川省中部、四川盆地の西部にある岷江の中流、成都平原の中心部に位置し、平原と丘陵や山地がそれぞれ面積の半分を占めている。成都平原は土地が肥えている上に都江堰の大型の水利施設に恵まれ、古くから物産が豊かなため「天府の国」と呼ばれてきた。気候が温暖で食料が豊富、自然災害も少なく、住みやすい土地として知られてきた。

総人口 1572.8 万人（2015 年）の省都であると同時に 2300 余年の長い歴史のある歴史文化都市の一つである。また、四川省の政治、文化、経済の中心地と同時に中国西南地区の科学技術、商業貿易、金融の中心地であり、通信の中核であり、全国 20 特大都市の一つである。1992 年 7 月、国務院から内陸開放都市の許可を受け、現在は国より許可された対外開放都市及び全国総合改革テスト都市である^{注4)}。

1990 年代以降は成都の経済社会の発展が最も速く活気に満ちた時代を迎えており、とりわけ、1991 年から 1995 年の第 8 次五ヶ年計画期間中の高度発展により、成都の経済実力は目覚ましく成長し、産業構造がさらに合理化された。

図 2-4 は 2000 から 2015 年までの成都市の総額 GDP の推移を示したものである。21 世紀に入って成都市は目覚ましい経済発展を遂げている。2015 年の成都市の GDP 総額は 10801.2 億元に達し、第 1 次、第 2 次、第 3 次産業の比率は GDP でそれぞれ 373.2 億元、4723.5 億元、5704.5 億元であり、3.5%、43.7%、52.8%を占め、数字のように第 2 次、第 3 次産業の著しい増加がうかがえる。成都市の総合的な経済力は 15 副省級都市^{注 5)} 中第 3 位である (GDP 総額比較)。

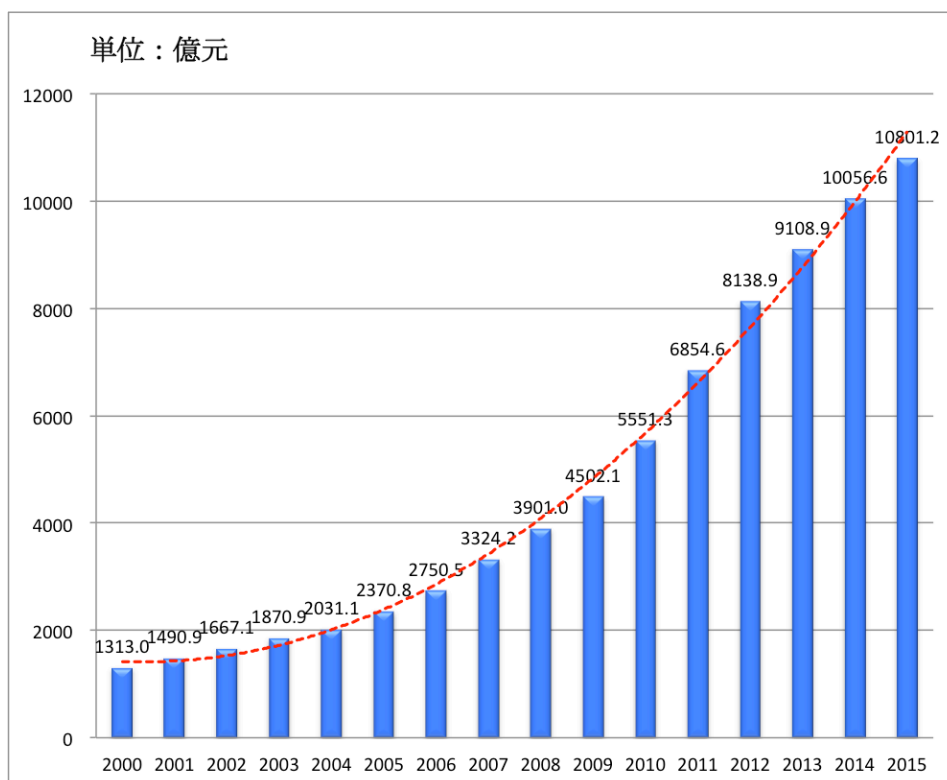


図 2-4 2000～2015 年における成都市総額 GDP の推移

出所：成都市統計局より筆者作成

2-2-2 成都市の観光資源

成都是歴史的遺産が豊富で、1982年には国家歴史文化名城に指定されている。また2000年に始まった西部大開発の拠点都市として経済も活性化している。世界文化遺産に認定されている歴史的建造物が点在しており、多くの文化が残っている。金沙遺址博物館（三星堆文化を継ぐ、BC1200～500年の十二橋金沙文化代表遺跡）、武侯祠（諸葛孔明廟・三国誌聖地）、杜甫草堂（杜甫旧居）、文殊院（伝南北朝時代創建の古刹）、寛窄巷子（清末・民国期古街の保存再開発地区）、都江堰・青城山（都江堰の古代灌漑施設と道教の聖地・世界遺産）、黄龍溪（南郊外双流県にある古街）、そのほか四川省に点在する多くの世界遺産（九寨溝・黄龍風景区・峨眉山・樂山大仏・パンダ保護区）の観光基地となっているほか、多くの観光客にとってチベット旅行の入り口になっている^{注6)}。

そのため、歴史文化遺産と伝統的地域の保護を重視しながら、再開発が積極的に行われている。特に、伝統的地域の観光開発は、観光資源を一つの産業とする四川省において重要な位置づけにある。

2-2-3 成都市の観光資源の分類

中国科学院地理研究所は1990年「中国観光資源調査分類表」を制定し、中国の観光資源を①地表類、②水体類、③生物類、④気候と気象類、⑤歴史類、⑥近現代類、⑦文化、娯楽、スポーツ類、⑧風俗類の8類に分けている。成都市にある観光資源を掲げると、下記の表のとおりである。

表 2-4 成都市観光資源の分類

級別	分類	観光資源
自然 観光 資源	地表類	崇州九龍溝、九峰山、天台山、西嶺雪山、虹口自然保護区、金華山風景区、青城山
	水体類	翠月湖、花水湾温泉
	生物類	龍池国家森林公园、鶴鳴山
人文 観光 資源	歴史類	青羊宮、金堂雲頂山風景区、成都昭覺寺、永陵博物館、大慈寺、宝光寺、崇州文廟、杜甫草堂、武侯祠、錦里、平樂古鎮、街子古鎮、洛帶古鎮、 <u>双龍県黄龍溪古鎮</u> 、金沙遺址博物館、大邑劉氏莊園博物館、古龍寺、懷遠古鎮、 <u>大邑県安仁古鎮</u> 、都江堰、 <u>寛窄巷子</u> 、 <u>文殊院</u>
	近現代類	安仁汶川地震博物館、望江楼公園、都江堰城隍廟、黄龍溪、鎮江寺
	文化、娯楽 スポーツ類	成都芙蓉古城、成都国色天郷、成都華僑城歡樂谷
	風俗類	花舞人間、成都植物園、成都海昌極地海洋世界、成都パンダ繁殖研究基地、三聖花郷風景区

出所：1990年の「中国観光資源調査分類表」より作者作成

成都是 2300 年の歴史あふれる中国文化名城である。中国最初選ばれた国家歴史文化名城、中国最佳旅遊城市と世界優秀旅遊目的地であり、世界遺産（2ヶ所）と世界予備遺産（2ヶ所）を有している。中国西南部において世界遺産の数が最も多い都市である。

成都市には、「武侯祠博物館」（以下武侯祠）をはじめとする数多くの歴史文化景観、中国四大料理である「四川料理」、伝統芸能の「川劇」、毎日 20 万人の市民が日常生活の一部として利用している 4000 軒以上の「茶館」、観光者も市民も観光できる新たに開発された観光スポット、都市観光対象となる宿泊とショッピング施設など豊かな観光資源が数多く存在し、全国トップレベルの都市観光地となっている。

2-2-4 成都市の観光収入及び来訪者数

図 2-5 は 2001～2015 年における成都市の観光客数と観光収入の推移を示している。成都市における 2001 年から 2015 年までの 15 年間の観光者数と観光収入を見ると、特に 2010 年度から、驚かせるほど速いスピードで発展している傾向が見られる。中国四川省成都市の観光市場における 2015 年の観光者数は延べ 1.89 億人で、観光収入は 2040.19 億元に達している。この間の観光者数と観光収入の伸び率はそれぞれ 7.3 倍、13.4 倍となっている。成都市の観光市場は年々増加しており、その規模は非常に大きいことがうかがえる。

また、2015 年度、成都市の観光収入と訪中外客数の増加率は西部地区においては、1 位を占めており、観光客数は 15 副省級都市においては 2 位を占めていることから、成都市の観光産業は国民経済と現代サービス産業に貢献する創造価値（重要性）がますます高まっており、成都市の経済発展を牽引していることが成都市観光局によって発表された^{注 7)}。2008 年四川省 5・12 地震の原因で観光収入の減少が見られたが、翌年 2009 年回復した傾向が見られた。

表 2-5 2001～2015 年に成都市観光者数と観光収入の推移

年度	国内観光者数（億人）	国内観光収入（億元）
2001	0.26	151.90
2002	0.28	175.10
2003	0.28	182.50
2004	0.32	228.43
2005	0.36	286.75
2006	0.40	340.22
2007	0.43	415.20
2008	0.41	373.74
2009	0.55	501.30
2010	0.67	603.87
2011	0.96	805.00
2012	1.22	1,050.78
2013	1.53	1,330.66
2014	1.84	1,663.37
2015	1.89	2,040.19

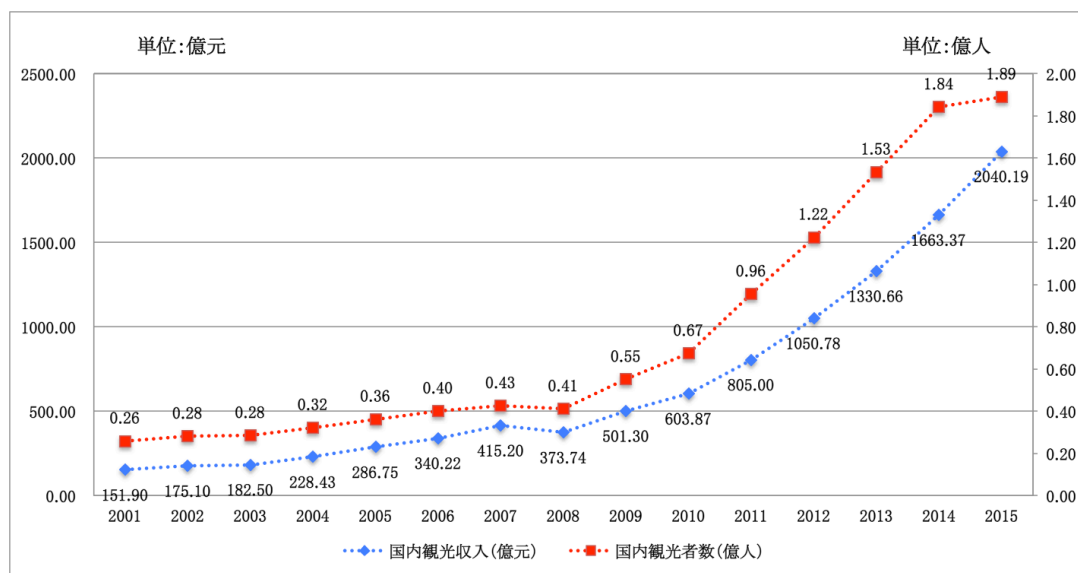


図 2-5 2001～2015 年に成都市観光者数と観光収入の推移

出所：成都市国民経済と発展統計公報より筆者作成

2-3 研究対象の定義

本研究では主に伝統的資源を観光資源とした観光地を研究対象事例として研究を行う。観光や観光開発に見られる利益の追求、経済効果を求める動きに伴い、「古鎮」は新しいタイプの観光の「目的地」になっていった。例えば、民族風情観光村、民族文化村、民俗観光村、重点文化財保護単位、歴史城鎮、歴史文化名城、古城、伝統集落、伝統村、伝統城鎮など、「古鎮」を基礎資源とする様々な形態が現れた。古鎮と関連する歴史城鎮、歴史文化名城、古城、伝統集落、古村落などの言い方が文献の中で広い範囲で使用されているが、古鎮の概念は比較的に明確ではないと言える。下記は古鎮に関連する概念の論述について説明しておく。

阮^{註8)}は歴史城鎮の特徴について以下のように論じている。歴史城鎮は一般の城鎮と違い、物質文化、精神文化と制度文化などの歴史文化を有しており、各民族社会制度、社会生産及び社会生活を反映し、人類の歴史の証と文明の結晶である。精神産品の生産、精神文化生活を豊富にさせ、かつ歴史上では、区域の経済、政治或いは文化中心でもある。

呉^{註9)}は古村落と城鎮の相違について詳細に述べている。古村落と城鎮とは一見同じようであるが、全く違う概念である。古村落は過去では経済も交通も優れていたが、現在になって、経済も交通も衰退しており、かつ環境優美、地形辺鄙のところを指している。例として少数民族の集まりの地域である。

国家歴史文化名城は、中華人民共和国に指定され、中華人民共和国の文化遺産保護制度の一つである。中華人民共和国国務院が1982年に制定した制度である。歴史的価値や記念的价值が高く、重要な歴史的事件、革命運動及び著名な人物に関係し、並びに重要な記念的意義、教育的意義及び史料価値のある近現代の重要な史跡、実物及び代表的建築を指し、現在も継続して使われている都市を保護する制度である。現在102市がリストされている。1982年、1986年、1994年と三回にわたって公布され、2001年2件、2004年1件が追加された。このほかに、各省政府が指定した歴史文化名城もある。

国家歴史文化名城はそれぞれの特徴によって7つの種類に分けられている。

- A. 古都型：都城遺跡があり、古都にふさわしい風格がある都市。北京、西安など。
- B. 伝統風貌型：歴史的に蓄積された建築群を残す町並み。平遥、韓城など。
- C. 風景名勝型：自然環境に優れた特色がある都市。桂林、蘇州など。
- D. 地方民族特色型：地域的、民族的に独自の特色を有する都市。麗江、拉薩（ラサ）など。
- E. 近現代史跡型：歴史上の一大事件を反映する史跡がある都市。上海、遵義など。
- F. 特殊産業型：特定の産業で歴史的に突出する都市。自貢、景德鎮など。
- G. 一般史跡型：全域に文物古跡が分布し、歴史的伝統を体言する都市。長沙、濟南など。

国家（建設部、国家文物局、省市政府）に歴史文化名村・名鎮として認定されるためには以下の条件を満たさなければならない。

- (1) かつて全国または地域の社会経済に重要な影響を及ぼしたことがあり、全国またはある地域内で重要な影響力を有している。
- (2) 水路・陸路の交通の中区として、かつて大勢の人の流れ、商品の流れ、物の流れの集散地であったこと。
- (3) 歴史上かつて重大な建設工事が行われ、国民の生命財産の安全や保護、そして整体環境を保護、改善に大きな効果と利益をもたらし、またその効果と利益が現在でも持続していること。
- (4) 革命史上、重大な歴史事件の舞台となり、またかつて革命政権の駐在地だったこと。
- (5) 歴史上、外来の侵略に抵抗し、反撃し、戦局を変えた重大な戦争を経験し、またかつて戦争指揮機関の駐在地だったこと。
- (6) 中国の伝統的な土取りの原理や营造の理念を具現化し、絶妙で完璧な建築技術或いはその地方ならではの風情や民族情緒の溢れる建築技術を反映している

つまり、国家に「歴史文化名村・名鎮」と認定される古村鎮は、豊富な建築遺産、歴史文化財古跡あるいは伝統文化を有しており、また歴史時期の伝統的風貌、地方の特色、民族的風情を比較的無傷で反映しており、更にあるものは中華民国時代またはそれ以前の時代に建造された伝統的建築群を保存している。しかも全てのコミュニティの基本的スタイルも完全に保存しており、歴史的・文化的・芸術的そして科学的価値が比較的高いと評価されているところである。

日本では、伝統的地域に相当する言い方は伝統的建造物群保存地区（略語：伝建地区）である。

日本文化財保護法によると、「伝統的建造物群保存地区」は次のように説明している。城下町・宿場町・門前町・寺内町・港町・農村・漁村などの伝統的建造物群およびこれと一体をなして歴史的風致を形成している環境を保存するために市町村が定める地区を指す。この制度は、文化財としての建造物を「点」（単体）ではなく「面」（群）で保存しようとするもので、保存地区内では社寺・民家・蔵などの「建築物」はもちろん、門・土塀・石垣・水路・墓・石塔・石仏・燈籠などの「工作物」、庭園・生垣・樹木・水路などの「環境物件」を特定し保存措置を図ることとされている。

日本国文化庁によると、伝統的建造物群保存地区について以下のように規定している。昭和 50 年の文化財保護法の改正によって伝統的建造物群保存地区の制度が発足し、城下町、宿場町、門前町など全国各地に残る歴史的な集落・町並みの保存が図られるようになった。市町村は、伝統的建造物群保存地区を決定し、地区内の保存事業を計画的に進めるため、保存条例に基づき保存計画を定める。国は市町村からの申出を受けて、我が国にとって価値が高いと判断したものを重要伝統的建造物群保存地区に選定する。

上記の分析を踏まえて中国の伝統的地域であっても、日本国の伝建地区であっても、伝統的地域には必要不可欠の特徴をまとめてみると以下のとおりである。

- A. 歴史価値（歴史的風土）、芸術価値（意匠的に優秀）、科学価値を有していること
- B. 歴史各時代、各民族社会制度、社会遺産、社会生活（風習、地域の行事・祭り・イ

ベント、伝統的文化)、生活空間(道の様式や旧建築、装飾物、給水システムなど)を反映していること

C. かつて一つのまとまりの居住群として機能していたこと

したがって本研究では、主に以上のいずれの特徴を有する伝統的観光地を研究対象として観光開発の実態の詳細な把握がきわめて重要であると考え、論を展開することにした。

2-4 事例対象地域選定の理由

本研究では、成都市市内および郊外の伝統的観光地の実態を把握するために、成都市内の寛窄巷子、文殊院、錦里及び成都郊外の黄龍溪と安仁を対象として取り上げ、研究を進める。その中で、寛窄巷子、文殊院は歴史文化名城保護街区であり、錦里はテーマパークであり、黄龍溪と安仁は古鎮である^{注10)}。

本地域を選定した理由として

- (1) かつては共同体の居住地として機能を果たしていたこと。
- (2) 各時代の意匠的に優秀な伝統的建築技術、建築様式、空間形態及び道路、地誌、環境の形成といった景観と空間を反映していること。
- (3) 各時代の歴史的風土、生活様式・生活習慣、食事、民族風俗、祭礼、伝統的芸術・パフォーマンスといった伝統的文化を反映していること。
- (4) 現在では観光地として機能しており、観光開発が進んでいることによって著名な観光名所となっていること。特に、伝統的資源を主な観光資源の一つとして活用している。(ただし、錦里は伝統的地域ではないが、伝統的建築物を再現している観光地である)。
- (5) 伝統的資源の状況が良好に保存または再現されており、活用向けの施設などの基盤整備も進められている。

また、ある程度同様のイメージを有すると考えられる伝統的観光地が観光に取り組みはじめた経緯や観光開発状況は異なっていると予想されることによって観光客との関係構築に向け地域の活性化の向上を図り、持続的な視点での取り組みにより観光開発を軌道に乗せていると考えられている。その結果、観光活動を取り巻く地域の連携や潜在する地域資源の活用、観光客や地域住民や商業者などの交流を促進する動きにつながっていることが考えられる。

こうした持続可能な地域の実現につながる動きがある地域を事例に取り上げることによって、著名な史跡や伝統的資源や素晴らしい景勝地などの観光資源を有すると表現される伝統的地域が、地域活性化を図る観光活動をもとに、持続可能な地域の実現に向け、内外の関係者と創造的関係を構築する上での示唆を得ることができると考えられる。

以上の理由を踏まえて交通の便利性と調査の可能性を考慮に入れて本研究では、寛窄巷子、文殊院、錦里、黄龍溪古鎮と安仁古鎮との5ヵ所の観光地を事例対象地域として取りあげることとした。

2-4-1 寛窄巷子^{注1)}の概況



出所：百度地図 [http://map.baidu.com/?newmap=1&ie=utf-8&s=s%26wd%3D 寛窄巷子](http://map.baidu.com/?newmap=1&ie=utf-8&s=s%26wd%3D%20寛窄巷子)
(地図データ) 2017年7月17日に確認



出所：

<http://image.baidu.com/search/index?tn=baiduimage&ps=1&ct=201326592&lm=-1&cl=2&nc=1&ie=utf-8&word=寛窄巷子>

図 2-6 寛窄巷子の位置と主要な観光スポット

基本状況

名称	寛窄巷子	景区等級	AA
地理位置	中国四川省成都市	チケット	無料
気候類型	亜熱帯モンスーン気候	観光スポット	寛巷子、窄巷子、井巷子、拴馬石
土地面積	479 平方メートル	遊び時間	5 時間
開放時間	全日	遊覧に適宜する季節	春、夏、秋
住民の有無	ほとんどいない	開発手法	修復型の開発
		開発程度	やや開発過剰

寛窄巷子は四川省成都市青羊区長順街の付近にあり、寛巷子、窄巷子、井巷子という平行に並んでいる三本の旧街道とこの街道の間に区切られた四合院群から構成されている。大慈寺、文殊院と合わせて成都市三大歴史文化名城保護街区と選定されている。寛窄巷子は国家 AA 級旅遊景区^{注 12)}で、2008 年「中国創意産業項目建設成就獎」「四川肯文化産業示範基地」として受賞された。2009 年「中国特色商業步行街」、「四川省歴史文化名街」、2010 年四川省級歴史義化名街」、2011 年「四川十大最美街道」「成都新十景」と選ばれている。

寛窄巷子は成都で唯一残された清の時代の街で、南方の四川西部の住家の特徴を持ちながら、北方の満蒙文化の粋も含んでいる。寛窄巷子は本物の古代建築であり、中国の西南部にありながら、北方の建築様式である。清の康熙の時代に、康熙皇帝はチベットを鎮めるため北方の兵士を派遣した。その後、千人ぐらいの兵士を成都に駐屯させた。寛窄巷子はその兵士たちによって、多くは四合院の建築様式で建てられた。

もとの旧市街地をベースにし、観光やレジャーを目的とした古代蜀文化をアピールする複合型カルチャー商店街を目指し、「古き良き成都、現代都市の客室」という意味の「天府少城」がテーマとなっている。現在、成都の悠久たる歴史を語る街として国内外の注目を集め、その文化や芸術の要素を残しつつおしゃれなバーやカフェ、ショップ等が数多く立ち並び、成都ならではのんびりとした時間を過ごすことができる。今の寛巷子には街内で最も多くしかも無傷である古い建築が集まっており、20 軒余りの特色を持つ住宅があり、大部分は昔のままに残され、ほかの二つの巷子（横町）より古代の風情に富んでいる。ここは成都ののんびりした生活の見本だといえる。お茶を飲んだり、本場の四川料理を食べたり、成都の風土や人情を体験できる。

2008 年にかつての民家を一部残しながら修復を基本とした再開発が行われ、古代蜀文化の面影を残した観光地となっている。政府が土地建物を買い上げ民間が開発を行った。住民に移住と元の居住場所に戻る選択を与えたがほとんどが移住した。そのため住民の生活文化は希薄化し、飲食・娯楽施設中心の繁華街となっている。新たな建築物は伝統的建築の雰囲気をもった旧来とは異なるデザインであるが、一般の人には本物の伝統建築と区別がつかないほど精巧に造られている。歩行空間は安全快適に整備され、トイレなど基盤施設も清潔である。

寛窄巷子の写真



写真 2-1 街並み景観



写真 2-2 道側の屋台



写真 2-3 現代風の喫茶店



写真 2-4 露天休憩場所



写真 2-5 記念写真の観光客

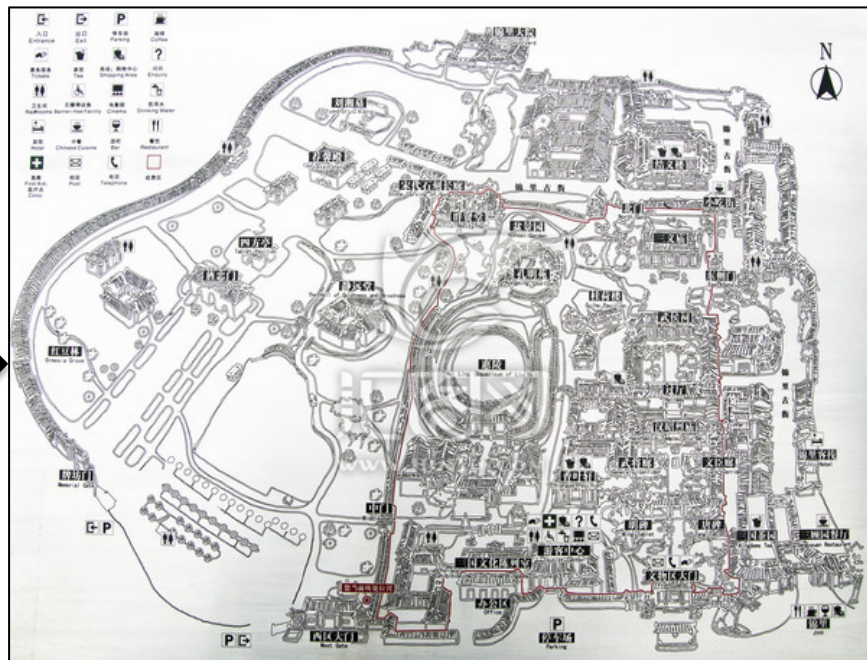


写真 2-6 夜の食事風景

2-4-2 錦里^{注13)}の概況



出所：百度地図 <http://map.baidu.com/?newmap=1&ie=utf-8&s=s%26wd%3D錦里>
(地図データ) 2017年7月17日に確認



出所：

http://image.baidu.com/search/index?tn=baiduimage&ipn=r&ct=201326592&cl=2&lm=-1&st=-1&fm=result&fr=&sf=1&fmq=1500258154591_R&pv=&ic=0&nc=1&z=&se=1&showtab=0&fb=0&width=&height=&face=0&istype=2&ie=utf-8&word=錦里古街+平面图

図 2-7 錦里の位置と主要な観光スポット

基本状況

名称	錦里	景区等級	なし
地理位置	成都市	チケット	無料
気候類型	亜熱帯モンスーン気候	観光スポット	古風商業街
土地面積	30,000 あまり平方メートル	遊び時間	2～3 時間
開放時間	全日	遊覧に適宜する季節	3～6 月、9～11 月
住民の有無	いない	開発手法	新規の開発地
		開発程度	やや開発過剰

三国志時代の蜀王劉備玄德と丞相諸葛孔明を祭る武侯祠の周辺の空き地に、蜀漢時代の町並みを新たに創る形で 2004 年に開発された。その名前は、漢時代に成都市で錦産業が盛んであったことに由来する。

錦里は成都の武侯祠博物館（三国歴史遺跡区、錦里、西区）の一部として建設され、錦里街の長さは 550 メートルで、三国文化と四川省伝統民俗文化を表現している。武侯祠の隣で、チベット自治区の成都連絡所の近くに位置しているので、洗面橋横街、武侯祠横街など近くの街には多くのチベット人や僧侶が目に入る。彼達はみんな身長が高く、皮膚は日焼けして黒く、伝統的な民族衣装を着ている。

料理店、旅館、茶館、店舗、舞台、迂回する廊下、立派な邸宅などに昔の衣装を着た商人が声をあげて物を売り歩く声が絶え間なく続いている。四川各地の有名な新鮮な菓子をその場で作りながら呼び売りしている姿が観客の目を引いている。夜には、絹の赤い提灯が高く掛けられ、お茶や濃いコーヒーの香りが空気に漂い、各店は人声で沸き立ち、錦里はまるで古代成都の雰囲気醸し出している。

錦里には、料理店、旅館、茶館、店舗、舞台などがあり、当時の風情を体験することができる。居住者は無いので生活文化はみられない。建物も新たに模造されたもので、テーマパークの様相である。しかし建築材のエイジング処理など、一般の人には本物の伝統的建築と見分けがつかないほど細部に景観設計がなされている。歩行空間も安全快適に整備され、トイレなど基盤整備も清潔で、水辺空間が建築空間と関係させて巧みに配置されている。

錦里の写真



写真 2-7 錦里の入り口



写真 2-8 街並み景観



写真 2-9 夜のライトアップ



写真 2-10 店舗の風景

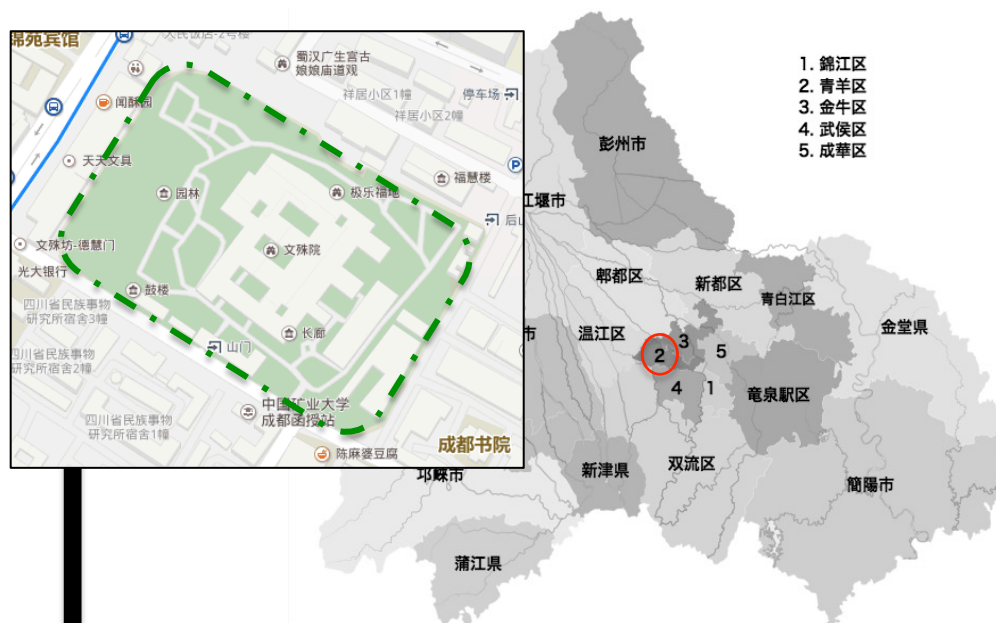


写真 2-11 伝統的切り紙

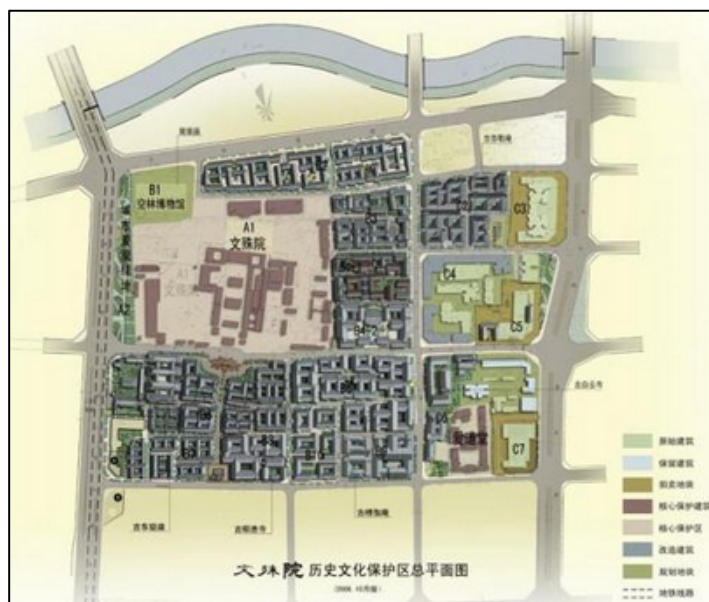


写真 2-12 川劇のお土産

2-4-3 文殊院周辺^{注14)}の概況



出所：百度地图 <http://map.baidu.com/?newmap=1&ie=utf-8&s=s%26wd%3D%20文殊院>
 (地図データ) 2017年7月17日に確認



出所：http://blog.sina.com.cn/s/blog_539c1dca0100qnei.html

図 2-8 文殊院の位置と文殊院案内図

基本状況

名称	文殊院	景区等級	なし
地理位置	四川省成都市	チケット	無料
気候類型	亜熱帯モンスーン気候	観光スポット	なし
土地面積	20 万平方米	遊び時間	2～3 時間
開放時間	9:00～17:00	遊覧に適宜する季節	年中
住民の有無	文殊院周辺に住んでいる	開発手法	修復型の開発
		開発程度	やや開発不足

文殊院は成都市青羊区に位置しており、四川省重点文物保護単位であり、全国漢語系仏教の重点寺院の一つと国務院に指定されている。

南北朝時代(420-589 年)に創建された文殊院は、成都市内北部、府河の南側に位置する仏教寺院で、四川省の仏教の中心である。もとは唐の妙園塔院で、宋代に信相寺と呼ばれたが、「信相」というのは尼の名字で、当時の蜀王がその面影を慕い、彼女の為に寺を建立した。

明代に戦火によって焼失され、清朝の 1697 年に再建された際に「文殊院」と改称された。その後、二回にわたる増築を行い、現在のような規模になった。文殊院は南向きに建てられており、建設面積は 11600 m²、部屋は全部で 190 室もある。天王殿、三大士殿、大雄殿、説法堂、藏経楼など、どれも典型的な清代建築である。精巧な透かし彫りの飾り窓が付いている。

成都市を南北に縦貫する人民中路の東側に位置する、文殊院（寺院境内）の周囲を古街として再開発した区域が本研究の調査対象地である。2005 年 10 月にこの 1 期工事が終わり、その一帯が文殊坊としてオープンした。文殊院歴史文化保護区（総計画面積約 26ha）は東を北大街・草市街、南を白家塘街・通順橋街、西を人民中路三段、北を大安西路に囲まれたところである。そのほぼ西北部に位置する文殊院の東・南側に文殊坊が広がる。文殊坊は、錦里を大規模にしたようなもので、四川省西部の古建築が再現され、民芸品・工芸品などの店や露店が並び、この実演も披露するし、縁日も開催される。もちろん、四川料理のレストランや小吃の店もあり舌を楽しむことができる。

今回の調査対象地は文殊院の寺院境内ではなく、文殊院を観光資源とした周辺の観光地である。現在の文殊院周囲には、工芸品などの手作り工房や商業施設などが存在しており、観光地として栄えている。住民が多く居住しており、建築も本物が部分的に残っている。一方、観光地として道路舗装や清潔なトイレなど基盤空間の整備状況は劣っている。（なお、この地区は観光客には「文殊院」の名として通っており「文殊坊」は一般に知られていないため、調査対象地名を「文殊院」とした）。

文殊院の写真



写真 2-13 文殊院の入り口



写真 2-14 お線香供えの観光客



写真 2-15 文殊院の街並み景観



写真 2-16 文殊院周辺の店舗



写真 2-17 文殊院周辺の仏教装飾

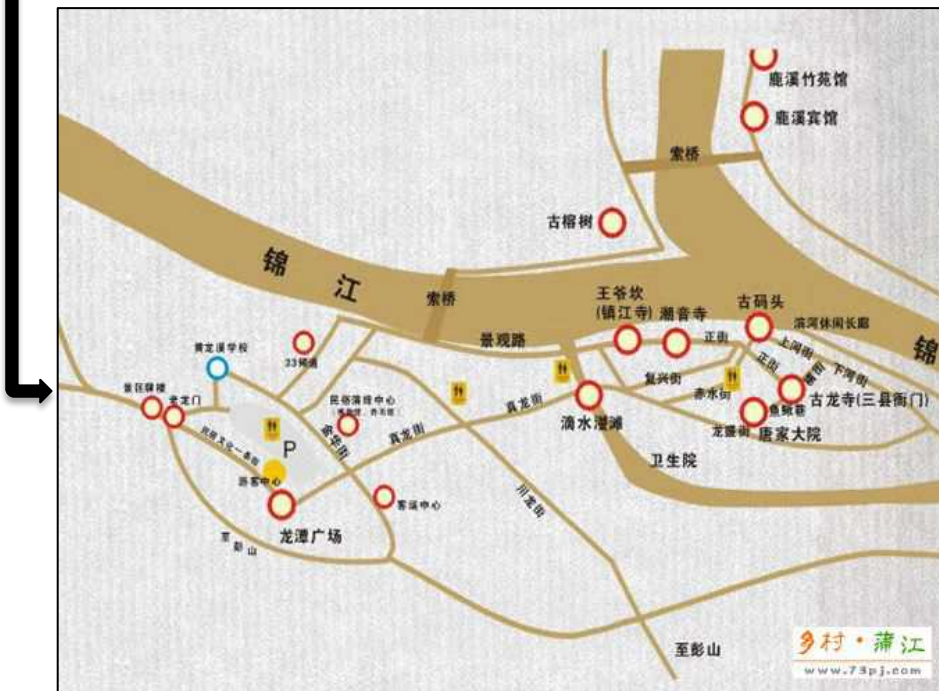


写真 2-18 食事店舗

2-4-4 黄龍溪古鎮^{注15)}の概況



出所：百度地図 <http://map.baidu.com/?newmap=1&ie=utf-8&s=s%26wd%3D%20黄龍溪>
 (地図データ) 2017年7月17日に確認



出所：<http://m.ctrip.com/html5/you/travels/youyouctripstar915/1695136.html>

図 2-9 黄龍溪古鎮の位置と主要な観光スポット

基本状況

名称	黄龍溪古鎮	景区等級	なし
地理位置	四川省成都市双流区	チケット	無料
気候類型	亜熱帯モンスーン気候	観光スポット	大佛寺、古蜀門楼
土地面積	50.4 万平方米	遊び時間	2 日
開放時間	全日	遊覧に適宜する季節	3～6、9～11
住民の有無	伝統的地域に住んでいる	開発手法	伝統的地区と新規の開発
		開発程度	開発過剰

黄龍溪古鎮は成都市から定期バスで南に 40 km、1 時間ほど進んだ自然と歴史に恵まれた水郷の町である。この古鎮は約 1700 年の歴史を持ち、以前より「四川一美しい古鎮」と称えられてきた。この地は錦江と鹿溪河の合流点で、かつて赤水と呼ばれた場所に竜が隠れ住んでいたという伝説から黄龍溪と名づけられた。川幅が広く水流も穏やかなので水運に最適な場所として発展し、歴史上でも軍事的に争奪し合った地であり、三国史で有名な蜀の諸葛孔明が南方遠征の兵馬基地にするなど蜀国と非常に関わりの深い地でもある。また上流の成都と下流の重慶や樂山からの多くの船舶がこの地に停泊し、周囲の豊富な農産物が往来したことで早くから四川省西部における名高い水上貿易街として栄えていた。

さらに黄龍溪古鎮は地理的条件だけでなく、豊かな観光資源や多くの文化遺跡にも恵まれるため、「四川省の歴史文化名鎮」「中国民間芸術火竜の郷」と評されている。現在、地域政府は古鎮など様々な観光資源を活用し、農業をベースとした新しいサービス産業（第三産業）での町作りに積極的に取り組んでいる。

黄龍溪古鎮の町は古い石畳みや牌坊、寺、祠（日本における神社）、古民居など多くの観光資源に恵まれ、清の時代に建造された建物も完璧に遺されており、映画やドラマのロケ地として注目を集めている。それらの建物は木造の組立ての上に青い瓦の屋根、周囲に美しい模様で窓の欄間も素朴で長閑な雰囲気醸し出している。外には樹齢 300 年を超える 6 本のガジュマルが村全体を覆い被さるように立っている。鎮内には今でも鎮江寺、潮音寺、古龍寺という三つのお寺が残り、毎年旧暦の 6 月 9 日と 9 月 9 日は縁日で、昔古鎮の賑やかな風景が再び現れる。黄龍溪古鎮は正月に火龍灯、獅子灯、牛灯、少女灯の演出、旧暦の 4 月 8 日に放生会、端午節の手漕舟（龍船）の競漕などのイベントが行われるほか、府河船歌、民間童謡、童謡、諺、唐独楽回し、とんぼ返り、羽根けりなど豊富多彩な活動も行われる。

黄龍溪古鎮には特徴的な食が多数あり、胡麻餅、丁丁糖、真珠豆花、牛皮糖（薄く伸ばしたあめ的一种）、猫々魚、臭豆腐、モツ粉、土豆鼓などはどの店でも食べられる。また、そのような商品を作っているところを見学できるのも人気な原因であると考えられる。清の時代を真似して作られた街の突当りに、劉氏が作っている「黄龍溪一根面」は現地の一品で、一杯に面は一本だけである。板前さんが一本の麺の端を握って遠距離の鍋に投げると、竜が飛び、鳳が舞うようである。

一方、公共交通機関発着所と駐車場から古鎮に至る数百 m の間には、押し寄せる観光

客を受け止めるための観光客向けの商店や噴水・小川など水辺空間・歩行者空間・模擬的な伝統的建築物が整備され、やや過剰に開発されたテーマパークの様相を示す。調査は古鎮内で行ったが、回答者はテーマパーク部分の体験も含めて評価している。

黄龍溪古鎮の現状写真



写真 2-19



写真 2-20



写真 2-21



写真 2-22



写真 2-23



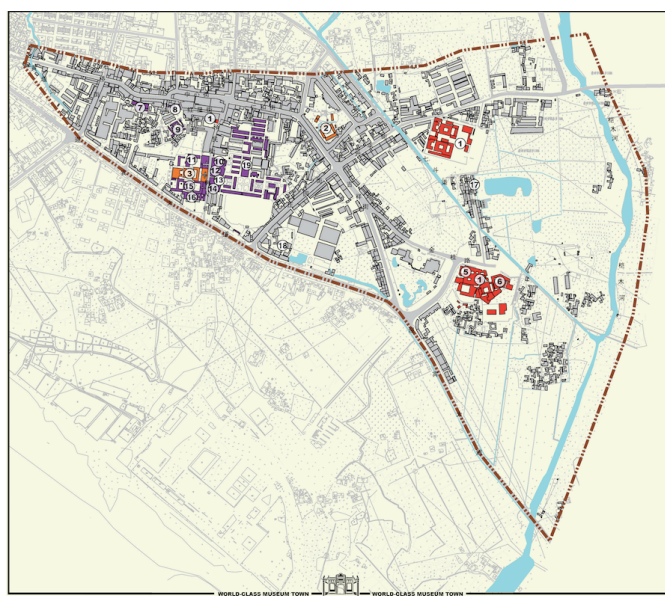
写真 2-24

上段の 2 枚：新開発区の水辺空間・歩行者空間・模擬的な伝統的建築物
中段の 2 枚：旧集落内に進出した観光客向けの店・娯楽施設
下段の 2 枚：清時代の建物が多く残存する旧集落

2-4-5 安仁古鎮^{注16)}の概況



出所：百度地图 <http://map.baidu.com/?newmap=1&ie=utf-8&s=s%26wd%3D安仁>
 (地図データ) 2017年7月17日に確認



出所：成都市企劃設計研究院

図 2-10 安仁古鎮の位置と安仁古鎮の保護範囲図

基本状況

名称	安仁古鎮	景区等級	AAAA
地理位置	四川省大邑鎮	チケット	無料
気候類型	亜熱帯モンスーン気候	観光スポット	劉氏莊園
開放時間	全日	遊覧に適宜する季節	年中
住民の有無	住んでいる	開発手法	伝統的地区
		開発程度	開発不足

安仁古鎮は成都平原の西南部に位置し、大邑県から13キロメートル離れている。安仁古鎮は、「国家級重点鎮」「中国歴史名鎮」「成都市十大魅力城鎮」「省級歴史文化鎮」と選定されている。地名は論語の仁者安仁に因んで名づけられた。

安仁古鎮は唐朝武徳三年（620）に安仁県が置かれて以来の歴史があり、県治の所在地だった。この街には劉文彩を中心とした郷紳の設計意図が明確にあらわれている。清末民初には一個の田舎町にしか過ぎなかった安仁鎮は、劉湘の台頭とともに急速に開発され発展した。1926年から1929年にかけては、劉湘の支持と資金援助を得て、鎮北に安仁鎮公園を建設しているが、場鎮がみずからの公園を建設したという点で先駆的な例であり、四川省の孤例となっている。軍閥出身者の公館建設は1928年にはじまり、街道開発は、1938年から1945年にかけて劉文彩とその他の郷紳の手によって連続的に行われた。天福街・吉祥街・維星街・樹人街・裕民街・激平街、そして最後に仁和街の7街が完成し、店舗数700間、全長kmに及ぶ街道が整備される。

安仁古鎮に残る古街についても民国期の四川省の街道を知るのに重要な特徴を持っている。安仁鎮の街道に残る3つの古街、樹人街・裕民街・文星街が残っている。これらの街道は街道ごとに統一された意匠で設計されているが、四川の街道に特徴的な統一性の理由を明らかにする来歴がわかる。

数年前から安仁古鎮保護計画にもとづき、古鎮内に相応しくない用途（近代工場など）を鎮外へ移転させ、古鎮内は住居と観光の用途を主として、建築物を修復保全する事業が進められている。多くの建物も本物であり、住民も居住しており、商店も地元住民向けが多く、生活文化を感じることができる。歩行空間など基盤空間の整備も整っているが、娯楽的施設や観光客向け店舗は多くない。

安仁古鎮の写真



写真 2-25 伝統的街並み景観



写真 2-26 住民の居住の街並み



写真 2-27 お茶屋体験の風景



写真 2-28 お茶屋体験の風景



写真 2-29 住民の麻雀の風景



写真 2-30 住民向けの裁縫店

以上のように、

研究対象地のある成都市については、

- (1) 成都市は1,573万の人口を有し、四川省の政治、文化、経済の中心地である。中国西南地区の科学技術、商業貿易、金融の中心地であり、通信の中核であり、西南地区の重要な中心都市である。現在は国より許可された対外開放都市及び全国総合改革テスト都市であり、経済が目覚ましい発展を果たしている都市でもある。
- (2) 成都市は伝統的文化、自然環境と歴史的遺産が豊富で観光産業を第三次産業として重要な位置づけにある。2000年に始まった西部大開発の拠点都市として経済も活性化している。世界文化遺産に認定されている歴史的建造物が点在しており、多くの文化が残っている。2015年度、成都市の観光収入と訪中外客数の延べ率は西部地区においては、1位を占めており、接客数は15副省級都市においては2位を占めていることから、成都市の観光産業は成都市の経済発展を牽引していることがうかがわれる。

という特徴があり、成都市は経済発展のでも観光産業の発展でも代表性があると考えられる。

研究対象地の5つの古鎮については、

- (1) 歴史的景観、自然景観、伝統的文化、伝統的食とった地域観光資源、伝統にこだわらない食、伝統にこだわらない買い物といった非地域観光資源、夜のライトアップ、道路やトイレの清潔さといった基盤整備を含む一連の観光資源を有する観光地である。
- (2) 成都市内にある寛窄巷子（修復型の開発）、文殊院（修復型の開発）、錦里（新規の開発地）と都市郊外にある黄龍溪（伝統的地区＋新規開発地）と安仁（伝統的地区）はそれぞれタイプの相違もみられる観光地である。観光資源の共通性があると同時に強い観光資源と弱い資源、すなわち、観光資源の強弱性がある。この点からは、対象事例を比較することも有益であると考えられる。

という二つの特徴がある。

つまり、地域観光資源、非地域観光資源と基盤整備においては、共通な特徴を有する観光地であると判断でき、五つの対象事例から、伝統的資源を観光資源とした観光地を比較考察する意義も大きいと思われる。

<第2章における注記>

注1) <http://www.weblio.jp/content/四川省>

注2) <http://japanese.china.org.cn/ri-xibu/2JI/3JI/sichuan/sichuan-ban.htm>

注3) http://www.gtc-asia.co.jp/simuketi_china/1/205.html

注4) 楊慶雲 (2004) : 市街地開発整備の事業化システムの考察-土地利用権回収-譲渡方式と土地区画整理事業方式を中心として-, 山梨大学大学院工学研究科博士後期課程博士論文、pp. 19.

注5) 副省級城市：中華人民共和国の地方自治体の一種であり、とくに重要な地級市（二級行政区）で大幅な自主権が与えられる都市である。副省級市の市長は副省長と同じ序列である。1994年2月24日、中央機構編成委員会で制度が新設された。地級市として省の管轄下にあるが、経済・財政と法制の面で省と同程度の自主権が認められている。中国語では「副省級城市」と言う。城市とは都市の意味である。また、上海市の浦東新区と、天津市の滨海新区は副省級区に指定されている。現在、以下の15地級市が副省級市に定められている。省都が多いが、そうでない都市もある。

注6) <https://ja.wikipedia.org/wiki/成都市>

注7) 2015年成都市旅遊經濟運行分析報告

注8) 阮儀三・王慧・王林 (1999) : 历史文化名城保护理论与规划、同济大学出版社。

注9) 阮儀三・吳承照 (2001) : 历史城镇可持续发展机制和对策、城市发展研究、Vol.8、No.3.

注10) 研究対象事例の性質の分類は中国 baidu 百科 (<https://baike.baidu.com>) を参照する。

注11) 寛窄巷子の概要はサイト (<https://baike.baidu.com/item/寛窄巷子>) を参考にする。

注12) 旅遊景区質量等級：中国では、「旅游景区質量等級的劃分與評定」国家標準と「旅游景区質量等級評定管理辦法」に従って、交通、観光、安全、衛生、郵便・電信サービス、ショッピング、経営・管理、資源と観光の保護、観光資源の吸引力、市場の吸引力などの面から、観光地(点)のレベルを5級(上位からAAAAA、AAAA、AAA、AA、A級)に分ける。その中で、中国の国家旅游景区はAAAAA以下5段階に分かれ、AAA級以上は、各省・自治区・直轄市旅游局の授権により、国家旅游景区質量等級評定委員会が「旅游景区質量等級的劃分與評定」に基づき認定する。最高のAAAAA級は、AAAA級の中から、国家旅游局の組織する全国旅游景区質量等級評定委員会が認定する。

注13) 錦里の概要はサイト (<https://baike.baidu.com/item/錦里>) を参考にする。

注14) 文殊院の概要はサイト (<https://baike.baidu.com/item/文殊院>) を参考にする。

注15) 黃龍溪古鎮の概要はサイト (<https://baike.baidu.com/item/黃龍溪>) を参考にする。

注16) 安仁古鎮の概要はサイト (<https://baike.baidu.com/item/安仁>) を参考にする。

<第2章における参考文献>

- [1] 高橋光幸（1999）：中国の観光開発における地方民族文化資源の位置づけと開発方針に関する研究-雲南省における観光開発の経緯と「民族風情」概念の位置づけについて、日本建築学会近畿支部研究報告集.
- [2] 楊慶雲（2004）：市街地開発整備の事業化システムの考察-土地利用権回収-譲渡方式と土地区画整理事業方式を中心として-、山梨大学大学院工学研究科博士後期課程博士論文.
- [3] 孫岳龍（2009）：持続可能な社会の構築に向けた街並み保存再生の研究-中国成都市の「寛窄巷子」の保存再生案を中心として-、青森大学地域問題研究所-地域社会研究、Vol.17.
- [4] 展鳳彬（2009）：中国の新型観光農家楽-四川省・成都市を事例に-、同志社大学大学院政策科学研究科、pp.241-246.
- [5] 翟丽丽（2014）：成都市宽窄巷子历史文化街区游客景观偏好实证研究、经营管理者、Vol.16、pp.102.
- [6] 日本建築学会編（2004）：シリーズ地球環境建築・専門編 1-地域環境デザインと継承（第二版）、彰国社.
- [7] 阮仪三・王慧・王林（1999）：历史文化名城保护理论与规划、同济大学出版社.
- [8] 阮仪三・吴承照（2001）：历史城镇可持续发展机制和对策、城市发展研究、Vol.8、No.3.
- [9] 罗明义（2001）：旅游经济分析、云南大学出版社.
- [10] 吴必虎（2001）：区域旅游规划原理、中国旅游出版社.
- [11] 李天元（2003）：旅游学概论、南开大学出版社.

第3章 アンケート調査概要^{注1)}

3-1 第3章の目的

本章では、アンケート調査の内容と対象となった被験者の属性を説明する。

- (1) 観光客の意識を把握するためのアンケート調査の内容および実施方法を説明する。
- (2) 調査対象観光客の属性や訪問意志等、基礎的な属性情報を整理する。
- (3) 調査対象観光客の、対象地への開発程度に対する印象及びその理由を明らかにする。
- (4) 調査対象観光客の好みと重視する要素を選定する。

3-2 アンケート調査

事前調査（説明する）と調査資料の収集より得られた情報をもとに対象地に対する意識に関するアンケートを作成し、対象地を来訪した観光客に配布した。

調査は、2015年3月上旬から中旬にかけて現地（寛窄巷子、文殊院、錦里、黄龍溪古鎮、安仁古鎮）を訪れ、西南交通大学・交通運輸学院の支援のもと対面形式でアンケート調査を実施した。被験者数は、それぞれの観光地において110名（合計550名）である。

具体的な調査状況は以下の通りである。

2015年3月7日（土）8日（日）9日（月）	安仁古鎮
2015年3月10日（火）と11日（水）	寛窄巷子
2015年3月12日（木）と13日（金）	文殊院
2015年3月14日（土）15日（日）16日（月）	黄龍溪古鎮
2015年3月18日（水）と19日（木）	錦里

観光客アンケート調査では、それぞれの調査地の観光後に観光客が帰る際に立ち寄ることができる場所において、アンケート調査を実施した。寛窄巷子の場合は寛窄巷子の中でアンケート調査を規則で禁止されているので入り口と出口となる地点において実施した。詳しくは、寛窄巷子、錦里は出入り口が限られているため、出入り口で出てきた観光客に調査した。文殊院（寺院）の出入り口付近及び周辺観光地の出入り口で調査した。黄龍溪古鎮は新規開発地ではなく、古鎮の出入り口及び古鎮内の数カ所で調査した。安仁古鎮は古鎮の数カ所を調査した。



写真 3-1



写真 3-2



写真 3-3



写真 3-4



写真 3-5



写真 3-6

アンケート調査の様子

アンケート調査を実施した際、アンケート内容が調査者に理解し難い、目が悪くて字を読めない、字を書けないといった様々な状況があった。その場合に限り、調査者はアンケート内容を説明しながら、読んであげて回答してもらった内容を記入した場合もある。写真 2 は、アンケート調査の実施者がアンケート内容を説明しながら回答をしてもらう様子である。写真 3-1、写真 3-3 と写真 3-4 はアンケートを回答している様子である。

3-3 アンケート項目

アンケートの実施にあたり、使用したアンケート項目は以下のとおりである。

【観光客アンケート項目】（〇〇は地域の名前）

個人属性の記入

- 問 1. 〇〇へ来たのはあなたの意思ですか。
- 問 2. 〇〇にどのくらい滞在しますか。
- 問 3. 今回の旅行の同行者について教えてください。（〇は1つだけ、（ ）に記入）
- 問 4. 〇〇へは何度目のご来訪ですか。
- 問 5. 〇〇へは何を求めて来ましたか。（〇はいくつでも可）
- 問 6. 〇〇の観光地化の状況についてどう思いますか。
- 問 7. 観光開発しすぎ、または不足と思う理由はなんですか。（複数選択）
- 問 8. あなたはどんな観光地が好みですか。
当てはまる気持ちの強さに〇をつけてください。
- 問 9. 〇〇は気に入りましたか？
- 問 10. 〇〇のどんなところに満足しましたか。または満足しなかったですか。当てはまる気持ちの番号に〇をつけてください。
- 問 11. 伝統的景観のある街や村に観光に行くときに、重視する要素は何ですか。
- 問 12. 自由記述

問 11 と問 12 は観光客が伝統的地域に来て重視する要素と観光後の感想及び観光中の問題点を質問した。この 2 点を質問する理由は 26 個の要素について優先順位、及び観光後観光客の感想を考察することにある。

本研究では、これらの質問をもとに、伝統的観光地における観光客の意識を明らかにするため「観光客の属性（性別・年齢・職業・居住地・滞在形態等）」「観光客の期待要素（問 5）」「観光客の満足した要素（問 10）」の項目について分析をする。

(1) 観光客の属性

観光客の属性は「性別」、「年齢」、「居住地」、「滞在形態（日帰り宿泊の別）」の 4 項目

図 3-1 のように観光要素を作成し、そのもとで、アンケート用紙を作成した（図 3-2 と図 3-3）。

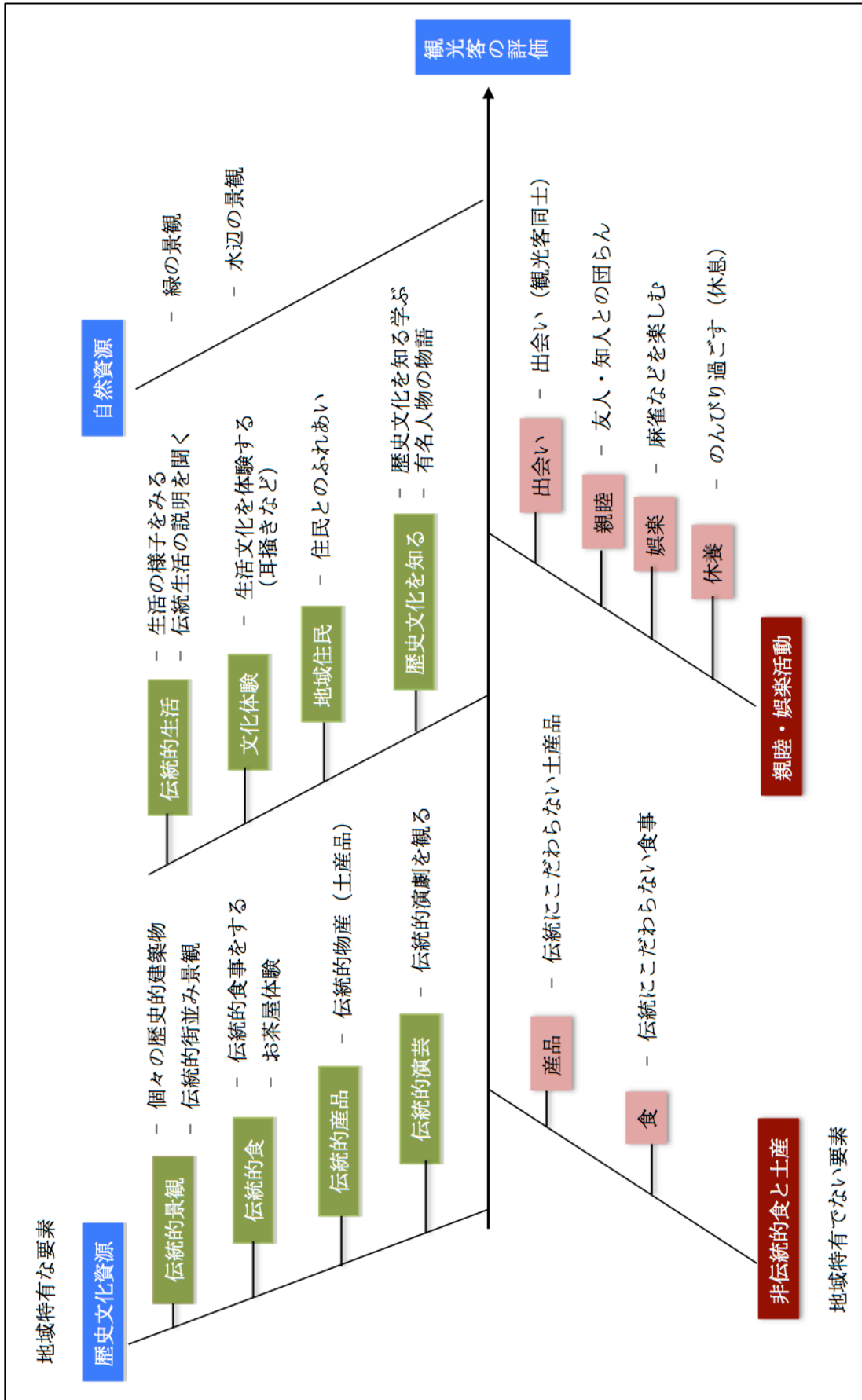


図 3-1 本アンケートにおける観光要素

(2) 観光客の期待要素

「観光客が期待する要素」については「〇〇へは何を求めて来ましたか。(〇〇は観光地の名前)」という質問を設定した。下記 16 個の要素に関して複数回答してもらい観光客が期待している物を明らかにする。16 個の要素は次の表のように、地域資源、非地域資源について、対象地域で提供されている活動要素を考慮しながら、過不足の無いように網羅的に取りあげた。次節に示す「満足度の項目」と比較すると、「基盤整備の要素」は期待要素とは理解されないと考えられるため取り上げず、また調査票紙面の制約から「満足度の項目」を圧縮し、また期待度を 5 段階で聞いても回答が難しいと考えて、期待したかしなかったかの「Yes/NO」の形式で質問した。

表 3-1 観光客の期待する要素

Q1：伝統的な街並み景観	Q9：伝統的な食事
Q2：個々の歴史的建築物	Q10：伝統的な土産物
Q3：水辺や緑の自然の景観	Q11：伝統にこだわらない食事
Q4：歴史文化を知る	Q12：伝統にこだわらない買い物
Q5：生活文化を知る	Q13：のんびり過ごす（休息）
Q6：生活文化の体験をする	Q14：麻雀など
Q7：住民とのふれあい	Q15：友達や家族と団らん
Q8：伝統的演劇を観る	Q16：出会い(観光客同士)

(3) 観光客の満足要素

「観光客が満足した要素」については「○○は気に入りましたか(○○は観光地の名前)」に対して5段階評価[満足している(5点)、やや満足している(4点)、どちらでもない(3点)、やや不満である(2点)、不満である(1点)]の質問形式を設定し、結果に影響を及ぼす要素を探索する。質問項目は、「地域の伝統資源に関する観光要素」、「地域資源に関係しない一般的な観光要素」、「基盤整備にかかわる要素」について、対象地域で提供されている活動要素を考慮しながら、過不足の無いように網羅的に取り上げた。

表 3-2 観光客の満足した要素

Q1：住民の生活の様子をみる	Q2：伝統的な生活の説明を聞く
Q3：伝統生活の体験（耳搔きなど）	Q4：お茶屋体験
Q5：住民とのふれあい	Q6：伝統的演劇（川劇など）を観る
Q7：個々の歴史的建築物	Q8：伝統的な街並み景観(全体の雰囲気)
Q9：水辺の景観	Q10：緑の景観
Q11：歴史上の有名人物の物語	Q12：地域の歴史文化を知る・学ぶ
Q13：伝統的な食事をする	Q14：伝統にこだわらず食事する
Q15：伝統的な品物を買う	Q16：伝統にこだわらない買い物
Q17：のんびり過ごす（休息）	Q18：麻雀・トランプなどを楽しむ
Q19：友人や家族との団らん	Q20：出会い（観光客同士）
Q21：街の清潔さ	Q22：トイレの清潔さ
Q23：歩きやすい道の舗装	Q24：休憩できる場所
Q25：街の案内板や解説板	Q26：夜のライトアップ

実際に調査で使用したアンケート調査用紙は次のページに記載する。

観光客のアンケート

あなた自身についてお尋ねします。(○をつけ、()に記入)

性別	1 男		2 女				
年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
職業	1 会社員		2 公務員		3 学生		
	4 自営業		5 定年後		6 その他()		
居住地	1 市内	2 市外()市・省		居住地または前泊地から()時間			

問 1. 錦里へ来たのはあなたの意思ですか？
 (1) 私が決めた (2) ツアー旅行に組み込まれていた (3) 友人や家族に連れて来られた
 (4) その他()

問 2. 錦里にどのぐらい滞在しますか。
 (1) 日帰り→()時間 (2) 宿泊→()泊

問 3. 今回の旅行の同行者について教えてください。(○は1つだけ、()に記入)
 (1) 1人旅 (2) 夫婦・カップル 2人 (3) 友人()人
 (4) 家族親戚()人 (5) その他()()人

問 4. 錦里へは何度目のご来訪ですか？
 (1) 初めて (2) ()回目

問 5. 錦里へは何を求めて来ましたか？(○はいくつでも可)
 (1) 生活文化を知る (2) 生活文化の体験をする (3) 住民とのふれあい (4) 歴史文化を知る
 (5) 伝統的な街並み景観 (6) 個々の歴史的建築物 (7) 水辺や緑の自然の景観 (8) 伝統的な食事
 (9) 伝統にこだわらない食事 (10) 伝統的な土産物 (11) 伝統にこだわらない買い物 (12) 麻雀など
 (13) 友達や家族と団らん (14) 伝統的演劇(川劇や踊り)を観る (15) のんびり過ごす(休息)
 (16) 出会い (17) その他()

問 6. 錦里の観光地化の状況についてどう思いますか。
 (1) 観光開発すぎ (2) やや開発すぎ (3) ちょうど良い (4) やや開発不足 (5) 観光開発不足

問 7. 観光開発すぎ、または不足と思う理由はなんですか。(○はいくつでも可))
 (1) 歴史を感じられない (2) 伝統的生活文化が見られない (3) 本物の伝統景観でない
 (4) 観光客向けの店が多すぎる (5) 店舗の音がうるさい (6) 街が汚い (7) 人が混雑している
 (8) 舗装が悪い (9) 街が寂しい (10) 観光客向けの店が不足 (11) 歴史文化の解説が少ない
 (12) 娯楽の場が少ない (13) その他()

問 8. あなたはどんな観光地が好きですか？ 当てはまる気持ちの強さに○をつけてください

	そう思う	←やや そう思う	やや→ そう思う	そう思う	
伝統的な生活文化は 見られるが娯楽は少ない					娯楽は楽しめるが 伝統的な生活文化は少ない
本物の歴史的景観がある					本物でなくても歴史的な雰囲気 があればいい
地方の伝統的な食事が食 べられる					伝統的なものよりも、自分の食 べたいものが食べられる

図 3-2 観光客アンケート用紙 (表)

問 9. ○○は気に入りましたか？

(1) 気に入った (2) やや気に入った (3) どちらでもない (4) やや気に入らなかった (5) 気に入らなかった

問 10. ○○のどんなところに満足しましたか？または満足しなかったですか？当てはまる気持ちの番号に○をつけてください。

	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	体験していない 興味がない
住民の生活の様子をみる	5	4	3	2	1	0
伝統的な生活の説明を聞く	5	4	3	2	1	0
伝統生活の体験(耳搔きなど)	5	4	3	2	1	0
お茶屋体験	5	4	3	2	1	0
住民とのふれあい	5	4	3	2	1	0
伝統的演劇(川劇など)を観る	5	4	3	2	1	0
個々の歴史的建築物	5	4	3	2	1	0
伝統的な街並み景観(全体の雰囲気)	5	4	3	2	1	0
水辺の景観	5	4	3	2	1	0
緑の景観	5	4	3	2	1	0
歴史上の有名人物の物語	5	4	3	2	1	0
地域の歴史文化を知る・学ぶ	5	4	3	2	1	0
伝統的な食事をする	5	4	3	2	1	0
伝統にこだわらず食事する	5	4	3	2	1	0
伝統的な品物を買う	5	4	3	2	1	0
伝統にこだわらず買い物をする	5	4	3	2	1	0
のんびり過ごす(休息)	5	4	3	2	1	0
麻雀・トランプなどを楽しむ	5	4	3	2	1	0
友人や家族との団らん	5	4	3	2	1	0
出会い	5	4	3	2	1	0
街の清潔さ	5	4	3	2	1	0
トイレの清潔さ	5	4	3	2	1	0
歩きやすい道の舗装	5	4	3	2	1	0
休憩できる場所	5	4	3	2	1	0
街の案内板や解説板	5	4	3	2	1	0
夜のライトアップ	5	4	3	2	1	0



問 11. あなたが、伝統的景観のある街や村に観光に行くときに、重視する要素は何ですか？

問 10 の表の左枠の中に、あなたが重視する項目を5つ選んで○をつけてください。

問 12. 問 10 の「住民の生活の様子」は何を見ましたか？ または何が見られず不満でしたか？

()

図 3-3 観光客アンケート用紙 (裏)

3-4 アンケート集計結果

ここでは観光客アンケートの単純集計結果について以下に記し、説明する。

調査地に来訪している観光客に対し、何か期待していたのか、実際に観光してどのような点が満足だったのか、また将来はどのような観光地になって欲しいかについて回答してもらった。アンケートの回答が得られた観光客はそれぞれの観光地において110名（合計550名）である。以下は単純集計結果である。

3-4-1 被験者の概要

被験者の属性（性別・年齢・職業構成・居住地・滞在日数）を表3-3に示す。

本調査の回答者は成都市内及び郊外の調査地に観光に出かける10代～70代の男女であり、それぞれの調査地は110人で合計550人である。全体的には男性は281人で51%、女性は269人で49%であり、あまり偏りが見られない。地域ごとに見てみると、大きな差異が見られないが、寛窄巷子と文殊院では、男性のほうが女性より10%程度多かったのに対して錦里、安仁古鎮と黄龍溪古鎮では、女性のほうが男性より多かったことが見てとれる。

年齢構成では、全体から見てみると、20歳から30歳までの青年層が最も多く、59%を占めており、他の年齢層では全て15%以下にとどまっている。地域毎に見てみると、いずれの地域でも同じように20代の割合が多い。特に錦里では、20代の比率は85%に達している。それぞれの観光地では、20代以下の若年層が多かったが、50代以上の中高年齢層の観光客が調査協力を拒否する場合は若干あったため、中高年齢層の観光客が実際よりやや少ない調査結果となっている。

職業構成からみると、全体的に学生は47%であり、大凡半数を占めている。次いで会社員（25%）となっている。他の職業者は11%である。それぞれの地域を比較してみると、錦里、文殊院、黄龍溪古鎮及び安仁古鎮は学生のほうが多いということと違い、寛窄巷子は会社員が多いことが見てとれる。

来訪者の居住地をみると、ほとんどは市内で71%を占めており、市外は21%にとどまる。いずれの地域では、成都市市内に居住している観光客は半数以上を占めている。錦里は、成都市内に位置する立地条件のおかげで、観光客にも地元の人にも好まれている。錦里の被験者の居住地は、他の4つの地域と比較して成都市内が9割と高い。

旅行先としての滞在では、全体の約9割（89%）が「日帰り」と回答していた。宿泊の割合が11%にとどまる。地域毎に見てみると、宿泊では、黄龍溪と安仁は成都市内にある3つの地域と比較して割合がやや高いことから、成都市郊外にあるため、交通の利便性が低いことに関係していると推察される。

表 3-3 観光客の属性

項目		寛窄巷子	錦里	文殊院	黄龍溪古鎮	安仁古鎮	全体
性別	男性	71 65%	49 45%	64 58%	51 46%	46 42%	281 51%
	女性	39 36%	61 56%	46 42%	59 54%	64 58%	269 49%
年齢	≤19 歳	14 13%	6 6%	6 6%	23 21%	33 30%	82 15%
	20～30 歳	59 54%	93 85%	75 68%	51 46%	46 42%	324 59%
	31～40 歳	18 16%	7 6%	15 14%	21 19%	14 13%	75 4%
	41～50 歳	9 8%	1 1%	8 7%	7 6%	10 9%	35 6%
	51～60 歳	4 4%	0 0%	4 4%	3 3%	1 1%	12 2%
	60～70 歳	6 6%	3 3%	2 2%	5 5%	6 6%	22 4%
	≥71 歳	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0.0%
職業	会社員	36 33%	12 11%	38 35%	31 28%	21 19%	138 25%
	公務員	7 6%	1 1%	5 5%	5 5%	5 5%	23 4%
	学生	31 28%	82 75%	40 36%	45 41%	59 54%	257 47%
	自営業	13 12%	6 6%	7 6%	13 12%	9 8%	48 9%
	定年後	7 6%	3 3%	4 4%	5 5%	6 6%	25 5%
	その他	16 15%	6 6%	16 15%	11 10%	10 9%	59 11%
居住地	市内	62 56%	98 89%	77 70%	83 76%	69 63%	389 71%
	市外	48 44%	12 11%	33 30%	27 25%	41 37%	161 29%
滞在	日帰り	100 91%	104 95%	105 96%	99 90%	83 75%	489 89%
	宿泊	10 9%	6 6%	5 5%	11 10%	27 25%	59 11%

3-4-2 来訪意思

訪問意志決定者は、友人家族が約半数を占めている。続いて「私」である。地域別にみると、文殊院は他の4つの地域と違い、「私」の割合が高く、半数以上を占めていることが見てとれる。

来訪同行者は、全体的では「友人」が最も多く、半数以上を占めている。続いて「家族親戚」「1人旅」「夫婦・カップル2人」であり、約15%を占めている。地域ごとでは、錦里は他の地域より「友人」が多く、60%を上回っている。

来訪回数は、全体的では初めての訪問が44.0%、2回以上訪問経験がある人の割合は56.0%であった。地域別の来訪回数は、錦里及び黄龍溪は2回以上の訪問意志の割合が多いのに対して寛窄巷子、文殊院及び安仁ははじめての訪問意志が比較的に高いことがわかる。

表 3-4 観光客の来訪意思

項目		寛窄巷子	錦里	文殊院	黄龍溪	安仁	全体
来訪意思決定者	私	39 36%	50 46%	59 54%	29 26%	20 18%	197 36%
	ツアー	16 15%	0 0%	0 0%	2 2%	8 7%	26 5.0%
	友人家族	47 43%	52 47%	43 39%	59 54%	63 57%	264 48%
	その他	8 7%	8 7%	8 7%	20 18%	19 17%	63 11%
来訪同行者	1人旅	19 17%	10 9%	30 28%	17 16%	6 6%	82 15%
	夫婦・カップル2人	13 12%	22 20%	16 15%	15 14%	7 6%	73 13%
	友人	44 40%	66 60%	50 46%	51 46%	51 46%	262 48%
	家族親戚	18 16%	10 9%	12 11%	16 15%	35 32%	91 17%
	その他	16 15%	2 2%	1 1%	11 10%	11 10%	41 7%
対象地訪問回数	はじめて	65 59%	28 26%	58 53%	43 39%	46 42%	240 44%
	2回以上	45 41%	82 75%	52 47%	67 61%	63 57%	309 56%

3-4-3 観光客の期待度

表 3-5 は地域全体における観光客の観光前の期待度を示したものである。

「Q1：伝統的な街並み景観（期待度：49.6%）」、「Q9：伝統的な食事（期待度：49.1%）」、「Q6：伝統的文化の体験をする（期待度：42.3%）」が上位の期待度として挙げられた。次いで、「Q5：生活文化を知る（期待度：34.6%）」、「Q2：個々の歴史的建築物（期待度：32.3%）」、「Q4：歴史文化を知る（期待度：30.9%）」が挙げられた。その結果から、地域資源の歴史景観、伝統的文化及び伝統的食事に対する期待度が高いことがわかる。そして、伝統的街並み景観、個々の歴史的建築物、緑や水辺の景観に対する期待度から見ると、観光客は「Q1：伝統的街並み景観」に比較的高い期待度を抱いていることが示されている。観光客は自然景観や個々の歴史的建築物より、伝統的な街の雰囲気を楽しむことがうかがわれる。

また、「Q5：生活文化を知る（期待度：34.6%）」「Q6：生活文化の体験を知る（期待度：42.3%）」「Q4：歴史文化を知る（期待度：30.9%）」といった伝統的文化の面からみると、観光客は自然景観や歴史的建築物を見ることのみならず、文化を体験することをも望んでいることがわかる。一方で、「Q7：住民とのふれあい（8.2%）」に期待する観光客はほとんどいないことから、現在商業化が進む中で伝統的観光地に商業者が大量に増え、地元の住民との関係が薄くなっていることに起因すると考えられる。

続いて、「Q9：伝統的食事」、「Q10：伝統的な土産物（期待度：19.6%）」に対する期待度が「Q11：伝統にこだわらない食事（期待度：11.4%）」、「Q12：伝統にこだわらない買い物（期待度：4.1%）」より高いことから分析してみると、観光客が地域伝統的資源により期待していることがうかがえる。そして食事と比較すると、観光客は買い物にあまり期待していないことがわかる。

観光行動からみると、伝統的観光地を訪れた観光客は、主に「Q15：友達や家族との団らん（期待度：23.2%）」や「Q13：のんびり過ごすこと（期待度：27.8%）」に対して中位の期待度を得ているが、観光客同士の出会いにはあまり期待していない。

表 3-5 地域全体における期待度

観光要素	期待度	観光要素	期待度
Q1.伝統的な街並み景観	273 49.6%	Q9.伝統的な食事	270 49.1%
Q2.個々の歴史的建築物	178 32.3%	Q10.伝統的な土産物	108 19.6%
Q3.水辺や緑の自然の景観	153 27.8%	Q11.伝統にこだわらない食事	63 11.4%
Q4.歴史文化を知る	170 30.9%	Q12.伝統にこだわらない買い物	23 4.1%
Q5.生活文化を知る	190 34.6%	Q13.のんびり過ごす（休息）	153 27.8%
Q6.生活文化の体験をする	233 42.3%	Q14.麻雀など	25 4.6%
Q7.住民とのふれあい	45 8.2%	Q15.友達や家族と団らん	128 23.2%
Q8.伝統的演劇を観る	13 2.3%	Q16.出会い（観光客同士）	18 3.2%

表 3-6 は地域別における観光客の観光前の期待度を示したものである。

「Q1：伝統的な街並み景観」「Q2：個々の歴史的建築物」「Q3：水辺や緑の自然の景観」といった景観類では、文殊院は他の4つの地域と顕著な違いが見られる。寛窄巷子、錦里、黄龍溪古鎮と安仁古鎮では、いずれも伝統的街並み景観が最も期待されている要素として挙げられている。次いで、個々の歴史的建築物と自然景観である。それに対しては、文殊院は、「Q2：個々の歴史的建築物」「Q3：水辺や緑の自然の景観」が最も期待される要素として挙げられた。次いで、伝統的街並み景観は中間の期待度を得ていた。

文化の面では、「Q4：歴史文化を知る」「Q5：生活文化を知る」「Q6：生活文化の体験をする」といった伝統文化に対する期待度がいずれの地域でも上位・中位であることから、伝統文化の要素が求められる。「Q8：伝統的演劇を見る」は、下位の期待である。

飲食購買では、「伝統的食事」のほうが、寛窄巷子、錦里、黄龍溪古鎮及び安仁古鎮は上位の期待度が得られているが、文殊院は中位の期待度にとどまる。それは文殊院が成都市の仏教の中心に深く関係していると考えられる。また、伝統的な土産物や伝統的にこだわらない食事や買い物に関しては、いずれの地域でも中位或いは下位の期待度であった。

「Q13：のんびり過ごす（休息）」、「Q15：友達や家族との団らん」に対しては、いずれの地域でも中間の期待度を得られているが、「Q14：麻雀など」、「Q16：出会い（観光客同士）」は下位の期待にとどまっている。

表3-6 地域別における期待度

観光要素	寛窄巷子	錦里	文殊院	黄龍溪	安仁
Q1.伝統的な街並み景観	69 62.7%	59 53.6%	40 36.4%	68 61.8%	41 37.3%
Q2.個々の歴史的建築物	37 33.6%	18 16.4%	44 40.0%	33 30.0%	38 34.5%
Q3.水辺や緑の自然の景観	16 14.5%	13 11.8%	44 40.0%	33 30.0%	28 25.5%
Q4.歴史文化を知る	39 35.5%	38 34.5%	41 37.3%	36 32.7%	32 29.1%
Q5.生活文化を知る	51 46.4%	35 31.8%	49 44.5%	37 33.6%	39 35.5%
Q6.生活文化の体験をする	41 37.3%	46 41.8%	35 31.8%	50 45.5%	43 39.1%
Q7.住民とのふれあい	12 10.9%	3 2.7%	6 5.5%	6 5.5%	12 10.9%
Q8.伝統的演劇を観る	13 11.8%	10 9.1%	1 0.9%	1 0.9%	4 3.6%
Q9.伝統的な食事	51 46.4%	74 67.3%	17 15.5%	61 55.5%	47 42.7%
Q10.伝統的な土産物	11 10.0%	14 12.7%	4 3.6%	15 13.6%	28 25.5%
Q11.伝統にこだわらない食事	10 9.1%	16 14.5%	8 7.3%	7 6.4%	18 16.4%
Q12.伝統にこだわらない買い物	4 3.6%	4 3.6%	1 0.9%	3 2.7%	6 5.5%
Q13.のんびり過ごす (休息)	22 20.0%	33 30.0%	36 32.7%	32 29.1%	29 26.4%
Q14.麻雀など	3 2.7%	1 0.9%	1 0.9%	1 0.9%	9 8.2%
Q15.友達や家族と団らん	24 21.8%	24 21.8%	10 9.1%	23 20.9%	28 25.5%
Q16.出会い (観光客同士)	2 1.8%	0 0.0%	2 1.8%	0 0.0%	7 6.4%

3-4-4 観光地毎の印象の違い

本節では、観光地毎の印象の違いについて評価する。ここでは、観光開発の状況に対する印象を、質問「〇〇の観光地化の状況についてどう思いますか(〇〇は観光地の名前)」に対する5段階評価「(K1)観光開発しすぎ、(K2)やや開発しすぎ、(K3)ちょうど良い、(K4)やや開発不足、(K5)観光開発不足」の結果に基づいて評価する。

図3-4は、観光開発の状況×観光地のクロス集計表に基づく対応分析の第1軸と第2軸を表している(累積寄与率94.43%)。ここで、K1~K5は観光開発の状況であり、赤色の文字はそれぞれの観光地である。その結果、錦里および黄龍溪古鎮はK1(観光開発しすぎ)、K2(やや開発しすぎ)の付近に近いことから、過剰な観光開発の印象が相対的に高いようである。寛窄巷子および文殊院はK3(ちょうど良い)に近いことから、観光開発の状況がポジティブに捉えられており、K3を中心とした左右の位置から、寛窄巷子のほうが文殊院よりも観光開発が進んでいることが伺える。他方、安仁古鎮はK4(やや開発不足)、K5(観光開発不足)の付近に近いことから、観光開発不足であることが示唆される。

次いで、質問「観光開発しすぎ、または不足と思う理由は何ですか」に対して、歴史資源に対する開発課題、基礎整備に対する開発課題として考えられる項目の中から、該当するものにすべて○をつけてもらったときの結果を考察する。項目を以下に示す：

表3-7は、上記の項目に対する度数と割合(○をつけた人数/各地点の被験者数×100(%))である。全体的には、歴史資源に対する開発課題のほうが、基礎整備に対する開発課題よりも多くの不満が挙げられ、いずれの項目も15%を上回った。「歴史文化の解説が見られない(30.7%)」「伝統的生活文化が見られない(29.3%)」といったソフト面への不満が多く、次いで「観光客向けの店が多すぎる(28.9%)」「歴史を感じられない(19.3%)」「本物の伝統景観ではない(15.6%)」といった伝統的空間のリアリティへの不満が多く挙げられた。

■歴史資源課題

- (1) 歴史を感じられない。
- (2) 伝統的生活文化が見られない。
- (3) 本物の伝統景観でない。
- (4) 歴史文化の解説が少ない。
- (5) 観光客向けの店が多すぎる。
- (6) 店舗の音がうるさい。

■基礎整備課題

- (1) 人が混雑している。
- (2) 街が汚い。
- (3) 舗装が悪い。
- (4) 街が寂しい。
- (5) 観光客向けの店が不足。
- (6) 娯楽の場所が少ない。

一方、基礎整備に対する開発課題では、「人が混在している」のみ18.9%だった。伝統的建築の保存・新設の状況は、「錦里の建物は新しいレプリカ」「寛窄巷子と黄龍溪古鎮はレプリカの建物が多いが本物の建物も残る」「安仁古鎮と文殊院は本物の建物が多い」

という状況であったが、「本物の伝統的景観でない」と不満を持つ割合は錦里が 23.6%、寛窄巷子と黄龍溪古鎮が 17.3%、安仁古鎮が 10.9%、文殊院が 9.1%と、観光客は偽物の建物を感じ取っていることが分かる。

対応分析において「過剰な観光開発の印象が強い」とされた錦里および黄龍溪古鎮では、「観光客向けの店が多すぎる（錦里：40.0%、黄龍溪古鎮：51.8%）」、「店舗の音がうるさい（錦里：33.6%、黄龍溪古鎮：36.4%）」、および「人が混雑している（錦里：48.2%、黄龍溪古鎮：32.7%）」に対する意見が相対的に高かった。また、成都市内に存在する錦里と郊外の黄龍溪古鎮の間で観光開発に対する不満の傾向には差異が認められなかった(カイ 2 乗検定での p 値=0.062)。

他方、「開発不足」が示唆された安仁古鎮では、「街が寂しい（20.9%）」、「観光客向けの店が不足（16.4%）」および「娯楽の場所が少ない（23.6%）」の不満の割合が高かった。すなわち、観光開発不足に対する不満は、基盤整備に起因していることが伺える。

「観光開発の状況がポジティブ」に捉えられていた寛窄巷子および文殊院では、観光開発に対する不満の傾向に差異が認められた(カイ 2 乗検定での p 値<0.001)。とくに、「歴史を感じられない（寛窄巷子：22.7%、文殊院：11.8%）」、「伝統的生活文化が見られない（寛窄巷子：46.4%、文殊院：16.4%）」、「本物の伝統景観でない（寛窄巷子：17.3%、文殊院：9.1%）」および「観光客向けの店が多すぎる（寛窄巷子：33.6%、文殊院：8.2%）」では、寛窄巷子のほうが文殊院よりも不満の割合が 2 倍以上高かった。

図 3-3 において、寛窄巷子のほうが文殊院よりも観光開発が進んでいることに触れたが、その理由が歴史・伝統文化に対する不満（歴史資源に対する観光開発課題）にあることが示唆された。因みに、これらの項目に対する不満の割合は、過剰な観光開発の印象が強い錦里および黄龍溪古鎮においても高かった。他方、「歴史文化の解説が少ない（寛窄巷子：25.5%、文殊院：36.4%）」および、「街が寂しい（寛窄巷子：0.6%、文殊院：9.1%）」では、文殊院のほうが寛窄巷子よりも不満の割合が 2 倍以上高かった。とくに、後者は観光開発不足が示唆された安仁古鎮においても同様の傾向が認められた。

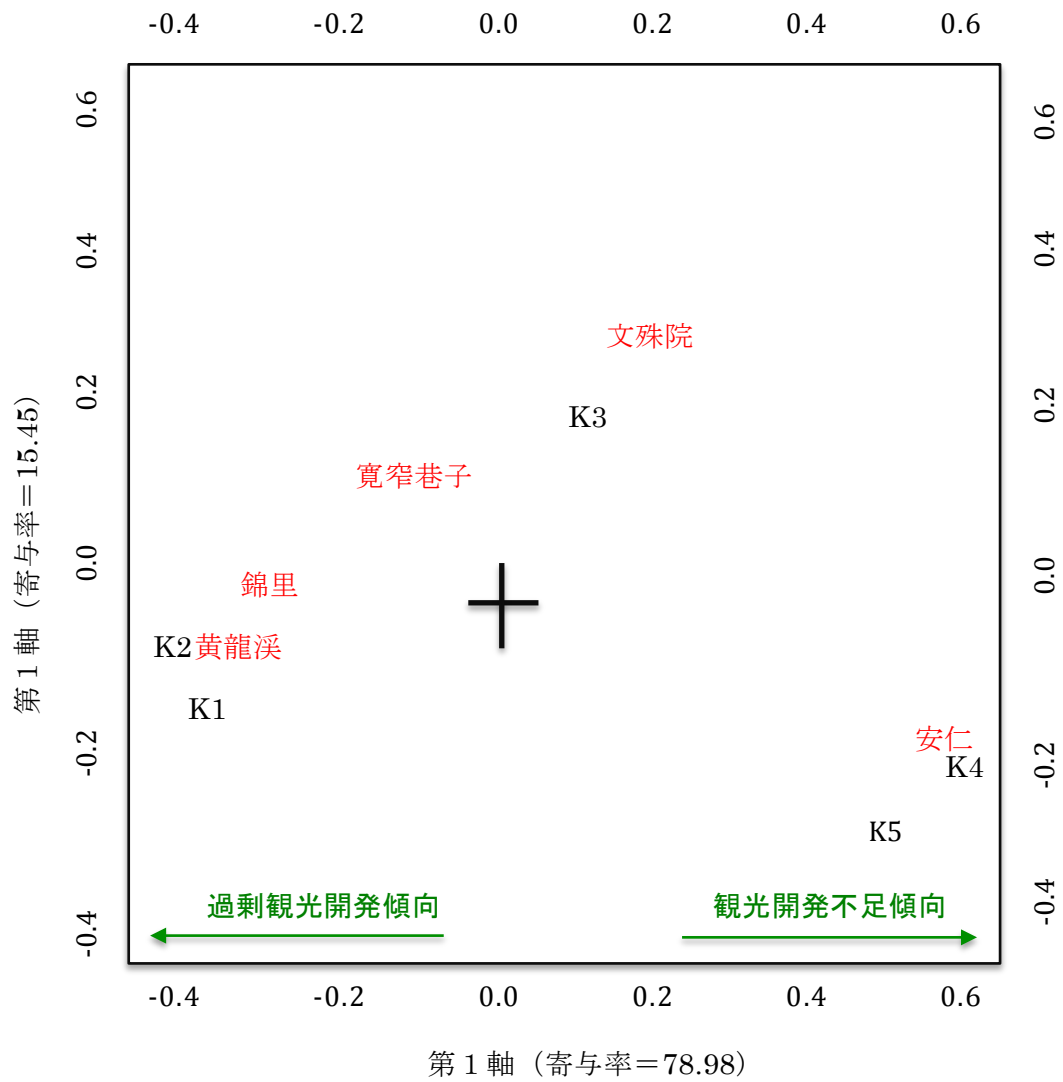


図 3-4 観光開発の状況×観光地のクロス集計表に基づく対応分析の結果 (括弧内は寄与率)

表 3-7 歴史資源に対する開発課題と基盤整備に対する開発課題と調査地点の関係

観光要素	寛窄巷子	錦里	文殊院	安仁古鎮	黃龍溪古鎮	全体
歴史を感じられない	25 (22.7%)	24 (21.8%)	13 (11.8%)	13 (11.8%)	31 (28.2%)	106 (19.3%)
伝統的生活文化が見られない	51 (46.4%)	30 (27.3%)	18 (16.4%)	30 (27.3%)	32 (29.1%)	161 (29.3%)
本物の伝統景観でない	19 (17.3%)	26 (23.6%)	10 (9.1%)	12 (10.9%)	19 (17.3%)	86 (15.6%)
歴史文化の解説が少ない	28 (25.5%)	36 (32.7%)	40 (36.4%)	28 (25.5%)	37 (33.6%)	169 (30.7%)
観光客向けの店が多すぎる	37 (33.6%)	44 (40.0%)	9 (8.2%)	12 (10.9%)	57 (51.8%)	159 (28.9%)
店舗の音がうるさい	15 (13.6%)	37 (33.6%)	11 (10.0%)	6 (5.5%)	40 (36.4%)	109 (19.8%)
人が混雑している	8 (7.3%)	53 (48.2%)	4 (3.6%)	3 (2.7%)	36 (32.7%)	104 (18.9%)
街が汚い	0 (0.0%)	2 (1.8%)	3 (2.7%)	2 (1.8%)	4 (3.6%)	11 (2.0%)
舗装が悪い	0 (0.0%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	5 (4.5%)	5 (4.5%)	12 (2.2%)
街が寂しい	1 (0.9%)	1 (0.9%)	10 (9.1%)	23 (20.9%)	7 (6.4%)	42 (7.6%)
観光客向けの店が不足	7 (6.4%)	3 (2.7%)	6 (5.5%)	18 (16.4%)	1 (0.9%)	35 (6.4%)
娯楽の場所が少ない	7 (6.4%)	2 (1.8%)	2 (1.8%)	26 (23.6%)	8 (7.3%)	45 (8.2%)

3-4-5 観光客の嗜好性

観光客に対し、観光地全体の雰囲気について「問 8. あなたはどんな観光地が好みですか。」を聞いた。

表 3-6 では、伝統的地域に求める嗜好性に対する 4 段階評価（1～4）の平均得点を示している。（例：値が 1 に近いほど「伝統的な生活文化は見られるが娯楽は少ない」、値が 4 に近いほど「娯楽は楽しめるが伝統的生活文化は少ない」）

表 3-6 の示したように、伝統的地域の将来図に対する評価の数値が 2 以下にとどまることから、観光客は娯楽施設より伝統的生活文化、本物の歴史的景観、伝統的食事といった伝統的資源を好むことがわかった。また各地の評価の数値が 1.6～1.9 となることから、地域ごとによる大きな偏りは見られない。

各地の違いを細かく見てみると、「娯楽と伝統的生活文化」「本物の歴史景観と偽物の歴史景観」においては、錦里（1.82、1.84）と黄龍溪古鎮（1.88、1.77）は他の地域よりやや高く、「娯楽は楽しめるが伝統的生活文化」「本物でなくても歴史的な雰囲気があればいい」に近いことは調査地域の過剰開発の印象の傾向と一致することが示される。

表 3-8 伝統的地域に求める嗜好性

1		2		3		4		
伝統的な生活文化は見られるが 娯楽は少ない				↔	娯楽は楽しめるが 伝統的生活文化は少ない			
地域全体	錦里	文殊院	寛窄巷子	黄龍溪古鎮	安仁古鎮			
1.73	1.82	1.68	1.71	1.88	1.57			
本物の歴史的景観がある				↔	本物でなくても 歴史的な雰囲気があればいい			
地域全体	錦里	文殊院	寛窄巷子	黄龍溪古鎮	安仁古鎮			
1.75	1.84	1.67	1.77	1.77	1.71			
地方の伝統的食事が食べられる				↔	伝統的なものよりも、 自分の食べたいものが食べられる			
地域全体	錦里	文殊院	寛窄巷子	黄龍溪古鎮	安仁古鎮			
1.65	1.52	1.74	1.77	1.70	1.53			

3-4-6 観光客の満足度

表 3-9 は地域全体における満足度を示したものである。

景観についてみると、「Q8：伝統的街並み景観（全体の雰囲気）」「Q7：個々の歴史建築物」が高い満足度を満たしていることがわかった。次いで、「Q9：水辺の景観」「Q10：緑の景観」はやや満足度得ている。その結果、歴史的景観や自然景観に満喫していることが推察される。

伝統的文化にかかわる文化要素では、「Q12：地域の歴史文化を知る・学ぶ」「Q1：住民の生活様子を見る」「Q11：歴史の有名人物の物語」「Q2：伝統的な生活の説明を聞く」「Q5：住民とのふれあい」「Q3：伝統的生活の体験（耳かきなど）」「Q6：伝統的演劇を見る」はほぼ中間或いは比較的下位の満足が得られている。その中で、「伝統的演劇を見る」については演劇の回数が限られているため、多くの観光客が体験できなかったことによって全体的に満足度は低くなったと考えられる。

基本行動についてみると、「Q13：伝統的な食事をする」に高い満足度を示し、「Q14：伝統的にこだわらない食事」に対して、伝統的な食のほうが観光客に好まれていることが見てとれる。一方で「Q15：伝統的な品物を買う」「Q16：伝統的にこだわらない買い物をする」においてはいずれも中位で高い満足度を示していない。そして、「Q17：のんびり過ごす」「Q19：友達や家族との団らん」の満足度が高く、「Q20：出会い」の満足度が低いことがわかる。観光客は知り合いとゆっくり過ごすことに満足していることがうかがわれる。

基盤整備については、「Q23：歩きやすい道の舗装」「Q24：休憩できる場所」「Q25：街の清潔さ」「Q22：トイレの清潔さ」について高い満足度を得ているが、「Q25：街の案内板や説明板」「Q26：夜のライトアップ」に対する満足度が低いことから、街の説明板や夜のライトアップに不備であることに起因することが考えられる。

表 3-9 地域全体における満足度

観光要素	満足度	
Q1:住民の生活の様子をみる	267	48.6%
Q2:伝統的な生活の説明を聞く	202	36.7%
Q3:伝統生活の体験（耳搔きなど）	129	23.4%
Q4:お茶屋体験	323	58.7%
Q5:住民とのふれあい	197	35.8%
Q6:伝統的演劇（川劇など）を観る	124	22.5%
Q7:個々の歴史的建築物	404	73.4%
Q8:伝統的な街並み景観（全体の雰囲気）	419	76.1%
Q9:水辺の景観	381	69.3%
Q10:緑の景観	378	68.8%
Q11:歴史上の有名人物の物語	210	38.1%
Q12:地域の歴史文化を知る・学ぶ	285	51.8%
Q13:伝統的な食事をする	401	72.9%
Q14:伝統にこだわらず食事する	232	42.2%
Q15:伝統的な品物を買う	235	42.7%
Q16:伝統にこだわらず買い物をする	177	32.1%
Q17:のんびり過ごす（休息）	386	70.2%
Q18:麻雀・トランプなどを楽しむ	207	37.6%
Q19:友人や家族との団らん	381	69.3%
Q20:出会い（観光客同士）	116	21.1%
Q21:街の清潔さ	401	72.9%
Q22:トイレの清潔さ	348	63.3%
Q23:歩きやすい道の舗装	454	82.6%
Q24:休憩できる場所	411	74.8%
Q25:街の案内板や解説板	210	38.1%
Q26:夜のライトアップ	205	37.2%

表 3-10 は調査地ごとの各観光要素の満足度を示したものである。

歴史文化資源について見ると、いずれの地域でも、「Q8：伝統的街並み景観（全体の雰囲気）」「Q7：個々の歴史建築物」とった地域の歴史的景観に対して平均値を上回る満足度を得ている。伝統的街並み景観や個々の歴史建築物を伝統的地域の中核資源として、重視し、修復等の取り組みをされていることがその一因であると考えられる。

錦里は「街並み景観」は他地域と同程度の満足度だが、「個々の歴史的建築物」は他地域に比べて満足度がやや低い。錦里は伝統的街並みを再現した現代の商業街であり、偽物の建築であることが影響していると考えられる。

「水辺の景観」「緑の景観」といった自然景観に対する満足度は地域によって大きな差異が見られる。黄龍溪古鎮は水辺資源に優れており、水路沿いに植栽が整備されているから、高い満足度が得られる。文殊院は水辺や水路といった水資源にかけているが、寺院内に何百年以上の樹木が数多く立ち聳えているといった緑色景観に富んでいるので、緑の景観に高い評価を得ていると考えられる。それに対して、寛窄巷子、安仁古鎮は水辺資源や緑の自然資源にかけていることが低い満足度の原因だと考えられる。

一方で「Q12：歴史文化を知る・学ぶ」「Q1：住民の生活様子を見る」「Q11：歴史の有名人物の物語」「Q2：伝統的な生活の説明を聞く」「Q5：住民とのふれあい」「Q3：伝統的生活の体験をする」「Q6：伝統的演劇を見る」といった歴史文化・生活文化の方面から見ると、いずれの地域では、満足度が中位あるいは比較的下位のことわかる。

「Q4：お茶屋体験」に対して地域によって差異が顕著である。安仁古鎮以外の他の地域では、お茶屋体験に対し、中位あるいは比較的低い満足度にとどまっていることが見て取れる。安仁古鎮は78.2%以上の割合を占めており、上位の満足度を得ている。現地の観察調査により、安仁古鎮では、お茶屋で友人や家族と交流したり、親睦関係を深めたり、麻雀・トランプなどを楽しんだり、休息したりする風景がよく見られる。非地域資源における「のんびり休息」「友人や家族との団らん」「麻雀やトランプなどを楽しむ」に対する上位あるいは中位の満足度を得ていることから解釈できる。

観光客の飲食購買から分析すると、「Q13：伝統的な食事をする」についてはいずれの地域でも、上位あるいは中位の満足度を得ており、大きな差異が見られない。その中で、錦里と黄龍溪古鎮は上位の満足度を満たしているのに対して、寛窄巷子、文殊院、安仁古鎮は中位の満足度を得ている。四川には、伝統的に受け継がれた名品から新しい開発商品まで、数え切れないほどの小吃があるので有名である。伝統的観光地の伝統的食事を吟味することは観光行動の欠かせない一環であると考えられる。地域別に着目すると、錦里はオープンキッチンの屋台料理店が多く、牛肉焼きもち、醸造酒、涼麵、糖油菓子などが有名である。黄龍溪古鎮には、昔、宮廷の貢物として名高く民間にも人気がある芝麻菓子や地元産の山椒で作った黄辣丁が有名である。安仁古鎮は泳血旺や黄鶏肉や豆花がある。5地域では、伝統的な食を現場で作っている風景が見られる。ただ味わうだけことでなく、その美味しい食の作り方の過程も体験できる。

「Q13：伝統的な食事をする」に比較して「Q14：伝統的にこだわらない食事」に対して中位満足度を得ていることから、伝統的な食のほうが観光客に好まれていることが見てとれる。一方で「Q15：伝統的な品物を買う」「Q16：伝統的にこだわらない買い物をする」においてはいずれも中位あるいは下位で高い満足度を示していない。

観光行動では、「Q17：のんびり過ごす」「Q19：友達や家族との団らん」の満足度が中位であり、「出会い」の満足度が低いことがわかった。観光客は知り合いとゆっくり過ごすことに満足していることがうかがわれる。

基盤整備について見ると、「Q23：歩きやすい道の舗装」については、いずれの地域でも、上位の満足度を得ており、街の環境衛生度や歩きやすさは基盤整備には充実している。「Q21：街の清潔さ」「Q22：トイレの清潔さ」といった環境衛生では、寛窄巷子、錦里の方がその他の地域より満足度が高く比較的充実している。特に、寛窄巷子は環境の衛生、極めて高い評価を得て、90%を達している。「Q24：休憩できる場所」では、郊外の黄龍溪古鎮と安仁古鎮は市内の寛窄巷子、錦里、文殊院より満足度が高く、整っているようである。「Q26：夜のライトアップ」に対する満足度が地域によって顕著な違いが見られる。錦里は蜀漢時代の街並みを再現した観光地であり、舞台も存在することから、錦里商店街をネオンの光が染め、昼間とは一味違う夜景に包まれた街並を満喫することができるように、夜になっても非常に明るくライトアップされている。そのために、ライトアップに対し、錦里は圧倒的に満足度を得ていると推察される。「Q25：街の案内板や説明板」に対する満足度は低い（寛窄巷子は中位の満足度であるが、それ以外の4つの地域は下位の満足である）ことから、いずれの地域でも、街の説明板に不備があると考えられる。

表 3-10 地域別における満足度

観光要素	寛窄巷子	錦里	文殊院	黄龍溪	安仁
Q1:住民の生活の様子を見る	257 46.7%	195 35.5%	270 49.1%	226 41.1%	305 55.5%
Q2:伝統的な生活の説明を聞く	206 37.4%	180 32.7%	200 36.4%	185 33.6%	220 40.0%
Q3:伝統生活の体験（耳搔きなど）	169 30.8%	165 30.0%	105 19.1%	92 16.8%	165 30.0%
Q4:お茶屋体験	303 55.1%	290 52.7%	245 44.5%	216 39.3%	430 78.2%
Q5:住民とのふれあい	190 34.6%	185 33.6%	180 32.7%	149 27.1%	245 44.5%
Q6:伝統的演劇（川劇など）を観る	216 39.3%	260 47.3%	135 24.5%	98 17.8%	150 27.3%
Q7:個々の歴史的建築物	360 65.4%	305 55.5%	395 71.8%	421 76.6%	385 70.0%
Q8:伝統的な街並み景観（全体の雰囲気）	406 73.8%	380 69.1%	345 62.7%	473 86.0%	365 66.4%
Q9:水辺の景観	221 40.2%	305 55.5%	245 44.5%	504 91.6%	260 47.3%
Q10:緑の景観	288 52.3%	285 51.8%	375 68.2%	452 82.2%	305 55.5%
Q11:歴史上の有名人物の物語	206 37.4%	265 48.2%	240 43.6%	92 16.8%	325 59.1%
Q12:地域の歴史文化を知る・学ぶ	257 46.7%	220 40.0%	320 58.2%	257 46.7%	315 57.3%
Q13:伝統的な食事をする	360 65.4%	435 79.1%	330 60.0%	432 78.5%	370 67.3%
Q14:伝統にこだわらず食事する	211 38.3%	265 48.2%	220 40.0%	185 33.6%	275 50.0%
Q15:伝統的な品物を買う	206 37.4%	230 41.8%	190 34.5%	241 43.9%	225 40.9%
Q16:伝統にこだわらず買い物をする	144 26.2%	170 30.9%	136 24.8%	169 30.8%	185 33.6%
Q17:のんびり過ごす（休息）	370 67.3%	335 60.9%	395 71.8%	406 73.8%	365 66.4%
Q18:麻雀・トランプなどを楽しむ	129 23.4%	165 30.0%	145 26.4%	134 24.3%	280 50.9%
Q19:友人や家族との団らん	365 66.4%	305 55.5%	310 56.4%	375 68.2%	385 70.0%
Q20:出会い（観光客同士）	108 19.6%	100 18.2%	130 23.6%	57 10.3%	175 31.8%
Q21:街の清潔さ	504 91.6%	380 69.1%	350 63.6%	421 76.6%	380 69.1%
Q22:トイレの清潔さ	493 89.7%	365 66.4%	335 60.9%	324 58.9%	370 67.3%
Q23:歩きやすい道の舗装	504 91.6%	385 70.0%	385 70.0%	478 86.9%	430 78.2%
Q24:休憩できる場所	370 67.3%	275 50.0%	345 62.7%	432 78.5%	390 70.9%
Q25:街の案内板や解説板	252 45.8%	220 40.0%	200 36.4%	164 29.9%	250 45.5%
Q26:夜のライトアップ	247 44.9%	410 74.5%	190 34.5%	195 35.5%	210 38.2%

3-4-7 観光客の重視する観光要素

観光客に対し、伝統的景観のある街並みや村に観光に行く時に、重視する要素 5 つを 26 項目の中から選択してもらった。上位 5 位のみ、太枠 (□) で表記する。

地域全体に重視する観光要素は表 3-11 の通りである。

観光客は伝統的地域における重視している 5 つの要素は全体にはそれぞれ下記である。

「伝統的街並み景観 (全体の雰囲気)」	301 名 (54.7%)
「伝統的食事をする」	277 名 (50.4%)
「個々の歴史的建築物」	266 名 (48.4%)
「地域の歴史文化を知る・学ぶ」	209 名 (38.0%)
「のんびり過ごす (休息)」	177 名 (32.2%)

5 つの要素の中で 4 つの要素は歴史建造物・食事・歴史文化といった伝統的資源である。

伝統的地域来訪者は、伝統的街並み、個々の歴史建造物を参観したり、伝統的歴史文化を知ったり、学んだり、伝統的食事をしたりと同時に、家族や友人と快適な散策・自然学習などの自然との触れ合いの中をのんびり過ごす・休息に満喫していると考えている傾向が見られる。

地域別に重視する観光要素は表 3-12 の通りである。

いずれの地域でも、「伝統的街並み景観 (全体の雰囲気)」、「個々の歴史的建築物」、「伝統的な食事」「地域の歴史文化を知る・学ぶ」との 4 つの伝統的資源が共通している。つまり、伝統的観光地においては、建築様式・建築意匠を反映している地域の時代の変遷としての街並みや歴史的景観と背後に存在している地域の歴史文化は重要であるという結果が得られた。そして、日常生活に欠かせない伝統的食事の重要性が高いことがわかった。相違点として、錦里の「街の清潔さ」「のんびり過ごす (休息)」、文殊院の「緑の景観」、寛窄巷子の「街の清潔さ」、黄龍溪古鎮の「水辺の景観」「緑の景観」、安仁古鎮の「お茶屋体験」が重要要素としてあげられる。住民の日常生活圏にかかわる伝統的生活文化が重要要素としてあげられていないことがわかった。

伝統的地域を訪れた観光客は地域の伝統的街並みや個々の歴史的建築物、その背後にある歴史文化、伝統的食事といった伝統的資源が重要と考えている一方で、水辺や緑の自然景観、街の清潔さといった環境衛生面も重要と考えている。

表 3-11 地域全体における重視する観光要素の上位 5 項目

観光要素	数	割合
Q1:住民の生活の様子をみる	108	19.6%
Q2:伝統的な生活の説明を聞く	89	16.2%
Q3:伝統生活の体験（耳搔きなど）	42	7.6%
Q4:お茶屋体験	108	19.6%
Q5:住民とのふれあい	49	8.9%
Q6:伝統的演劇（川劇など）を観る	66	12.0%
Q7:個々の歴史的建築物	266	48.4%
Q8:伝統的な街並み景観（全体の雰囲気）	301	54.7%
Q9:水辺の景観	113	20.5%
Q10:緑の景観	143	26.0%
Q11:歴史上の有名人物の物語	109	19.8%
Q12:地域の歴史文化を知る・学ぶ	209	38.0%
Q13:伝統的な食事をする	277	50.4%
Q14:伝統にこだわらず食事する	20	3.6%
Q15:伝統的な品物を買う	52	9.5%
Q16:伝統にこだわらず買い物をする	6	1.1%
Q17:のんびり過ごす（休息）	177	32.2%
Q18:麻雀・トランプなどを楽しむ	27	4.9%
Q19:友人や家族との団らん	61	11.1%
Q20:出会い（観光客同士）	8	1.5%
Q21:街の清潔さ	174	31.6%
Q22:トイレの清潔さ	77	14.0%
Q23:歩きやすい道の舗装	44	8.0%
Q24:休憩できる場所	95	17.3%
Q25:街の案内板や解説板	44	8.0%
Q26:夜のライトアップ	66	12.0%

表 3-12 地域別における重視する観光要素の上位5項目

観光要素	寛窄巷子		錦里		文殊院		黄龍溪		安仁	
Q1:住民の生活の様子をみる	21	19.1%	17	15.5%	23	20.9%	16	14.5%	31	28.2%
Q2:伝統的な生活の説明を聞く	20	18.2%	19	17.3%	22	20.0%	14	12.7%	14	12.7%
Q3:伝統生活の体験（耳搔きなど）	12	10.9%	14	12.7%	4	3.6%	6	5.5%	6	5.5%
Q4:お茶屋体験	10	9.1%	15	13.6%	18	16.4%	11	10.0%	54	49.1%
Q5:住民とのふれあい	14	12.7%	9	8.2%	15	13.6%	5	4.5%	6	5.5%
Q6:伝統的演劇（川劇など）を観る	19	17.3%	22	20.0%	13	11.8%	6	5.5%	6	5.5%
Q7:個々の歴史的建築物	57	51.8%	38	34.5%	59	53.6%	50	45.5%	62	56.4%
Q8:伝統的な街並み景観（全体の雰囲気）	70	63.6%	60	54.5%	47	42.7%	62	56.4%	62	56.4%
Q9:水辺の景観	8	7.3%	17	15.5%	16	14.5%	61	55.5%	11	10.0%
Q10:緑の景観	15	13.6%	21	19.1%	42	38.2%	41	37.3%	24	21.8%
Q11:歴史上の有名人物の物語	21	19.1%	19	17.3%	26	23.6%	12	10.9%	31	28.2%
Q12:地域の歴史文化を知る・学ぶ	44	40.0%	44	40.0%	49	44.5%	31	28.2%	41	37.3%
Q13:伝統的な食事をする	58	52.7%	72	65.5%	41	37.3%	61	55.5%	45	40.9%
Q14:伝統にこだわらず食事する	4	3.6%	5	4.5%	4	3.6%	4	3.6%	3	2.7%
Q15:伝統的な品物を買う	8	7.3%	21	19.1%	8	7.3%	9	8.2%	6	5.5%
Q16:伝統にこだわらず買い物をする	3	2.7%	0	0.0%	2	1.8%	0	0.0%	1	0.9%
Q17:のんびり過ごす（休息）	35	31.8%	32	29.1%	31	28.2%	40	36.4%	39	35.5%
Q18:麻雀・トランプなどを楽しむ	6	5.5%	4	3.6%	3	2.7%	7	6.4%	7	6.4%
Q19:友人や家族との団らん	15	13.6%	10	9.1%	5	4.5%	17	15.5%	14	12.7%
Q20:出会い	1	0.9%	1	0.9%	5	4.5%	0	0.0%	1	0.9%
Q21:街の清潔さ	45	40.9%	32	29.1%	39	35.5%	30	27.3%	28	25.5%
Q22:トイレの清潔さ	15	13.6%	21	19.1%	12	10.9%	10	9.1%	19	17.3%
Q23:歩きやすい道の舗装	8	7.3%	8	7.3%	13	11.8%	6	5.5%	9	8.2%
Q24:休憩できる場所	18	16.4%	21	19.1%	19	17.3%	20	18.2%	17	15.5%
Q25:街の案内板や解説板	11	10.0%	8	7.3%	17	15.5%	4	3.6%	4	3.6%
Q26:夜のライトアップ	13	11.8%	20	18.2%	11	10.0%	12	10.9%	10	9.1%

3-5 第3章のまとめ

第3章では、成都市市内及び近郊地域を対象としてアンケート調査の結果をもとに、観光客の基本属性とともに、訪問意思、開発程度及び理由、嗜好性と観光中重要と思われる観光要素を明らかにすることを目的として詳細的な数値で示した。得られた知見を整理すると以下のとおりである。

まず、対象とした観光客の性別は男性が女性よりやや高く、年齢層は20代～30代に集中して、多くは学生と会社員である。来訪者の居住地をみると、ほとんどは市内で旅行先としての滞在は約90%が「日帰り」と回答していた。地域ごとにみると、性別では大きな差異が見られないが、寛窄巷子と文殊院では、男性のほうが女性より10%程度多かったのに対して錦里、安仁と黄龍溪では、女性のほうが男性より多かった。年齢層では、いずれの地域でも同じように20代の割合が多かった。特に錦里では20代の割合は85%に達している。職業では、錦里、文殊院、黄龍溪及び安仁は学生のほうが多く、寛窄巷子は会社員が多い。宿泊滞在では、黄龍溪古鎮と安仁古鎮は成都市内にある3つの地域と比較して割合がやや高いことから、成都市郊外にあるため、交通の利便性が低いことに関係していると推察される。国民は経済発展に伴い、可処分所得と余暇時間の増加により、特に若者にとっては短距離観光として都市部内と都市近郊地域への日帰り伝統的観光地の観光が進展している。

次に、訪問意思決定者と同行者では友人や家族のほうが多いことがわかった。初めて訪問経験があると回答した人の割合(44.0%)は2回以上訪問経験がある人の割合(56.0%)より10%程度少なかった。地域ごとの訪問意思では、文殊院は他の4つの地域と違い、「私」のほうが高く、半数以上を占めていた。来訪同行者ではそれぞれの地域は全体と同じように「友人」が多い傾向がみられた。来訪回数については、錦里及び黄龍溪は2回以上の訪問意志のほうが多いのに対して寛窄巷子、文殊院及び安仁ははじめての訪問が比較的に高い。

そして、観光客が観光前に高い期待度を持っていた要素は、「Q1：伝統的な街並み景観」、「Q9：伝統的な食事」、「Q6：伝統的文化の体験をする」であった。次いで、「Q5：生活文化を知る」、「Q2：個々の歴史的建築物」、「Q4：歴史文化を知る」が挙げられた。その結果から、地域の伝統的資源に対する期待度が高いことが明らかになった。地域別には寛窄巷子、錦里、黄龍溪と安仁では、いずれも伝統的街並み景観が最も期待されている要素として挙げられている。次いで、個々の歴史的建築物と自然景観が挙げられた。それに対して、文殊院は、「Q2：個々の歴史的建築物」「Q3：水辺や緑の自然の景観」が最も期待される要素として挙げられた。次いで、「Q1：伝統的街並み景観」は中間の期待度を得ている。また、黄龍溪古鎮は水辺や緑の景観に富んでいるので他地域より高く期待されていた。

「Q5：生活文化を知る」「Q6：生活文化の体験を知る」「Q4：歴史文化を知る」といった伝統的文化の面からみると、観光客は自然景観や歴史的建築物を見ることのみならず、文化を体験することを望んでいることがわかる。一方で、「Q7：住民とのふれあい」に期待する観光客はほとんどいない。

「Q9：伝統的食事」、「Q10：伝統的な土産物」に対する期待度が「Q11：伝統にこだわらない食事」、「Q12：伝統にこだわらない買い物」より高いことから、食事や購買の面からも観光客は地域伝統的資源により期待していることがうかがえる。そして食事と比較すると、観光客は買い物にあまり期待していないことがわかった。地域別にみると、寛窄巷子、錦里、黄龍溪と安仁古鎮は、伝統的食に上位の期待度が得られているが、文殊院は中位の期待度である。実地調査の結果によると、文殊院の周辺には伝統的食の数が少数であり、仏教に関する物品が数多くであった。

休養行動からみると、伝統的観光地を訪れた観光客は、主に「Q15：友達や家族との団らん」や「Q13：のんびり過ごすこと」に対して中位の期待度を持っているが、観光客同士の出会いにはあまり期待していない。地域別には大きな偏りが見られない。

観光客による観光地毎の開発程度の印象の違いをみると、錦里と黄龍溪古鎮は過剰観光開発傾向にあり、安仁古鎮は観光開発不足傾向にあると評価された。過剰観光開発傾向とされた錦里および黄龍溪古鎮では、「観光客向けの店が多すぎる」、「店舗の音がうるさい」、および「人が混雑している」に対する意見が相対的に高かった。他方、「開発不足」が示唆された安仁古鎮では、「街が寂しい」、「観光客向けの店が不足」および「娯楽の場所が少ない」の不満の割合が高かった。すなわち、観光開発不足に対する不満は、基盤整備に起因していることが示される。「観光開発の状況がポジティブ」に捉えられていた寛窄巷子および文殊院では、「歴史を感じられない（寛窄巷子：22.7%、文殊院：11.8%）」、「伝統的生活文化が見られない（寛窄巷子：46.4%、文殊院：16.4%）」、「本物の伝統景観でない（寛窄巷子：17.3%、文殊院：9.1%）」および「観光客向けの店が多すぎる（寛窄巷子：33.6%、文殊院：8.2%）」では、寛窄巷子のほうが文殊院よりも不満の割合が2倍以上高かった。

満足度に関する分析では、高い満足度を得た要素は、「Q8：伝統的街並み景観（全体の雰囲気）」「Q7：個々の歴史建築物」であった。次いで、「Q9：水辺の景観」「Q10：緑の景観」はやや満足度を得ている。歴史的景観や自然景観は満足を得ている。地域別に比較してみると、錦里は偽物の建築物が見破られ、「個々の歴史建築物」の満足度は他地域に比べてやや低い。緑や水辺の自然景観では、黄龍溪古鎮は水辺資源に優れており、水路沿いに植栽が整備されているから、高い満足度を得た。文殊院は水辺や水路といった水資源に欠けているが、寺院内に何百年以上の樹木が数多く立ち聳えているといった緑景観に富んでいるから、緑の景観に高い満足度を得たと考えられる。それに対して、寛窄巷子、錦里、安仁古鎮は水辺資源や緑の自然資源に欠けていることが低い満足度の原因だと考えられる。

「Q12：地域の歴史文化を知る・学ぶ」「Q1：住民の生活様子を見る」「Q11：歴史の有名な人物の物語」「Q2：伝統的な生活の説明を聞く」「Q5：住民とのふれあい」「Q3：伝統的生活の体験（耳かきなど）」「Q6：伝統的演劇を見る」といった伝統的文化にかかわる文化要素は、ほぼ中間或いは比較的下位の満足であった。

基本行動では、「Q13：伝統的な食事をする」が高い満足度を示し、「Q14：伝統的にこだわらない食事」に対して、伝統的な食のほう観光客に好まれていることが見てとれる。一方で「Q15：伝統的な品物を買う」「Q16：伝統的にこだわらない買い物をする」においてはいずれも中位で高い満足度を示していない。そして、「Q17：のんびり過ごす」「Q19：友達や家族との団らん」の満足度が高く、「Q20：出会い（満足度得点0.0）」の満足度が低いことがわかった。観光客は知り合いとゆっくり過ごすことに満足していることがうかがわれる。地域別にみると、「Q4：お茶屋体験」は地域によって差異が顕著である。安仁古鎮は78.2%以上の割合を占めており、上位の満足度を得ている。安仁古鎮以外の他の地域では、お茶屋体験に対し、中位或いは比較的低い満足度にとどまっている。「Q13：伝統的な食事をする」についてはいずれの地域でも、上位或いは中位の満足度を得ており、大きな差異が見られない。

基盤整備から見ると、「Q22：トイレの清潔さ」「Q23：歩きやすい道の舗装」「Q24：休憩できる場所」「Q25：街の清潔さ」は高い満足度を得ているが、「Q25：街の案内板や説明板」「Q26：夜のライトアップ」に対する満足度が低いことから、街の説明板や夜のライトアップが不備であることが考えられる。地域別に見ると、「Q23：歩きやすい道の舗装」については、いずれの地域でも、上位の満足度を得ていることから、歩きやすさの基盤整備は充実していると考えられる。「Q21：街の清潔さ」「Q22：トイレの清潔さ」といった環境衛生では、寛窄巷子、錦里の方がその他の地域より比較的充実している。特に、寛窄巷子は環境の衛生面、極めて高い評価を得て、90%に達している。「Q24：休憩できる場所」では、郊外の黄龍溪古鎮と安仁古鎮は、市内の寛窄巷子、錦里、文殊院より高い満足度であった。また、「Q26：夜のライトアップ」に対する満足度は地域によって顕著な違いが見られる。特に、錦里は蜀漢時代の街並みを再現した観光地であり、舞台も存在することから、錦里商店街をネオンの光が染め、昼間とは一味違う夜景に包まれた街並を満喫することができるように、夜になっても非常に明るくライトアップされている。そのために、ライトアップに対し、錦里は圧倒的に満足度を得ている。「Q25：街の案内板や説明板」に対する満足度は低い（寛窄巷子は中位の満足度であるが、それ以外の4つの地域は下位の満足である）ことから、街の説明板に不備であることに起因することが考えられる。

最後に観光客の嗜好性ではいずれの地域も同じ傾向が見られた。つまり、娯楽施設・偽物の伝統的建築物より伝統的生活文化、本物の歴史的景観、伝統的食事といった伝統的資源が、好まれることがわかった。また、観光客が重視する観光要素では、全体的では「伝統的街並み景観（全体の雰囲気）」「伝統的食事」「個々の歴史的建築物」「地域の歴史文化を知る・学ぶ」「のんびり過ごす」が上位の5個としてあげられた。その5つの要素のうち4つの要素は歴史建造物・食事・伝統的文化といった伝統的資源であった。地域別にはいずれの地域でも、「伝統的街並み景観（全体の雰囲気）」、「個々の歴史的建築物」、「伝統的な食事」「地域の歴史文化を知る・学ぶ」の4つの伝統的資源は共通している。相違点として、錦里の「街の清潔さ」「のんびり過ごす（休息）」、文殊院の「緑の景観」、寛窄巷子の「街の清潔さ」、黄龍溪古鎮の「水辺の景観」「緑の景観」、安仁古鎮の「お茶屋体験」が重要要素としてあげられた。

今回のアンケート調査は、調査対象地域が成都市周辺地域だけなので、中国全体の傾向

として簡単に判断できる結果はないが、中国国内伝統的資源を活用した観光地を訪れた観光客の属性・訪問意志及び伝統的地域の開発に対する認識の重要な傾向の一端を示しているものと考えられる。

<第3章における注記>

- 注1) 第3章では、劉岩・万可・李力・下川敏雄・大山勲(2016):成都市及び近郊地域における観光地開発の現況—中国における伝統的観光地の顧客ニーズ調査—、A study on Current Situation of Tourism Development in Chengdu and the Suburb Area - Investigation of Affecting Factors of Tourist for Traditional Tourism Area in China - (日本感性工学会論文誌、Vol.15、No.1、pp.163-173)の一部を用いた。
- 注2) アンケート内容がわからないや字が読めないなどの理由で拒否された。概ね50代以上の人は15人に声をかけたうち1人が回答してくれた。
- 注3) 写真3-5は、黄龍溪古鎮に來訪した観光客へのアンケート調査を実施した時、近所の小学生たちに巡り合って撮った写真である。私が知っている伝統的地域の歴史という宿題を完成するために、小学生たちが歴史的建築物の観察、観光客との交流などを通して得られた知識をメモにしている様子である。回答してくれた人に学生の割合が約半数を占めているのは小学生から歴史的・文化的地域を学ぶことを重要なものと位置付けられている教育観とある程度関係していると考えられる。

<第3章における参考文献>

- [1] 展鳳彬 (2009) : 中国の新型観光農家楽-四川省・成都市を事例に-、同志社大学大学院政策科学研究科、pp.241-246.
- [2] 羽生冬佳・森田義規・小久保恵三・十代田朗 (2006) : 来訪者の観光地評価の構造に関する研究-ランドスケープ研究、日本造園学会誌-journal of the Japanese Institute of Landscape Architecture 69 (4)、pp.301-306.
- [3] 劉蘭芳 (2013) : 中国における農村資源を活用した観光開発による地域活性化に関する研究-遼寧省における都市近郊農村及び中山間地域農村の意識調査を通じて-、東洋大学国際地域学研究科国際地域学博士論文.
- [4] 劉岩・万可・李力・下川敏雄・大山勲 (2016) : 成都市及び近郊地域における観光地開発の現況-中国における伝統的観光地の顧客ニーズ調査-、A study on Current Situation of Tourism Development in Chengdu and the Suburb Area – Investigation of Affecting Factors of Tourist for Traditional Tourism Area in China –日本感性工学会論文誌、Vol.15、No.1、pp.163-173.
- [5] 柳雅聡 (2014) : 観光客と住民の観光地に対する意識に関する研究-忍野八海を対象として-、山梨大学大学院医学工学総合教育学部土木環境工学専攻修士論文.
- [6] 菊地淑人 (2012) : 祭礼を支える「組」組織とそれをとりまく社会変化-岐阜県高山市旧城下町地域における伝統的祭礼を事例として-、日本建築学会計画系論文集、Vol.77、No.681、pp.2659-2664.
- [7] 山村高淑 (1999) : 中国の観光開発における地方民族文化資源の位置づけと開発方針に関する研究-雲南省における観光開発の経緯と「民族風情」概念の位置づけについて、日本建築学会近畿支部研究報告集.
- [8] 山村順次(1990) : 観光地域論 地域形成と環境保全、古今院. 石村貞夫・石村友二郎 (2011) : SPSS による多変量データ解析の手順、東京図書.
- [9] 内田治 (2011) : すぐわかる SPSS によるアンケートの統計的検定、東京調所株式会社.
- [10] 菅民郎 (2004) : アンケートデータの分析、現代数学社.

第4章 総合的満足度に影響を及ぼす要因の探索

4-1 第4章の目的

背景で述べたように、中国では、経済成長を背景として観光の利益面を重視するような短期的で過剰な観光開発も見られるようになってきた。本物そっくりな偽伝統的建築物の街並みが造られる、原住民が少なくなり街が土産物屋街化する、などである。伝統的景観の雰囲気を利用した観光地の娯楽型化は、今の中国人のニーズに沿った結果なのか、本物の伝統的建築や生活文化の消失は観光客の不満に繋がっていないのだろうか。

そこで、本章では、アンケート用紙の問9（総合的満足度）と問10（各観光要素に対する満足度）を用いて「観光客が伝統的観光地に満足する要因は何か」に着目して、観光客の意識を把握することを目的とする。観光客の観光の満足・不満を左右する、特に大きな要因は何か、を探るため、観光客の観光地に対する総合満足度に対する影響要因を探索する。多くのアンケート調査分析では、5件法を量的変数と見做して解析を行う。他方、データが歪んでいる場合には、適切とは言い難い。そのため、本解析では、応答（総合的満足度）を順序カテゴリカル応答で捉えたもとで、樹木構造接近法を用いて解析する。このことは、総合的満足度によるグループ分けに影響要因（説明変数）によって行うことができる。

4-2 観光地満足度に影響を与える要因の評価

ここでは、質問「〇〇は気に入りましたか（〇〇は観光地の名前）」に対する 5 段階評価 [満足している (5 点)、やや満足している (4 点)、どちらでもない (3 点)、やや不満である (2 点)、不満である (1 点)] (以降では、この項目を総合的満足度と呼ぶ) の結果に影響を及ぼす要因 (説明変数) を探索する。このとき用いるデータ集合の標本サイズは、欠測のない 544 名である。

図 4-1 は、要因として取り上げる質問項目である。地域の伝統資源に関係する要素、資源に関係しない要素、基盤整備に係わる要素を過不足の無いように網羅的に取りあげた。対象地の事前調査で得られた特有の活動 (お茶屋体験、麻雀、川劇など) を考慮して加えた。これらの質問項目は、5 段階評価 [5:満足している、4:やや満足している、3:どちらでもない(体験していない)、2:やや不満である、1:不満である] による評価を行った。

表 4-1 は、総合的満足度の要約を表している。調査地点毎での総合的満足度の度数および割合を表している。1(不満である)と解答した被験者数は 0 だった。また、いずれの調査地点でも 4(やや満足している)の度数が最も高く、50%前後の割合を示した。因みに、それぞれの地点の平均値は、3.72~3.97 だった (文殊院: 3.99、安仁古鎮: 3.97、寛窄巷子: 3.91、黄龍溪古鎮: 3.76、錦里: 3.72)。5(満足している)と解答した被験者の割合を見ると、文殊院 (28.2%)、安仁古鎮 (26.4%)、寛窄巷子 (25.5%) は、錦里 (10.0%)、黄龍溪古鎮 (11.1%) に比べて 10%程度高かった。「5(満足している)+4(やや満足している)」の割合でも安仁古鎮(75.5%)、文殊院(72.7%)、寛窄巷子(68.0%)、黄龍溪古鎮(66.7%)、錦里 (65.5%) と同様の傾向である。

これは第 3 章では分析した観光地ごとの開発程度における過剰開発の印象の傾向と一致しており、伝統空間の本物性が高い (生活する人が居り本物の建築がある) と総合満足度が高いように見える。

Q1：住民の生活の様子を見る	●	Q2：伝統的生活の説明を聞く	●
Q3：伝統生活の体験をする（耳搔きなど）	●	Q4：お茶屋体験	●
Q5：住民とのふれあい	●	Q6：伝統的演劇（川劇など）を観る	●
Q7：個々の歴史的建築物	●	Q8：伝統的街並み景観（全体の雰囲気）	●
Q9：水辺の景観	□	Q10：緑の景観	□
Q11：歴史上の有名人物の物語	●	Q12：地域の歴史文化を知る・学ぶ	●
Q13：伝統的な食事をする	●	Q14：伝統にこだわらず食事をする	×
Q14：伝統的な品物を買う	●	Q16：伝統にこだわらず買い物をする	×
Q17：のんびり過ごす（休息）	×	Q18：麻雀・トランプなどを楽しむ	×
Q19：友人や家族との団らん	×	Q20：出会い	×
Q21：街の清潔さ	□	Q22：トイレの清潔さ	□
Q23：歩きやすい道の舗装	□	Q24：休憩できる場所	□
Q25：街の案内板や解説板	□	Q26：夜のライトアップ	□

記号の意味 ●：地域の伝統資源、×：地域資源と無関係□：基盤整備
（注：対象地では水辺・緑に伝統資源はない）

図 4-1 総合的満足度に影響を及ぼすと考えられるアンケート項目の一覧

表 4-1 地域別の総合的満足度の要約

調査対象地	総合的満足度 (項目内の数字はデータ解析におけるコードを表している)					合計
	不満 (1)	やや不満 (2)	どちらでもない (3)	やや満足 (4)	満足 (5)	
寛窄巷子	0 (0.0%)	3 (2.8%)	31 (29.2%)	45 (42.5%)	27 (25.5%)	106 (100.0%)
錦里	0 (0.0%)	4 (3.6%)	34 (30.9%)	61 (55.5%)	11 (10.0%)	110 (100.0%)
文殊院	0 (0.0%)	2 (1.8%)	28 (25.5%)	49 (44.5%)	31 (28.2%)	110 (100.0%)
安仁古鎮	0 (0.0%)	5 (4.5%)	22 (20.0%)	54 (49.1%)	29 (26.4%)	110 (100.0%)
黄龍溪古鎮	0 (0.0%)	2 (1.9%)	34 (31.5%)	60 (55.6%)	12 (11.1%)	108 (100.0%)
合計	0 (0.0%)	15 (2.7%)	146 (26.6%)	273 (49.8%)	114 (20.8%)	548 (100.0%)

4-3 分類回帰樹木法

総合的満足度と観光地のそれぞれの観光要素の関係を見るために、本研究では、分類回帰樹木法を用いる。ここでは、その手法について説明する^{注3)}。

4-3-1 分類回帰樹木の特徴

分類回帰樹木法は、情報技術の発展やニーズの拡大（たとえば、データマイニングやケモトリックスにより、急速にその版図を広げている。その理由として、結果をグラフィカルに提示できることから解釈が比較的容易であること、応答変数と説明変数の非線形構造および交互作用を有意義に捉えることができること、 $N < P$ のデータ（説明変数の次元がデータ数より大きい場合）にも適用できること、説明変数のある慎重な変換（コード化）を検討する必要がないこと、などの利点があげられる。

分類回帰樹木法はノンパラメトリックな手法であり、母集団の分布型（母数）について一切の仮定を設けない。このため、分布によらない手法と呼ばれることもある。特に、標本サイズが小さい場合には、そこから求められた統計量の分布型は不正確なことが多く、パラメトリックな手法を適用することは不適切になりやすい。しかし、ノンパラメトリックな手法は統計量の分布系によらず適用可能である。今回のアンケート調査の回収データの数は多くなく、データの分布も不明なので、ノンパラメトリックな手法である分類回帰樹木法は本研究に適している^{注4)}。

4-3-2 分類回帰樹木法の分析の流れ

分類回帰樹木^{注5)}は回帰、分類、あるいはクラス確率の各問題に対して適用可能な方法として提案された。樹木の成長過程では、応答変数に関して、ふし内のある不均一性の測度を減少させていくことで、各ふしから新しい娘ふしを次々と生成していく。分類回帰樹木は、次の三つのステップである。

- ① 前進過程：樹木の成長過程
- ② 後退過程：樹木の刈り込み過程
- ③ 最適モデル選択過程：最適な樹木の決定

ステップ①では、ある規制を用いてデータ集合全体を2群に分割することから出発し、分割された各部分集合は、最び何らかの選択規制によりある停止基準に達するまで分割されていく。ステップ②は、①で大きく成長した樹木を弱い枝の順番に刈り込むことである。ステップ③は、交差確認法などを介して、②で得られた樹木列の中からある最適基準に合う樹木を選択するための過程である。

4-3-3 多変量回帰樹木法の説明

多変量回帰樹木法は、通常の CART 法と同様に、①分岐過程、②刈り込み(剪定)過程、③交差確認法による最適樹木の選定過程、により構成される^{注6)}。

①分岐過程では、ふし内の応答に関する不均一性の測度を徐々に減少していくように N 個の個体からなるデータ集合を説明変数により(説明変数が連続尺度の場合には座標軸、カテゴリカル尺度の場合にはカテゴリ集合)、逐次に2分岐させる。このとき分岐点は、ふし(ノード)と呼ばれ、終点は終結ふし(リーフ)と呼ばれる。

いま、 Q 変量の応答 $\mathbf{y}_n = (y_{1n}, y_{2n}, \dots, y_{Qn})^T$ に対して、 P 個の説明変数

$\mathbf{x}_n = (x_{1n}, x_{2n}, \dots, x_{pn})^T$ が与えられているとする($n = 1, 2, \dots, N$)。このとき、 n 番目の個体と n' 番目の個体の Euclid 距離 $d_{nn'}$ は

$$d_{nn'} = \sum_{q=1}^Q (x_{qn} - x_{qn'})^2$$

であり、ふし t に対するふし内不均一性測度 $R(t)$ は

$$R(t) = \frac{1}{n_t} \sum_{m \in t} \sum_{m' \in t} d_{mm'} \quad (1)$$

で与えられる。ここに n_t はふし t に含まれる個体数である。前述したが、分岐過程では、ふしを2分岐させることで、式(1)を徐々に減少させる。ふし t における、不均一性測度を $R(t)$ 、説明変数による分岐候補 c での分岐により得られる2個の子ふし(t_R, t_L)での不均一性測度を $R_L(t, c)$ 、 $R_R(t, c)$ とするとき、ふしの分岐による不均一性測度の減少量 $\Delta(t, c)$ は

$$\Delta(t, c) = R(t) - \{R_L(t, c) + R_R(t, c)\} \quad (2)$$

である。分岐過程では、式(2)をすべての末端のふし、および分岐候補で評価する。そして、

$$(t^*, c^*) = \arg \max_{t, c} \{\Delta(t, c)\}$$

となるふし t^* を分岐点 c^* で2分岐させる。この過程は、末端のふし内の最小個体数が規定の個数未満になる、あるいは、式(2)の下限値に至るまで反復する。

②刈り込み過程は、分岐過程で得られた樹木に対して逐次にふしを削除していき、根幹ふし(分岐が存在しない状態)まで実行する。

いま、分岐過程により得られた樹木を T 、ふしの数を $|T|$ 、終結ふしの数を $|\tilde{T}|$ とするとき、多変量回帰樹木法における複雑度コストは、樹木の複雑度に対するパラメータ η を付与することで、

$$R_\eta(T) = \sum_{k=1}^{|T|} R(t_k) + \eta \cdot |T|$$

により定義される。このとき、樹木 T からふし t を刈り込んだときの刈り込み基準は

$$g(t) = \frac{R(t) - R_\eta(T)}{|T| - 1}$$

である。そして、刈り込まれるふし t^* は $t^* = \arg \min_t (g(t))$ で与えられる。このとき、複

雑度パラメータ η は $\eta = g(t^*)$ に更新される。これにより、樹木系列 $T_{\max} \leftarrow T_1 \leftarrow T_2 \leftarrow \dots \leftarrow T_0$

(根幹ふし) に対して複雑度パラメータの系列 $0 \leq \eta_1 \leq \eta_2 \leq \dots \leq \eta_k$ が与えられる。

③ 交差確認法による最適樹木の選定過程

多変量回帰樹木法では、得られた樹木系列のなかから、最適なサイズの樹木を選定するのに、 V 重交差確認法を用いる。この方法は、データ集合を樹木サイズ $N_0 = N/V$ 個の部分集合にランダム分割し、 $(V-1)N_0$ 個の部分データ(学習標本)により樹木を構成する。このとき、 v 番目の学習標本での k 番目の樹木における、学習標本での損失関数は

$$L(T_k^{(v)}(\mathbf{x})) = \sum_{(y_n, \mathbf{x}_n) \in \mathcal{Q}_{\text{sub}}} (y_n - d_k^{(v)}(\mathbf{x}_n))^2 / N(v)$$

で与えられる。この作業を V 回繰り返したときの平均値が交差確認推定値である。

4-4 総合的満足度に影響を与える要素

今回の分析に使用したソフトウェアは、インターネットで無料ダウンロードした R の 2.15.2 版である。

総合的満足度は、1 から 5 までの値をとる順序カテゴリカル応答である。アンケート調査データの統計解析では、順序カテゴリカル応答を量的変数と見做した重回帰分析を用いることが多い。他方、重回帰分析を用いる場合には、「どちらでもない (3)」を中心とした対称な度数の布置でなければ誤った結果になることが指摘されている（下川他、2015）。そのため、比例オッズ・モデルなどの順序カテゴリカル応答に対する回帰モデルを適用することが考えられる。ただし、比例オッズ・モデルでは比例性の仮定、あるいは共変量(説明変数)の線形結合によるモデル構築などの制約がある。これらのことから、本論文では、総合的満足度に影響を及ぼす要因を順序カテゴリカル応答に対する CART 法 (Archer、2010) ^{注7)} を用いて評価する。

CART 法 (Breiman et al.、1984) ^{注8)} の利点は

- i) 解析結果を「If~then」のプロダクション・ルールで与えられる
- ii) 説明変数の尺度による影響がない
- iii) 交互作用検出および変数選択を自動的に行うことができることにある^{注9)}。

そのため、近年、多くの応用例が報告されており、データマイニング分野では、決定木あるいは回帰木という名称で「一般的な」方法になっている。順序カテゴリカル応答に対する CART 法は、通常の CART 法の分岐規準を修正した手法である^{注10)}。

図 4-2 は、順序カテゴリカル応答に対する CART 法の結果であり、表 4-2 は、それぞれの終結ふしと調査対象地の関係を表している。その結果、6 個の分岐のなかで、5 個の分岐が伝統、文化、あるいは歴史といった要因であり、とくに、「住民の生活」「伝統的な街並みの景観」との影響が強かった。初期分岐「Q1: 住民の生活の様子をみる」で 3 以上の終結ふし (Node. 5~Node. 7) は、それぞれの対象地の平均満足度に比べて高かった。「住民の生活」は満足度にポジティブな影響を与え、相乗して「歴史上人物の物語」が満足度を高めることが示された。また、「伝統的な街並み、歴史的建築物」「伝統的な生活の説明を聞く」の評価が低いと満足度にネガティブな影響を及ぼすことが示された。実際に、伝統的建造物のレプリカ (テーマパーク) である錦里では、Node. 1~Node. 2 に含まれる被験者の割合が高かった (他が 20~15%に対して 29.1%)。

一方、麻雀や料理といった要因は含まれなかった。つまり、食事や娯楽といった要因の影響は低かった (分岐変数として選ばれるほどの影響はなかった)。

他方、錦里とともに、過剰な観光開発の印象が強かった黄龍溪古鎮 (図 3-3) は、Node. 3 の被験者の割合が他の調査地点よりも多かった。すなわち、黄龍溪古鎮は、歴史的建

造物に満足しているものの、伝統的な生活や風景といった生活が生み出す本物の風景が、周囲の過剰な開発によって悪影響を与えられており、このことが、総合的満足度にネガティブな影響を与えたと考えられる。

さらに、「Q1:住民の生活の様子をみる」の評価が3以上において、「Q26:夜のライトアップ」が3以上の場合には、総合的満足度が5（満足している）の被験者の割合が大幅に増加した。中国では、提灯によるライトアップを行う観光地が多い。とくに、錦里は蜀漢時代の街並みを再現した観光地であり、舞台も存在することから、夜でも明るくライトアップされている。そのため、Node. 5に属する被験者数が非常に少なかったと推察される。しかしながら、前述したように錦里は他の観光地と異なり、歴史的な背景がないため、Node. 7の被験者数よりも、Node. 6に属する被験者数のほうが多かったと考えられる。他方、文殊院および安仁古鎮は、Node. 5に属する被験者が多かった。これらの調査地点は、観光地開発が進んでいないと捉えられている地点であり（図4-2）、このことが反映したと考えられる。

表 4-2 終結ふしと調査対象地の関係

調査対象地	終結ふし番号(括弧内は平均値)							合計
	1 (2.78)	2 (3.35)	3 (3.62)	4 (3.97)	5 (4.02)	6 (4.26)	7 (4.67)	
寛窄巷子	6 5.7%	16 15.1%	20 18.9%	14 13.2%	21 19.8%	19 17.9%	10 9.4%	106 100.0%
錦里	3 2.7%	29 26.4%	20 18.2%	19 17.3%	7 6.4%	27 24.5%	5 4.5%	110 100.0%
文殊院	2 1.8%	17 15.5%	26 23.6%	11 10.0%	28 25.5%	14 12.7%	12 10.9%	110 100.0%
安仁古鎮	5 4.5%	16 14.5%	13 11.8%	15 13.6%	31 28.2%	17 15.5%	13 11.8%	110 100.0%
黄龍溪古鎮	2 1.9%	15 13.9%	35 32.4%	11 10.2%	22 20.4%	20 18.5%	3 2.8%	108 100.0%
合計	18 3.3%	93 17.1%	114 21.0%	70 12.9%	109 20.0%	97 17.8%	43 7.9%	544 100.0%

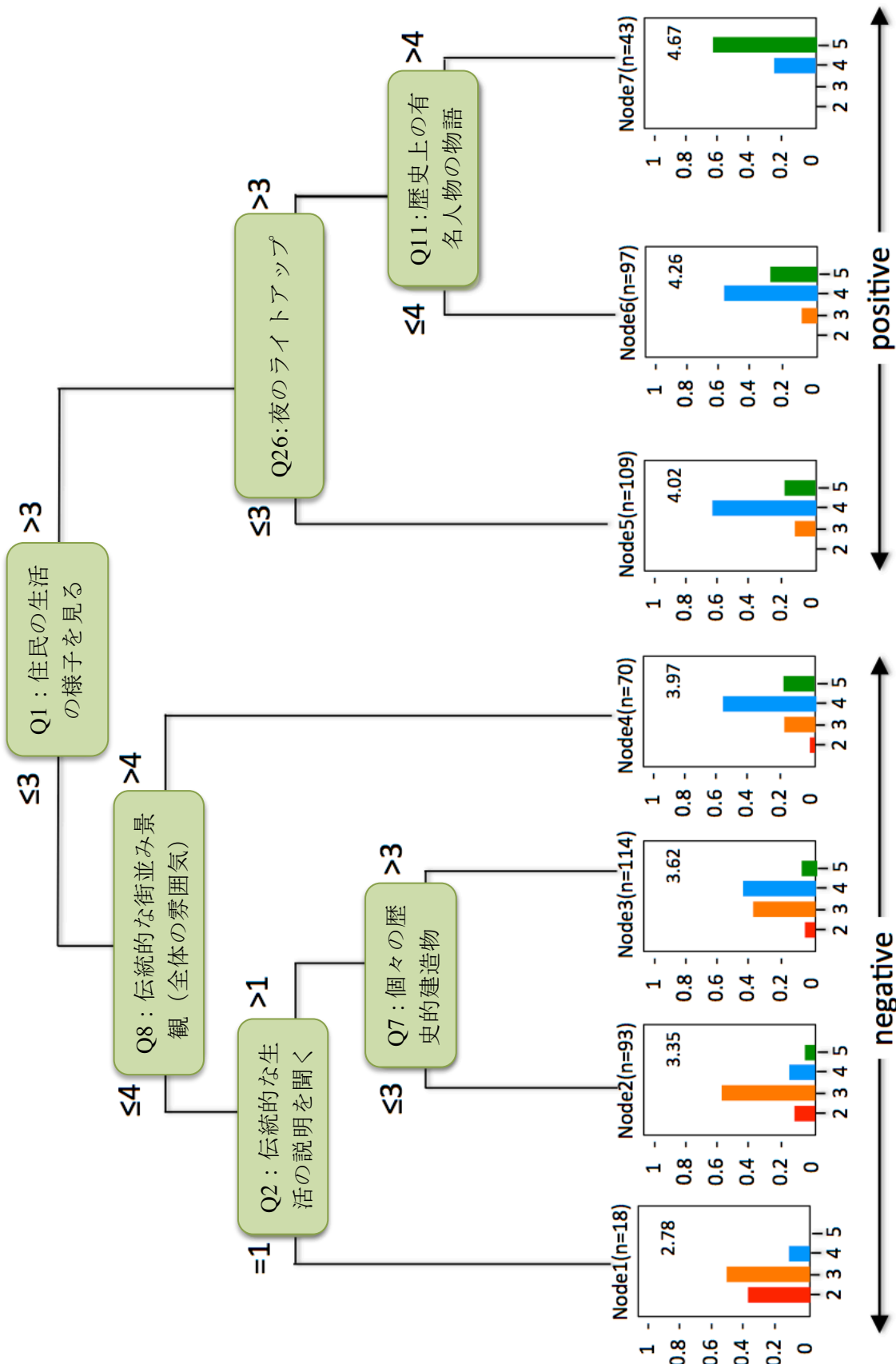


図 4-2 アンケート調査に対する順序カテゴリカル応答に対する CART 法の結果

(N は最終結内の標本サイズ、最終結内の棒グラフは応答カテゴリの度数を表し、グラフの中数値は満足度の平均値を表す)

4-5 第4章のまとめ

第4章では、伝統的資源を観光資源とした観光地を訪れた観光客に対して意識調査を行った。その中で主に総合的満足度に影響を及ぼす要因を順序カテゴリカル応答に対するCART法を用いて分析した。得られた知見と結論は、下記のとおりである。

- (1) 観光の意識変化が急速に変化していると予想される中国において、成都というごく一部の地方の現状を捉えたものに過ぎないが、そこでの観光客の意識を計量的に捉えることが出来た。多くの観光客は5つの対象地に対して概ね満足していた（5段階評価で平均値は3.72～3.07：すなわち「やや満足」）。このことから、テーマパーク型・娯楽型の観光開発であっても現在の観光客のニーズを概ね満たしていると言える。
- (2) 満足度とその要因の関係を分析した結果、満足度を高めることに最も強く影響していた要因は「住民の生活の様子を見ること」であった。最初のフシの「生活の様子」に加えてさらに評価を高めるのは「人物の物語」であり、2つめのフシの「伝統的街並み景観への不満」に加えてさらに評価を低めるのは「生活の説明を聞くことができない」であった。「生活の様子」「物語」「生活の説明」といった目に見える景観の背後にある景観を生み出す生活文化要素（ソフト）が満足度に大きな影響を与えていた。「休息」や「麻雀・団らん」などの地域資源に関連しない娯楽や、「歩行環境」などの空間基盤整備や、「伝統的な食や土産」など気軽に伝統文化を楽しむ活動、は満足度に大きな影響は与えていない。
- (3) 景観の背景の生活文化要素が大きな影響を与えていたという結果は対象地の観光客意識の現状が、娯楽型から「地域の伝統的な本物の生活文化を知りたい」という段階に移行し、表面的な景観や気軽な食や土産物だけに満足せずその背景にある過去から現在に受け継がれる生活文化の発見を求める段階に成熟しつつあると言える。一方で、生活文化にかかわる要素では、「地域の歴史文化を知る・学ぶ」「伝統生活の体験」「住民とのふれあい」といった学習体験も満足度に影響を与えていなかった。マスツーリズムからオルタナティブ観光への進化において従来言われている体験学習型への移行がその先の段階だとすれば、その段階はまだ顕在化していない状況にあると言える。
- (4) 満足度を低めることに影響していた要因は「街並み景観」や本物の「建築物」に対する不満であった。生活の様子を見られないことに不満があっても「建築、街並み景観」が良ければ中位の満足度は得られる。伝統的観光地に来訪する観光客は伝統的な街並み景観や建築物を期待して訪れるから、その期待が裏切られるとネガティブに効くことは当然であろう。
- (5) 地域別に詳しく見ると、「建築・景観」に対してネガティブであり最も満足度の低

いノード1・2は錦里(29.1%)が他より多い。錦里には偽伝統建築が多いが本物の伝統的建築と見紛うほど精巧に造られている。しかし観光客は偽物の建築、本物の生活文化に乏しい空間を見破り、大きく満足度を低めていると推察される。このことは、「開発し過ぎの印象」と「その理由」の分析からも示されており、観光客は、観光客向けの店の多さや、生活文化や歴史解説のソフト面の不足や、本物の景観でないこと(生活が生み出す景観のリアリティの不足)を理由として過剰開発を指摘していた。黄龍溪古鎮は住民が暮らし本物の建築が多く残るにもかかわらず総合満足度が低いノード3が多い。歴史的建築物への評価は低くはないが、過剰開発の印象が強いと指摘されており、その理由として観光客向けの店が多すぎる、店舗の音がうるさい、が特に多く挙げられていた。観光客向けの店舗は古鎮外周の開発地に多く、古鎮外での過剰開発が古鎮への評価を下げるのに大きく影響したと考えられる。これらのことからテーマパーク娯楽型の観光地づくりは偽物であることが見透かされ、古鎮外での開発であっても悪い印象を与えており、今後の観光客ニーズに合わず持続性が乏しくなる可能性を示唆している。

文化的資源を継承する観光地づくりの必要性は経験的に指摘されていたが、本章の観光客ニーズの分析結果から、中国で進行しているテーマパーク型の開発政策から、そこに生活する人が生活文化を継承しその表れである本物の景観が生まれ持続していくような開発・保全の政策に転換する必要性が高まっていることを、根拠をもって示すことができた。

中国は文化大革命によって多くの伝統的資源を失ったが、日本国の高度経済成長期や戦災による消失に比べれば、まだ多くのかつ高質の資源が残り埋もれている。中国では大都市と地方農村部の格差の問題解決が大きな課題となっているが、特に生活文化資源を多く持つ地方において、生活文化を活かした観光開発は一つの課題解決の方法となる可能性も示唆される。

一方で日本国の今後のインバウンド観光の資源からも、日本国においても同様に伝統的で地域独特の生活文化の継承・復活・持続とそこから町並み景観が必然に生まれるような観光地づくりが、中国からの観光客を呼び込めるためにも急務であり、効果的であることが示唆される。



住民が居住する清時代の建築物
(黄龍溪)



住民の生活の様子 - 路上の麻雀
(安仁古鎮)



住民の生活の様子：

-井戸端の洗濯（左上）

-野菜の日干し（右上）

-行商の買い物（左下）

(いずれも安仁古鎮)

写真 4-1 リアリティのある景観



新たに造られた偽伝統建築：コンクリート造・ファサードを木材で修景
(左：錦里、右：黄龍溪鎮周囲の開発地（商店内では土産食品の餅つきパフォーマンス）

写真 4-2 リアリティに欠ける景観

<第4章における注記>

- 注1) 中華人民共和国第九次五ヶ年計画、1995 (採択)
- 注2) 关于促进旅游业改革发展的若干意见 国发 2014 31 号
- 注3) 分類回帰樹木法の手法の説明については、参考文献 [9] による。
- 注4) 下川敏雄・杉本知之・後藤昌司 (2013) : 樹木構造接近法 : R によるデータサイエンス 9、共立出版、pp.1
- 注5) 下川敏雄・杉本知之・後藤昌司 (2013) : 樹木構造接近法 : R によるデータサイエンス 9、共立出版、pp.4
- 注6) De'ath G (2002) : Multivariate regression trees : a new technique for constrained classification analysis. Ecology, 83(4), pp.1103-1117.
- 注7) Archer, K.J. rpartOrdinal(2010): An R package for deriving a classification tree for predicting ordinal response, Journal of Statistical Software, 34(7), pp.1-7.
- 注8) Breiman, L. Friedman, J.H.Olshen, R.A. and Stone, C.J. (1984) : Classification and Regression Trees, Wadsworth.
- 注9) 下川敏雄・杉本知之・後藤昌司 (2013) : 樹木構造接近法 (R で学ぶデータサイエンス 9)、共立出版.
- 注10) 順序カテゴリカル応答に対する CART 法

順序カテゴリカル応答に対する CART 法 (Archer, 2010) は、通常の CART 法 (Breiman *et al.*、1984) の分岐規準を修正した方法である (手法の詳細は、下川他 (2013) に記されている)。補遺では、本手法の分岐規準について略説する。

いま、 J 個の順序カテゴリ ($1 < 2 < \dots < J$) で構成される応答を y とし、それに対応する P 個の説明変数 $(x_1, \dots, x_p)^T$ をとする。CART 樹木の成長では、ふし内の応答に関する不均一性の測度が徐々に減少していくように再帰的にデータ集合に対する分割 (分岐) を行う。このとき、分岐による不均一性の測度を、リスクの再代用推定値と呼ぶ。

Archer (2010) は、分類樹木におけるリスクの再代用推定値の一つである、Twoing 基準 (Breiman, *et al.*、1984) を順序カテゴリカル応答に拡張した、順序カテゴリカル Twoing 基準を用いた樹木を提案している。いま、ふし τ において、変数 x_p の分岐候補 $s_p(\tau)$ のリスクの再代用推定値は

$$\Delta R(s_p(\tau), \tau, Cls_j) = 2pr_L pr_R \sum_{j=1}^J (pr(Cls_j | \tau_L) - pr(Cls_j | \tau_R))^2 \quad (1)$$

で与えられる。ここに pr_L 、 pr_R は、それぞれ分岐により分けられた左右の子ふしに含まれる割合であり、 Cls_j は、0 あるいは 1 で与えられる上位クラス (super class) と呼ばれ、

$$Cls_j = \begin{cases} 1 & , y = 1, \dots, j \\ 0 & , y = j+1, \dots, J \end{cases}$$

である。したがって、各過程における分岐は、式 (1) が最大になる分岐変数、分岐候補点を探索しながら進められる。

<第4章における参考文献>

- [1] De'ath G (2002) : Multivariate regression trees : a new technique for constrained classification analysis. *Ecology*, 83(4), pp.1103-1117.
- [2] Archer, K.J. rpartOrdinal(2010) : An R package for deriving a classification tree for predicting ordinal response, *Journal of Statistical Software*, 34(7), pp.1-7.
- [3] Breiman, L. Friedman, J.H.Olshen, R.A. and Stone, C.J. (1984) : *Classification and Regression Trees*, Wadsworth.
- [4] 下川敏雄・杉本知之・後藤昌司(2013) : 樹木構造接近法(Rで学ぶデータサイエンス9)、共立出版.
- [5] 下川敏雄・辻光宏・後藤昌司(2013.) : 順序カテゴリカル応答に対する多変量適応型回帰スプライン法の開発、*計算機統計学会シンポジウム論文集*, pp.173-176.
- [6] 金明哲(2007) : Rによるデータサイエンス(データ解析の基礎から最新手法まで)、森北出版株式会社.
- [7] 山口和範・高橋淳一・竹内光悦(2004) : よくわかる多変量データ解析の基本と仕組み、秀和システム.
- [8] 劉岩・万可・李力・下川敏雄・大山勲(2016) : 成都市及び近郊地域における観光地開発の現況—中国における伝統的観光地の顧客ニーズ調査—、*日本感性工学会論文誌*、Vol.15、No.1、pp.163-173.
- [9] 万可・劉岩・李力・大山勲・下川敏雄(2015) : 中国の成都市及び近郊地域における伝統的観光地の顧客に対するニーズに関する影響要因解析、*日本計算機統計学会第29回大会*.
- [10] 王娜(2016) : 山梨県におけるNPO法人経営の持続性意識に関する研究、*山梨大学大学院医学工学総合教育部博士論文*、pp.48-53.

第5章 CS分析による地域資源の強みと弱みの探索^{注1)}

5-1 第5章の目的

第4章では、CART法を用いて総合満足度に特に強い影響を及ぼす要因のみに着目して観光客の意識構造を考察したものである。その結果、「住民の生活の様子を見ること」が総合満足度にポジティブな影響を与え、さらに「夜のライトアップ」と「歴史上人物の物語を知ること」への評価が総合満足度を相乗して高めることが示され、「伝統的な街並み」「歴史的建築物」「伝統的な生活の説明を聞く」の評価が低いと総合満足度にネガティブな影響を及ぼすことが示された。この結果は、分析手法の特性から考察対象の要因は満足の評価にばらつきが大きい要因に限定される。一方、観光地の長期的な開発整備の方針をたてるためには、合わせて総合的な分析が必要である。すなわち、総合満足度の評価のばらつきが少なく多くの人がすでに満足している要因でもその維持は重要な政策課題であるし、現状で満足度が低い要因であってもそれを課題と認識して改善努力をおこなう必要があるかもしれない。

本章ではアンケート用紙の問9(総合的満足度)と問10(各観光要素に対する満足度)を用いて観光地の政策の方向性検討に資するため総合的な分析をおこない、地域資源の強みと弱みを検討していくことによって、伝統的地域の観光開発の観光政策に提案することを目的とする。

5-2 CS 分析の概要

5-2-1 CS 分析とは

CS 分析（略語：CS ポートフォリオ分析として紹介されることもある）はマーケティングの分野でよく使われ、顧客満足度の測定のために、項目別満足度と総合満足度から、重点改善領域を抽出する分析方法である。調査回答の点数（満足度）及び総合満足度への点数から、統計学的手法によって、「満足度偏差値」及び「重要度偏差値」を算出し、各質問項目をプロットすることによって、視覚的に各質問項目のポジショニングを把握することができる。

CS 分析は伝統的観光の弱みと強みを把握していく上で、政策をたてる際に役立つと考えられる。観光地にあるどの資源が観光客の満足度に反映され、何が観光客に弱点と思われているのかが数値で把握できるという長所を備えた効果的な手法である。観光客のニーズを満たしていない項目を明確にし、観光客の満足度を高める観光開発を推進するために有効である。

さらに、改善度によって対策を制定する順序を検討できる点も意義深いと思われる。図 5-1 の CS 分析に示すように、評価項目は総合満足度と関連が強いが満足度が低い「重点改善分野」、総合満足度と関連が強いが満足度が高い「重点維持分野」、総合満足度と関連が低いが満足度が高い「維持分野」、総合満足度と関連が低いが満足度が低い「改善分野」に分けて課題を抽出する。

- (1) 分布図（図 5-1）の右下：重要度は高いが、現況の満足度は低い（重点改善領域）
- (2) 分布図（図 5-1）の右上：重要度が高く、現況の満足度の高い（重点維持分野）
- (3) 分布図（図 5-1）の左上：重要度は低いが、現況の満足度が高い（維持領域）
- (4) 分布図（図 5-1）の左下：重要度が低く、現況の満足度も低い（改善領域）

5-2-2 CS 分析の分析手順

CS 分析を用いて分析する基本手順について説明しておく。

- (1) 満足度偏差値：各観光要素に対する観光客満足度の水準を見るために、5段階評価を数値化（満足=5、やや満足=4、どちらでもない=3、やや不満=2、不満=1）し、偏差値を算出する。これは「満足度偏差値」と定義する。満足度が高くなるに従い、偏差値^{注2)}は大きくなる。
- (2) 観光要素別の満足度と総合満足度との相関係数を算出する。総合満足度との相関係数を偏差値化したものを重要度偏差値と呼び、これを総合満足度に対する当該項目の影響力の強弱を示す指標である。この指標によって伝統的地域を訪れる観光客は何を重視しているかを評価する。
- (3) 縦軸に満足度偏差値、横軸は重要度偏差値をプロットし、CS グラフを作成する。CS グラフとは各観光要素が含まれる象限によって、改善の必要の有無や重要性を把握するためのグラフである（図 5-1）。
- (4) 改善を実施する順序を明確にするための指標である改善度を以下により算出する（図 5-2）。
 - 1) 各指標の点 O（50、50）からの距離を算出する
 - 2) 点 O から右下点（100, 0.0）に直線を引く
 - 3) プロットした各指標と原点を結ぶ線分と 2) で引いた線分の右下点（80, 20）の角度を求める。
 - 4) 上記 3) で求めた角度を α とし、以下の数式に入力して修正指数 γ を算出する。

$$\gamma = (90^\circ - \alpha) \div 90$$

優先度が低いゾーンでは指数がマイナス値になる。

優先度が高いゾーンで角度が小さい項目ほど指数値が高くなる。

- 5) x と y 軸の交点となる原点（座標 50, 50）から各観光要素位置までの距離を測定する。

$$\text{距離} = \sqrt{(x - 50)^2 + (y - 50)^2}$$

改善度指標の計算：座標の点 O までの距離 L に修正指数 γ をかけた値 $L \times \gamma$

$$\text{改善度指標値} = \text{距離} \times \text{修正指数}$$

指標がプラスであり、値が大きい項目ほど優先的に改善すべき項目
指標がマイナスの項目は当面改善する必要がない。

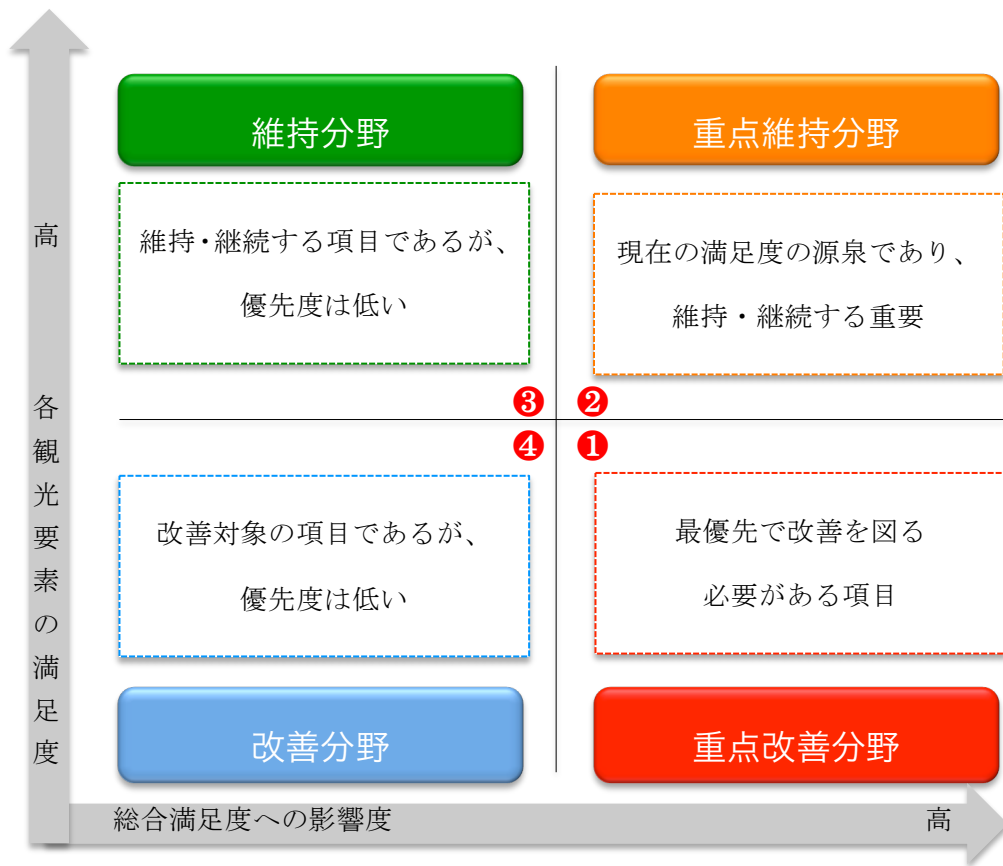


図 5-1 CS ポートフォリオのポジションマップ (筆者作成)

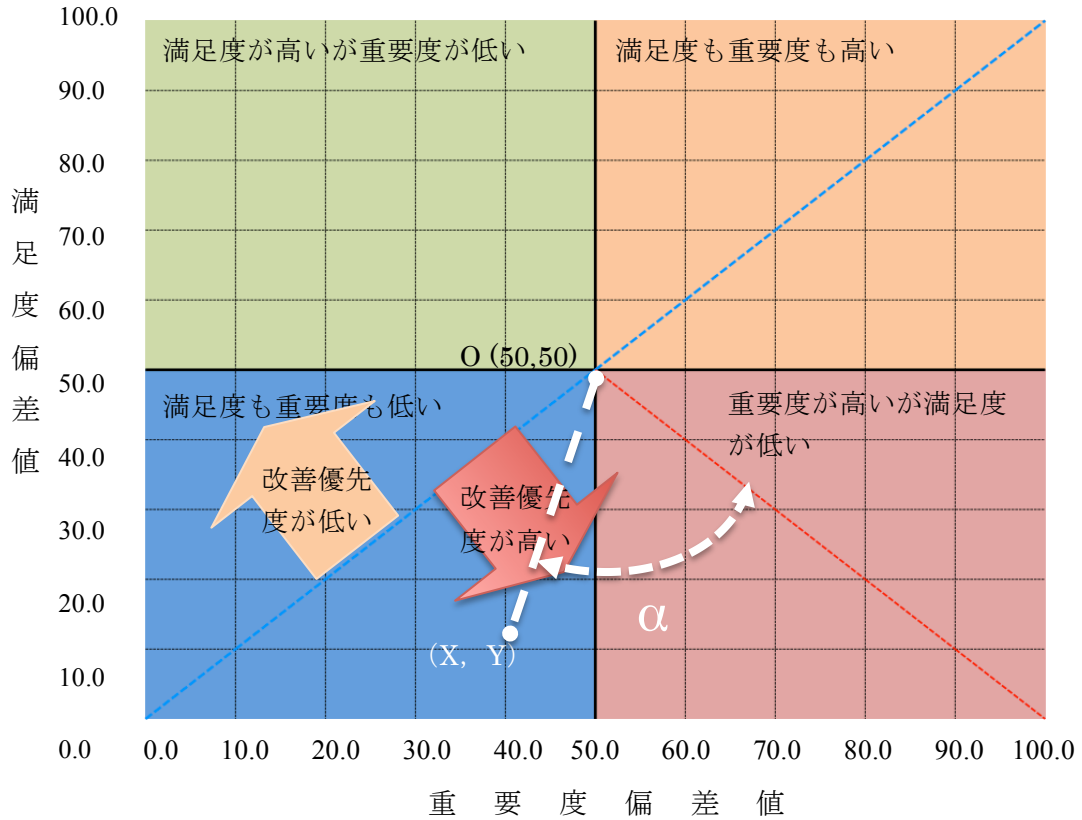


図 5-2 改善度の算出方法

5-3 CS 分析に見られる地域全体の傾向

本章で使用した分析データは CART 法で分析したデータと同じ、すなわち観光客が調査対象地への総合的満足度と各観光要素に対する満足度 (N=550) のデータである。

5-3-1 地域全体における分析可能性に関する検討

5 つの研究事例を全体として考察する可能性、すなわち、地域によってデータ間に大きな差異があるのかを検証するために、地域全体における CS 分析をおこなう前に分散分析を行う。検定した結果、「個々の歴史的建築物」「水辺の自然資源」「のんびり過ごす(休息)」「歩きやすい道の舗装」では、有意の差があり、それ以外の 22 個の観光要素では有意の差がなしということがわかった (有意水準 $\alpha=0.05$)。つまり、5 つの調査事例を全体として成都市の伝統的資源活用型の観光開発に関する分析をすることができる。

その中で、「この歴史的建築物」、「水辺の自然景観」は地域の固有資源である。5 つの研究事例の中で、錦里は三国文化と四川民風民俗の独特の魅力を再現しているが、本物の伝統的建築と見紛うほど精巧に造られている偽物の建築が多いので、他の地域と比較して個々の歴史建築物が錦里の弱い資源と言える。黄龍溪古鎮は山水古鎮と称され、名高く、自然資源、特に水辺の資源に優れている。

「のんびり過ごす(休息)」「歩きやすい道の舗装」は非地域資源である。「のんびり過ごす(休息)」は観光地の街並み景観の全体の雰囲気、自然景観の豊かさ、環境衛生度、伝統的食・買い物の種類などの地域の一系列の資源に深く関連していると考えられる。それに対して、「歩きやすい道の舗装」においては、寛窄巷子、錦里と黄龍溪古鎮は文殊院と安仁古鎮より充実している。

5-3-2 地域全体における CS 分析の結果

「伝統的地域を訪れた観光客の意識に関する調査」では、総合満足度及び総合満足度に影響を与える各観光要素（26項目）について総合満足度（気に入るから気に入らないまで5段階）と各観光要素に対する満足度（満足から不満まで5段階）を調査している。この調査の結果に基づいて CS 分析を行い、それぞれ強み・課題・現況維持・要注意の項目を比較したところ、次のような傾向が見られる。

現状の地域の強みであり、今後も維持すべき要素が第2象限と第3象限に布置される。

第2象限は、「重点維持分野」であり、現状の満足度の源泉として特に維持すべき重要な要素である。「街並み景観や歴史建築物といった歴史景観」「水辺や緑の景観といった自然景観」「街やトイレの清潔さといった環境の衛生問題」「のんびり過ごす・休憩できる場所」「伝統的な食事」があげられた。このことから、現在、伝統的地域に対する観光客の満足を支えている要素は、景観（歴史的街並み景観と自然景観）、基盤整備（清潔な空間、休憩できる場所）、伝統的食、のような有形の資源に関わっている。

第3象限は、「維持分野」であり、現状を維持すべき要素として「歩きやすい道の舗装」「友人や家族との団らん」「お茶屋体験」があげられた。これらは総合満足度との関連が高くはないものの、今回の対象地では、どこでも、それがあるのが当たり前の要素である故に、意識はされていないが無くてはならない要素であると考えられる。

第2象限の重点維持分野（以下★印で示す）および維持分野であげられた9の要素は第6章（6-3 地域全体の満足度に関する分析）で示した満足率の高かった要素とほぼ一致する。そのうち上位に「のんびり過ごす（休息）」、「街の清潔さ★」、「トイレの清潔さ」、「伝統的街並み景観（全体の雰囲気）★」、「個々の歴史的建築物★」、「休憩できる場所★」、「緑の自然景観」、「水辺の自然景観」「伝統的な食事★」の9要素があげられたことから、対象地域の強みは基盤整備の環境面および衛生面の充実にあると言えよう。そして、この基盤の上でおこなうことができる「のんびり過ごす（休息）」、「友人や家族との団らん」、「お茶屋体験」といった伝統的な食と団らん・休息が対象地域の強みと言えよう。これらの要素が維持すべき要素である。

一方、満足率の低かった要素 - すなわち現状の地域の弱み - のうち、今後改善することによって総合満足度を高められる可能性のある要素が第1象限に布置される。

第1象限は「重点改善分野」であり、最優先で改善をはかる必要がある要素である。「住民の生活の様子を見る」「伝統的な生活の説明を聞く」「伝統生活の体験」「夜のライトアップ」があげられた。その4つの観光要素のうち、3つの要素が伝統生活に関することから、対象地域では、伝統的生活文化を見る・聞く・体験するといった、無形の文化資源の改善が総合満足度の改善に強く関連し、総合満足度を引き上げていくうえで最優先に強化すべき要素であることが示された。「夜のライトアップ」については伝統的な要素とは異なるものの、観光客のニーズが高い要素であることが分かった。これを改善すれば、総合満足度を上げることができる空間整備の要素であるが、地域住民の居

住環境のあり方との整合性を図りながら整備すべきか検討する必要があるろう。

第3象限は現状の地域の弱みであり改善の必要があるものの、それを改善することによる総合満足度の上昇があまり期待できない要素であり、改善努力の優先順位は低い要素である。

観光客が求めているのは、地域の自然環境の美しさや観光施設の便利さだけではなく、街並み、独特の雰囲気、遊歩空間などアメニティの高さ、飲食や宿泊などに関わるホスピタリティなど、様々な生活文化の充実を求めていることがうかがわれる。生活文化は地域住民の知恵と手による積み重ねて形成されている結晶であり伝統的観光地に必要不可欠の資源だけではなく、継続すべき資源であることが求められている。

表 5-1 CS 分析による地域全体における観光要素の重要度と満足度の偏差値

観光要素	重要度偏差値	満足度偏差値
Q1:住民の生活の様子をみる	47.2	77.6
Q2:伝統的な生活の説明を聞く	41.4	60.7
Q3:伝統生活の体験（耳搔きなど）	35.0	51.0
Q4:お茶屋体験	52.1	32.5
Q5:住民とのふれあい	40.5	45.8
Q6:伝統的演劇（川劇など）を観る	38.5	36.5
Q7:個々の歴史的建築物	60.4	54.5
Q8:伝統的な街並み景観（全体の雰囲気）	62.5	66.0
Q9:水辺の景観	53.2	58.0
Q10:緑の景観	56.9	61.9
Q11:歴史上の有名人物の物語	44.4	49.3
Q12:地域の歴史文化を知る・学ぶ	49.6	46.8
Q13:伝統的な食事をする	61.7	57.8
Q14:伝統にこだわらず食事する	45.1	44.0
Q15:伝統的な品物を買う	43.7	40.8
Q16:伝統にこだわらず買い物をする	37.4	48.9
Q17:のんびり過ごす（休息）	60.5	50.1
Q18:麻雀・トランプなどを楽しむ	38.4	34.2
Q19:友人や家族との団らん	57.6	42.6
Q20:出会い（観光客同士）	32.3	42.2
Q21:街の清潔さ	64.0	56.1
Q22:トイレの清潔さ	60.8	51.0
Q23:歩きやすい道の舗装	67.1	47.2
Q24:休憩できる場所	59.2	53.4
Q25:街の案内板や解説板	43.6	39.4
Q26:夜のライトアップ	47.2	51.8

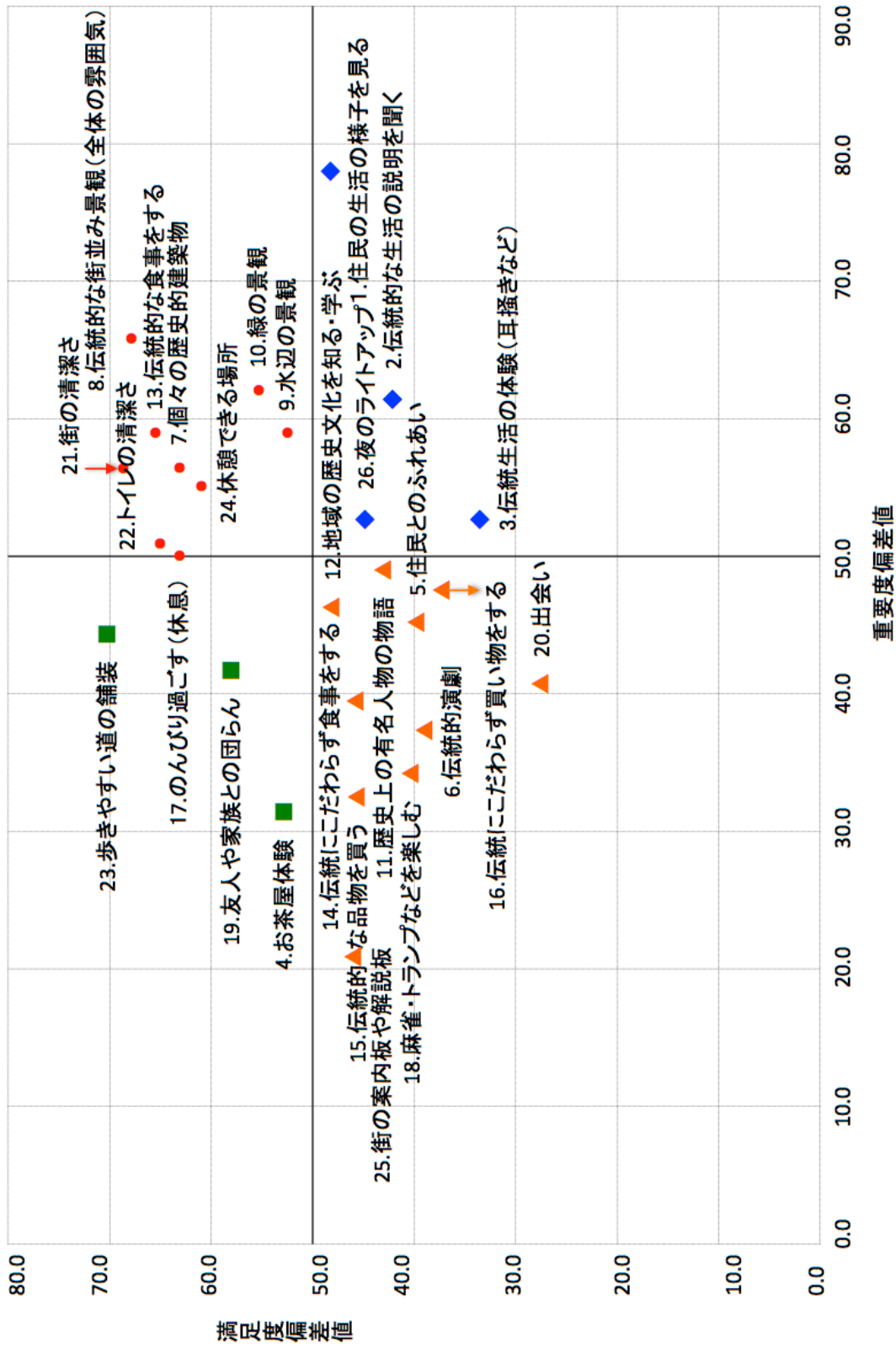


図 5-3 CS 分析による 5 地区全体課題の抽出

5-4 CS分析に見られる地域別の傾向

5-4-1 錦里におけるCS分析の結果

表 5-2 に CS 分析による錦里地域における観光項目の重要度偏差値と満足度偏差値を示す。図 5-4 は CS グラフの結果を示したものである。

現状の地域の強みであり、今後も維持すべき要素が第2象限と第3象限に布置される。

第2象限は、「重点維持分野」であり、現状の満足度の源泉として特に維持すべき重要な要素である。「街並み景観や歴史建築物といった歴史景観」「緑の景観」「トイレの清潔さといった環境の衛生問題」があげられた。このことから、現在、伝統的地域に対する観光客の満足を支えている要素は、景観（歴史的街並み景観と自然景観）、基盤整備（清潔な空間）、のような有形の資源に関わっている。

第3象限は、「維持分野」であり、現状を維持すべき要素として「伝統的食事をする」「夜のライトアップ」「歩きやすい道の舗装」「街の清潔さ」「のんびり過ごす（休息）」「水辺の景観」「お茶屋体験」「休憩できる場所」「家族や友人との団らん」があげられた。これらは総合満足度との関連が高くはないものの、今回の対象地では、どこでも、それがあるのが当たり前の要素である故に、意識はされていないが無くてはならない要素であると考えられる。

一方、満足率の低かった要素-すなわち現状の地域の弱みのうち、今後改善することによって総合満足度を高められる可能性のある要素が第1象限に布置される。

第1象限は「重点改善分野」であり、最優先で改善をはかる必要がある要素である。「歴史上の有名人物の物語」「伝統的な品物を買う」「住民の生活の様子を見る」「伝統的な生活の説明を聞く」「伝統にこだわらない買い物」「麻雀・トランプなどを楽しむ」があげられた。その6つの観光要素のうち、4つの要素が歴史・伝統生活に関することから、対象地域では、伝統的生活文化を見る・聞く・体験するといった、無形の文化資源の改善が総合満足度の改善に強く関連し、総合満足度を引き上げていくうえで最優先に強化すべき要素であることが示された。「伝統にこだわらない買い物」「麻雀・トランプなどを楽しむ」については伝統的な要素とは異なるものの、観光客のニーズが高い要素であることが分かった。これを改善すれば、総合満足度を上げることができる空間整備の要素であるが、地域住民の居住環境のあり方との整合性を図りながら整備すべきか検討する必要があるだろう。

第3象限は現状の地域の弱みであり改善の必要があるものの、それを改善することによる総合満足度の上昇があまり期待できない要素であり、改善努力の優先順位は低い要素である。

以上の分析を踏まえて、錦里では、四川省全土から様々な料理が集合しており、この区域でその全てを味わう事ができ、毎日夜になると錦里商店街をネオンの光が染め、昼間とは一味違う夜景に包まれた街並を満喫することができると考えられる。「伝統的な食事をする」「夜のライトアップ」に関する満足度が他の観光要素より一層高く、錦里の強みであると考えられる。そして、観光地としての機能である「のんびり過ごす（休息）」「友人や家族との団らん」に関しても一定の満足度を得ている。一方、錦里は他の4つの地域と違い、三国文化を主題として古代の建築物を真似して造られた商業街であるため、「伝統的街並み（全体の雰囲気）」「個々の歴史建築物」に関する観光項目の満足度が基盤整備よりやや低いのは錦里の弱みと考えられる。

表 5-2 CS 分析による錦里における観光要素の重要度と満足度の偏差値

観光要素	重要度偏差値	満足度偏差値
Q1:住民の生活の様子をみる	41.0	67.7
Q2:伝統的な生活の説明を聞く	39.2	63.1
Q3:伝統生活の体験（耳搔きなど）	37.5	36.4
Q4:お茶屋体験	52.1	41.4
Q5:住民とのふれあい	39.8	40.5
Q6:伝統的演劇（川劇など）を観る	48.6	39.4
Q7:個々の歴史的建築物	53.8	65.7
Q8:伝統的な街並み景観(全体の雰囲気)	62.6	63.4
Q9:水辺の景観	53.8	44.2
Q10:緑の景観	51.5	60.5
Q11:歴史上の有名人物の物語	49.2	61.4
Q12:地域の歴史文化を知る・学ぶ	43.9	49.3
Q13:伝統的な食事をする	69.0	32.3
Q14:伝統にこだわらず食事する	49.2	42.6
Q15:伝統的な品物を買う	45.1	52.7
Q16:伝統にこだわらず買い物をする	38.1	54.1
Q17:のんびり過ごす（休息）	57.3	32.7
Q18:麻雀・トランプなどを楽しむ	37.5	57.5
Q19:友人や家族との団らん	53.8	49.0
Q20:出会い（観光客同士）	29.9	48.8
Q21:街の清潔さ	62.6	48.9
Q22:トイレの清潔さ	60.9	62.2
Q23:歩きやすい道の舗装	63.2	46.4
Q24:休憩できる場所	50.3	45.4
Q25:街の案内板や解説板	43.9	46.0
Q26:夜のライトアップ	66.1	48.4

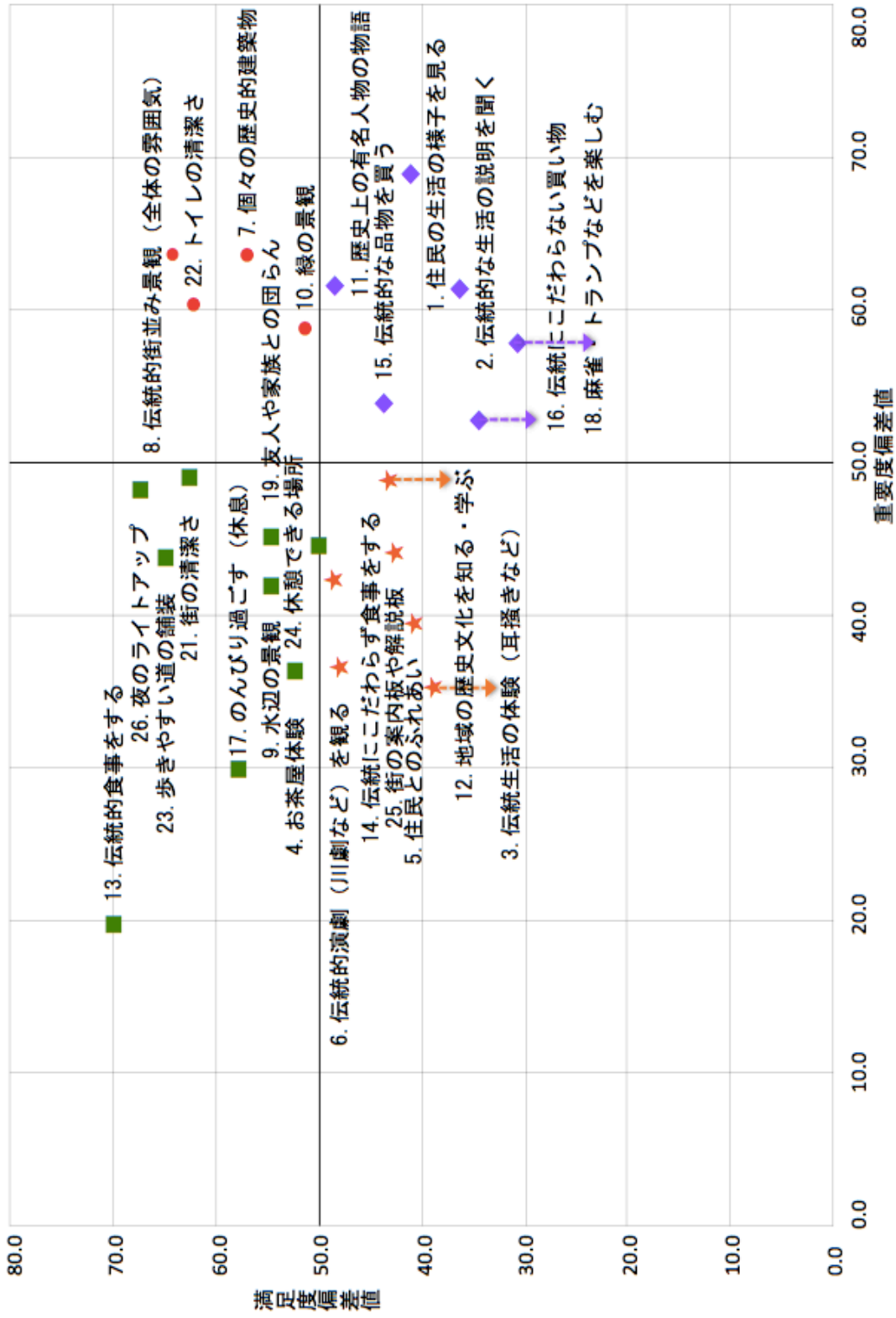


図 5-4 CS 分析による錦里の課題抽出

5-4-2 寛窄巷子におけるCS分析の結果

表 5-3 は CS 分析による寛窄巷子における観光項目の重要度偏差値と満足度の偏差値を示す。表 5-3 のデータをプロットすると、図 5-5 の寛窄巷子における課題を反映した CS グラフを作成した。

図 5-6 (図を見やすいために整えておく) からわかるように、評価項目は主に第 1 象限 (9 個) に集まる傾向が見られる。第 1 象限には総合的満足度に強く関連する「重点改善分野」として「Q1: 住民の生活の様子を見る」「Q2: 伝統的な生活の説明を聞く」「Q9: 水辺の景観」「Q10: 緑の景観」「Q11: 歴史上の有名人物の物語」「Q12: 地域の歴史文化を知る・学ぶ」「Q14: 伝統にこだわらない食事をする」「Q16: 伝統にこだわらない買い物」「Q26: 夜のライトアップ」があげられる。つまり、寛窄巷子では、総合満足度を引き上げていくには緑や水辺の自然資源、地域の歴史文化や物語といった歴史文化、伝統的な生活の説明を聞くといった伝統的文化、伝統にこだわらない食事や買い物といった飲食購買、夜のライトアップを最優先に考慮し、幅広い方面に取り組むことを、根拠をもち、示した。

第 2 象限は、満足度の源泉として街並み景観や歴史建築物といった歴史景観、伝統的食事、お茶屋体験があげられる。このことから、伝統的観光地に対する観光客の満足は、歴史景観と自然景観、伝統的食、文化体験のような伝統的資源に関わっていることが示唆される。

第 3 象限は、「Q23: 歩きやすい道の舗装」「Q22: トイレの清潔さ」「Q21: 街の清潔さ」といった基盤整備、特に衛生問題、「Q19: 友人や家族との団らん」「Q17: のんびり過ごす (休息)」は総合満足度と関連が低いが、一定の満足度を得ている。

上記の分析を踏まえて、「歩きやすい道の舗装」「トイレの清潔さ」「街の清潔さ」といった基盤整備、特に環境衛生度に対する満足度が高いことから、寛窄巷子は基盤整備に充実していると考えられる。また、「伝統的街並み景観 (全体の雰囲気)」「個々の歴史建築物」「伝統的な食事をする」「お茶屋体験」は現状満足度も高く、総合満足度への影響も高いことから、それも強み資源と言える。

一方で、「住民の生活の様子を見る」「伝統的生活文化の体験」「伝統的な生活な説明を聞く」といった伝統的生活文化のソフト面、及び「歴史上の有名な人物の物語」「地域の歴史文化を知る・学ぶ」といった歴史的文化の面では満足度が低かった。比喩的に言えば、「伝統的街並み景観 (全体の雰囲気)」「個々の歴史的建築物」といった有形の建築が寛窄巷子の強みとするならば、無形の伝統的文化の欠損は寛窄巷子の弱みと言っても過言ではなからう。

表 5-3 CS 分析による寛窄巷子における観光要素の重要度と満足度の偏差値

観光要素	重要度偏差値	満足度偏差値
Q1: 住民の生活の様子をみる	45.9	58.4
Q2: 伝統的な生活の説明を聞く	39.9	56.0
Q3: 伝統生活の体験（耳搔きなど）	41.6	43.3
Q4: お茶屋体験	51.7	54.1
Q5: 住民とのふれあい	41.6	45.5
Q6: 伝統的演劇（川劇など）を観る	46.4	33.6
Q7: 個々の歴史的建築物	54.3	64.9
Q8: 伝統的な街並み景観（全体の雰囲気）	61.3	61.0
Q9: 水辺の景観	43.0	68.1
Q10: 緑の景観	49.5	66.5
Q11: 歴史上の有名人物の物語	41.8	61.2
Q12: 地域の歴史文化を知る・学ぶ	45.7	52.8
Q13: 伝統的な食事をする	54.8	50.1
Q14: 伝統にこだわらず食事する	44.2	50.7
Q15: 伝統的な品物を買う	42.8	48.2
Q16: 伝統にこだわらず買い物をする	38.7	51.9
Q17: のんびり過ごす（休息）	55.8	29.1
Q18: 麻雀・トランプなどを楽しむ	40.4	43.2
Q19: 友人や家族との団らん	57.4	44.1
Q20: 出会い（観光客同士）	35.3	51.5
Q21: 街の清潔さ	69.9	34.1
Q22: トイレの清潔さ	69.7	45.7
Q23: 歩きやすい道の舗装	72.6	39.0
Q24: 休憩できる場所	59.4	44.0
Q25: 街の案内板や解説板	45.4	44.2
Q26: 夜のライトアップ	51.2	58.9

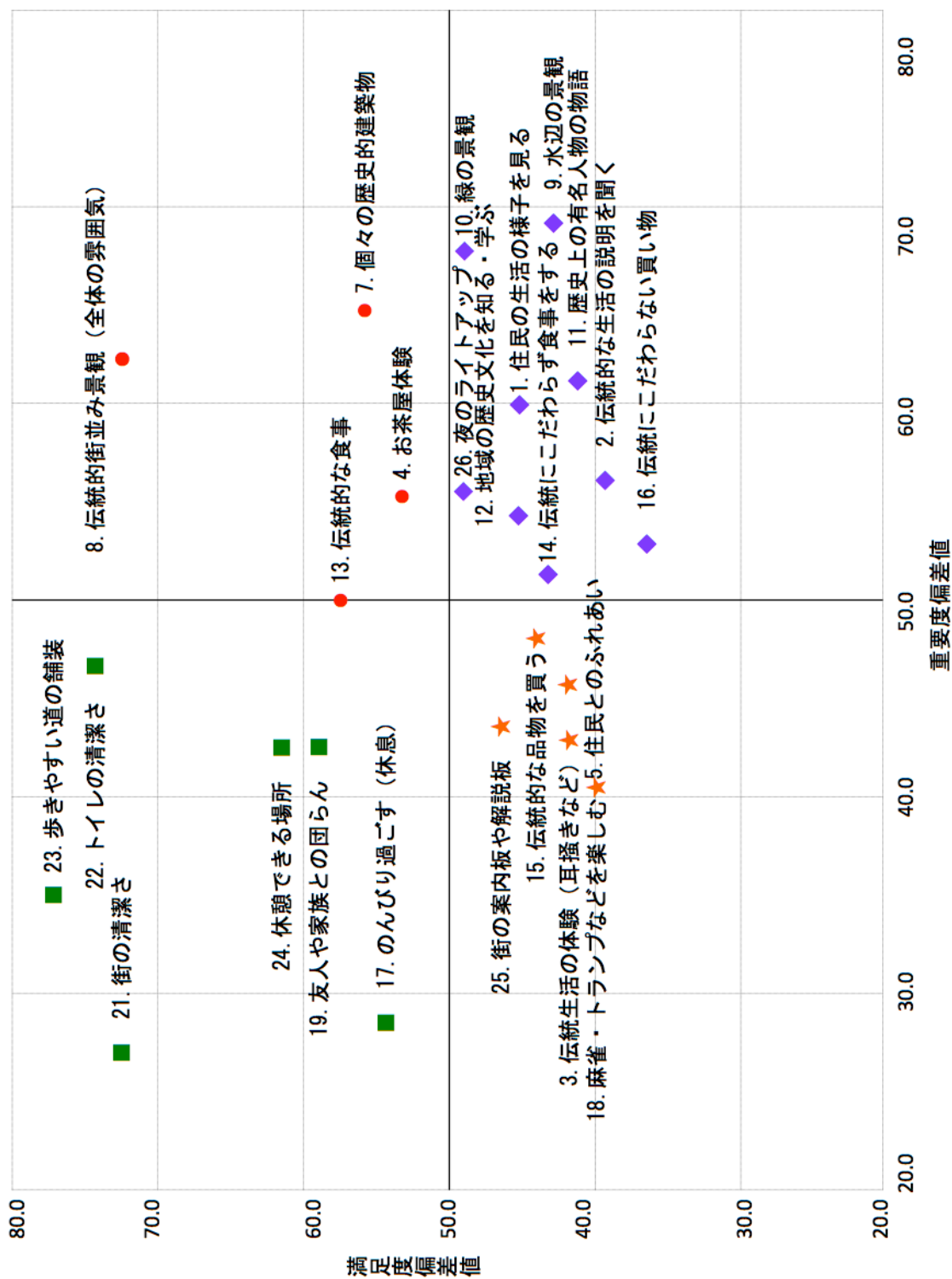


図 5-5 CS 分析による寛窄巷子の課題抽出

5-4-3 文殊院におけるCS分析の結果

表 5-4 は CS 分析による文殊院における観光項目の重要度偏差値と満足度の偏差値を示す。表 5-4 のデータをプロットすると、図 5-6 の文殊院における課題を反映した CS グラフを作成した。

図 5-7（図を見やすいために整えておく）からわかるように、評価項目は主に第 2 象限（8 個）に集まる傾向が見られる。

第 1 象限には総合的満足度に強く関連する「重点改善分野」として「Q5:住民とのふれあい」「Q11:歴史上の有名人物の物語」「Q15:伝統的品物を買う」「Q26:夜のライトアップ」があげられる。その 4 つの観光要素のうち、3 つの要素が地域資源に関わっていることが示唆される。

第 2 象限は、満足度の源泉として「Q7:個々の歴史的建築物」「Q8:伝統的な街並み景観（全体の雰囲気）」といった歴史景観、「Q13:伝統的な食事をする」「Q12:地域の歴史文化を知る・学ぶ」といった伝統的飲食文化・歴史文化、「Q22:トイレの清潔」「Q23:歩きやすい道の舗装」といった基盤整備、「Q17:のんびり過ごす（休息）」「Q19:友人や家族との団らん」といったゆったりさがあげられる。このことから、伝統的観光地に対する観光客の満足は、歴史景観と自然景観、伝統的食、文化体験のような伝統的資源に関わっていることだけではなく、基盤整備の充実、心身ともにリラックスしたりゆとりをとったりすることに結びつけていることが示唆される。

第 3 象限は、「Q1:住民の生活の様子をみる」「Q10:緑の景観」「Q21:街の清潔さ」「Q24:休憩できる場所」は総合満足度と関連が低い、一定の満足度を得ている。

上記の分析を踏まえて、文殊院では「伝統的街並み景観（全体の雰囲気）」「個々の歴史的建築物」といった歴史的建築物に関する項目の満足度が高いことから、歴史あふれる建築物に充実していると考えられる。文殊院は天王殿、三大士殿、大雄殿、説法堂、藏経楼など、どれも典型的な清代建築であり、現在でもよく保存されている。文殊院は四川省の仏教の中心であるため、毎日線香を供えに来る人々は後を絶たないため、心を静かめる聖地として「のんびり過ごす（休息）」「家族や友達の団らん」「休憩できる場所」といったソフト面に関しても一定の満足度が生み出されている。

一方で、文殊院は四川省の仏教の中心であるため、周辺には仏教に関する土産物屋や屋台が数多く陳列されているが、飲食施設の面には不備していることは文殊院の弱みである。また、文殊院は観光スポットとして人気が集まっているが、門限があるので夜のライトアップの不備は弱みである。

表 5-4 CS 分析による文殊院における観光要素の重要度と満足度の偏差値

観光要素	重要度偏差値	満足度偏差値
Q1:住民の生活の様子をみる	51.3	45.9
Q2:伝統的な生活の説明を聞く	43.6	31.8
Q3:伝統生活の体験（耳搔きなど）	33.2	36.4
Q4:お茶屋体験	48.5	50.6
Q5:住民とのふれあい	41.4	60.8
Q6:伝統的演劇（川劇など）を観る	36.5	48.2
Q7:個々の歴史的建築物	65.0	54.7
Q8:伝統的な街並み景観（全体の雰囲気）	59.5	59.2
Q9:水辺の景観	48.5	37.6
Q10:緑の景観	62.8	35.8
Q11:歴史上の有名人物の物語	48.0	58.8
Q12:地域の歴史文化を知る・学ぶ	56.8	61.7
Q13:伝統的な食事をする	57.9	50.9
Q14:伝統にこだわらず食事する	45.8	26.7
Q15:伝統的な品物を買う	42.5	70.4
Q16:伝統にこだわらず買い物をする	36.6	48.4
Q17:のんびり過ごす（休息）	65.0	59.2
Q18:麻雀・トランプなどを楽しむ	37.6	54.3
Q19:友人や家族との団らん	55.7	52.3
Q20:出会い（観光客同士）	35.9	59.8
Q21:街の清潔さ	60.1	42.6
Q22:トイレの清潔さ	58.4	53.0
Q23:歩きやすい道の舗装	63.9	50.9
Q24:休憩できる場所	59.5	46.7
Q25:街の案内板や解説板	43.6	47.9
Q26:夜のライトアップ	42.5	55.4

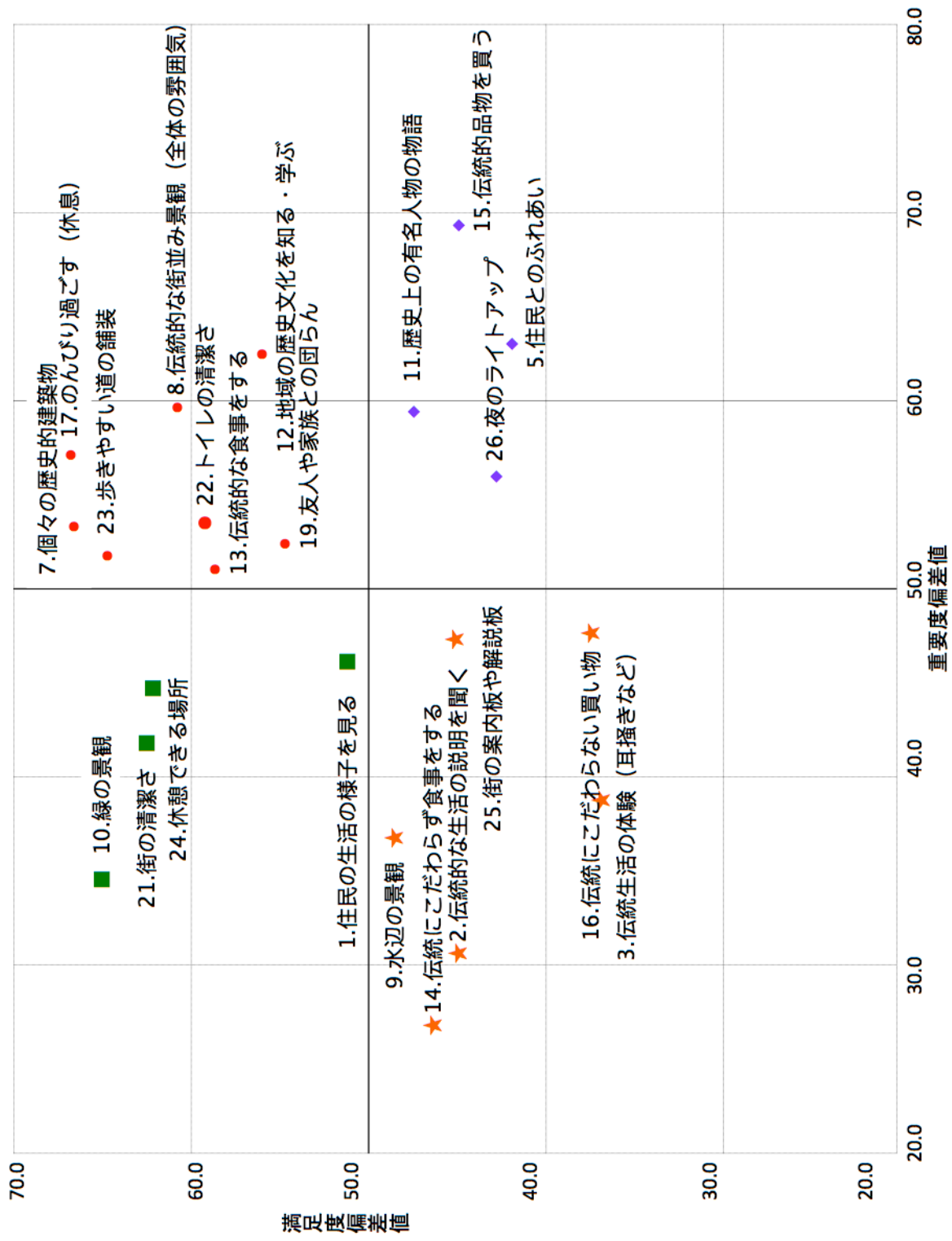


図 5-6 CS 分析による文殊院の課題抽出

5-4-4 黄龍溪古鎮におけるCS分析の結果

表 5-5 は CS 分析による黄龍溪古鎮における観光項目の重要度偏差値と満足度の偏差値を示す。図 5-7 は黄龍溪古鎮における課題を反映した CS グラフである。

第 1 象限には「重点改善分野」として「Q1：住民の生活の様子を見る」「Q15：伝統的な品物を買う」「Q4：お茶屋体験」「Q16：伝統にこだわらない買い物」「Q25：街の案内板や解説板」「Q5：住民とのふれあい」「Q6：伝統的演劇（川劇）を観る」「Q3：伝統的生活の体験（耳かき）」があげられる。その 8 つの観光要素に 6 つの要素が伝統的資源に関することから、伝統的地域では、伝統的生活文化、雰囲気のような無形の文化資源が総合満足度に強く関連し、総合満足度を引き上げていくうえで最優先に考慮することを、根拠をもち、示した。

第 2 象限は、満足度の源泉として歴史建築物といった歴史景観、緑の景観といった自然景観、街やトイレの清潔さといった環境の衛生問題、友人や家族との団らんがあげられる。このことから、伝統的観光地に対する観光客の満足は、ほとんど歴史景観と自然景観、街やトイレの衛生問題のような有形の資源に関わっていることが示唆される。これらの資源は総合満足度に強く関連し、高く評価されていることによって今後として継続的に保存する必要があると考えられる。

第 3 象限は、「Q9：水辺の景観」「Q8：伝統的街並み景観（全体の雰囲気）」「Q13：伝統的な食事をする」「Q24：休憩できる場所」「Q17：のんびり過ごす（休息）」は総合満足度と関連が低い、一定の満足度を得ている。

上記の分析を踏まえて、黄龍溪古鎮の強み資源と弱み資源を明らかにした。黄龍溪古鎮は、典型的な四川西部の水郷古鎮で、透き通った溪流は古鎮を貫いているため、緑や水辺の景観といった自然景観に対する満足度がより一層高い。伝統的地域で重視される傾向にある「伝統的街並み景観（全体の雰囲気）」「個々の歴史的建築」といったリアリティに対する満足度も高い。自然景観と歴史的な建築物が黄龍溪の強みであると考えられる。

一方で住民が多く居住しているが、店舗の経営者がほとんど外来者であること、及び周辺に過剰開発のことが、「住民の生活の様子を見る」「住民とのふれあい」「伝統生活の体験」といった伝統的生活文化に対する満足度が低かった一因であると考えられる。伝統的地域で住民が暮らしている日々を期待している観光客にとってこれら項目に不満を生みやすいと考えられる。また、「街の案内板や解説板」「夜のライトアップ」に関する満足度が低いことも弱みである。

表 5-5 CS 分析による黄龍溪古鎮における観光要素の重要度と満足度の偏差値

観光要素	重要度偏差値	満足度偏差値
Q1:住民の生活の様子をみる	46.5	56.4
Q2:伝統的な生活の説明を聞く	43.6	45.7
Q3:伝統生活の体験（耳搔きなど）	37.0	50.7
Q4:お茶屋体験	45.7	54.2
Q5:住民とのふれあい	41.0	52.9
Q6:伝統的演劇（川劇など）を観る	37.4	61.9
Q7:個々の歴史的建築物	60.3	57.9
Q8:伝統的な街並み景観（全体の雰囲気）	63.9	47.1
Q9:水辺の景観	66.1	49.7
Q10:緑の景観	62.4	51.7
Q11:歴史上の有名人物の物語	37.0	36.8
Q12:地域の歴史文化を知る・学ぶ	48.6	49.9
Q13:伝統的な食事をする	61.0	34.7
Q14:伝統にこだわらず食事する	43.6	43.1
Q15:伝統的な品物を買う	47.6	67.5
Q16:伝統にこだわらず買い物をする	42.5	50.8
Q17:のんびり過ごす（休息）	59.2	41.8
Q18:麻雀・トランプなどを楽しむ	39.9	36.2
Q19:友人や家族との団らん	57.0	76.8
Q20:出会い（観光客同士）	34.5	33.4
Q21:街の清潔さ	60.3	60.1
Q22:トイレの清潔さ	53.4	52.0
Q23:歩きやすい道の舗装	64.3	50.0
Q24:休憩できる場所	61.0	40.8
Q25:街の案内板や解説板	42.1	55.6
Q26:夜のライトアップ	44.3	42.2

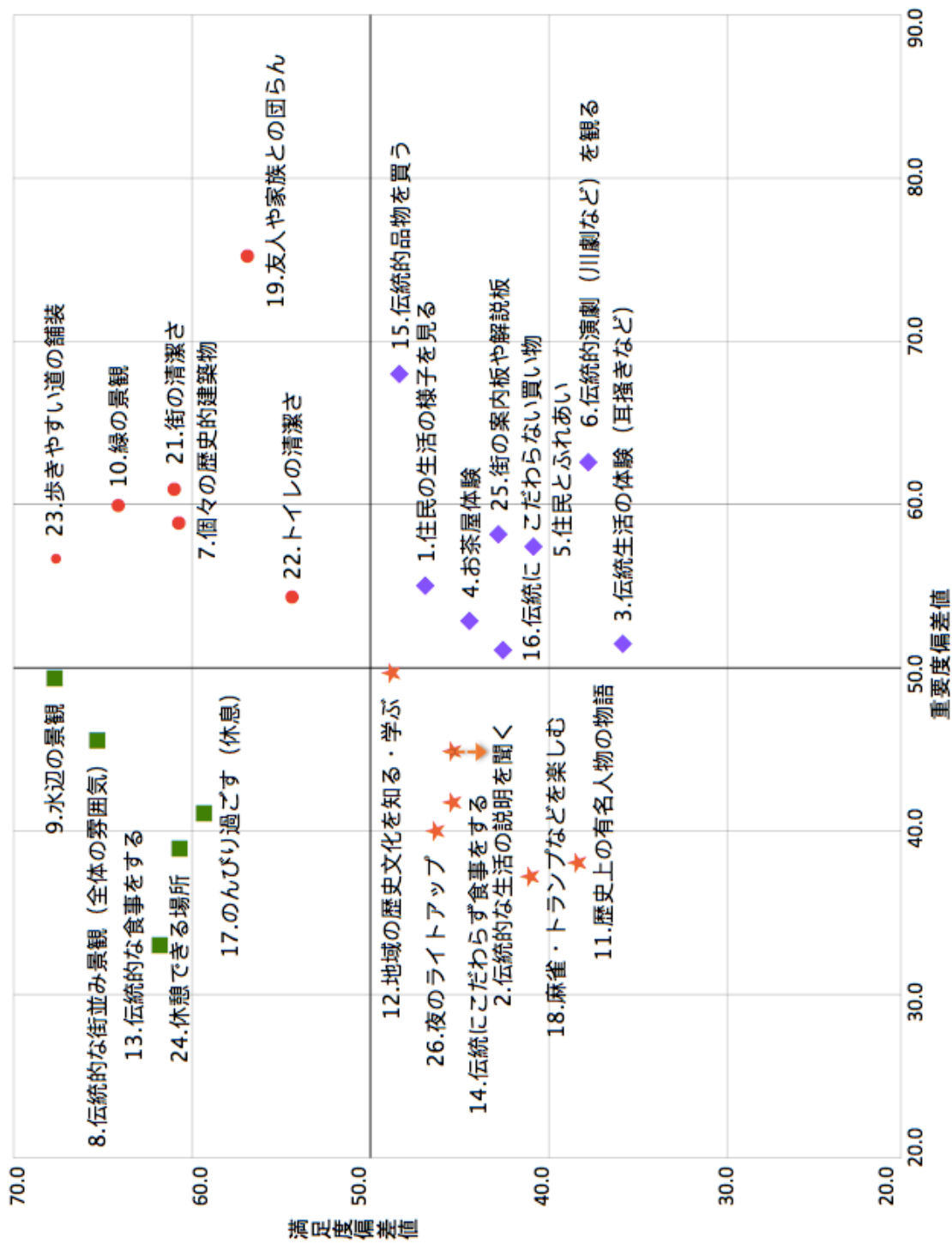


図 5-7 CS 分析による黄龍溪古鎮の課題抽出

5-4-5 安仁古鎮におけるCS分析の結果

表 5-6 は CS 分析による安仁古鎮における観光項目の重要度偏差値と満足度の偏差値を示す。図 5-8 は安仁古鎮における課題を反映した CS グラフである。

現状の地域の強みであり、今後も維持すべき要素が第2象限と第3象限に布置される。

第2象限は、「重点維持分野」であり、現状の満足度の源泉として特に維持すべき重要な要素である。「Q10：緑の景観」「Q22：トイレの清潔さ」「Q24：休憩できる場所」といった基盤整備、「Q12：地域の歴史文化を知る・学ぶ」といった歴史文化、があげられた。このことから、現在、安仁古鎮に対する観光客の満足を支えている要素は、歴史文化、自然景観（緑の資源）、基盤整備（トイレの清潔さ、休息場所）、のような有形と無形の資源に関わっている。

第3象限は、「維持分野」であり、現状を維持すべき要素として「Q23：歩きやすい舗装」「Q4：お茶屋体験」「Q19：友人や家族との団らん」「Q7：個々の歴史的建築物」「Q21：街の清潔さ」「Q13：伝統的な食事をする」「Q8：伝統的街並み景観（全体の雰囲気）」「Q11：歴史上の有名人物の物語」「Q1：住民の生活の様子を見る」があげられた。これらは総合満足度との関連が高くはないものの、今回の対象地では、どこでも、それがあるのが当たり前の要素である故に、意識はされていないが無くてはならない要素であると考えられる。

一方、満足率の低かった要素-すなわち現状の地域の弱みのうち、今後改善することによって総合満足度を高められる可能性のある要素が第1象限に布置される。

第1象限は「重点改善分野」であり、最優先で改善をはかる必要がある要素である。「Q5：住民とのふれあい」「Q9：水辺の景観」「Q14：伝統にこだわらない食事をする」「Q15：伝統的な品物を買う」「Q25：街の案内板や解説板」「Q26：夜のライトアップ」があげられる。その6つの観光要素のうち、4つの要素が基盤整備・非伝統資源に関することから、安仁古鎮では伝統的文化以外の観光資源の改善が総合満足度の改善に強く関連し、総合満足度を引き上げていくうえで最優先に強化すべき要素であることが示された。「Q14：伝統にこだわらない食事をする」については伝統的な食事とは異なるものの、観光客のニーズが高い要素であることが分かった。つまり、今後の観光開発中、伝統的食事以外の飲食の種類や味に関する取り組みが必要であることが考えられる。これを改善すれば、総合満足度を上げることができる。

以上の分析を踏まえて、安仁古鎮では、「歩きやすい道の舗装」「トイレの清潔さ」「街の清潔さ」といった基盤整備に対する満足度が高いことから、基盤整備に充実していると考えられる。また、「伝統的街並み景観（全体の雰囲気）」「個々の歴史的建築物」といった建築物の面に、「住民の生活の様子を見る」「歴史上の有名な人物の物語」といったソフトの面にも満足している。これらが安仁の強みである。一方、「街の案内板や解説板」「夜のライトアップ」に対する満足度も低かった。つまり、ハード面の不備が安仁の弱みである。

表 5-6 CS 分析による安仁古鎮における観光要素の重要度と満足度の偏差値

観光要素	重要度偏差値	満足度偏差値
Q1:住民の生活の様子をみる	50.8	41.8
Q2:伝統的な生活の説明を聞く	40.6	47.9
Q3:伝統生活の体験（耳搔きなど）	33.9	35.1
Q4:お茶屋体験	65.8	33.3
Q5:住民とのふれあい	43.6	75.4
Q6:伝統的演劇（川劇など）を観る	32.1	51.8
Q7:個々の歴史的建築物	60.4	39.9
Q8:伝統的な街並み景観（全体の雰囲気）	58.0	36.8
Q9:水辺の景観	45.4	52.2
Q10:緑の景観	50.8	53.4
Q11:歴史上の有名人物の物語	53.2	46.2
Q12:地域の歴史文化を知る・学ぶ	52.0	52.9
Q13:伝統的な食事をする	58.6	43.3
Q14:伝統にこだわらず食事する	47.2	53.0
Q15:伝統的な品物を買う	41.2	64.6
Q16:伝統にこだわらず買い物をする	36.4	46.6
Q17:のんびり過ごす（休息）	58.0	52.7
Q18:麻雀・トランプなどを楽しむ	47.8	48.1
Q19:友人や家族との団らん	60.4	49.1
Q20:出会い（観光客同士）	35.1	64.5
Q21:街の清潔さ	59.8	36.7
Q22:トイレの清潔さ	58.6	51.3
Q23:歩きやすい道の舗装	65.8	47.3
Q24:休憩できる場所	61.0	50.0
Q25:街の案内板や解説板	44.2	58.6
Q26:夜のライトアップ	39.4	67.5

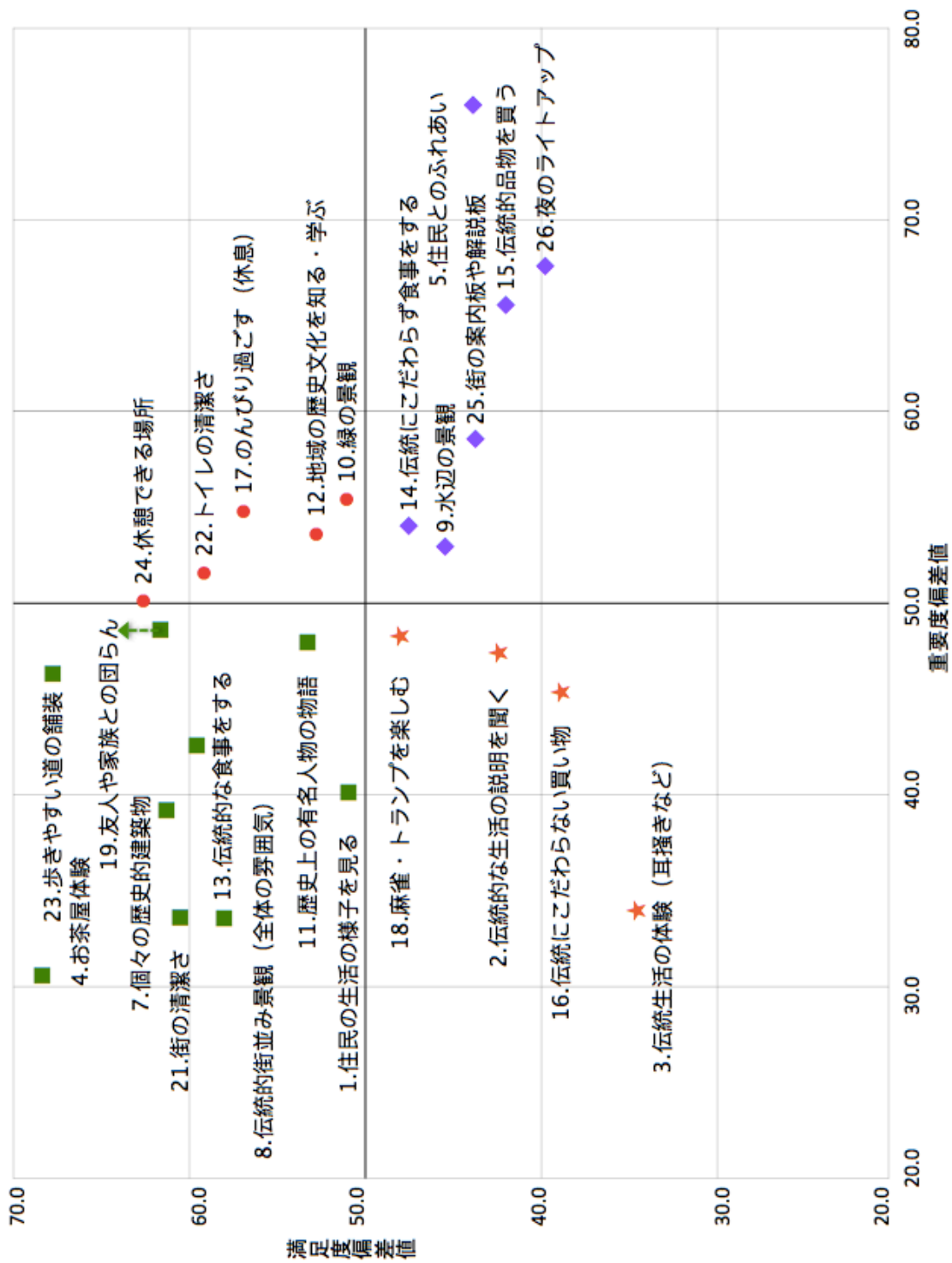


図 5-8 CS 分析による安仁古鎮の課題抽出

5-4-6 5つの地域の比較

本節では「重点維持分野」と「重点改善分野」について、5つの地域を比較して共通する要素と相違する要素を明らかにすることを目的とする。

重点維持分野

■ 「伝統的街並み景観（全体の雰囲気）」「個々の歴史的建築物」「緑の景観」の景観

伝統的建築景観では、錦里、寛窄巷子、文殊院の強み資源である。黄龍溪古鎮は、「伝統的街並み景観（全体の雰囲気）」は地域の強み資源であるが、「個々の歴史的建築物」は維持分野にあり、重要度が弱いと言える。安仁古鎮は、他の4地域と比較して伝統的建築景観への満足度が高いが、維持分野にあり、重要度が弱いと言える。また、錦里、黄龍溪古鎮と安仁古鎮は「緑の景観」が地域の強み資源である。

以上の分析を踏まえて、伝統的建築景観はいずれの地域でも満足度が高いが、重要度に偏りがあることがわかった。

■ 「お茶屋体験」「伝統的食事をする」の伝統的食

寛窄巷子では、伝統的食が地域の強み資源である。文殊院では、「伝統的食事をする」が強み資源であるが、「お茶屋体験」への重要度が弱いと言える。また、錦里、黄龍溪古鎮と安仁古鎮は寛窄巷子と文殊院は、「伝統的食事をする」への満足度は高いが、重要度は低い。

■ 「地域の歴史文化を知る・学ぶ」

「歴史文化を知る・学ぶ」は、文殊院と安仁古鎮の強み資源であり、錦里、黄龍溪古鎮は改善分野にあり、寛窄巷子は重点改善分野にある。

■ 「のんびり過ごす（休息）」「友人や家族との団らん」の保養

「のんびり過ごす（休息）」は安仁古鎮の強み資源である。「友人や家族との団らん」は文殊院と黄龍溪古鎮の強み資源である。

■ 「街やトイレの清潔さ」「歩きやすい道の舗装」「休憩できる場所」の基盤整備

「街やトイレの清潔さ」「歩きやすい道の舗装」は、黄龍溪古鎮の強み資源である。「休憩できる場所」は、安仁古鎮の強み資源であるが、他の4つの地域は重要度が低い。

- 「住民の生活の様子を見る」「伝統的な生活の説明を聞く」「伝統的生活の体験」「住民とのふれあい」の生活文化

錦里と寛窄巷子は、「住民の生活の様子を見る」「伝統的な生活の説明を聞く」への満足度は低く、重要度は高く、地域の弱み資源である。それに対しては、黄龍溪古鎮は、満足度は低く、重要度は高い「住民の生活の様子を見る」「伝統的生活の体験」が地域の弱い資源である。文殊院、黄龍溪古鎮と安仁古鎮は、満足度は低く、重要度は高い「住民とのふれあい」が弱み資源である。

- 「伝統的演劇（川劇など）を観る」「歴史上の有名人物の物語」「地域の歴史文化を知る・学ぶ」

錦里、寛窄巷子、文殊院は、満足度は低く、重要度は高い「歴史上の有名人物の物語」が弱み資源である。また、寛窄巷子は「歴史上の有名人物の物語」に加えて「地域の歴史文化を知る・学ぶ」も地域の弱み資源である。「伝統的演劇（川劇など）を観る」は、黄龍溪古鎮の弱み資源として抽出された。

- 「水辺の景観」「緑の景観」の自然景観

自然景観は寛窄巷子の弱み資源、「水辺の景観」安仁古鎮の弱み資源として抽出された。

- 「伝統的食事・買い物」「伝統以外の買い物・食事」の飲食購買

「お茶屋体験」は黄龍溪古鎮の弱み資源として抽出された。「伝統的な品物を買う」は錦里、寛窄巷子、文殊院、黄龍溪古鎮、安仁古鎮の改善すべき資源として抽出されたが、寛窄巷子は他の4つの地域と比較して、「伝統的な品物を買う」への重要度が低い。「伝統以外の買い物」は錦里、寛窄巷子、黄龍溪古鎮の弱み資源として抽出された。「伝統以外の食事」は寛窄巷子と安仁古鎮の弱み資源である。以上の分析を踏まえて、寛窄巷子は伝統的以外の食事・買い物に弱いことがわかった。錦里は伝統の買い物にせよ、非伝統の買い物にせよ、弱いことがわかった。

- 「麻雀やトランプなどを楽しむ」

「麻雀やトランプなどを楽しむ」は錦里の弱み資源として抽出された。

- 「街の案内板や説明板」「夜のライトアップ」の基盤整備

安仁古鎮は「街の案内板や説明板」と「夜のライトアップ」が弱み資源として抽出された。また、黄龍溪古鎮は「街の案内板や説明板」に不備しており、寛窄巷子と文殊院は夜のライトアップに弱いことがわかった。

表 5-7 5 地域の比較の結果 (1)

維持分野		重点維持分野
Q1:住民の生活の様子をみる	(文、安)	Q4:お茶屋体験 (寛)
Q4:お茶屋体験	(錦、安)	Q7:個々の歴史的建築物 (錦、寛、文、黄)
Q7:個々の歴史的建築物	(安)	Q8:伝統的な街並み景観 (全体の雰囲気) (錦、寛、文)
Q8:伝統的な街並み景観 (全体の雰囲気)	(黄、安)	Q10:緑の景観 (錦、黄、安)
Q9:水辺の景観	(錦、黄)	Q12:地域の歴史文化を知る・学ぶ (文、安)
Q10:緑の景観	(文)	Q13:伝統的な食事をする (寛、文)
Q11:歴史上の有名人物の物語	(安)	Q17:のんびり過ごす (休息) (安)
Q13:伝統的な食事をする	(錦、黄、安)	Q19:友人や家族との団らん (文、黄)
Q17:のんびり過ごす (休息)	(錦、寛、黄)	Q21:街の清潔さ (黄)
Q19:友人や家族との団らん	(錦、寛、安)	Q22:トイレの清潔さ (錦、文、黄、安)
Q21:街の清潔さ	(寛、文、安)	Q23:歩きやすい道の舗装 (文、黄)
Q22:トイレの清潔さ	(寛)	Q24:休憩できる場所 (安)
Q23:歩きやすい道の舗装	(錦、寛、安)	
Q24:休憩できる場所	(錦、寛、文、黄)	
Q26:夜のライトアップ	(錦)	

表 5-8 5 地域の比較の結果 (2)

改善分野	重点改善分野
<p>Q2:伝統的な生活の説明を聞く</p> <p>Q3:伝統生活の体験 (耳搔きなど)</p> <p>Q5:住民とのふれあい</p> <p>Q6:伝統的演劇 (川劇など) を観る</p> <p>Q9:水辺の景観</p> <p>Q11:歴史上の有名人物の物語</p> <p>Q12:地域の歴史文化を知る・学ぶ</p> <p>Q14:伝統にこだわらず食事する</p> <p>Q15:伝統的な品物を買う</p> <p>Q16:伝統にこだわらず買い物をする</p> <p>Q18:麻雀・トランプなどを楽しむ</p> <p>Q25:街の案内板や解説板</p> <p>Q26:夜のライトアップ</p>	<p>(文、黄、安)</p> <p>(錦、寛、文、安)</p> <p>(錦、寛)</p> <p>(錦、文)</p> <p>(文)</p> <p>(黄)</p> <p>(錦、黄)</p> <p>(錦、文、黄)</p> <p>(寛)</p> <p>(文、安)</p> <p>(寛、文、黄、安)</p> <p>(錦、寛、文)</p> <p>(黄)</p>
<p>Q1:住民の生活の様子をみる</p> <p>Q2:伝統的な生活の説明を聞く</p> <p>Q3:伝統生活の体験 (耳搔きなど)</p> <p>Q4:お茶屋体験</p> <p>Q5:住民とのふれあい</p> <p>Q6:伝統的演劇 (川劇など) を観る</p> <p>Q9:水辺の景観</p> <p>Q10:緑の景観</p> <p>Q11:歴史上の有名人物の物語</p> <p>Q12:地域の歴史文化を知る・学ぶ</p> <p>Q14:伝統にこだわらず食事する</p> <p>Q15:伝統的な品物を買う</p> <p>Q16:伝統にこだわらず買い物をする</p> <p>Q18:麻雀・トランプなどを楽しむ</p> <p>Q25:街の案内板や解説板</p> <p>Q26:夜のライトアップ</p>	<p>(錦、寛、黄)</p> <p>(錦、寛)</p> <p>(黄)</p> <p>(黄)</p> <p>(文、黄、安)</p> <p>(黄)</p> <p>(寛、安)</p> <p>(寛)</p> <p>(錦、寛、文)</p> <p>(寛、)</p> <p>(寛、安)</p> <p>(錦、文、黄、安)</p> <p>(錦、寛、黄)</p> <p>(錦)</p> <p>(黄、安)</p> <p>(寛、文、安)</p>

5-5 改善度を踏まえた提案

CS グラフでは重点改善要素分野として4要素が抽出されたが、各観光要素の改善度(図5-3～図5-8)を算出して、優先的に改善すべき要素をさらに詳細に抽出する。結果を表5-7～表5-12に示す。改善度の数値が大きいほど「優先的に改善すべき度合い」が高い。ここでは改善度がプラスの数値に注目した。

5-5-1 地域全体における改善課題

改善度が上位の三つの要素はそれぞれ「住民の生活の様子を見る(15.69(1位))」「伝統的な生活の説明を聞く(12.82(2位))」「伝統生活の体験(8.11(3位))」である。それに「出会い(4.56(5位))」「住民とのふれあい(2.44(7位))」「(その地域の)歴史上の有名人物の物語(2.34(8位))」の要因が改善範囲に入っている。この結果から、地域住民との問題は目下のところ最大の課題であることがわかる。観光開発による地域住民の流失の影響で地域住民の生活風景がみられなくなるのは確かに存在している問題である。地域住民は地域の創造者と守り者としての重要性が言うまでもない。また、伝統的な生活の様子を見ること、伝統的な生活の説明を聞くこと、伝統的な生活の体験のことのいずれも地域を語り継ぎ地域の歴史文化を継承して生活する地域住民自身と深く関係している。すなわち、伝統的な生活文化の消滅を解決するには最も重要なのは地域住民の流失を防止し、移住した地域住民を地域に呼び込むなどのような直接的対策が考えられる。

「夜のライトアップ(2.85(6位))」「緑の景観(2.30(9位))」「水辺の景観(2.23(10位))」「伝統街並みの景観(1.55(11位))」といった景観の面では、改善度がやや高い状態にあることから、景観を整備することが、観光地における今後の重要な視点となっている。この結果は、伝統街並みの景観の保全・整備においては建築物の保全・整備のみならず、緑や水や夜の景観といった街を構成している様々な要素の集合体を豊かにする対策が必要であることを示している。

「伝統にこだわらない買い物(5.61(4位))」は観光客ニーズへの対応の盲点かもしれない。伝統的な産品にこだわるあまり、観光客が快適に過ごすための産品への対応が十分でない可能性がある。

表 5-9 地域全体における観光要素の改善度（数字）は優先改善項目順位

観光要素	改善度
Q1:住民の生活の様子をみる(1)	15.69
Q2:伝統的な生活の説明を聞く(2)	12.82
Q3:伝統生活の体験（耳搔きなど）(3)	8.11
Q4:お茶屋体験	-10.13
Q5:住民とのふれあい(7)	2.44
Q6:伝統的演劇（川劇など）を観る	-0.94
Q7:個々の歴史的建築物	-2.69
Q8:伝統的な街並み景観(全体の雰囲気)(11)	1.55
Q9:水辺の景観(10)	2.23
Q10:緑の景観(9)	2.3
Q11:歴史上の有名人物の物語(8)	2.34
Q12:地域の歴史文化を知る・学ぶ	-1.32
Q13:伝統的な食事をする	-1.74
Q14:伝統にこだわらず食事する	-0.48
Q15:伝統的な品物を買う	-1.31
Q16:伝統にこだわらない買い物(4)	5.61
Q17:のんびり過ごす（休息）	-5.16
Q18:麻雀・トランプなどを楽しむ	-1.92
Q19:友人や家族との団らん	-10.54
Q20:出会い(5)	4.56
Q21:街の清潔さ	-3.62
Q22:トイレの清潔さ	-4.81
Q23:歩きやすい道の舗装	-10.48
Q24:休憩できる場所	-2.66
Q25:街の案内板や解説板	-1.87
Q26:夜のライトアップ(6)	2.85

5-5-2 地域別における改善課題

表 5-8 は五つの調査地域の改善度を示す。地域別の性質・所在地・観光開発状況・観光資源の種類などによって改善する度合いが相違していると考えられる。本節では、地域別に改善すべき要素を見出すことを目的とする。

(1) 錦里における改善課題

錦里では、「Q1：住民の生活の様子を見る (18.87)」、「Q2：伝統的な生活の説明を聞く (16.84)」は改善度の上位1と上位2を占めている。それに「Q11：歴史上の有名人物の物語 (8.63)」、「Q7：個々の歴史的建築物 (8.39)」、「Q12：地域の歴史文化を知る・学ぶ (3.78)」の要因が改善範囲に入っている。この結果から、地域側にかかわる歴史文化、伝統的生活に関する見る・聞くといった文化面の欠如は目下のところ最大の課題である。錦里は成都市市内に位置しており、居住者はないので伝統的生活文化が見られないのは事実である。以上の現況に照らし合わせてみると、伝統的生活文化に関わる文化要素を求めている観光客には応えられるのは今の段階では解決できないが、三国時代を背景とした錦里はどのようにその時代の歴史文化を伝えるかに力を入れれば、歴史文化を求めている観光客のニーズに応えられると考えられる。

「Q18：麻雀・トランプなどを楽しむ (14.18)」、「Q16：伝統的にこだわらず買い物をする (11.32)」、「Q20：出会い(観光客同士) (13.37)」、「Q15：伝統的品物を買う (5.41)」といった観光行動にかかわる購買・親睦では、改善度がやや高い状態にあることから、観光客の心身ともにリフレッシュを高めることと快適に過ごすことが、観光地における今後の重要な視点となっている。

(2) 寛窄巷子における改善課題

寛窄巷子では、「Q9：水辺の景観(17.72)」、「Q11：歴史上の有名人物の物語 (13.71)」、「Q10：緑の景観 (12.05)」は改善度の前3位を占めている。それに、「Q2：伝統的な生活の説明を聞く (11.40)」、「Q1：住民の生活の様子を見る (8.81)」、「Q7：個々の歴史的建築物 (7.49)」の要因が改善範囲に入っている。この結果から、地域側にかかわる伝統的生活文化・歴史文化・景観類の欠如は大きな課題となっている。寛窄巷子は住民がほとんど移住した。そのために住民にかかわる生活文化は希薄化しているのは現状である。以上の現況に照らし合わせてみると、伝統的生活文化に関わる文化要素を求めている観光客には応えられるのは困難であるが、歴史的文化を存分に観光客に宣伝し、歴史的景観の保存と継承に取り組み、自然景観をより豊かにするなどのような直接的な政策が考えられる。

「Q20：出会い(観光客同士) (11.46)」、「Q16：伝統的にこだわらず買い物をする (9.37)」、「Q15：伝統的品物を買う (5.41)」、「Q18：麻雀・トランプなどを楽しむ (2.1)」といった親睦向上、伝統的商品、夜景に関わらずの購買では、改善度がやや高い状態にある

ことから、快適に過ごせるために購買行動や親睦を深めることに力を入れることは観光地における今後の重要な課題となっている。

(3) 文殊院における改善課題

文殊院では、改善要素として「Q20：出会い（観光客同士）（16.92）」、「Q5：住民とのふれあい（13.74）」、「Q12：地域の歴史文化を知る・学ぶ（3.45）」が挙げられている。この結果から、親友や家族や観光客同士の親睦関係を築くことに取り組むことが目前の最大の課題であることがわかる。それはホスト側の課題だけでなく、ゲスト側の課題でもある。文殊院の周辺に住民が居住しているので住民に積極的に観光活動に参加させており、観光客とのふれあいの機会を提供するなどの直接的な対策が考えられる。また、それぞれの仏像の歴史や物語を観光客に紹介し、お線香供えを体験させることによって地域の歴史文化を知る・学ぶことを実現することに結びつけると考えられる。

第2章で説明したとおり、文殊院は四川省の宗教中心地として機能している。そのため、「Q15：伝統的品物を買う（19.73）」、「Q11：麻雀・トランプなどを楽しむ（11.83）」、「Q16：伝統的にこだわらず買い物をする（8.38）」、「Q6：伝統的演劇（川劇など）を観る（8.28）」などの資源に欠けていると予想される。観光客が購買や娯楽などのニーズがあっても、宗教の静肅的性質に違反しているので観光客のニーズに応えられるのは困難であると推測される。「Q26：夜のライトアップ（9.10）」では、改善度が低くないが、同様に注意すべきだろう。

(4) 黄龍溪古鎮における改善課題

黄龍溪古鎮では、「Q3：伝統的生活の体験（耳かきなど）（9.64）」、「Q5：住民とのふれあい（8.42）」、「Q1：住民の生活の様子を見る（7.01）」、「Q2：伝統的な生活の説明を聞く（1.55）」といった伝統的文化に関連する要素が挙げられている。この結果から、伝統的文化の欠乏が直面する緊急の課題である。伝統的生活文化が薄弱化しつつあることを止めるには地元住民の存在が問題を解決する糸口となると考えられる。現在では、住民が居住しているが、過剰な開発の影響で地元住民の流失が深刻となるのも確実である。したがって、地域住民が住み慣れた地域で暮らしつづけることと流失した住民を地域まで呼び込むなどの対策が考えられる。伝統的生活文化の体験によってある程度、「家族や友人の団らんを促進することができる」と考えられる。

購買行動においては「Q15：伝統的品物を買う（14.11）」、「Q16：伝統的にこだわらず買い物をする（5.89）」が改善範囲に入っている。この結果から、伝統的商品も伝統的でない物も求められていることがうかがえる。対策として、生産から日常生活の中での利用という一連の過程を表現する伝統的商品を再発見し、継承する取り組みをすることが考えられる。また、伝統的な産品にこだわるあまり、観光客が快適に過ごすスペースがなくなる可能性があるために、伝統的商品でないものを開発する必要がある。

(5) 安仁古鎮における改善課題

安仁古鎮では、「Q5：住民とのふれあい (22.50)」「Q2：伝統的な生活の説明を聞く (5.18)」といった住民自身に関わる要素、「Q26：夜のライトアップ (19.88)」、「Q15：伝統的品物を買う (16.59)」、「Q25：街の案内板や解説板 (10.17)」、「Q9：水辺の景観 (4.84)」、「Q14：伝統にこだわらない食事する (4.11)」は重点改善要素分野内に入っている。それに、「Q20：出会い（観光客同士） (20.74)」、「Q6：伝統的演劇（川劇など）を見る (13.94)」、「Q10：緑の景観 (1.86)」が改善要素として挙げられている。この結果から、地域住民との交流・接触、飲食・購買、緑や水辺といった自然景観、街の案内板や夜のライトアップといった基盤整備などの欠落が目の前の緊急な課題となる。

直接的対策として、

- (1) 地域住民にかかわる課題として、地域住民を観光活動に積極的に参与させることによって観光客との交流の機会を増やすことを実現できると考えられる。また、観光客と住民とのふれあいを促進することによって観光客同士の出会いを促すことにポジティブな影響を及ぼすと考えられる。
- (2) 「Q26：夜のライトアップ (19.88)」は、改善度がやや高く、3位を占める要素である。観光客の滞在（第3章）では、安仁古鎮の宿泊の割合は他の4つの地域と比較して一番高いことから、観光客のニーズが高い要素であることが見て取れた。しかし、夜のライトアップは伝統的要素とは異なるものの、空間整備の課題であるために、地域住民の居住環境のあり方との整合性を図りながら整備すべきか検討する必要があると考えられる。
- (3) 自然景観は魅力ある伝統的地域づくりにおいて欠かせない存在であるために、緑や水辺の自然景観といった景観を整備することが、観光地における今後の重要な視点となっている。

5-5-3 地域別における改善課題の比較

本節では、共通の改善すべき観光要素と地域別に相違している改善すべき要素を見出すことを目的とする。

■ 歴史的・自然的の景観

「伝統的街並み景観（全体の雰囲気）」では、いずれの地域でも改善する必要はないが、「個々の歴史的建築物」では、錦里と寛窄巷子は改善すべき要素として抽出されているが、文殊院、黄龍溪古鎮と安仁古鎮は、改善する必要はない。自然景観の面では、寛窄巷子と安仁古鎮は改善すべき要素として抽出され、錦里は緑の景観を改善する必要がある。それに対して文殊院と黄龍溪古鎮は自然景観を改善する必要がない。

■ 歴史的・伝統的文化

歴史的文化の面では、「地域の歴史文化を知る・学ぶ」はいずれの地域でも改善すべき要素として抽出されている。「歴史上の有名人物の物語」は、黄龍溪古鎮と安仁古鎮は改善する必要はないが、錦里、寛窄巷子と文殊院は改善すべき要素として抽出された。

伝統的文化の面では、地域によって差異が見られる。

「住民の生活の様子を見る」「伝統的生活の説明を聞く」では、錦里、寛窄巷子と黄龍溪は改善すべき要素として抽出された。改善度の数値を見ると、錦里は最も高く、黄龍溪は低く、寛窄巷子は中間である。それに安仁古鎮では、「住民の生活の様子を見る」の観光要素を改善する必要はないが、「伝統的生活の説明を聞く」は改善すべき要素である。文殊院は改善する必要はない。

「伝統生活の体験」では、錦里以外の4つの地域は改善すべき要素である。改善度の数値をみると、黄龍溪古鎮は最も高く、寛窄巷子、文殊院と安仁古鎮はほぼ同じである。

「住民とのふれあい」では、いずれの地域でも改善すべき要素である。改善度の数値を見ると、安仁古鎮は最も高く、寛窄巷子と錦里は低いことがわかった。

「演劇を観る」では、錦里と寛窄巷子は改善する必要がある要素として抽出されおらず、文殊院、黄龍溪古鎮と安仁古鎮は改善すべき要素として抽出された。

■ 飲食購買

「伝統的食事をする」の面では、いずれの地域でも改善すべき要素として抽出されなかった。「お茶屋体験」では、錦里と安仁古鎮は改善する必要はないが、寛窄巷子、文殊院と黄龍溪古鎮は改善すべきである。改善度の数値に注目すると、寛窄巷子と文殊院は改善すべきであるが、改善度が低く、黄龍溪古鎮は改善度がやや高いことが見てとれた。「伝統的な品物を買う」の面では、いずれの地域でも改善すべき要素として抽出された。改善度を見ると、文殊院、黄龍溪古鎮、安仁古鎮は錦里と寛窄巷子より改善度が高いことがわかった。非伝統的食・買い物面では、非伝統的買

い物のほうが、いずれの地域でも改善すべき要素として抽出されたが、非伝統的食は地域によって顕著な差異が見られら。寛窄巷子と安仁は改善すべきであるが、錦里、文殊院と黄龍溪古鎮は改善する必要はない。

■ 保養

「のんびり過ごす（休息）」では、いずれの地域でも改善する必要はない。「友人や家族との団らん」は黄龍溪古鎮だけ改善すべき要素として抽出され、改善度が高いが、麻雀や出会いは、黄龍溪古鎮以外の4つの地域は改善すべき要素である。

■ 基盤整備

「街の清潔さ」「トイレの清潔さ」「歩きやすい道の舗装」「休憩できる場所」では、いずれの地域でも改善する必要はない。「街の案内板や解説版」では、寛窄巷子以外の地域は改善すべき要素として抽出された。特に、郊外にある黄龍溪古鎮と安仁古鎮は改善度が高い。「夜のライトアップ」では、地域によって大きな差異が見られる。錦里と黄龍溪古鎮は改善する必要がないが、寛窄巷子、文殊院と安仁古鎮は夜の照明を改善すべきであることが示されている。改善度の数値の高さを見ると、寛窄巷子は改善度がやや低く、安仁古鎮は改善度が高いことが見てとれた。

以上のように改善すべき観光要素と改善する必要のない要素を、地域を比較しながら相違点と共通点を考察した。

しかしながら、仮に観光客がある観光要素に対する期待度が高く、改善すべき要素でもあれば、それは今後の観光開発の中で重要視化される要素と言える。また、仮に観光客がある観光要素に対する期待度が低ければ、改善すべき要素であっても、それは今後の観光開発の中において、重要視化される要素とは言えない。

つまり、観光地の改善課題と改善度を、CS分析を用いて考察した上で観光客の観光要素に対する期待度を検討する必要があると考えられる。期待度については第6章で検討する。

表 5-10 地域別における観光要素の改善度（数字）

観光要素	錦里	寛窄巷子	文殊院	黄龍溪	安仁
Q1:住民の生活の様子をみる	18.87	8.81	-3.83	7.01	-6.32
Q2:伝統的な生活の説明を聞く	16.84	11.40	-8.31	1.55	5.18
Q3:伝統生活の体験（耳搔きなど）	-0.77	1.26	2.32	9.64	0.80
Q4:お茶屋体験	-7.55	1.73	1.47	5.98	-22.98
Q5:住民とのふれあい	0.52	2.79	13.74	8.42	22.50
Q6:伝統的演劇（川劇など）を観る	-6.51	-9.01	8.28	17.37	13.94
Q7:個々の歴史的建築物	8.39	7.49	-7.31	-1.64	-14.51
Q8:伝統的な街並み景観(全体の雰囲気)	0.56	-0.22	-0.24	-11.87	-14.98
Q9:水辺の景観	-6.84	17.72	-7.71	-11.57	4.84
Q10:緑の景観	6.38	12.05	-19.13	-7.57	1.86
Q11:歴史上の有名人物の物語	8.63	13.71	7.63	-0.13	-4.95
Q12:地域の歴史文化を知る・学ぶ	3.78	5.06	3.45	0.89	0.67
Q13:伝統的な食事をする	-26.00	-3.32	-4.92	-18.59	-10.83
Q14:伝統にこだわらず食事する	-4.61	4.57	-13.48	-0.34	4.11
Q15:伝統的な品物を買う	5.41	3.84	19.73	14.11	16.59
Q16:伝統にこだわらず買い物をする	11.32	9.37	8.38	5.89	7.24
Q17:のんびり過ごす（休息）	-17.44	-18.85	-4.14	-12.26	-3.74
Q18:麻雀・トランプなどを楽しむ	14.18	2.01	11.83	-2.67	0.24
Q19:友人や家族との団らん	-3.43	-9.44	-2.40	13.99	-8.01
Q20:出会い（観光客同士）	13.37	11.46	16.92	-0.79	20.74
Q21:街の清潔さ	-9.70	-25.35	-12.36	-0.13	-16.34
Q22:トイレの清潔さ	0.97	-17.00	-3.83	-0.95	-5.18
Q23:歩きやすい道の舗装	-11.85	-23.74	-9.19	-10.11	-13.13
Q24:休憩できる場所	-3.48	-10.89	-9.04	-14.29	-7.77
Q25:街の案内板や解説板	1.44	-0.88	3.03	9.51	10.17
Q26:夜のライトアップ	-12.50	5.42	9.10	-1.47	19.88

5-6 第5章のまとめ

CART法は満足・不満が大きいばらつきに注目し、総合的満足度に強い影響を与える要素を抽出している。CS分析の重点改善分析の結果とほぼ一致した。CS分析では、それに加えて重点維持部分が抽出された。また、改善度の対象地に対する総合的な分析をおこなった。第5章では、成都市周辺本研究では成都市周辺の古鎮を事例に取り上げ、CS分析を用いて伝統的資源を有する観光地の持続性を図るための課題を洗い出してきた。結論は以下のようにまとめられる。

地域全体には

- A. 観光客は重視しており、現状での満足度が高く、今後も維持・継承していくべき強み資源（重点維持分野）として、「伝統的街並みの景観（全体の雰囲気）」「個々の歴史的建築物」「緑や水辺の自然景観」「伝統的な食事」といった地域資源、「街の清潔さ」「トイレの清潔さ」「休憩できる場所」といった基盤整備が挙げられた。観光客は重視していながら、現状では満足度が低く、最優先で改善をするべき弱み資源（重点改善分野）として「住民の生活様子を見る」「伝統的生活の説明を聞く」「伝統的生活文化を体験する」「夜のライトアップ」が挙げられた。伝統的資源を有する観光地を訪れた観光客満足度は基盤整備の充実、伝統的建築、自然環境のような有形の観光資源に支えられており、さらに伝統的生活文化、歴史的文化、街並みの全体の雰囲気のような無形の観光要素を磨くことで満足度をさらに高める可能性が示めされた。また、次に「水辺・緑の景観」「街並みの景観」「ライトアップ」の改善度もやや高かった。景観の整備が次の課題であることが示された。
- B. 改善度の分析から「住民の生活様子を見る」「伝統的な生活の説明を聞く」「伝統生活の体験」「住民とのふれあい」「地域の歴史上人物の物語」などいずれも伝統的生活を送る住民との関わる要素が挙げられた。歴史を継承して生活する住民を地域外への流出させない施策が必要である。

地域別には

- A. 錦里では、今後も維持・継承していくべき強み資源（重点維持分野）として、「伝統的街並みの景観（全体の雰囲気）」「個々の歴史的建築物」「緑の自然景観」といった地域資源、「トイレの清潔さ」といった基盤整備、「友人や家族との団らん」が挙げられた。観光客は重視していながら、現状では満足度が低く、最優先で改善をするべき弱み資源（重点改善分野）として「伝統的生活の説明を聞く」「歴史上の有名人物の物語」といった歴史・生活文化、買い物、麻雀が挙げられた。観光客の満足度は伝統的街並み、歴史建築物、緑の景観、トイレの衛生面に支えられており、さらに、生活文化の説明、歴史的文化、買い物などの観光要素を磨くことで満足度の向上につながる可能性が示された。また、「住民の生活の様子を見る」「伝統的な生活の説明を聞く」の改善度が高い。それに「歴史上の有名人物の物語」、「地域の歴史文化を知る・学ぶ」の要因が改善範囲に入っている。この結果から、地域

側にかかわる歴史文化、伝統的生活に関する見る・聞くといった文化面が最大の課題である。錦里は居住者はないので伝統的生活文化が見られないが、三国時代を背景とした錦里はその時代の歴史文化を説明することに取り組む施策が必要である。

- B. 寛窄巷子では、今後も維持・継承していくべき強み資源（重点維持分野）として、「伝統的街並みの景観（全体の雰囲気）」「個々の歴史的建築物」「伝統的食事」「お茶屋体験」といった地域資源、「夜のライトアップ」といった基盤整備が挙げられた。観光客は重視しているが、現状では満足度が低く、最優先で改善をするべき弱み資源（重点改善分野）として「住民生活の様子を見る」「伝統的生活の説明を聞く」「歴史上の有名人物の物語」「地域の歴史文化を知る・学ぶ」といった歴史・生活文化、非伝統的飲食・買い物、水辺の景観が挙げられた。観光客の満足度は、歴史的景観、伝統的食事・お茶屋体験、ライトアップに支えられており、さらに歴史・生活文化、非伝統的飲食・買い物などの観光要素を磨くことで満足度を高める可能性が示された。改善度の分析から、「水辺の景観」「歴史上の有名人物の物語」、「緑の景観」は改善度の前3位を占めている。それに、「伝統的な生活の説明を聞く」、「住民の生活の様子を見る」、「個々の歴史的建築物」の要因が改善範囲に入っている。寛窄巷子は住民がほとんど移住した歴史的文化を存分に観光客に宣伝し、歴史的景観の保存と継承に取り組み、自然景観をより豊かにするなどのような直接的な政策が考えられる。
- C. 文殊院では、今後も維持・継承していくべき強み資源（重点維持分野）として、「伝統的街並みの景観（全体の雰囲気）」「個々の歴史的建築物」「伝統的食事」といった地域資源、「歩きやすい道の舗装」「トイレの清潔さ」といった基盤整備、「歴史文化を知る・学ぶ」、「のんびり休息」が挙げられた。観光客は重視しているが、現状では満足度が低く、最優先で改善をするべき弱み資源（重点改善分野）として「お茶屋体験」「歴史上の有名人物の物語」といった歴史・生活文化、「夜のライトアップ」といった基盤整備、「住民とのふれあい」が挙げられた。観光客の満足度は、伝統的街並み景観・歴史的景観に浸りながら、家族や友人とのんびり過ごすことに支えられており、さらに歴史的・伝統的買い物・体験、住民とのふれあいなどの観光要素を磨くことで満足度を高める可能性が示された。改善度の分析から、「住民とのふれあい」、「地域の歴史文化を知る・学ぶ」が挙げられている。周辺に居住している住民が歴史文化を紹介することによって観光客とのふれあいの機会を提供するなどの直接的な対策が考えられる。「夜のライトアップ」の改善度がやや高いが、文殊院は（第2章 2-4-3）参観時間が限られているのでライトアップは不備している。
- D. 黄龍溪古鎮では、今後も維持・継承していくべき強み資源（重点維持分野）として、「個々の歴史的建築物」「緑の景観」といった地域資源、「街の清潔さ」「歩きやすい道の舗装」「トイレの清潔さ」といった基盤整備、「友人や家族との団らん」が挙げられた。観光客は重視しているが、現状では満足度が低く、最優先で改善をするべき弱み資源（重点改善分野）として「住民とのふれあい」「住民の生活の様子を見る」、「お茶屋体験」「伝統的生活の体験（耳がき）」「伝統的演劇を観る」といった伝統的生活文化、「伝統的品物を買う」「伝統的にこだわらない買い物」と

いった買い物が挙げられた。観光客の満足度は、個々の歴史的建築物、緑の景観といった目に見えるような有形の資源に支えられており、さらに地域住民自身にかかわる伝統的生活文化に関連する要素、買い物を磨くことで満足度を高める可能性が示された。改善度の分析から、「伝統的生活の体験（耳かきなど）」、「住民とのふれあい」「住民の生活の様子を見る」、「伝統的な生活の説明を聞く」などいずれも伝統的生活を送る住民自身との関わるに関連する要素が挙げられた。伝統的生活文化が薄弱化しつつあることを止めるには地元住民の存在が問題を解決する糸口となると考えられる。また、「伝統的品物を買う」、「伝統的にこだわらず買い物をする」「道の案内板や説明板」が改善範囲に入っているので、買い物への取り組みや街の案内板の説明の充実が必要である。

- E. 安仁古鎮では、今後も維持・継承していくべき強み資源（重点維持分野）として、「地域の歴史文化を知る・学ぶ」「緑の景観」といった地域資源、「街の清潔さ」「休憩できる場所」といった基盤整備、「のんびり過ごす」が挙げられた。観光客は重視していながら、現状では満足度が低く、最優先で改善をするべき弱み資源（重点改善分野）として「水辺の景観」「住民とのふれあい」「伝統的品物を買う」といった地域資源、伝統にこだわらない食事、ライトアップが挙げられた。観光客の満足度は、個々の歴史的建築物、緑の景観、基盤整備の充実といった目に見えるような資源に支えられている。改善度の分析から、「住民とのふれあい」、「伝統的な生活の説明を聞く」といった住民自身の課題、「街の案内板や説明板」「夜のライトアップ」といった基盤整備、「伝統的品物を買う」、「伝統にこだわらない食事する」「伝統的買い物」といった飲食購買が挙げられた。対策として、地域住民を観光活動に積極的に参与させることによって観光客との交流や住民の生活文化を見る・知る・体験を促進できると考えられる。観光客の滞在（第3章3-4-1 被験者の概要）では、安仁古鎮の宿泊の割合は他の4つの地域と比較して一番高いことから、観光客のニーズが高い要素であることが見て取れた。しかし、夜のライトアップは伝統的要素とは異なるものの、空間整備の課題であるために、地域住民の居住環境のあり方との整合性を図りながら整備すべきか検討する必要があると考えられる。また、飲食・買い物を豊かにする必要があると考えられる。

現代は、従来型のマスツーリズムの弊害を克服する「持続可能な観光」の創出が課題となっており、その中から新たな観光形態が生み出されていると予想される。観光の大衆化と新たな観光形態が同時発展する中国では全国各地で中央政府、地方自治体や地域の有志、NPOや旅行者など幅広い主体が協働・連携することによって持続可能な観光を掲げた観光開発が行われている。本研究で得られた知見は、中国成都市周辺という一部の地域における結果ではあるが、中国の中でも特に伝統的資源を活かす観光施策を進めている先進的地域の結果であり、中国国内観光の観光客ニーズの重要な傾向の一端を示しているものと考えられる。今後伝統的地域の観光地化における様々な問題が生じる地域において、持続的な観光振興に寄与するという点においても重要であると考えられる。

<第5章における註記>

注1) 本章は筆者が発表した「A study on Chinese ancient town tourism policy based on tourist satisfaction survey-in Chengdu city and the Suburb Area」を加筆し作成したものである。

注2) 偏差値とは、ある数値がサンプルの中でどのくらいの位置にいるかを表した無次元数である。平均値が50、標準偏差が10となるように標本変数を規格化したものである。偏差値を求める詳細は以下のとおりである。

① 平均値を求める $(\bar{x} = \frac{x_1 + x_2 + x_3 + \dots + x_n}{n})$ 。

② 平均値との差を求める $【= (x_i - \bar{x})^2】$ 。

③ 平均値との差の平方数を求める。

④ 分散を求める。

$$S^2 = \frac{(x_1 - \bar{x})^2 + (x_2 - \bar{x})^2 + \dots + (x_n - \bar{x})^2}{n}$$
$$= \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2$$

⑤ 標準偏差Sは次の公式で求めることができる。

$$S = \sqrt{S^2}$$
$$= \sqrt{\frac{1}{n} \sum_{n=1}^n (x_i - \bar{x})^2}$$

⑥ 平均値との差に10をかけ標準偏差で割る

$$\text{偏差値} = \frac{x_i - \bar{x}}{\text{標準偏差}} \times 10 + 50$$

ここで S^2 は分散、 n はデータの総数、 x_i は個々の数値、 \bar{x} は平均値を表す。

<第5章における参考文献>

- [1] Yan Liu , Isao Oyama , Shaowei Ning , and Li Li (2017): A study on Chinese ancient town tourism policy based on tourist satisfaction survey—in Chengdu city and the Suburb Area, *sustainability* 2017、9、1087、pp.1-13.
- [2] 清水苗穂子 (2005) : 中国における新たなエコツーリズムの潮流-国際環境 NGO の試み、東アジア研究、Vol.42、pp. 52.
- [3] 王金偉 (2016) : 自然災害地における「負の遺産」の観光マネジメントに関する研究-中国四川省「北川地震遺跡区」を事例として、西山徳明・西川克之・花岡拓郎、平井健文編『自然災害復興における観光創造』CATS 叢書第9号8章、北海道大学観光学高等研究センター、pp.75.
- [4] Pizam, A., Neumann, Y., & Reichel, A. (1978). Dimensions of tourist satisfaction with a destination area. *Annals of tourism Research*, 5 (3), pp.314-322.
- [5] 井門隆夫 (2005) : 観光・旅行分野における顧客満足度調査について、日本オペレーションズ・リサーチ学会.
- [6] 王金偉 (2016) : 自然災害地における「負の遺産」の観光マネジメントに関する研究-中国四川省「北川地震遺跡区」を事例として、西山徳明・西川克之・花岡拓郎、平井健文編『自然災害復興における観光創造』CATS 叢書第9号: 8章 87-96、北海道大学観光学高等研究センター.
- [7] 王金偉 (2015) : 中国の自然災害地における負の遺産解説に対する観光客の意識と評価-四川省「北川震災跡区」を事例として-、観光研究日本観光研究学会機関誌、Vol.27、No.1、pp.41-54.
- [8] 野瀬元子、古屋秀樹 (2008) : 日光と箱根における観光者の CS ポートフォリオ分析-外国人観光者と日本人観光客の比較-、土木学会第 63 回年次学術講演会、pp.679-680.
- [9] 外国人観光客受入に関する実態調査事業報告書、沖縄県、2016.
- [10] 藤吉普人・牛野正・九鬼康彰・星野敏 (2007) : 顧客満足度調査を用いた農産物直売所への顧客ニーズの把握と施設の改善方向、農村計画学会誌、26 巻論文特集号、pp.329-224.
- [11] 出口満・伊香賀俊治・白石靖幸・星旦二・大津由紀子・川久保俊・竹之下忠英・奥村公美 (2009) : 住民の住まい・コミュニティに対する意識と健康面の相関分析、日本建築学会関東支部研究報告集、pp.37-40.
- [12] 佐野充・田中絵里子 (2012) : 日本の伝統的地域景観、日本大学文理学部自然科学研究所研究紀要、No.47、pp.41-52.
- [13] 日野淳一、小野由樹子、松永敏子、会田雅彦 (2006) : 顧客満足とサービス因子の

- 評価構造に関する研究、Special edition paper、JR EAST Technical Review-No.16、pp.47-52.
- [14] 山本祐子・圓川隆夫（2000）：顧客満足度とロイヤリティの構造に関する研究、日本経営工学会論文誌、Vol.51、No.2、pp.144-152.
- [15] 鈴木聡士・沼田真吾（2010）：CS分析を活用した札幌都心の質的満足度評価、工学研究・北海学園大学大学院工学研究科紀要（10）、pp.3-8.
- [16] 南学・中西良文（2010）：CS分析を利用した授業の評価と改善—授業種別ごとのCS分析結果の比較—、三重大学教育学部附属教育実践総合センター紀要第30号、pp.39-43.
- [17] 松本幸正・塚本弥八郎（2004）：CS分析の考え方を導入した授業評価アンケートの分析と授業改善ポイントの定量化、京都大学高等教育研究第10号、pp.21-32.
- [18] 樋口正美他（2005）：CSの推進・向上策とその実際、日本テクノセンター.
- [19] 内田治・菅民郎（2006）：『EXCEL 品質管理』のための統計分析の本、エスミ株式会社.
- [20] 菅民郎（2001）：『EXCEL で学ぶ多変量解析入門』第5章「CS分析」、オーム社.
- [21] 日本都市計画学会関西支部新しい都市計画教程研究会（2011）：都市・まちづくり学入門、学芸出版社.
- [22] ウィキペディアフリー百科事典：<https://ja.wikipedia.org/wiki/顧客満足>
- [23] ブランド用語集：<http://japanbrand.jp/dic/>
- [24] デジタル大辞泉：<http://www.daijisen.jp/digital/>
- [25] 日本大百科全書：<https://japanknowledge.com/contents/nipponica/index.html>
- [26] 日本能率協会総合研究所：
http://jmar-im.com/cs/survey/?utm_source=yahoo&utm_medium=cpc&utm_campaign=ss
- [27] はじめてのCS：<http://www.hajimetenocs.jp/index.html>

第6章 観光客における期待度と満足度に関する分析

6-1 第6章の目的

第4章と第5章では総合的満足度と総合的満足度に影響を与える要素を中心として分析してきた。観光客はある期待を持って観光地を訪れ、観光地を体験した結果、何らかの満足あるいは不満を感じるだろう。観光客の観光前後の意識変化、すなわち、期待通りか、期待外れかが、重要となると考えられる論点として、期待度と満足度におけるギャップを明らかにすることが本章の目的である。

本章では、アンケート用紙の問5（観光客の期待度）と問10（観光客の満足度）を用いて分析をする。また、第3章の単純分析のところ、観光客の期待度と満足度については、考察したが、本章では、観光客の観光前後の意識変化、すなわち期待度と満足度にギャップが生じているかどうかをより深く掘り下げるために、観光前後の期待度と満足度の数値そのものの大きさに注目することではなく、標準得点による期待度と満足度を上位・中位・下位に分けながら、比較・分析を進める。

6-2 期待度に関する分析

観光客が伝統的観光地に求める要素を、対象地域で提供されている活動要素を考慮しながら過不足なく網羅的に取り上げた。図 6-1 に示すように歴史景観、自然景観、歴史文化、生活文化、伝統的食事といった 16 個要素を設置し、観光地毎に対する期待度について評価する。その中でその中で「※」で標示したものは地域の伝統的資源、「■」で標示したのは地域資源と関係ない資源である。

観光地に対する期待度を、「○○の観光地へは何を求めて来ましたか（○○は観光地の名前）」に対する複数選択に基づいて評価する。各評価項目に対して期待していると選択した観光客の全サンプルに対する割合をこの項目に対する期待度とする。

なお、基盤整備は観光地を来訪する目的となる観光資源ではないと考え、期待要素から排除された。

Q1：生活文化を知る	※	Q2：生活文化の体験をする	※
Q3：住民とのふれあい	※	Q4：歴史文化を知る	※
Q5：伝統的な街並み景観	※	Q6：個々の歴史的建築物	※
Q7：水辺や緑の自然の景観	■	Q8：伝統的な食事	※
Q9：伝統にこだわらない食事	■	Q10：伝統的な土産物	※
Q11：伝統にこだわらない買い物	■	Q12：麻雀など	■
Q13：友達や家族と団らん	■	Q14：伝統的演劇（川劇）を観る	※
Q15：のんびり過ごす（休息）	■	Q16：出会い（観光客同士）	■
記号の意味： ※：地域の伝統的資源 ■：地域の伝統的資源と無関係			
注：対象地では水辺・緑に伝統資源はない			

図 6-1 期待度におけるアンケート項目一覧

6-2-1 地域全体の期待度に関する分析

表 6-1 は観光客の観光前の期待度を示したものである。その中で「●」は標準得点が平均値＋標準偏差以上、「-」はその中間、「▼」は平均値-標準偏差、を意味する。

「Q1：伝統的な街並み景観（期待度：49.6%、標準得点：1.6）」、「Q9：伝統的な食事（期待度：49.1%；標準得点：1.6）」、「Q6：伝統的文化の体験をする（期待度：42.3%；標準得点：1.2）」が上位の期待度として挙げられた。次いで、「Q5：生活文化を知る（期待度：34.6%；標準得点：0.7）」、「Q2：個々の歴史的建築物（期待度：32.3%；標準得点：0.6）」、「Q4：歴史文化を知る（期待度：30.9%；標準得点：0.5）」が挙げられた。その結果から、地域資源の歴史景観、伝統的文化及び伝統的食事に対する期待度が高いことがわかる。そして、伝統的街並み景観、個々の歴史的建築物、緑や水辺の景観に対する期待度から見ると、観光客は「Q1：伝統的街並み景観」に比較的高い期待度を抱いていることが示されている。観光客は自然景観や個々の歴史的建築物より、伝統的な街の雰囲気を楽しむことがうかがわれる。

また、「Q5：生活文化を知る（期待度：34.6%；標準得点：0.7）」「Q6：生活文化の体験を知る（期待度：42.3%；標準得点：1.2）」「Q4：歴史文化を知る（期待度：30.9%；標準得点：0.5）」といった伝統的文化の面からみると、観光客は自然景観や歴史的建築物を見ることのみならず、文化を体験することをも望んでいることがわかる。一方で、「Q7：住民とのふれあい（8.2%）」に期待する観光客はほとんどいないことから、現在商業化が進む中で伝統的観光地に商業者が大量に増え、地元の住民との関係が薄くなっていることに起因すると考えられる。

続いて、「Q9：伝統的食事」、「Q10：伝統的な土産物（期待度：19.6%；標準得点：-0.2）」に対する期待度が「Q11：伝統にこだわらない食事（期待度：11.4%；標準得点：-0.7）」、「Q12：伝統にこだわらない買い物（期待度：4.1%；標準得点：-1.2）」より高いことから分析してみると、観光客が地域伝統的資源により期待していることがうかがえる。そして食事と比較すると、観光客は買い物にあまり期待していないことがわかる。

観光行動からみると、伝統的観光地を訪れた観光客は、主に「Q15：友達や家族との団らん（期待度：23.2%；標準得点：0.0）」や「Q13：のんびり過ごすこと（期待度：27.8%；標準得点：0.3）」に対して中位の期待度を得ているが、観光客同士の出会いにはあまり期待していない。

表 6-1 地域全体における観光客の期待度

観光要素 ※は歴史文化資源、 無印はそれ以外		期待度	
			標準得点
景 観	Q1.伝統的な街並み景観 ※	49.6%	1.6 ●
	Q2.個々の歴史的建築物 ※	32.3%	0.6 -
	Q3.水辺や緑の自然の景観	27.8%	0.3 -
文 化	Q4.歴史文化を知る ※	30.9%	0.5 -
	Q5.生活文化を知る ※	34.6%	0.7 -
	Q6.生活文化の体験をする ※	42.3%	1.2 ●
	Q7.住民とのふれあい ※	8.2%	-0.9 -
	Q8.伝統的演劇を観る ※	2.3%	-1.3 ▼
飲 食 購 買	Q9.伝統的な食事 ※	49.1%	1.6 ●
	Q10.伝統的な土産物 ※	19.6%	-0.2 -
	Q11.伝統にこだわらない食事	11.4%	-0.7 -
	Q12.伝統にこだわらない買い物	4.1%	-1.2 ▼
保 養	Q13.のんびり過ごす（休息）	27.8%	0.3 -
	Q14.麻雀など	4.6%	-1.1 ▼
	Q15.友達や家族と団らん	23.2%	0.0 -
	Q16.出会い（観光客同士）	3.2%	-1.2 ▼
標準偏差 σ		16.3%	1.0
平均値 μ		23.2%	0.0

標準得点： $z=(x-\mu)/\sigma$ （ x ：期待度または満足度または重視度、 μ ：それらの平均値、 σ ：それらの標準偏差）

● $\mu+\sigma$ 以上、▼ $\mu-\sigma$ 以下、-その中間、▼▼ $\mu-2\sigma$ 以下

6-2-2 地域別の期待度に関する分析

「Q1：伝統的な街並み景観」「Q2：個々の歴史的建築物」「Q3：水辺や緑の自然の景観」といった景観類では、文殊院は他の4つの地域と顕著な違いが見られる。寛窄巷子、錦里、黄龍溪古鎮と安仁古鎮では、いずれも伝統的街並み景観が最も期待されている要素として挙げられている。次いで、個々の歴史的建築物と自然景観である。それに対しては、文殊院は、「Q2：個々の歴史的建築物」「Q3：水辺や緑の自然の景観」が最も期待される要素として挙げられた。次いで、伝統的街並み景観は中間の期待度を得ていた。

文化の面では、「Q4：歴史文化を知る」「Q5：生活文化を知る」「Q6：生活文化の体験をする」といった伝統文化に対する期待度がいずれの地域でも上位・中位であることから、伝統文化の要素が求められる。「Q8：伝統的演劇を見る」は、下位の期待である。

飲食購買では、「伝統的食事」のほうが、寛窄巷子、錦里、黄龍溪古鎮及び安仁古鎮は上位の期待度が得られているが、文殊院は中位の期待度にとどまる。それは文殊院が成都市の仏教の中心に深く関係していると考えられる。また、伝統的な土産物や伝統的にこだわらない食事や買い物に関しては、いずれの地域では中位或いは下位の期待度であった。

「Q13：のんびり過ごす（休息）」、「Q15：友達や家族との団らん」に対しては、いずれの地域では中間の期待度が得られているが、「Q14：麻雀など」、「Q16：出会い（観光客同士）」は下位の期待にとどまっている。

表 6-2 地域別における観光客の期待

観光要素 ※は歴史文化資源、 無印はそれ以外		寛窄巷子		錦里		文殊院		黄龍溪		安仁	
		期待度	標準得点	期待度	標準得点	期待度	標準得点	期待度	標準得点	期待度	標準得点
景観	Q1.伝統的な街並み景観 ※	62.7%	2.2 ●	53.6%	1.6 ●	36.4%	1.0 -	61.8%	1.9 ●	37.3%	1.1 ●
	Q2.個々の歴史的建築物 ※	33.6%	0.6 -	16.4%	-0.3 -	40.0%	1.2 ●	30.0%	0.3 -	34.5%	0.9 -
	Q3.水辺や緑の自然の景観	14.5%	-0.5 -	11.8%	-0.5 -	40.0%	1.2 ●	30.0%	0.3 -	25.5%	0.2 -
文化	Q4.歴史文化を知る ※	35.5%	0.7 -	34.5%	0.6 -	37.3%	1.0 ●	32.7%	0.5 -	29.1%	0.4 -
	Q5.生活文化を知る ※	46.4%	1.3 ●	31.8%	0.5 -	44.5%	1.5 ●	33.6%	0.5 -	35.5%	0.9 -
	Q6.生活文化の体験をする ※	37.3%	0.8 ●	41.8%	1.0 ●	31.8%	0.7 -	45.5%	1.1 ●	39.1%	1.2 ●
	Q7.住民とのふれあい ※	10.9%	-0.7 -	2.7%	-1.0 -	5.5%	-0.8 -	5.5%	-0.9 -	10.9%	-0.9 -
	Q8.伝統的演劇を観る ※	11.8%	-0.6 -	9.1%	-0.7 ▼	0.9%	-1.1 ▼	0.9%	-1.1 ▼	3.6%	-1.5 ▼
飲食購買	Q9.伝統的な食事 ※	46.4%	1.3 ●	67.3%	2.3 ●	15.5%	-0.2 -	55.5%	1.6 ●	42.7%	1.5 ●
	Q10.伝統的な土産物 ※	10.0%	-0.7 -	12.7%	-0.5 -	3.6%	-0.9 -	13.6%	-0.5 -	25.5%	0.2 -
	Q11.伝統にこだわらない食事	9.1%	-0.8 -	14.5%	-0.4 -	7.3%	-0.7 -	6.4%	-0.8 -	16.4%	-0.5 -
	Q12.伝統にこだわらない買い物	3.6%	-1.1 ▼	3.6%	-0.9 -	0.9%	-1.1 ▼	2.7%	-1.0 ▼	5.5%	-1.4 ▼
	Q13.のんびり過ごす (休息)	20.0%	-0.2 -	30.0%	0.4 -	32.7%	0.8 -	29.1%	0.3 -	26.4%	0.2 -
保養	Q14.麻雀など	2.7%	-1.1 ▼	0.9%	-1.1 ▼	0.9%	-1.1 ▼	0.9%	-1.1 ▼	8.2%	-1.1 ▼
	Q15.友達や家族と団らん	21.8%	-0.1 -	21.8%	0.0 -	9.1%	-0.6 -	20.9%	-0.1 -	25.5%	0.2 -
	Q16.出会い (観光客同士)	1.8%	-1.2 ▼	0.0%	-1.1 ▼	1.8%	-1.0 ▼	0.0%	-1.2 ▼	6.4%	-1.3 ▼
標準偏差 σ		18.4%	1.0	19.7%	1.0	17.3%	1.0	20.0%	1.0	13.1%	1.0
平均値 μ		23.0%	0.0	22.0%	0.0	19.3%	0.0	23.1%	0.0	23.3%	0.0

標準得点： $z=(x-\mu)/\sigma$ (x :期待度または満足度または重視度、 μ :それらの平均値、 σ :それらの標準偏差)

● $\mu + \sigma$ 以上、▼ $\mu - \sigma$ 以下、-その中間、▼ $\mu - 2\sigma$ 以下

6-3 満足度に関する分析

ここでは、観光客が対象観光地を観光後に満足した可能性のある要素を、対象地域で提供されている活動要素を考慮しながら筆者のプレ調査と現地調査の考察の結果から、図6-2の示したようにアンケート項目を作成した。その中で「※」で標示したものは地域の歴史文化的資源、「■」で標示したのは地域資源と関係ない資源、「▲」で標示したのは基盤整備である。また、対象地では水辺や緑に伝統的景観はない。

そして、各項目に対して体験後の満足度を5段階評価（満足・やや満足・どちらでもない・やや不満・不満）で質問した。そして「満足」、「やや満足」を「満足」とし、各項目で「満足」とした割合を観光客の満足度として考察した。

Q1:住民の生活の様子をみる	※	Q2:伝統的な生活の説明を聞く	※
Q3:伝統生活の体験(耳搔きなど)	※	Q4:お茶屋体験	※
Q5:住民とのふれあい	※	Q6:伝統的演劇(川劇など)を観る	※
Q7:個々の歴史的建築物	※	Q8:伝統的な街並み景観(全体の雰囲気)	※
Q9:水辺の景観	▲	Q10:緑の景観	▲
Q11:歴史上の有名人物の物語	※	Q12:地域の歴史文化を知る・学ぶ	※
Q13:伝統的な食事をする	※	Q14:伝統にこだわらず食事する	■
Q15:伝統的な品物を買う	※	Q16:伝統にこだわらない買い物	■
Q17:のんびり過ごす(休息)	■	Q18:麻雀・トランプなどを楽しむ	■
Q19:友人や家族との団らん	■	Q20:出会い(観光客同士)	■
Q21:街の清潔さ	▲	Q22:トイレの清潔さ	▲
Q23:歩きやすい道の舗装	▲	Q24:休憩できる場所	▲
Q25:街の案内板や解説板	▲	Q26:夜のライトアップ	▲
記号の意味 ※：地域の伝統資源 ■：地域資源と無関係 ▲：基盤整備			
(注：対象地では水辺・緑に伝統資源はない)			

図 6-2 総合的満足度に影響を与えると考えられる要素

6-3-1 地域全体の満足度に関する分析

表 6-3 は地域全体における満足度および標準得点を示したものである。

景観についてみると、「Q8：伝統的街並み景観（全体の雰囲気）（満足度得点 1.2）」「Q7：個々の歴史建築物（満足度得点 1.1）」が高い満足度を満たしていることがわかった。次いでは、「Q9：水辺の景観（満足度得点 0.9）」「Q10：緑の景観（満足度得点 0.9）」はやや満足度を得ている。その結果、歴史的景観や自然景観に満喫していることが推察される。

伝統的文化にかかわる文化要素では、「Q12：地域の歴史文化を知る・学ぶ（満足度得点 0.0）」「Q1：住民の生活様子を見る（満足度得点-0.2）」「Q11：歴史の有名人物のお話（満足度得点-0.7）」「Q2：伝統的な生活の説明を聞く（満足度得点-0.8）」「Q5：住民とのふれあい（満足度得点-0.9）」「Q3：伝統的生活の体験（耳かきなど）（満足度得点-1.5）」「Q6：伝統的演劇を見る（満足度得点-1.5）」はほぼ中間或いは比較的下位の満足が得られている。その中で、「伝統的演劇を見る」については演劇の回数が限られているため、多くの観光客が体験できなかったことによって全体的に満足度は低くなったと考えられる。

基本行動についてみると、「Q13：伝統的な食事をする（満足度得点 1.1）」に高い満足度を示し、「Q14：伝統的にこだわらない食事（満足度得点 0.4）」に対して、伝統的な食のほうに観光客に好まれていることが見てとれる。一方で「Q15：伝統的な品物を買う」「Q16：伝統的にこだわらない買い物をする」においてはいずれも中位で高い満足度を示していない。そして、「Q17：のんびり過ごす」「Q19：友達や家族との団らん」の満足度（満足度得点 1.0）が高く、「Q20：出会い（満足度得点 0.0）」の満足度が低いことがわかる。観光客は知り合いとゆっくり過ごすことに満足していることがうかがわれる。

基盤整備については、「Q23：歩きやすい道の舗装」「Q24：休憩できる場所」「Q25：街の清潔さ」「Q22：トイレの清潔さ」について高い満足度を得ているが、「Q25：街の案内板や説明板」「Q26：夜のライトアップ」に対する満足度が低いことから、街の説明板や夜のライトアップに不備であることに起因することが考えられる。

表 6-3 地域全体における満足度

観光要素 ※は歴史文化資源、 無印はそれ以外	満足度		
		標準得点	
Q1:住民の生活の様子をみる ※	48.6%	-0.2	-
Q2:伝統的な生活の説明を聞く ※	36.7%	-0.8	-
Q3:伝統生活の体験（耳搔きなど） ※	23.4%	-1.5	▼
Q4:お茶屋体験 ※	58.7%	0.3	-
Q5:住民とのふれあい ※	35.8%	-0.9	-
Q6:伝統的演劇（川劇など）を観る ※	22.5%	-1.5	▼
Q7:個々の歴史的建築物 ※	73.4%	1.1	●
Q8:伝統的な街並み景観（全体の雰囲気） ※	76.1%	1.2	●
Q9:水辺の景観	69.3%	0.9	-
Q10:緑の景観	68.8%	0.9	-
Q11:歴史上の有名人物の物語 ※	38.1%	-0.7	-
Q12:地域の歴史文化を知る・学ぶ ※	51.8%	0.0	-
Q13:伝統的な食事をする ※	72.9%	1.1	●
Q14:伝統にこだわらず食事する	42.2%	0.4	-
Q15:伝統的な品物を買う ※	42.7%	0.4	-
Q16:伝統にこだわらず買い物をする	32.1%	0.2	-
Q17:のんびり過ごす（休息）	70.2%	1.0	-
Q18:麻雀・トランプなどを楽しむ	37.6%	0.4	-
Q19:友人や家族との団らん	69.3%	1.0	-
Q20:出会い（観光客同士）	21.1%	0.0	▼
Q21:街の清潔さ	72.9%	1.0	●
Q22:トイレの清潔さ	63.3%	0.8	-
Q23:歩きやすい道の舗装	82.6%	1.2	●
Q24:休憩できる場所	74.8%	1.1	●
Q25:街の案内板や解説板	38.1%	0.4	-
Q26:夜のライトアップ	37.2%	0.3	-
標準偏差 σ	19.3%	1.0	
平均値 μ	52.3%	0.3	

標準得点： $z=(x-\mu)/\sigma$ （ x ：期待度または満足度または重視度、 μ ：それらの平均値、 σ ：それらの標準偏差）

● $\mu+\sigma$ 以上、▼ $\mu-\sigma$ 以下、-その中間、▼▼ $\mu-2\sigma$ 以下

6-3-2 地域別の満足度に関する分析

表 6-4 と表 6-5 は調査地ごとの各観光要素の満足度を示したものである。それぞれの調査地域の満足度の平均値をみると、錦里は 49.5%、寛窄巷子は 51.3%、文殊院は 47.0%、黄龍溪古鎮は 50.2%、安仁古鎮は 54.3%である。いずれの地域でも、満足度の平均値は 50.0%前後であることから、観光客はいずれの地域に満足していることがうかがわれる。特に、安仁古鎮と寛窄巷子は他の地域よりやや高いが、大きな差異は見られない。

歴史文化資源について見ると、いずれの地域でも、「Q8：伝統的街並み景観（全体の雰囲気）」「Q7：個々の歴史建築物」とった地域の歴史的景観に対して平均値を上回る満足度を得ている。伝統的街並み景観や個々の歴史建築物を伝統的地域の中核資源として、重視し、修復等の取り組みをされていることがその一因であると考えられる。

錦里は「街並み景観」は他地域と同程度の満足度だが、「個々の歴史的建築物」は他地域に比べて満足度がやや低い。錦里は伝統的街並みを再現した現代の商業街であり、偽物の建築であることが影響していると考えられる。

「水辺の景観」「緑の景観」といった自然景観に対する満足度は地域によって大きな差異が見られる。黄龍溪古鎮（水辺の景観：満足度得点 1.6、緑の景観：満足度得点 1.2）は水辺資源に優れており、水路沿いに植栽が整備されているから、高い満足度が得られ、高評されている^{注1}）。文殊院（緑の景観：満足度得点 1.3）は水辺や水路といった水資源にかけているが、寺院内に何百年以上の樹木が数多く立ち聳えているといった緑色景観に富んでいるので、緑の景観に高い評価を得ていると考えられる。それに対して、寛窄巷子、安仁古鎮は水辺資源や緑の自然資源にかけていることが低い満足度を得ている原因だと考えられる。

一方で「Q12：歴史文化を知る・学ぶ」「Q1：住民の生活様子を見る」「Q11：歴史の有名人物の物語」「Q2：伝統的な生活の説明を聞く」「Q5：住民とのふれあい」「Q3：伝統的生活の体験をする」「Q6：伝統的演劇を見る」といった歴史文化・生活文化の方面から見ると、いずれの地域では、満足度が中位あるいは比較的下位のこととわかる。

「Q4：お茶屋体験」に対して地域によって差異が顕著である。安仁古鎮以外の他の地域では、お茶屋体験に対し、中位或いは比較的低い満足度にとどまっていることが見て取れる。安仁古鎮は 78.2%以上の割合を占めており、上位の満足度を得ている。現地の観察調査により、安仁古鎮では、お茶屋で友人や家族と交流したり、親睦関係を深めたり、麻雀・トランプなどを楽しんだり、休息したりする風景がよく見られる。非地域資源における「のんびり休息」「友人や家族との団らん」「麻雀やトランプなどを楽しむ」に対する上位あるいは中位の満足度を得ていることから解釈できる。

観光客の飲食購買から分析すると、「Q13：伝統的な食事をする」についてはいずれの地域でも、上位或いは中位の満足度を得ており、大きな差異は見られない。その中で、錦

里（満足度得点 1.9）と黄龍溪古鎮（満足度得点 1.1）は上位の満足度を満たしているのに対して、寛窄巷子（満足度得点 0.7）、文殊院（満足度得点 0.8）、安仁古鎮（満足度得点 0.8）は中位の満足度を得ている。四川には、伝統的に受け継がれた名品から新しい開発商品まで、数え切れないほどの小吃があるので有名である。伝統的観光地の伝統的食事を吟味することは観光行動の欠かせない一環であると考えられる。地域別に注目すると、錦里はオープンキッチンの屋台料理店が多く、牛肉焼きもち、醸造酒、涼麵、糖油菓子などが有名である。黄龍溪古鎮には、昔、宮廷の貢物として名高く民間にも人気がある芝麻菓子や地元産の山椒で作った黄辣丁が有名である。安仁古鎮は泳血旺や黄鶏肉や豆花がある。5 地域では、伝統的な食を現場で作っている風景が見られる。ただ味わうだけことでなく、その美味しい食の作り方の過程も体験できる。

「Q13：伝統的な食事をする」に比較して「Q14：伝統的にこだわらない食事」に対して中位満足度を得ていることから、伝統的な食のほうが観光客に好まれていることが見てとれる。一方で「Q15：伝統的な品物を買う」「Q16：伝統的にこだわらない買い物をする」においてはいずれも中位あるいは下位で高い満足度を示していない。

観光行動では、「Q17：のんびり過ごす」「Q19：友達や家族との団らん」の満足度が中位であり、「出会い」の満足度が低いことがわかった。観光客は知り合いとゆっくり過ごすことに満足していることがうかがわれる。

基盤整備について見ると、「Q23：歩きやすい道の舗装」については、いずれの地域でも、上位の満足度を得ており、街の環境衛生度や歩きやすさは基盤整備には充実している。「Q21：街の清潔さ」「Q22：トイレの清潔さ」といった環境衛生では、寛窄巷子、錦里の方がその他の地域より満足度が高く比較的充実している。特に、寛窄巷子は環境の衛生、極めて高い評価を得て、90%を達している。「Q24：休憩できる場所」では、郊外の黄龍溪古鎮と安仁古鎮は市内の寛窄巷子、錦里、文殊院より満足度が高く、整っているようである。「Q26：夜のライトアップ」に対する満足度が地域によって顕著な違いが見られる。錦里は蜀漢時代の街並みを再現した観光地であり、舞台も存在することから、錦里商店街をネオンの光が染め、昼間とは一味違う夜景に包まれた街並を満喫することができるように、夜になっても非常に明るくライトアップされている。そのために、ライトアップに対し、錦里は圧倒的に満足度を得ていると推察される。「Q25：街の案内板や説明板」に対する満足度は低い（寛窄巷子は中位の満足度であるが、それ以外の4つの地域は下位の満足度である）ことから、いずれの地域でも、街の説明板に不備があると考えられる。

表 6-4 地域別における満足度 (1)

観光要素 ※は歴史文化資源、 無印はそれ以外	寛窄巷子		錦里		文殊院		黄龍溪古鎮		安仁古鎮							
	満足度		満足度		満足度		満足度		満足度							
	標準得点		標準得点		標準得点		標準得点		標準得点							
Q1:住民の生活の様子をみる	※	46.7%	-0.2	-	35.5%	-0.9	-	49.1%	0.1	-	41.1%	-0.3	-	55.5%	0.1	-
Q2:伝統的な生活の説明を聞く	※	37.4%	-0.7	-	32.7%	-1.1	▼	36.4%	-0.6	-	33.6%	-0.6	-	40.0%	-0.9	-
Q3:伝統生活の体験(耳掻きなど)	※	30.8%	-1.0	-	30.0%	-1.2	▼	19.1%	-1.7	▼	16.8%	-1.3	▼	30.0%	-1.6	▼
Q4:お茶屋体験	※	55.1%	0.2	-	52.7%	0.2	-	44.5%	-0.1	-	39.3%	-0.4	-	78.2%	1.6	●
Q5:住民とのふれあい	※	34.6%	-0.8	-	33.6%	-1.0	▼	32.7%	-0.8	-	27.1%	-0.9	-	44.5%	-0.6	-
Q6:伝統的演劇(川劇など)を観る	※	39.3%	-0.6	-	47.3%	-0.1	-	24.5%	-1.3	▼	17.8%	-1.2	▼	27.3%	-1.7	▼
Q7:個々の歴史的建築物	※	65.4%	0.7	-	55.5%	0.4	-	71.8%	1.5	●	76.6%	1.0	●	70.0%	1.0	●
Q8:伝統的な街並み景観(全体の雰囲気)	※	73.8%	1.1	●	69.1%	1.2	●	62.7%	0.9	-	86.0%	1.4	●	66.4%	0.8	-
Q9:水辺の景観		40.2%	-0.5	-	55.5%	0.4	-	44.5%	-0.1	-	91.6%	1.6	●	47.3%	-0.5	-
Q10:緑の景観		52.3%	0.0	-	51.8%	0.1	-	68.2%	1.3	●	82.2%	1.2	●	55.5%	0.1	-
Q11:歴史上の有名人物の物語	※	37.4%	-0.7	-	48.2%	-0.1	-	43.6%	-0.2	-	16.8%	-1.3	▼	59.1%	0.3	-
Q12:地域の歴史文化を知る・学ぶ	※	46.7%	-0.2	-	40.0%	-0.6	-	58.2%	0.7	-	46.7%	-0.1	-	57.3%	0.2	-
Q13:伝統的な食事をする	※	65.4%	0.7	-	79.1%	1.9	●	60.0%	0.8	-	78.5%	1.1	●	67.3%	0.8	-
標準偏差 σ		20.6%	1.0		15.9%	1.0		16.9%	1.0		26.2%	1.0		15.4%	1.0	
平均値 μ		51.3%	0.3		49.5%	0.3		47.0%	0.3		50.2%	0.2		54.3%	0.4	

標準得点： $z=(x-\mu)/\sigma$ (x :期待度または満足度または重視度、 μ :それらの平均値、 σ :それらの標準偏差)

● $\mu+\sigma$ 以上、▼ $\mu-\sigma$ 以下、-その中間、▼▼ $\mu-2\sigma$ 以下

表6-5 地域別における満足度（2）

観光要素 ※は歴史文化資源、 無印はそれ以外	寛窄巷子		錦里		文殊院		黄龍溪古鎮		安仁古鎮	
	満足度		満足度		満足度		満足度		満足度	
	標準得点	標準得点	標準得点	標準得点	標準得点	標準得点	標準得点	標準得点	標準得点	標準得点
Q14:伝統にこだわらず食事する	38.3%	0.3 -	48.2%	0.7 -	40.0%	0.5 -	33.6%	0.1 -	50.0%	0.6 -
Q15:伝統的な品物を買う	37.4%	0.3 -	41.8%	0.5 -	34.5%	0.4 -	43.9%	0.4 -	40.9%	0.5 -
Q16:伝統にこだわらず買い物をする	26.2%	0.1 ▼	30.9%	0.3 ▼	24.8%	0.2 ▼	30.8%	0.1 -	33.6%	0.3 ▼
Q17:のんびり過ごす（休息）	67.3%	0.9 -	60.9%	0.9 -	71.8%	1.2 ●	73.8%	0.9 -	66.4%	0.9 -
Q18:麻雀・トランプなどの団らん	23.4%	0.1 ▼	30.0%	0.3 ▼	26.4%	0.2 ▼	24.3%	0.0 -	50.9%	0.7 -
Q19:友人や家族との団らん	66.4%	0.9 -	55.5%	0.8 -	56.4%	0.8 -	68.2%	0.8 -	70.0%	1.0 ●
Q20:出会い（観光客同士）	19.6%	0.0 ▼	18.2%	0.0 ▼	23.6%	0.1 ▼	10.3%	-0.3 ▼	31.8%	0.3 ▼
Q21:街の清潔さ	91.6%	1.4 ●	69.1%	1.1 ●	63.6%	1.0 -	76.6%	1.0 ●	69.1%	1.0 -
Q22:トイレの清潔さ	89.7%	1.3 ●	66.4%	1.0 ●	60.9%	0.9 -	58.9%	0.7 -	67.3%	1.0 -
Q23:歩きやすい道の舗装	91.6%	1.4 ●	70.0%	1.1 ●	70.0%	1.1 ●	86.9%	1.2 ●	78.2%	1.2 ●
Q24:休憩できる場所	67.3%	0.9 -	50.0%	0.7 -	62.7%	1.0 -	78.5%	1.0 ●	70.9%	1.0 ●
Q25:街の案内板や解説板	45.8%	0.5 -	40.0%	0.5 -	36.4%	0.4 -	29.9%	0.1 -	45.5%	0.6 -
Q26:夜のライトアップ	44.9%	0.5 -	74.5%	1.2 ●	34.5%	0.4 -	35.5%	0.2 -	38.2%	0.4 ▼
標準偏差 σ	20.6%	1.0	15.9%	1.0	16.9%	1.0	26.2%	1.0	15.4%	1.0
平均値 μ	51.3%	0.3	49.5%	0.3	47.0%	0.3	50.2%	0.2	54.3%	0.4

標準得点： $z = (x - \mu) / \sigma$ （ x ：期待度または満足度または重視度、 μ ：それらの平均値、 σ ：それらの標準偏差）

● $\mu + \sigma$ 以上、▼ $\mu - \sigma$ 以下、-その中間、▼▼ $\mu - 2\sigma$ 以下

6-4 期待度と満足度のギャップに関する分析

対象地域で提供されている施設・環境等の実態を考慮して、観光客が対象観光地に求めていると考えられる要素を、過不足なく網羅的に取り上げ 16 個の観光要素を設定した。その項目を表 6-6 に示す。

※で表記した項目は地域の伝統資源的要素である。

- 建築・景観 (Q1、Q2)、
- 歴史文化を知る (Q4、Q5)、
- 歴史文化を体験する (Q6、Q7)、
- 伝統芸能 (Q8)、伝統食 (Q9)、
- 伝統物産 (Q10)

それ以外の項目は伝統資源ではない要素であり、自然 (Q3)、一般食 (Q11)、一般の買い物 (Q12)、休息 (Q13)、麻雀 (Q14)、団らん (Q15)、出会い (Q16) である。

観光客の満足した観光要素および商業者の重視する観光要素については、各観光要素に対する 5 段階評価で質問した。観光客が期待する観光要素はプレ調査を試行したところ 5 段階評価は回答が難しいと判断されたため、欠損値を防ぐために、各観光要素に対する期待の「あり／なし」で質問し、期待する要素を複数挙げてもらった。

各項目の「期待度」は「その項目を期待した人の数／回答者数」で算出する。「満足度」は「〈満足した〉および〈やや満足した〉と回答した人の数／回答者数」で算出する。なお、満足に関する質問項目の一部は期待に関する質問項目を細分化していた。例えば、「水辺の景観」と「緑の景観」である。この場合、2 つの質問項目の平均満足度を「Q3：水辺や緑の自然の景観」の満足度とした。基盤整備の状況は“期待”することはないと考え、今回の分析では取り扱わない。

表 6-6 期待度と満足度の対応表

		期待の質問項目	満足の質問項目	
※	景観	1.伝統的な街並み景観		
※		2.個々の歴史的建築物		
		3.水辺や緑の自然の景観	水辺の景観 緑の景観	
※	文化	4.歴史文化を知る	地域の歴史文化を知る学ぶ 歴史上の有名人物の物語	
※		5.生活文化を知る	住民の生活の様子をみる 伝統的な生活の説明を聞く	
※		6.生活文化を体験する		
※		7.住民とのふれあい		
※		8.伝統的演劇（川劇や踊り）を観る		
※		飲食・購買	9.伝統的な食事	伝統的な食事をする お茶屋体験
※			10.伝統的な土産物	
	11.伝統にこだわらない食事			
	12.伝統にこだわらない買い物			
	保養	13.のんびり過ごす（休息）		
		14.麻雀などを楽しむ		
		15.友人や家族との団らん		
		16.出会い（観光客同士）		
	基盤整備	なし	歩きやすい道の舗装 休憩できる場所 街の案内板や解説板 街の清潔さ トイレの清潔さ 夜のライトアップ	

6-4-1 地域全体における期待度と満足度のギャップについて

観光客の満足度と期待度を比較し、観光客の期待度に対する満足度の差(満足度-期待度)を指標とする。期待度に対して満足度が大きいほど観光客がより満足すると考えられる。逆に期待度に反して満足が大きく低下していれば、その要素に関して何らかの改善策が必要されると考えられる。期待度の平均値は 23.2%に対して、満足度の平均値は 49.6%と、ほとんどの要素において満足度は期待度を上回っているが、質問形式が異なるため単純には比較できない。回答者は質問された観光要素を比較しながら相対的に期待・満足した項目を選択していると考えられる。そこで 16 の観光要素の中で相対的にどの観光要素をより期待したか満足したかを見るために標準得点で比較する。

表 6-7 は全体における満足度と期待度を比較し、期待度、満足度及びギャップを示したものである。

期待した観光要素(表中●:標準得点が平均値+標準偏差以上)は「伝統的な街並み景観(期待度得点 1.6)」「伝統的な食事(1.6)」「生活文化を体験する(1.2)」であり、次いで(表中-のうちプラスの期待度のものを挙げると)「生活文化を知る(0.7)」「個々の歴史建築物(0.6)」「歴史文化を知る(0.5)」が挙げられた。

満足した観光要素(表中●:標準得点が平均値+標準偏差以上)は「伝統的な街並み景観(満足度得点 1.4)」「個々の歴史的建築物(1.2)」「伝統的食事(1.2)」「のんびり過ごす(1.1)」「友達家族との団らん(1.0)」「水辺や緑の自然景観(1.0)」であった(表中のうちプラスの満足度は以上の 6 要素)。

表 6-7 中の「ギャップ」は満足度の標準得点と期待度の標準得点の差である。

期待していた観光要素で、満足も得られた観光要素(満足が+標準偏差以上(●)でギャップが±標準偏差内(-))、すなわち、期待した通りの満足を得られた観光要素は、「Q1:伝統的な街並み景観(1.6→1.4:期待●→満足●)」「Q9:伝統的な食事(1.6→1.2:期待●→満足●)」であった。

期待はやや低く中位(-でプラス)であるが、満足を得られた(●)観光要素は「個々の歴史建築物(0.6→1.2:期待-→満足●)」「Q3:水辺や緑の自然の景観(0.3→1.0:期待度-→満足●)」であった。これらは期待通りの満足を観光客に与えており今後も維持すべき項目と言える。

一方で期待が大きかったにもかかわらず、満足が得られなかった観光要素は、「Q4:歴史文化を知る(0.5→-0.2)(期待-→満足▼)」「Q5:生活文化を知る(0.7→-0.4)(期待-→満足▼)」「Q6:生活文化の体験をする(1.2→-0.4)(期待●→満足▼▼)」であった。

歴史文化・生活文化に関しては、期待していたような伝統的生活を見たり体験したりすることが得られず、評価が下がったと考えられる。さらに調査地域では、地域住民が居住しているにもかかわらず、生活文化が見られないのは、商業化が進む中、店舗の経営者が

ほとんど外来者であることもその原因の一つと考えられる。

観光客は伝統的地域における伝統的建築や街並み景観などのような有形の伝統的資源に対して期待した満足度が得られているが、「生活文化の体験をする」や「生活文化を知る」といった無形の伝統的生活文化に対しては期待したほどの満足度を得られず、期待度と満足度におけるネガティブなギャップが生じている。さらに明らかなことは、それら物質的な建築・遺物や古鎮を取り巻く歴史景観以外に、伝統的観光地の住民の生活スタイルや彼らの間で伝承されてきた生活文化、及びその様々な民俗伝統などが、伝統的観光地の価値と魅力の中で観光客に注目されていることが示されている。今後の観光開発の中で、文化景観を保護しなければならないだけでなく、伝統的観光地における伝統的文化の伝承にも気を配ることが重要であると考えられる。地域住民の生活スタイルは伝統的地域の発展の基礎となりうる可能性がある。

伝統的地域においては、伝統的街並み、個々の歴史建築物といった有形の資源が重視化され、保存されているが、残念ながら、伝統的生活文化に関係する無形の資源は未だに重視されていない。また、伝統的地域では歴史的建築がほとんどお土産物屋や飲食店として利用されている状況がよく見られる。それは経済的要因が深く作用していることに関わっていると考えられる。それに対して伝統的生活文化が伝統的地域にとっての重要性であることは言うまでもないが、地域の経済効果に直接的につながるのが困難なので地域の方々に重要視化されていないとの解釈ができそうである。伝統的地域では、歴史的・文化的な積み重ねによって形成された伝統的文化を継続し、さらに磨きをかけ、代々に継承していくことは、観光地化の進行中課せられた重大な課題であることが示された。

なお、第4章の総合的満足度と観光要素の満足度をCART法で分析した結果では、総合的満足度に大きな影響を与える要素として、「生活文化を知る」「住民の生活様子を見る」が挙げられたが、本章の期待度とそのギャップでは、特に「体験」が“期待していたにもかかわらず、満足が得られていない”実態が示された。第4章では殆どの人が「体験」が不満だったために「総合満足度」を左右せず、第4章では見落とされたと考えられる。

以上とは逆に、

あまり期待はしていなかったが、満足した観光要素（表中ギャップの●）としては、「Q13：のんびり過ごす（0.3→1.1）」「Q15：友人や家族の団らん（0.0→1.0）」が挙げられた。

これらは、古鎮の伝統的景観や人々のゆったりした暮らしぶりや住民のおもてなしの雰囲気効果が効果をもたらしているのではないかと推察される。今後、これらの要素を意識し、設えや対応の仕方を磨くことによって観光地魅力の厚みを増やすことができると考えられる。

表 6-7 地域全体における期待度と満足度のギャップ

観光要素 ※は歴史文化資源、 無印はそれ以外	期待度			満足度			ギャップ	
		標準得点			標準得点			
Q1.伝統的な街並み景観 ※	49.6%	1.6	●	76.1%	1.4	●	-0.2	-
Q2.個々の歴史的建築物 ※	32.3%	0.6	-	73.4%	1.2	●	0.6	-
Q3.水辺や緑の自然の景観	27.8%	0.3	-	69.1%	1.0	●	0.7	●
Q4.歴史文化を知る ※	30.9%	0.5	-	45.0%	-0.2	-	-0.7	▼
Q5.生活文化を知る ※	34.6%	0.7	-	42.7%	-0.4	-	-1.1	▼
Q6.生活文化の体験をする ※	42.3%	1.2	●	41.1%	-0.4	-	-1.6	▼▼
Q7.住民とのふれあい ※	8.2%	-0.9	-	35.8%	-0.7	-	0.2	-
Q8.伝統的演劇を観る ※	2.3%	-1.3	▼	22.5%	-1.4	▼	-0.1	-
Q9.伝統的な食事 ※	49.1%	1.6	●	72.9%	1.2	●	-0.4	-
Q10.伝統的な土産物 ※	19.6%	-0.2	-	42.7%	-0.4	-	-0.2	-
Q11.伝統にこだわらない食事	11.4%	-0.7	-	42.2%	-0.4	-	0.3	-
Q12.伝統にこだわらない買い物	4.1%	-1.2	▼	32.1%	-0.9	-	0.3	-
Q13.のんびり過ごす（休息）	27.8%	0.3	-	70.2%	1.1	●	0.8	●
Q14.麻雀など	4.6%	-1.1	▼	37.6%	-0.6	-	0.5	-
Q15.友達や家族と団らん	23.2%	0.0	-	69.3%	1.0	●	1.0	●
Q16.出会い（観光客同士）	3.2%	-1.2	▼	21.1%	-1.5	▼	-0.3	-
標準偏差	16.3%	1.0		19.0%	1.0		0.7	
平均値	23.2%	0.0		49.6%	0.0		0.0	

標準得点： $z=(x-\mu)/\sigma$ （ x ：期待度または満足度または重視度、 μ ：それらの平均値、 σ ：それらの標準偏差）

ギャップ：「満足度標準得点-期待度標準得点」の差

● $\mu+\sigma$ 以上、▼ $\mu-\sigma$ 以下、-その中間、▼▼ $\mu-2\sigma$ 以下

6-4-2 地域別における期待度と満足度のギャップについて

表 6-8 に寛窄巷子、錦里、文殊院、黄龍溪古鎮、安仁古鎮の期待度と満足度の平均値を示す。期待度・満足度ともに、安仁古鎮、黄龍溪古鎮、寛窄巷子で比較的高く、錦里、文殊院で比較的低い傾向があるが、概ね全体の傾向は変わらない。

表 6-8 地域別における期待と満足の平均値

調査地域	寛窄巷子	錦里	文殊院	黄龍溪古鎮	安仁古鎮
期待度	23.0%	22.0%	19.3%	23.1%	23.3%
満足度	52.6%	48.1%	49.6%	55.1%	56.4%

表 6-9～表 6-13 は寛窄巷子、錦里、文殊院、黄龍溪古鎮、安仁古鎮における期待と満足
のギャップを示したものである。

観光前の期待と観光後の満足度のギャップを以下の (1) ～ (4) の観光要素ごとに整理
し、地域別に分析する。

- (1) 「伝統的な街並み景観」「個々の歴史的建築物」「緑や水辺の自然景観」といった景観
 - (2) 「歴史文化を知る」「生活文化を知る」「生活文化の体験をする」「住民とのふれあい」
「伝統的演劇（川劇）を観る」といった文化
 - (3) 「伝統的な食事」「伝統的な土産物」「伝統にこだわらない食事」「伝統にこだわら
ない買い物」といった飲食購買
 - (4) 「のんびり過ごす（休息）」「家族や友人との団らん」「麻雀・トランプなどを楽しむ」
「出会い」といった保養
- に分けて系統的に考察する。

(1) 景観

表 6-9 で塗りつぶされた範囲は景観における期待度と満足度のギャップを表したもの
である。標準得点が偏差値以上に高いか低いかを記号で表記した。

「Q1：伝統的な街並み景観」「Q2：個々の歴史的建築物」に対する期待度と満足度で
は、いずれの地域も上位であり、景観においては、観光客は期待した通り或いは期待した
以上の満足を得ていることが示されている。

「Q3：水辺や緑の自然の景観」に対する期待度と満足度も、いずれの地域も期待した
通りの満足が得られている。特に、黄龍溪古鎮では、期待した以上に満足度が高い。黄龍
溪古鎮は、水辺や緑の景観にすぐれている。昔から四川中部、特に成都と近郊を結ぶ重要
な水路で、南のシルクロードの物資集散地である。そのために、観光客が期待度に比して
満足したと考えられる。

表6-9 景観における期待度・満足度のギャップ（地域別）

観光要素	寛窄巷子			錦里			文殊院			黄龍溪古鎮			安仁古鎮		
	期待	満足	ギャップ	期待	満足	ギャップ	期待	満足	ギャップ	期待	満足	ギャップ	期待	満足	ギャップ
Q1.伝統的な街並み景観 ※	●	●	-	●	●	-	-	●	-	●	●	-	●	-	-
Q2.個々の歴史的建築物 ※	-	-	-	-	●	●	●	●	-	-	●	-	-	●	-
Q3.水辺や緑の自然の景観	-	-	-	-	-	●	●	-	-	●	●	●	-	-	-
Q4.歴史文化を知る ※	-	-	▼	-	-	-	●	-	-	-	-	▼	-	-	-
Q5.生活文化を知る ※	●	-	▼▼	-	-	▼	●	-	▼	-	-	▼	-	-	▼
Q6.生活文化の体験をする ※	●	-	▼	●	-	▼▼	-	▼	▼▼	●	▼	▼▼	●	▼	▼▼
Q7.住民とのふれあい ※	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q8.伝統的演劇を観る ※	-	-	●	▼	-	-	▼	-	-	▼	-	-	▼	-	-
Q9.伝統的な食事 ※	●	-	-	●	●	-	-	-	●	●	-	▼	●	●	-
Q10.伝統的な土産物 ※	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▼
Q11.伝統にこだわらない食事	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q12.伝統にこだわらない買い物	▼	▼	-	-	▼	-	▼	▼	-	▼	-	-	▼	▼	-
Q13.のんびり過ごす（休息）	-	●	●	-	●	-	-	●	-	-	-	-	-	●	●
Q14.麻雀など	▼	-	-	▼	-	-	▼	-	-	-	-	-	▼	-	●
Q15.友達や家族と団らん	-	●	●	-	-	-	-	-	●	-	●	●	-	●	●
Q16.出会い	▼	▼	-	▼	▼	-	▼	▼	-	▼	▼	-	▼	▼	-

● $\mu + \sigma$ 以上、▼ $\mu - \sigma$ 以下、-その中間、▼▼ $\mu - 2\sigma$ 以下

景観の風景



写真 6-1 街並み景観（錦里）



写真 6-2 歴史的建造物（文殊院）



写真 6-3 街並み景観（寛窄巷子）



写真 6-4 街並み景観（寛窄巷子）



写真 6-5 新規の建築物（安仁古鎮）



写真 6-6 街並み景観（安仁古鎮）



写真 6-7 街並み景観（黄龍溪古鎮）



写真 6-8 水路の景観（黄龍溪古鎮）

(2) 文化

表 6-10 で塗りつぶされた範囲は文化における期待度と満足度のギャップを表したものである。標準得点が偏差値以上に高いか低いかを記号で表記した。

表 6-10 で示したように成都市内外にかかわらず、いずれの調査地域においても、演劇以外の文化要素に対しては、上位或いは中位の期待度を得ていることから、観光客は伝統的地域を来訪する際、伝統的建造物や伝統的街並みといった有形の資源を求めることだけでなく、目に見えない無形の伝統的文化をも求めていることが分かる。

「Q4：歴史文化を知る」においては、寛窄巷子（－→－）、錦里（－→－）、黄龍溪古鎮（－→－）と安仁古鎮（－→－）はいずれも期待通りの満足が得られている。文殊院は期待していたが、満足が得られなかった。特に安仁古鎮は、他の4つ地域（寛窄巷子：48.1%、標準得点-0.3；錦里：46.4%、標準得点-0.1；文殊院：56.1%、標準得点 0.4；黄龍溪古鎮：満足度 45.0%、標準得点-0.5）より高い満足度（満足度：61.8%；標準得点：0.4）を得ている。

生活文化にかかわる「Q5：生活文化を知る」「Q6：生活文化の体験をする」では、いずれの地域でも、期待していたような伝統的生活の体験や見ることが得られず、評価が下がっている。特に、「Q5：生活文化を知る」では、寛窄巷子はその他の地域よりギャップが大きい（表中▼▼）。また、「Q6：生活文化の体験をする」では、錦里、文殊院、黄龍溪古鎮と安仁古鎮は、ギャップが大きい（表中▼▼）。生活文化を体験する場が不足していることが一因と考えられる。また、郊外に地域住民が居住しているにもかかわらず、生活文化が見られないのは商業化が進む中、店舗の経営者がほとんど外来者であることはその原因の一つと考えられる。

第5章のCS分析では、「伝統的演劇を見る」が文殊院、黄龍溪古鎮、安仁古鎮において改善項目として抽出されたが、期待と重ねて分析すると、観光客の期待が弱く、改善度の高い項目とは言えない。

地域別に分析する。寛窄巷子、文殊院、錦里は成都市市内に位置しており、テーマパーク的な観光地としての機能が強く、伝統的生活文化が希薄化している。寛窄巷子は政府が土地建物を買い上げ民間が開発を行った。住民に移住と元の居住場所に戻る選択を与えたがほとんどが移住した。錦里は古風の商業歩行街を再現するために開発された観光地であり住民は住んでいない。文殊院にはまだ住民が多く居住しているが、政府の店舗街化の再開発が進んでいる。

それに対して成都市郊外に位置する黄龍溪古鎮と安仁古鎮は居住地として機能している。しかし、観光地化による地域住民の流失問題は深刻である。黄龍溪古鎮は観光地化とともに、公共交通機関発着所と駐車場から古鎮に至る数百 m の間には、押し寄せる観光客を受け止めるための観光客向けの商店が整備されている。古鎮内には、地元住民が多く居住しているが、ほとんどは定年退職や国家からの補助金をもらいながら生活している

高年齢である。

安仁古鎮は数年前から安仁古鎮保護計画にもとづき、古鎮内に相応しくない用途（近代工場など）を鎮外へ移転させ、古鎮内は住居と観光の用途を主として、建築物を修復保全する事業が進められている。住民も居住しており、商店も地元住民向けが多く、生活文化を感じることができる。しかし、期待と満足のギャップは他地域と変わらない。

いずれの地域でも、歴史文化、生活文化の体験・見る・知るといった無形の歴史的・伝統的文化に対しては、いずれの地域も期待したほどの満足度を得られず、期待度と満足度におけるギャップが生じている。悠久の歴史の中で営まれてきた人々の生活により形作られてきた伝統的生活文化^{注2)}は伝統的地域の成り立ちや歴史的経緯ともに相まって独自の伝統的文化を形成するとともに、その独自性や地域性に由来する固有の文化的価値の貴重性と重要性であることは言うまでもない。他方で、伝統的文化はまさに生活に密着したものであるがゆえに、様々な社会変容の影響を強く受けやすいものである。生活様式の変容に伴う伝統的な文化と現代の暮らしの乖離、少子高齢化や過疎化に伴う継承者の減少・核家族化や地域コミュニティの崩壊などにより文化の伝承力が低下しつつあると考えられるが、その傾向に歯止めをかけ、伝統的文化の再興を期することは、固有の文化的価値を保持し、豊かな文化的生活を確保する上で喫緊の課題となっている。

表 6-10 文化における期待度・満足度のギャップ (地域別)

観光要素	寛窄巷子			錦里			文殊院			黄龍溪古镇			安仁古镇		
	期待	満足	ギャップ	期待	満足	ギャップ	期待	満足	ギャップ	期待	満足	ギャップ	期待	満足	ギャップ
Q1.伝統的な街並み景観 ※	●	●	-	●	●	-	-	●	●	-	●	-	●	-	-
Q2.個々の歴史的建築物 ※	-	-	-	-	-	●	●	●	-	-	●	-	-	●	-
Q3.水辺や緑の自然の景観	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	●	-	-	-	-
Q4.歴史文化を知る ※	-	-	▼	-	-	-	●	-	-	-	-	▼	-	-	-
Q5.生活文化を知る ※	●	-	▼▼	-	-	▼	●	-	-	-	-	▼	-	-	▼
Q6.生活文化の体験をする ※	●	-	▼	●	-	▼▼	-	▼	▼▼	●	▼	▼▼	●	▼	▼▼
Q7.住民とのふれあい ※	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q8.伝統的演劇を観る ※	-	-	●	▼	-	-	▼	-	-	-	-	-	▼	-	-
Q9.伝統的な食事 ※	●	-	-	●	●	-	-	-	●	-	-	▼	●	●	-
Q10.伝統的な土産物 ※	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▼
Q11.伝統にこだわらない食事	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q12.伝統にこだわらない買い物	▼	▼	-	-	▼	-	▼	▼	-	-	▼	-	▼	▼	-
Q13.のんびり過ごす (休息)	-	●	●	-	●	-	-	●	-	-	-	-	-	●	●
Q14.麻雀など	▼	-	-	▼	-	-	▼	-	-	-	▼	-	▼	-	●
Q15.友達や家族と団らん	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	●
Q16.出会い	▼	▼	-	▼	▼	-	▼	▼	-	-	▼	-	▼	▼	-

● $\mu + \sigma$ 以上、▼ $\mu - \sigma$ 以下、-その中間、▼▼ $\mu - 2\sigma$ 以下

文化の風景



写真 6-9 井戸端の洗濯
(安仁古鎮)



写真 6-10 野菜の日干し
(安仁古鎮)



写真 6-11 路上の麻雀・トランプ
(黄龍溪古鎮)



写真 6-12 路上の麻雀・トランプ
(安仁古鎮)



写真 6-13 住民の生活様子
(黄龍溪古鎮)



写真 6-14 住民向けの裁縫店舗
(安仁古鎮)

上記の写真は全て成都市郊外の黄龍溪古鎮と安仁古鎮における地域住民の生活の風景である。成都市市内の寛窄巷子、錦里、文殊院は住民の生活風景が見られない。

(3) 飲食購買

表 6-11 で塗りつぶされた範囲は飲食購買における期待度と満足度のギャップを表したものである。標準得点が偏差値以上に高いか低いかを記号で表記した。

伝統的資源を観光地資源とした観光地においては伝統的資源や自然資源などの観光資源が中核資源として重要であるが、飲食購買といった需要への対応も観光地に不可欠であるし、それらが重要な観光資源になることもある。ここでいう飲食・購買は主に「伝統的な食事^{注3)}」「伝統的な土産物」「伝統にこだわらない食事」「伝統にこだわらない買い物」である。

表 6-11 に示したように、期待していた項目で満足も得られた項目は「Q9：伝統的食事」である。地域別にみると、錦里（●→●）と安仁古鎮（●→●）は最も高い期待を寄せているし、期待通りの満足も得られている。次いでは、文殊院（- → -）は期待が中位だが、それなりの満足が得られている。寛窄巷子（●→ -）（ギャップ：-）と黄龍溪古鎮（- → -）（ギャップ▼）は期待が大きかったにもかかわらず満足がえられなかった。特に黄龍溪古鎮では、伝統的食事への期待に対して満足度が大きく下がっており、重要な改善項目にあたる。また、地域別の満足度にも対照すると、黄龍溪古鎮は「伝統的食事に対する満足度（78.5%、標準得点：1.1）が高いが、「お茶屋体験（39.3%、標準得点：-0.4）」への満足度が下がっていることから、これらを考え合わせると、お茶屋体験は伝統的食事にポジティブな影響を与えることが考えられる。つまり、今後の伝統的食事を改善するには「お茶屋体験に重きをおいて改善するべきではないかと思われる。

あまり期待していなかったが、それなりの満足が得られる項目は「Q10：伝統的な土産物」「Q11：伝統にこだわらない食事」である。特に、安仁古鎮では、ネガティブなギャップ（表中：▼）であり、改善すべき要素であると考えられる。

あまり期待はしていなかったし、満足もできなかった項目は「Q11：伝統的にこだわらない買い物」である。寛窄巷子（▼→▼）、文殊院（▼→▼）と安仁古鎮（▼→▼）は伝統にこだわらず買い物を期待していなかったし、満足も得られなかった。錦里（- →▼、ギャップ：▼）は、期待度がややあったが、満足が大きく下がっている。黄龍溪古鎮（▼→ -、ギャップ：-）では、期待してはいなかったが、満足度がやや上がっている。

なお、調査地域では、観察調査の結果により、伝統的地域では歴史的建築がほとんどお土産物屋や飲食店として利用されている。特に成都市市内の寛窄巷子と錦里は建造物が全て店舗である。それは政府や地域住民や商業者といったホスト側は単に観光客が求めているものを提供する取り組みをすることのみならず、多方面での飲食・購買に取り組んでいることに関係していると推察される。

表6-11 飲食購買における期待度・満足度のギャップ（地域別）

観光要素	寛智巷子			錦里			文殊院			黄龍溪古镇			安仁古镇		
	期待	満足	ギャップ	期待	満足	ギャップ	期待	満足	ギャップ	期待	満足	ギャップ	期待	満足	ギャップ
Q1.伝統的な街並み景観 ※	●	●	-	●	●	-	-	●	-	●	●	-	●	-	-
Q2.個々の歴史的建築物 ※	-	-	-	-	-	●	●	●	-	-	●	-	-	●	-
Q3.水辺や緑の自然の景観	-	-	-	-	-	●	●	-	-	●	●	●	-	-	-
Q4.歴史文化を知る ※	-	-	▼	-	-	-	●	-	-	-	-	▼	-	-	-
Q5.生活文化を知る ※	●	-	▼▼	-	-	▼	●	-	-	-	-	▼	-	-	▼
Q6.生活文化の体験をする ※	●	-	▼	●	-	▼▼	-	▼	▼▼	●	▼	▼▼	●	▼	▼▼
Q7.住民とのふれあい ※	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q8.伝統的演劇を観る ※	-	-	●	-	-	-	▼	-	-	▼	-	-	▼	▼	-
Q9.伝統的な食事 ※	●	-	-	●	●	-	-	-	●	●	-	▼	●	●	-
Q10.伝統的な土産物 ※	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▼
Q11.伝統にこだわらない食事	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q12.伝統にこだわらない買い物	▼	▼	-	-	▼	-	▼	▼	-	▼	-	-	▼	▼	-
Q13.のんびり過ごす（休息）	-	●	●	-	●	-	-	●	-	-	-	-	-	●	●
Q14.麻雀など	▼	-	-	▼	-	-	▼	-	-	▼	-	-	▼	-	●
Q15.友達や家族と団らん	-	●	●	-	-	-	-	-	●	-	●	●	-	●	●
Q16.出会い	▼	▼	-	▼	▼	-	▼	▼	-	▼	▼	-	▼	▼	-

● $\mu + \sigma$ 以上、▼ $\mu - \sigma$ 以下、-その中間、▼▼ $\mu - 2\sigma$ 以下

飲食購買の風景



写真 6-15 飲食店の風景（錦里）



写真 6-16 川劇隈取り（錦里）



写真 6-17 仏教の商品（文殊院）



写真 6-18 飲食店の風景（寛窄巷子）



写真 6-19 露天の風景（黄龍溪古鎮）



写真 6-20 飲食店（安仁古鎮）

(4) 保養

観光客の期待度と満足度及びギャップを地域別に見たものを表 6-12 に示す。表中で塗りつぶされた範囲は保養に関するものである。標準得点が偏差値以上に高いか低いかを記号で表記した。

いずれの地域でも「Q13：のんびり過ごす（休息）（寛窄巷子：- → ●）（錦里：- → ●）（文殊院：- → ●）（黄龍溪古鎮：- → -）（安仁古鎮：- → ●）」、「Q15：友達や家族との団らん（寛窄巷子：- → ●）（錦里：- → -）（文殊院：- → -）（黄龍溪古鎮：- → ●）（安仁古鎮：- → ●）」と、期待通りの満足或いは期待していた以上の満足を得られている。

観光客は伝統的地域を来訪する際、伝統的街並み、歴史的建造物、緑や水辺の自然景観といった景観類を求めるだけでなく、古鎮の伝統的景観や人々のゆったりした暮らしぶりや住民のおもてなしの雰囲気の中をのんびり過ごしたり、休憩したり、散策したりすることに期待し、満喫していると考えられる。

それに対して、観光客の出会いや麻雀などに対して関心を示していない。第5章のCS分析では、「出会い」は改善度の高い項目として抽出されたが、期待と重ねて分析すると、観光客の期待は弱く、改善度の高い項目とは言えない。

保養の様子



写真 6-21 家族団らんの撮影（安仁古鎮）



写真 6-22 お茶屋体験風景（安仁古鎮）



写真 6-23 観光客の散策様子（黄龍溪）



写真 6-24 線香供えの様子（文殊院）

表6-12 保養における期待度・満足度のギャップ（地域別）

観光要素	寛窄巷子			錦里			文殊院			黄龍溪古鎮			安仁古鎮		
	期待	満足	ギャップ	期待	満足	ギャップ	期待	満足	ギャップ	期待	満足	ギャップ	期待	満足	ギャップ
Q1.伝統的な街並み景観 ※	●	●	-	●	●	-	-	●	-	●	●	-	●	-	-
Q2.個々の歴史的建築物 ※	-	-	-	-	●	●	●	●	-	-	●	-	-	●	-
Q3.水辺や緑の自然の景観	-	-	-	-	-	●	●	-	-	●	●	●	-	-	-
Q4.歴史文化を知る ※	-	-	▼	-	-	-	●	-	-	-	-	▼	-	-	-
Q5.生活文化を知る ※	●	-	▼▼	-	-	▼	●	-	▼	-	-	▼	-	-	▼
Q6.生活文化の体験をする ※	●	-	▼	●	-	▼▼	-	▼	▼▼	●	▼	▼▼	●	▼	▼▼
Q7.住民とのふれあい ※	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q8.伝統的演劇を観る ※	-	-	●	-	-	-	▼	-	-	▼	-	-	▼	-	-
Q9.伝統的な食事 ※	●	-	-	●	●	-	-	-	●	-	-	▼	●	●	-
Q10.伝統的な土産物 ※	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▼
Q11.伝統にこだわらない食事	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q12.伝統にこだわらない買い物	▼	▼	-	-	▼	-	▼	▼	-	▼	-	-	▼	▼	-
Q13.のんびり過ごす（休息）	-	●	●	-	●	-	-	●	-	-	-	-	-	●	●
Q14.麻雀など	▼	-	-	▼	-	-	▼	-	-	▼	-	-	▼	-	●
Q15.友達や家族と団らん	-	●	●	-	-	-	-	-	●	-	●	●	-	●	●
Q16.出合い	▼	▼	-	▼	▼	-	▼	▼	-	▼	▼	-	▼	▼	▼

● $\mu + \sigma$ 以上、▼ $\mu - \sigma$ 以下、-その中間、▼▼ $\mu - 2\sigma$ 以下

表 6-13 寛窄巷子における期待度と満足度のギャップ

観光要素 ※は歴史文化資源、 無印はそれ以外		期待度		満足度		ギャップ
			標準得点		標準得点	
景観	Q1.伝統的な街並み景観 ※	62.7%	2.2 ●	75.7%	1.5 ●	-0.7 -
	Q2.個々の歴史的建築物 ※	33.6%	0.6 -	67.3%	1.0 -	0.4 -
	Q3.水辺や緑の自然の景観	14.5%	-0.5 -	57.7%	0.3 -	0.8 -
文化	Q4.歴史文化を知る ※	35.5%	0.7 -	48.1%	-0.3 -	-1.0 ▼
	Q5.生活文化を知る ※	46.4%	1.3 ●	47.3%	-0.4 -	-1.7 ▼▼
	Q6.生活文化の体験をする ※	37.3%	0.8 ●	47.1%	-0.4 -	-1.2 ▼
	Q7.住民とのふれあい ※	10.9%	-0.7 -	46.3%	-0.4 -	0.3 -
	Q8.伝統的演劇を観る ※	11.8%	-0.6 -	63.2%	0.7 -	1.3 ●
飲食・ 購買	Q9.伝統的な食事 ※	46.4%	1.3 ●	66.9%	0.9 -	-0.4 -
	Q10.伝統的な土産物 ※	10.0%	-0.7 -	40.2%	-0.8 -	-0.1 -
	Q11.伝統にこだわらない食事	9.1%	-0.8 -	39.8%	-0.8 -	0.0 -
	Q12.伝統にこだわらない買い物	3.6%	-1.1 ▼	29.8%	-1.5 ▼	-0.4 -
保養	Q13.のんびり過ごす（休息）	20.0%	-0.2 -	69.9%	1.1 ●	1.3 ●
	Q14.麻雀など	2.7%	-1.1 ▼	37.9%	-1.0 -	0.1 -
	Q15.友達や家族と団らん	21.8%	-0.1 -	73.2%	1.4 ●	1.5 ●
	Q16.出会い（観光客同士）	1.8%	-1.2 ▼	31.3%	-1.4 ▼	-0.2 -
標準偏差		18.4%	1.0	15.1%	1.0	0.9
平均値		23.0%	0.0	52.6%	0.0	0.0

標準得点： $z=(x-\mu)/\sigma$ （ x ：期待度または満足度または重視度、 μ ：それらの平均値、 σ ：それらの標準偏差）

ギャップ：「満足度標準得点-期待度標準得点」の差

● $\mu+\sigma$ 以上、▼ $\mu-\sigma$ 以下、-その中間、▼▼ $\mu-2\sigma$ 以下

表 6-14 錦里における期待度と満足度のギャップ

観光要素 ※は歴史文化資源、 無印はそれ以外		期待度			満足度			ギャップ	
			標準得点			標準得点			
景観	Q1.伝統的な街並み景観 ※	53.6%	1.6 ●		69.1%	1.6 ●		0.0	-
	Q2.個々の歴史的建築物 ※	16.4%	-0.3 -		58.7%	0.8 -		1.1	●
	Q3.水辺や緑の自然の景観	11.8%	-0.5 -		53.9%	0.4 -		0.9	●
文化	Q4.歴史文化を知る ※	34.5%	0.6 -		46.4%	-0.1 -		-0.7	-
	Q5.生活文化を知る ※	31.8%	0.5 -		36.6%	-0.9 -		-1.4	▼
	Q6.生活文化の体験をする ※	41.8%	1.0 ●		37.9%	-0.8 -		-1.8	▼▼
	Q7.住民とのふれあい ※	2.7%	-1.0 -		38.5%	-0.7 -		0.3	-
	Q8.伝統的演劇を観る ※	9.1%	-0.7 ▼		47.3%	-0.1 -		0.6	-
飲食・ 購買	Q9.伝統的な食事 ※	67.3%	2.3 ●		69.5%	1.6 ●		-0.7	-
	Q10.伝統的な土産物 ※	12.7%	-0.5 -		45.1%	-0.2 -		0.3	-
	Q11.伝統にこだわらない食事	14.5%	-0.4 -		48.6%	0.0 -		0.4	-
	Q12.伝統にこだわらない買い物	3.6%	-0.9 -		32.7%	-1.2 ▼		-0.3	-
保養	Q13.のんびり過ごす (休息)	30.0%	0.4 -		62.0%	1.0 ●		0.6	-
	Q14.麻雀など	0.9%	-1.1 ▼		39.3%	-0.7 -		0.4	-
	Q15.友達や家族と団らん	21.8%	0.0 -		60.4%	0.9 -		0.9	-
	Q16.出会い (観光客同士)	0.0%	-1.1 ▼		23.8%	-1.8 ▼		-0.7	-
標準偏差		19.7%	1.0		13.3%	1.0		0.8	
平均値		22.0%	0.0		48.1%	0.0		0.0	

標準得点： $z=(x-\mu)/\sigma$ (x：期待度または満足度または重視度、 μ ：それらの平均値、 σ ：それらの標準偏差)

ギャップ：「満足度標準得点-期待度標準得点」の差

● $\mu+\sigma$ 以上、▼ $\mu-\sigma$ 以下、-その中間、▼▼ $\mu-2\sigma$ 以下

表 6-15 文殊院における期待度と満足度のギャップ

観光要素 ※は歴史文化資源、 無印はそれ以外		期待度		満足度		ギャップ	
		標準得点		標準得点			
景観	Q1.伝統的な街並み景観 ※	36.4%	1.0 -	65.1%	1.0 ●	0.0 -	
	Q2.個々の歴史的建築物 ※	40.0%	1.2 ●	76.0%	1.7 ●	0.5 -	
	Q3.水辺や緑の自然の景観	40.0%	1.2 ●	57.7%	0.5 -	-0.7 -	
文化	Q4.歴史文化を知る ※	37.3%	1.0 ●	56.1%	0.4 -	-0.6 -	
	Q5.生活文化を知る ※	44.5%	1.5 ●	47.8%	-0.1 -	-1.6 ▼	
	Q6.生活文化の体験をする ※	31.8%	0.7 -	25.3%	-1.6 ▼	-2.3 ▼▼	
	Q7.住民とのふれあい ※	5.5%	-0.8 -	42.4%	-0.5 -	0.3 -	
	Q8.伝統的演劇を観る ※	0.9%	-1.1 ▼	37.5%	-0.8 -	0.3 -	
飲食・ 購買	Q9.伝統的な食事 ※	15.5%	-0.2 -	59.9%	0.7 -	0.9 ●	
	Q10.伝統的な土産物 ※	3.6%	-0.9 -	43.7%	-0.4 -	0.5 -	
	Q11.伝統にこだわらない食事	7.3%	-0.7 -	45.8%	-0.2 -	0.5 -	
	Q12.伝統にこだわらない買い物	0.9%	-1.1 ▼	30.0%	-1.3 ▼	-0.2 -	
保養	Q13.のんびり過ごす（休息）	32.7%	0.8 -	73.8%	1.6 ●	0.8 -	
	Q14.麻雀など	0.9%	-1.1 ▼	36.3%	-0.9 -	0.2 -	
	Q15.友達や家族と団らん	9.1%	-0.6 -	63.3%	0.9 -	1.5 ●	
	Q16.出会い（観光客同士）	1.8%	-1.0 ▼	32.9%	-1.1 ▼	-0.1 -	
標準偏差		17.3%	1.0	15.5%	1.0	0.9	
平均値		19.3%	0.0	49.6%	0.0	0.0	

標準得点： $z=(x-\mu)/\sigma$ （ x ：期待度または満足度または重視度、 μ ：それらの平均値、 σ ：それらの標準偏差）

ギャップ：「満足度標準得点-期待度標準得点」の差

● $\mu+\sigma$ 以上、▼ $\mu-\sigma$ 以下、-その中間、▼▼ $\mu-2\sigma$ 以下

表 6-16 黄龍溪における期待度と満足度のギャップ

	観光要素 ※は歴史文化資源、 無印はそれ以外	期待度			満足度			ギャップ	
			標準得点			標準得点			
景観	Q1.伝統的な街並み景観 ※	61.8%	1.9 ●	86.1%	1.5 ●	-0.4	-		
	Q2.個々の歴史的建築物 ※	30.0%	0.3 -	79.2%	1.2 ●	0.9	-		
	Q3.水辺や緑の自然の景観	30.0%	0.3 -	87.0%	1.6 ●	1.3	●		
文化	Q4.歴史文化を知る ※	32.7%	0.5 -	45.0%	-0.5 -	-1.0	▼		
	Q5.生活文化を知る ※	33.6%	0.5 -	43.8%	-0.6 -	-1.1	▼		
	Q6.生活文化の体験をする ※	45.5%	1.1 ●	33.3%	-1.1 ▼	-2.2	▼▼		
	Q7.住民とのふれあい ※	5.5%	-0.9 -	43.3%	-0.6 -	0.3	-		
	Q8.伝統的演劇を観る ※	0.9%	-1.1 ▼	42.2%	-0.6 -	0.5	-		
飲食・ 購買	Q9.伝統的な食事 ※	55.5%	1.6 ●	69.6%	0.7 -	-0.9	▼		
	Q10.伝統的な土産物 ※	13.6%	-0.5 -	51.1%	-0.2 -	0.3	-		
	Q11.伝統にこだわらない食事	6.4%	-0.8 -	39.4%	-0.8 -	0.0	-		
	Q12.伝統にこだわらない買い物	2.7%	-1.0 ▼	35.9%	-0.9 -	0.1	-		
保養	Q13.のんびり過ごす（休息）	29.1%	0.3 -	74.8%	1.0 -	0.7	-		
	Q14.麻雀など	0.9%	-1.1 ▼	48.1%	-0.3 -	0.8	-		
	Q15.友達や家族と団らん	20.9%	-0.1 -	76.3%	1.0 ●	1.1	●		
	Q16.出会い（観光客同士）	0.0%	-1.2 ▼	26.2%	-1.4 ▼	-0.2	-		
標準偏差		20.0%	1.0	20.2%	1.0	0.9			
平均値		23.1%	0.0	55.1%	0.0	0.0			

標準得点： $z=(x-\mu)/\sigma$ （ x ：期待度または満足度または重視度、 μ ：それらの平均値、 σ ：それらの標準偏差）

ギャップ：「満足度標準得点-期待度標準得点」の差

● $\mu+\sigma$ 以上、▼ $\mu-\sigma$ 以下、-その中間、▼▼ $\mu-2\sigma$ 以下

表 6-17 安仁古鎮における期待度と満足度のギャップ

観光要素 ※は歴史文化資源、 無印はそれ以外		期待度			満足度			ギャップ	
			標準得点			標準得点			
景観	Q1.伝統的な街並み景観 ※	37.3%	1.1 ●	67.6%	0.8 -	-0.3 -			
	Q2.個々の歴史的建築物 ※	34.5%	0.9 -	75.5%	1.4 ●	0.5 -			
	Q3.水辺や緑の自然の景観	25.5%	0.2 -	54.0%	-0.2 -	-0.4 -			
文化	Q4.歴史文化を知る ※	29.1%	0.4 -	61.8%	0.4 -	0.0 -			
	Q5.生活文化を知る ※	35.5%	0.9 -	51.8%	-0.3 -	-1.2 ▼			
	Q6.生活文化の体験をする ※	39.1%	1.2 ●	39.3%	-1.3 ▼	-2.5 ▼▼			
	Q7.住民とのふれあい ※	10.9%	-0.9 -	50.5%	-0.4 -	0.5 -			
	Q8.伝統的演劇を観る ※	3.6%	-1.5 ▼	40.5%	-1.2 ▼	0.3 -			
飲食・ 購買	Q9.伝統的な食事 ※	42.7%	1.5 ●	75.4%	1.4 ●	-0.1 -			
	Q10.伝統的な土産物 ※	25.5%	0.2 -	46.4%	-0.7 -	-0.9 ▼			
	Q11.伝統にこだわらない食事	16.4%	-0.5 -	52.9%	-0.3 -	0.2 -			
	Q12.伝統にこだわらない買い物	5.5%	-1.4 ▼	38.9%	-1.3 ▼	0.1 -			
保養	Q13.のんびり過ごす (休息)	26.4%	0.2 -	71.6%	1.1 ●	0.9 ●			
	Q14.麻雀など	8.2%	-1.1 ▼	60.9%	0.3 -	1.4 ●			
	Q15.友達や家族と団らん	25.5%	0.2 -	73.3%	1.3 ●	1.1 ●			
	Q16.出会い (観光客同士)	6.4%	-1.3 ▼	41.7%	-1.1 ▼	0.2 -			
標準偏差		13.1%	1.0	13.3%	1.0	0.9			
平均値		23.3%	0.0	56.4%	0.0	0.0			

標準得点： $z=(x-\mu)/\sigma$ (x:期待度または満足度または重視度、 μ :それらの平均値、 σ :それらの標準偏差)

ギャップ:「満足度標準得点-期待度標準得点」の差

● $\mu+\sigma$ 以上、▼ $\mu-\sigma$ 以下、-その中間、▼▼ $\mu-2\sigma$ 以下

6-5 初回来訪者とリピーターの検討

はじめての来訪者は対象地の情報が不確かな中で期待をして訪れるが、リピーターは対象地を既に経験した上で期待をして訪れる。両者の期待-満足の様子は異なると予想される。

結論としては、全体として両者の大きな差異はみられなかったが、一部に若干の違いがみられた。

はじめての来訪者とリピーターの期待度と満足度を表 6-18 に示す。違いが見られた項目は「Q8. 伝統的演劇を見る」「Q9. 伝統的食事」「Q12. 伝統にこだわらない買い物」「Q13. 友達や家族と団らん」「Q14. 麻雀など」「Q15. 友達や家族度との団らん」であった。

「Q8. 伝統的演劇を見る」「Q12. 伝統にこだわらない食事」「Q14. 麻雀など」は、はじめての人とリピーターの期待度、満足度の数値に大きな差はないが、「Q13. 友達や家族と団らん」、「Q15. 友達や家族度との団らん」ははじめての人とリピーターの人の期待度に+0.8 ポイントの差がみられる。初回に来たときに意外に良かった経験を受けて、リピーターは、はじめての人より期待が高くなったと推察される。

期待に対して満足が著しく低い「Q5. 生活文化を知る」「Q6. 生活文化を体験する」は、リピーターの期待度は、はじめての人より 0.6 ポイント下がり、おそらく経験によって期待が薄くなったものと推察される。しかし、来訪後の満足度の低下は依然として大きく、傾向は変わらない。

「伝統的な食事」は期待に対して満足度がやや下がるが、リピーターは、はじめての人に比べて期待度、満足度が共に 0.6~0.8 ポイント高い。リピーターにとって伝統食は重要な要素であるようだ。

「景観」は当然であり、それに加えて「団らん」「伝統食」「文化体験」を充実させることがリピーターの獲得の点からみて重要であると言える。

表 6-18 観光客の来訪経験別の期待度・満足度

	観光要素 ※は歴史文化資源、 無印はそれ以外	初めての来訪者 (241人)			リピーター (2回以上) (309人)		
		期待度	満足度	ギャップ	期待度	満足度	ギャップ
景観	Q1.伝統的な街並み景観 ※	1.9 ●	1.6 ●	-0.3 -	1.5 ●	1.5 ●	0.0 -
	Q2.個々の歴史的建築物 ※	0.6 -	1.1 ●	0.5 -	0.6 -	1.1 ●	0.4 -
	Q3.水辺や緑の自然の景観 ■	0.1 -	0.7 -	0.6 -	0.2 -	0.8 -	0.7 -
文化	Q4.歴史文化を知る ※	0.8 -	0.7 -	-0.2 -	0.7 -	0.6 -	-0.1 -
	Q5.生活文化を知る ※	1.3 ●	-0.1 ▼	-1.4 ▼▼	0.7 -	-0.4 ▼	-1.1 ▼▼
	Q6.生活文化の体験をする ※	1.3 ●	0.2 -	-1.0 -	0.8 -	0.3 -	-0.5 -
	Q7.住民とのふれあい ※	-0.7 -	-0.6 ▼	0.2 -	-1.1 ▼	-0.9 ▼▼	0.2 -
飲食購買	Q8.伝統的演劇を観る ※	-0.5 -	0.4 -	0.9 -	-0.5 -	0.4 -	0.9 ●
	Q9.伝統的な食事 ※	1.0 ●	0.6 -	-0.4 -	1.8 ●	1.2 ●	-0.6 ▼
	Q10.伝統的な土産物 ※	-0.2 -	0.6 -	0.7 -	-0.2 -	0.5 -	0.7 -
	Q11.伝統にこだわらない食事 ■	-0.8 ▼	-0.5 ▼	0.3 -	-0.6 ▼	-0.1 ▼	0.5 -
保養	Q12.伝統にこだわらない買い物 ■	-0.7 -	0.3 -	1.0 -	-0.5 -	0.4 -	0.9 ●
	Q13.のんびり過ごす (休息) ■	-0.1 -	1.5 ●	1.6 ●	0.7 -	1.2 ●	0.4 -
	Q14.麻雀など ■	-0.7 -	0.3 -	1.0 -	-0.6 ▼	0.5 -	1.0 ●
	Q15.友達や家族と団らん ■	-0.5 -	1.0 ●	1.5 ●	0.2 -	1.0 ●	0.7 -
	Q16.出会い ■	-0.7 -	0.2 -	0.9 -	-0.7 ▼	0.2 -	0.8 -
標準偏差 σ		0.9	0.6	0.8	0.8	0.6	0.6
平均値 μ		0.1	0.5	0.4	0.2	0.5	0.3

標準得点: $z=(x-\mu)/\sigma$ (x: 期待度または満足度または重視度、 μ : それらの平均値、 σ : それらの標準偏差)

ギャップ: 「満足度標準得点-期待度標準得点」の差

● $\mu+\sigma$ 以上、▼ $\mu-\sigma$ 以下、-その中間、▼▼ $\mu-2\sigma$ 以下 満足度と期待度の数値は標得点

6-6 第6章のまとめ

第6章では、観光客の観光前後の意識差異を把握することを目的とし、観光前はどのような点に期待し、観光後はどのような点に満足したか、のデータを用いて期待と満足の関係を明らかにした。得られた知見を整理すると以下のとおりである。

(1) 期待度

観光客が観光前に高い期待度を持っていた要素は、「Q1：伝統的な街並み景観（49.6%）」、「Q9：伝統的な食事（49.1%）」、「Q6：伝統的文化の体験をする（42.3%）」であった。次いで、「Q5：生活文化を知る（34.6%）」、「Q2：個々の歴史的建築物（32.3%）」、「Q4：歴史文化を知る（30.9%）」が挙げられた。その結果から、地域の伝統的資源に対する期待度が高いことが明らかになった。そして、伝統的街並み景観、個々の歴史的建築物、緑や水辺の景観に対する期待度から見ると、観光客は「Q1：伝統的な街並み景観」に特に高い期待度を抱いていることが示された。観光客は自然景観や個々の歴史的建築物より、街の伝統的雰囲気を好むことがうかがわれる。地域別には寛窄巷子、錦里、黄龍溪と安仁では、いずれも伝統的街並み景観が最も期待されている要素として挙げられている。次いで、個々の歴史的建築物と自然景観が挙げられた。それに対して、文殊院は、「Q2：個々の歴史的建築物」「Q3：水辺や緑の自然の景観」が最も期待される要素として挙げられた。次いで、「Q1：伝統的な街並み景観」は中間の期待度を得ている。また、黄龍溪古鎮は水辺や緑の景観に富んでいるので他地域より高く期待されていた。

「Q5：生活文化を知る」「Q6：生活文化の体験を知る」「Q4：歴史文化を知る」といった伝統的文化の面からみると、観光客は自然景観や歴史的建築物を見ることのみならず、文化を体験することをも望んでいることがわかる。一方で、「Q7：住民とのふれあい（8.2%）」に期待する観光客はほとんどいない。現在商業化が進む中で伝統的観光地に商業者が大量に増え、地元の原住民が少なくなっていることに起因すると考えられる。CS分析では「住民とのふれあい」は改善要素として指摘されたが、期待度の少なさを勘案すると積極的な改善要素と見なすことはできない。しかし「生活文化を知る・生活文化を体験する」と「住民とのふれあい」は密接に関係することから、この結果は、原住民が少なくなった現状が影響したと考えて、「住民とのふれあい」は今後の改善要素としてとどめておくべきであろう。

「Q9：伝統的な食事（49.1%）」、「Q10：伝統的な土産物（19.6%）」に対する期待度が「Q11：伝統にこだわらない食事（11.4%）」、「Q12：伝統にこだわらない買い物（4.1%）」より高いことから、食事や購買の面からも観光客は地域伝統的資源により期待していることがうかがえる。そして食事と比較すると、観光客は買い物にあまり期待してい

ないことがわかった。地域別にみると、寛窄巷子、錦里、黄龍溪と安仁古鎮は、伝統的食に上位の期待度が得られているが、文殊院は中位の期待度である。実地調査の結果によると、文殊院の周辺には伝統的食の数が少数であり、仏教に関する物品が数多くであった。

休養行動からみると、伝統的観光地を訪れた観光客は、主に「Q15：友達や家族との団らん（23.2%）」や「Q13：のんびり過ごすこと（27.8%）」に対して中位の期待度を持っているが、観光客同士の出会いにはあまり期待していない。

(2) 満足度

景観について高い満足度を得た要素は、「Q8：伝統的街並み景観（全体の雰囲気）（満足度得点 1.2）」「Q7：個々の歴史建築物（満足度得点 1.1）」であった。次いで、「Q9：水辺の景観（満足度得点 0.9）」「Q10：緑の景観（満足度得点 0.9）」はやや満足度を得ている。歴史的景観や自然景観は満足を得ている。地域別に比較してみると、錦里は偽物の建築物が見破られ、「個々の歴史建築物」の満足度は他地域に比べてやや低い。緑や水辺の自然景観では、黄龍溪古鎮は水辺資源に優れており、水路沿いに植栽が整備されているから、高い満足度を得た。文殊院は水辺や水路といった水資源に欠けているが、寺院内に何百年以上の樹木が数多く立ち聳えているといった緑景観に富んでいるから、緑の景観に高い満足度を得たと考えられる。それに対して、寛窄巷子、錦里、安仁古鎮は水辺資源や緑の自然資源に欠けていることが低い満足度の原因だと考えられる。

文化面では、「Q12：地域の歴史文化を知る・学ぶ（満足度得点 0.0）」「Q1：住民の生活様子を見る（満足度得点-0.2）」「Q11：歴史の有名人物の物語（満足度得点-0.7）」「Q2：伝統的な生活の説明を聞く（満足度得点-0.8）」「Q5：住民とのふれあい（満足度得点-0.9）」「Q3：伝統的生活の体験（耳かきなど）（満足度得点-1.5）」「Q6：伝統的演劇を見る（満足度得点-1.5）」といった伝統的文化にかかわる文化要素は、ほぼ中間或いは比較的下位の満足であった。

基本行動では、「Q13：伝統的な食事をする（満足度得点 1.1）」が高い満足度を示し、「Q14：伝統的にこだわらない食事（満足度得点 0.4）」に対して、伝統的な食のほうが観光客に好まれていることが見てとれる。一方で「Q15：伝統的な品物を買う」「Q16：伝統的にこだわらない買い物をする」においてはいずれも中位で高い満足度を示していない。そして、「Q17：のんびり過ごす」「Q19：友達や家族との団らん」の満足度（満足度得点 1.0）が高く、「Q20：出会い（満足度得点 0.0）」の満足度が低いことがわかった。観光客は知り合いとゆっくり過ごすことに満足していることがうかがわれる。

地域別にみると、「Q4：お茶屋体験」は地域によって差異が顕著である。安仁古鎮は78.2%以上の割合を占めており、上位の満足度を得ている。安仁古鎮以外の他の地域では、お茶屋体験に対し、中位或いは比較的低い満足度にとどまっている。「Q13：

伝統的な食事をする」についてはいずれの地域でも、上位或いは中位の満足度を得ており、大きな差異が見られない。その中で、錦里（満足度得点 1.9）と黄龍溪古鎮（満足度得点 1.1）は上位の満足度を満たしているのに対して、寛窄巷子（満足度得点 0.7）、文殊院（満足度得点 0.8）、安仁古鎮（満足度得点 0.8）は中位の満足度を得ている。

基盤整備から見ると、「Q22：トイレの清潔さ」「Q23：歩きやすい道の舗装」「Q24：休憩できる場所」「Q25：街の清潔さ」は高い満足度を得ているが、「Q25：街の案内板や説明板」「Q26：夜のライトアップ」に対する満足度が低いことから、街の説明板や夜のライトアップが不備であることが考えられる。

地域別に見ると、「Q23：歩きやすい道の舗装」については、いずれの地域でも、上位の満足度を得ていることから、歩きやすさの基盤整備は充実していると考えられる。「Q21：街の清潔さ」「Q22：トイレの清潔さ」といった環境衛生では、寛窄巷子、錦里の方がその他の地域より比較的充実している。特に、寛窄巷子は環境の衛生面、極めて高い評価を得て、90%に達している。「Q24：休憩できる場所」では、郊外の黄龍溪古鎮と安仁古鎮は、市内の寛窄巷子、錦里、文殊院より高い満足度であった。また、「Q26：夜のライトアップ」に対する満足度は地域によって顕著な違いが見られる。特に、錦里は蜀漢時代の街並みを再現した観光地であり、舞台も存在することから、錦里商店街をネオンの光が染め、昼間とは一味違う夜景に包まれた街並を満喫することができるように、夜になっても非常に明るくライトアップされている。そのために、ライトアップに対し、錦里は圧倒的に満足度を得ている。「Q25：街の案内板や説明板」に対する満足度は低い（寛窄巷子は中位の満足度であるが、それ以外の4つの地域は下位の満足である）ことから、街の説明板に不備であることに起因することが考えられる。

(3) 期待と満足のギャップ

期待度と満足度の平均値を見てみると、いずれの地域でも期待度より高い満足度が得られたことから、観光客はいずれの地域に満喫していると言える。景観、文化類、飲食購買、保養という順番で見ると、以下の傾向が見られた。

- A. 景観：地域全体的には、歴史的街並み景観や個々の歴史的建築物や自然景観に期待通りの満足度を得ている。地域別にみると、寛窄巷子、文殊院、黄龍溪古鎮と安仁古鎮は期待度も満足度が高い。これは伝統的街並みや個々の歴史建築物や自然景観にすぐれていることを反映している。錦里は伝統的観光地ではないが、伝統的街並み・伝統的風景を再現している観光地であり、そのことが期待に対して若干満足度を下げている原因と考えられる。伝統的街並み景観、個々の歴史的建築物、水辺や緑の自然景観といった景観は伝統的観光地の中核資源であり、ホスト側はその価値を認識し、保存・維持することに取り組むことによって、観光客の伝統的地域の景観を求めるニーズに応じられると考えられる。

- B. 文化：いずれの調査地域も「伝統的な生活の説明を聞く」、「伝統的生活の体験をする」、「住民の生活の様子を見る」といった伝統的生活文化に対しては、期待が大きかったにもかかわらず満足が得られなかった。

地域別には、寛窄巷子、文殊院、錦里は成都市市内に位置しており、完全に観光地として機能しているので伝統的生活文化が希薄化していると考えられる。郊外の黄龍溪古鎮と安仁古鎮は居住地として機能しているが、生活文化が見られないのは商業化が進む中、店舗の経営者がほとんど外来者であることはその原因の一つと考えられる。以上の理由で期待したほどの満足度が得られなかったことから、ネガティブなギャップが生じたと考えられる。

- C. 飲食購買：期待していた要素で満足も得られた項目は「伝統的食」である。「伝統的買い物」や「伝統にこだわらない食・買い物」にあまり期待していなかったし、それほどの満足度の得られていない。

地域別にみると、伝統的食事では、錦里と安仁古鎮には最も高い期待を寄せ、期待通りの満足も得られている。次いで、文殊院はあまり期待していなかったが、満足が得られている。寛窄巷子と黄龍溪古鎮は期待が大きかったにもかかわらず満足が得られなかった。特に黄龍溪古鎮では、伝統的食事への期待に対して満足度が大きく下がっており、重要な改善項目にあたる。地域別の満足度を参照すると、黄龍溪古鎮は「伝統的食事に対する満足度（78.5%、標準得点：1.1）が高いが、「お茶屋体験（39.3%、標準得点：-0.4）」への満足度が下がっていることから、お茶屋体験が不満だったことが伝統的食事にネガティブな影響を与えたと考えられる。

- D. 保養：「のんびり過ごす」「友人や家族の団らん」はあまり期待していなかったにもかかわらず、満足が得られた項目として挙げられている。これらは、古鎮の伝統的景観や人々のゆったりした暮らしぶりや住民のおもてなしの雰囲気効果が効果をもたらしているのではないかと推察される。今後、これらの要素を意識し、設えや対応の仕方を磨くことによって観光地魅力の厚みを増やすことができると考えられる^{注4)}。地域別には「のんびり過ごす（休息）」、「友達や家族との団らん」に対し、期待通りの満足或いは期待していた以上の満足が得られている。観光客は伝統的地域を来訪する際、伝統的街並み、歴史的建造物、緑や水辺の自然景観といった景観類を求めるだけでなく、古鎮の伝統的景観や人々のゆったりした暮らしぶりや住民のおもてなしの雰囲気の中をのんびり過ごしたり、休憩したり、散策したりすることに期待し、満足していると考えられる。それに対して、観光客は出会いや麻雀などに対して関心を示していなかった。

本章では、伝統的資源を観光資源とした観光地の持続的な開発に関する知見を観光客の観光前の期待、観光後の満足及び期待度と満足度のギャップの面から探ろうとしたものである。中国の現状の観光開発は短期的な経済効果を重視するゆえに、需要追従の開発をしているのではないかと予測し、ホスト側（政府や地域住民組織）以上に、ゲスト側（観光

客)の意識が開発の方向性に影響を与え、重要な役割を果たしていると考え、観光客の意識面から伝統的観光地の観光開発の観光資源に対する評価を検討した。

以上の解析によって、従来の観光地開発における経済効果や建築物・空間の変容や規制・保護制度を課題とした研究成果とは異なる観光客の意識に関する知見を得られた。すなわち、伝統的地域を訪れた観光客は(伝統的食事を除く)飲食購買・観光行動より伝統的街並み景観(全体の雰囲気)、個々の歴史的建造物、伝統的食事といった伝統的資源を最も求めており、期待通りの高い評価を得ているという知見を得られた。また、住民生活の様子を見る、伝統的な生活の説明を聞く、伝統的生活の体験をするといった伝統的生活は期待した満足が得られなかったので期待と満足にネガティブなギャップが生じていることが示された。

現在、政府が進めている多くの観光開発、すなわち、地域住民を移住させてスクラップビルドによって模擬的な伝統景観を再現する再開発を行うという開発では、本研究が明らかにした観光客が不満を持つ要求、すなわち、「住民の生活の様子を見る・伝統的な生活の説明を聞く、伝統的生活を体験する」という要求に応えることができず、観光客の満足度を下げていることが明らかになった。今後の伝統的観光地の観光開発を促進するため重要な課題であると考えられる。

<第6章における注記>

- 注1) 万可 (2016) : 中国成都市における伝統的観光地の観光客と商業者の意識に関する研究、山梨大学大学院医学工学総合教育部修士論文、pp.29.
- 注2) 本論文では、「伝統的生活文化」は地域住民の日常生活の状態を反映するものを伝統的生活文化ととらえる。伝統的生活文化の具体的な形態については参考資料4を参考にする。
- 注3) 本論文では「伝統的食事」は形を変えながらも、現在まで引き継ぎ継がれた地域の食のかたちを伝統的食事ととらえる。伝統的食事の具体的なものについては参考資料5を参考にする。
- 注4) 万可 (2016) : 中国成都市における伝統的観光地の観光客と商業者の意識に関する研究、山梨大学大学院医学工学総合教育部修士論文、pp.53.

<第6章における参考文献>

- [1] 羽生冬佳・森田義規・小久保恵三・十代田朗・津々見崇 (2006) : 来訪者の観光地評価の構造に関する研究ランドスケープ研究、日本造園学会誌-journal of the Japanese Institute of Landscape Architecture 69 (4)、pp.301-306.
- [2] 白りな・十代田朗・津々見崇 (2016) : 住民と観光客の意識からみる住民参加による観光まちづくりの利点と課題-ドンピラン地域を事例として-Study on Advantages and Problems of Tourism-based Community Design with Residents Participation through Perception of Residents and Tourists:In case of Dongpirang of South Korea、公益社団法人日本都市計画学会都市計画論文集 Vol.51、No.1.
- [3] 岸田さだこ (2013) : 観光まちづくりとホスピタリティー、甲南女子大学研究紀要文学・文化編第 49 号、pp.47-50.
- [4] 西村幸夫 (2012) : まちの個性を活かした観光まちづくり、ぎょうせい.
- [5] 张荣光・廖治学・骆毓燕 (2012) : 基于 SEM 的游客需求要素分层分析与满意度关系研究-以九寨沟景区为例-、西南民族大学学报(人文社会科学版)、Vol.10、pp.142-146.
- [6] 王惠・陈紫薇・张凯 (2014) : 古村落居民行为对游客心理承载力影响研究、中南林业科技大学学报(社会科学版)、Vol.8、No.6、pp.1-5.
- [7] 翁雨晴・李万莲(2012): 消费者皖北旅游意愿及其影响因素分析、绥化学院学报、Vol.31、No.1、pp.176-178.
- [8] 徐宏・何焱 (2013) : 古镇旅游开发中当地居民“旅游参与者”与开发商的利益博弈、北京第二外国语学院学报, Vol.1、pp.70-79.
- [9] 李益彬 (2012) : Conception on Tourism Resources Protection and Development of East Sichuan Ancient Towns、Proceedings of 2012 International Conference on Social Science and Education(ICSSE 2012)、Vol.10、pp.143-147.
- [10] 伊藤正太: 観光まちづくり地における観光客と地域住民の属性の違いによる選好景観の評価傾向に関する研究-仙北市角館中心市街地を対象として-、A Study on the evaluation tendencies of preference for townscape by tourists and local residents in the Sightseeing Town Planning Area - Case of Kakunodate area in Senboku City - 、秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科建築・都市雨ティグループ、
- [11] 小島隆矢・古賀誉章ほか (2002) : 多変量解析を用いたキャプション評価法データの分析-都市景観の認知と評価の構造に関する研究その 2-、日本建築学会計画系論文集第 560 号、pp.51-58.
- [12] 劉蘭芳 (2014) : 農村住民による観光資源の保全意識工場及び農村観光開発の方策に関する研究-遼寧省南大山地域を事例として-、日本国際観光学会論文集(第 21 号)、pp.191-195.
- [13] 高田誠マルセール・大西隆 (2010) : 観光開発による創作的景観の形成過程と地域住民評価に関する研究-中国上海市金山区中洪村における農民画を題材とした観光開発を事例として、A STUDY IN THE PROCESS OF TOWNSCAPE CREATION BY TOURISM DEVELOPMENT AND THE REGIONAL EVALUATION - IN case of Jin

- Shan village in Shang China、日本建築学会計画系論文集第75巻第652号、pp.1433-1439.
- [14] 柳雅聡・大山勲（2014）：観光地における観光客と住民の観光に対する意識に関する研究-忍野八海を事例として-、土木学会関東支部、第41回技術研究発表会.
- [15] 万可（2016）：中国成都市における伝統的観光地の観光客と商業者の意識に関する研究、山梨大学大学院医学工学総合教育部修士論文.
- [16] 縄手亜矢（2001）：白川郷荻町集落の歴史的街並みに対する観光者及び地域住民の認識、日本観光研究学会第16回全国大会論文集、pp.57-60.
- [17] 王文亮（2001）：中国観光業詳説、日本橋報社.
- [18] 掘川紀年（2007）：日本を変える観光力-地域再生への道を探る、昭和堂出版社.
- [19] 横山秀司（2006）：観光のための環境景観学-真のグリーン・ツーリズムにむけて、古今書院.
- [20] 前田勇（1978）：観光概論、学文社株式会社.
- [21] 結城登美雄（2009）：地域の再生シリーズ①-地元学からの出発：この土地を生きる人々の声に耳を傾ける、農文協.
- [22] 国立大学法人山梨大学生命環境学部地域社会システム学科編集（2014）：地域社会システム論-地域活性化を豊かさ・まちづくり・自然資源・人材戦略・財産の保護から考える-、農文協プロダクション.
- [23] 土肥健夫（1991）：リゾート再生と地域振興、学芸出版社.

第7章 テキストマイニング^{注1)}による自由記述に関する分析

7-1 第7章の目的

第3章から第6章まででは、アンケート用紙で設定した質問項目に対する応答内容を分析してきた。本章では、アンケートの自由記述の回答データをもとにテキストマイニング法^{注2)}による分析を行い、補足的ではあるが、より広く課題を抽出することを目的とする。

7-2 使用データ

調査は、2015年3月上旬から中旬にかけて5つの地域で行なった。前章までのアンケート調査の中で、「観光地全般に対する感想」を自由記述形式で質問した。

回答者数は以下の通りである。

表7-1 自由記述調査の結果

調査対象地	回答数	有効回答数
寛窄巷子	110	29
錦里	110	34
文殊院	110	12
黄龍溪古鎮	110	15
安仁古鎮	110	8
総計	550	98

7-3 分析の流れ

7-3-1 テキストマイニング分析に適用できるテキスト・データの準備

テキストマイニングをする前の準備として、記述文データは中国語なので中国語を日本語に訳す作業が必要である。

翻訳するとき、以下のルールにしたがって翻訳作業を進める。

- ・ 一対一

中日両国は漢字が使われている一衣帯水の隣国として言語、文字、語彙を通じて異文化があるが、共通文化もある。そのために同一の意味として使われる漢字は数多くある。

- A. 【历史景观】【传统景观】【景观都好多年了】→「歴史的景観」
- B. 【传统街区】【老街区】【历史街区】【老区】→「伝統的街並み景観」
- C. 【传统文化】→「伝統的文化」
- D. 【传统文化生活】→「伝統的生活文化」
- E. 【传统美食】【当地特色小吃】【好吃的】→「伝統的食事」

- ・ 表現の統一

同じ意味の言葉でも、職業、年齢、教育背景、生活習慣、文化などによって様々な表現が使われている。この場合は、同じ意味の言葉を一つの表現に統一し翻訳する。例えば：

- A. 【卫生间】【厕所】【洗手间】→「トイレ」「お手洗い」「化粧室」「便所」「洗面所」
→「トイレ」
- B. 【游客多】【人太多】【人太拥挤】【人太嘈杂】→「観光客が多い」「人が多い」「人が混んでいる」「人がうるさい」→「観光客は多い」
- C. 【休息的地方太少了】【能座的地方太少了】【找不到地方休息】【累了没地方做】
→「休憩できる場所は少ない」「座れるところが少ない」「休憩できる場所が見付からない」「疲れる時、休憩場所はない」→「休憩できる場所は少ない」
- D. 【吃的东西太贵】【价格太高】【东西价格太贵】【人太嘈杂】→「うるさい」
- E. 【吃的东西太贵】【价格太高】【东西价格太贵】→「値段が高い」
- F. 【商业气息太重】【商业气息太浓】【过度商业化】→「商業化しすぎる」

中国語の原文と日本語に翻訳した文は添付資料 7、8 に示す。

7-3-2 テキストマイニングを利用したデータの解析の流れ

分析手順は下記のとおりである。

Step.1:

単語頻度解析を用いて、単語毎での出現頻度を把握する。

Step.2:

評判抽出ネットワーク分析をおこない、良いイメージで語られることば、・悪いイメージで語られることばを抽出する。単語に対して好意的・非好意的表現それぞれで語られた回数をカウントし、それをもとに好評語・不評語のランクを作成する。

Step3:

質問項目毎にネットワーク分析（ことばネットワーク）を行い、単語間の係り受けを把握する。ネットワーク分析とは、文章中に単語 A が出現したときに単語 B が出現する割合（信頼度）が高い単語群を矢印（A→B）で表すことで単語間の関わりの強いクラスターを見出すことができる。

7-4 テキストマイニングの結果

7-4-1 基本情報及び単語頻度

分析対象となるテキスト・データの基本情報を確認する。総文数（総センテンス数）は309文、延べ単語数は600語、単語語種別数は234語である。また、テキスト全体における品詞出現回数は名詞が455回、動詞が46回、形容詞が85回、副詞が7回、連体詞は3回、接続詞は4回である。以上より、本節で扱うデータは、テキストマイニングの分析対象として量的には少ないが、分析には耐えられる文数、単語数、単語種別数であり、伝統的地域を訪れた観光客の感想のポイントをある程度、抽出できると考えられる。

表 7-2 文数・単語数・単語語種別

項目	値
平均文長（文字数）	5
平均行長（文字数）	5.3
単語種別数	234
総文数	309
総行数	294
延べ単語数	600

表 7-3 品詞出現回数

品詞	出現回数
名詞	455
動詞	46
形容詞	85
副詞	7
連体詞	3
接続詞	4

注)「総行数」は調査項目に対して回答した総数である。

「総文数」はセンテンスの総数である。

7-4-2 単語頻度解析

単語頻度解析（名詞・形容動詞・動詞）解析パラメータは次のとおりである。

【品詞フィルタ設定】

抽出する品詞：

名詞 一般、名詞 固有名詞、名詞 固有名詞人名、名詞 固有名詞組織、名詞 固有名詞地名、名詞 固有名詞国名、名詞 サ変接続、名詞 形容動詞語幹、名詞 数、名詞 ナイ形容詞語幹、動詞 自立、形容詞 自立、グループ、カテゴリ

抽出しない品詞：

名詞 代名詞、名詞 非自立、名詞 特殊、名詞 接尾、名詞 接続詞的、名詞 引用文字列、
接頭詞 名詞接続、接頭詞 動詞接続、接頭詞 形容詞接続、接頭詞 数接続、動詞 非自
立、動詞 接尾、形容詞 非自立、形容詞 接尾、連体詞、接続詞

【単語フィルタ設定】いずれかの条件を満たす

【述語属性フィルタ設定】、なし、否定、可能、不可能、要望、疑問、容易、困難、過度

【述語属性の区別】あり

【文字数フィルタ設定】1文字以上

【行中の重複単語のカウンタ設定】カウンタを1とする

【抽出する件数の設定】上記の条件を満たすもののうち、上位20件を抽出する。

図7-1は単語頻度解析において出現頻度が上位20個の単語を表している。「少ない」「人」「多い」が上位を占めている。続いて「トイレ」「道」「案内板」といった用語の出現頻度も高いことから、基盤整備に絡む用語が並んでいる。また、「開発+すぎる」「商業化+すぎる」といった観光開発の用語の出現頻度が高いことから、観光客は伝統的観光地の開発課題に関心を寄せていることがうかがえる。そして「少ない」「多い」「高い」「良い」「素晴らしい」「悪い」といった評判が数多くあることから、観光後の観光客の気持ちを覗くことができることが示唆される。

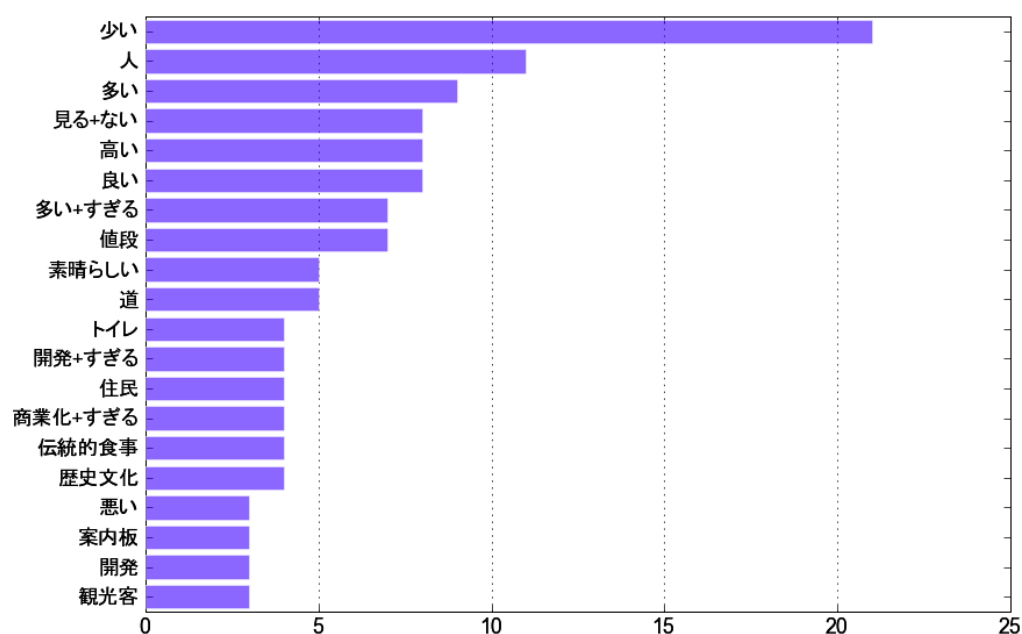


図 7-1 単語頻度分析の結果

7-4-3 評判抽出について

評判分析とは良いイメージで語られることば、・悪いイメージで語られることばを抽出することである。単語に対して好意的・非好意的表現それぞれで語られた回数をカウントし、それをもとに好評語・不評語のランクを作成する。

ここでは、好評・もしくは不評の評価を与える働きをする単語を「評価語」と呼ぶことにする。例えば、「良い」「美味しい」等は好評評価を与える評価語、「悪い」「不味い」等是不評評価を与える評価語である。TMStudio は 3000 語強の評価語データベースを保持しており、これらの評価語と各々の単語との係り受け関係に着目して、好意的な評価語との係り受けが発生していることばには好評 (Positive) の点数を、非好意的な評価語との係り受けが発生していることばについて不評 (Negative) の点数を与える。

7-4-4 評判抽出ネットワーク

評判抽出分析における解析パラメータは次のとおりである。

【品詞フィルタ設定】

抽出する品詞：

名詞 一般、名詞 固有名詞、名詞 固有名詞人名、名詞 固有名詞組織、名詞 固有名詞地名、名詞 固有名詞国名、名詞 サ変接続、名詞 形容動詞語幹、名詞 数、名詞 ナイ形容詞語幹、グループ

抽出しない品詞：

名詞 代名詞、名詞 非自立、名詞 特殊、名詞 接尾、名詞 接続詞的、名詞 引用文字列、接頭詞 名詞接続、接頭詞 動詞接続、接頭詞 形容詞接続、接頭詞 数接続、動詞 非自立、動詞 接尾、形容詞 非自立、形容詞 接尾、連体詞、接続詞

【好評語・不評語ランキング】それぞれの上位 20 単語を抽出する

【文字数ファイル】単語が 4 以上

Positive と Negative 表現抽出の結果を、ネットワーク図を用いて表示させたものが、図 7-2 の示したものである。これにより、どんなことばがどのような Positive、Negative 評価表現を用いて語られているのかを概観することができる。

図中のノードの色が次のことばに対応している。

- 水色 (白黒印刷では白色○) : Positive 評価を与える語
- 赤色 (白黒印刷では黒色●) : Negative 評価を与える語
- ピンク色 (白黒印刷では灰色●) : 評価を受ける語

矢印は評価を与えることばから評価を受けることばの向きで作成される。ノードの大きさは Positive、Negative の表現中での単語の出現数に対応している。リンクの太さは、それらが結合することば間の表現が出現した回数に対応している。

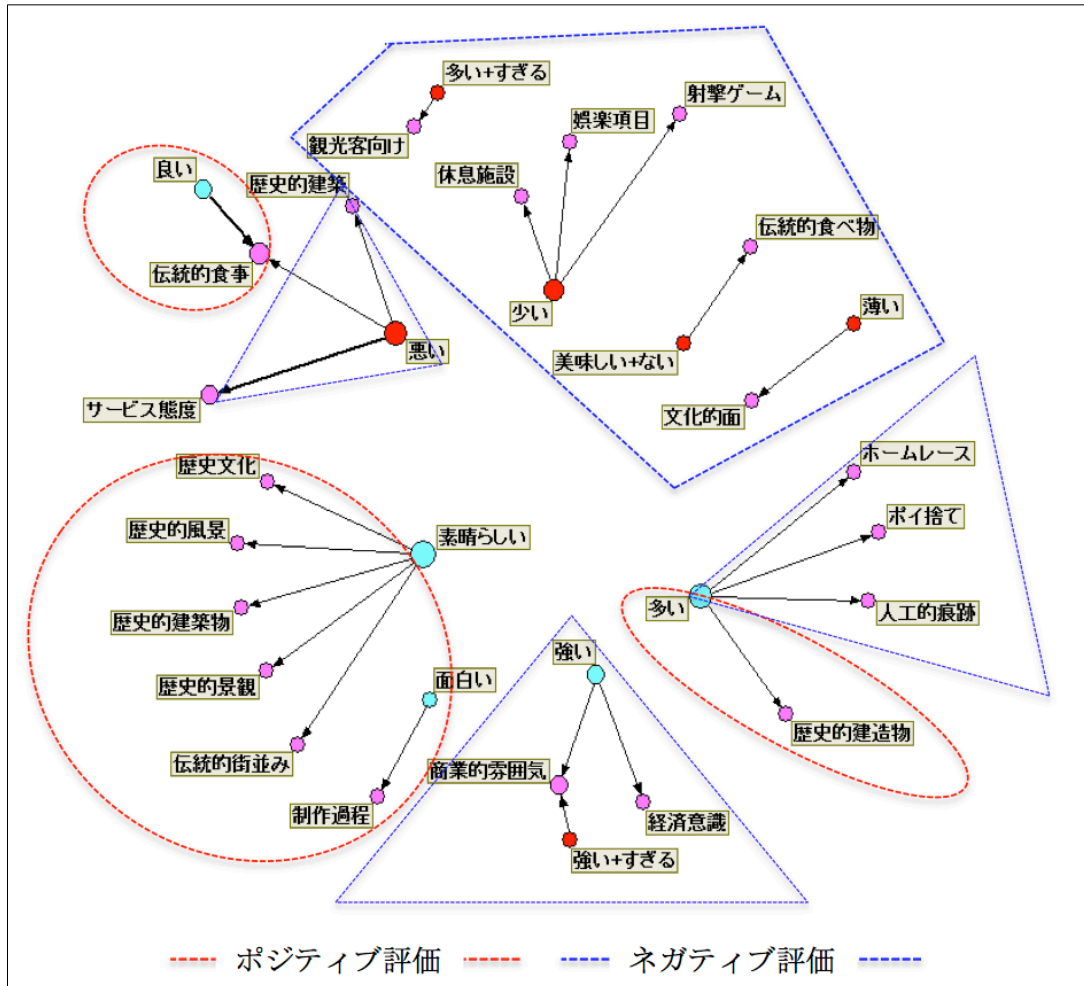


図 7-2 観光客の観光後の評判抽出

ここで注意しておきたいことは、TMStudio を利用し、評判ネットワークを出力する場合、Positive 評価を与える語、Negative 評価を与える語、評価を受ける語を自動的に生成するが、調査地域の現況に合わない状況もあるので、考察にあたって調査地域の現況に合わせて評判の結果の好評・不評を判断することが必要である。評判抽出した結果より、Positive と Negative 表現を分類し直すと以下のとおりである。

Positive 表現：

- ・ 「歴史文化」「歴史的風景」「歴史的建築物」「歴史的景観」「伝統的街並み」→「素晴らしい」
- ・ 「歴史的建築物」→「多い」
- ・ 「伝統的食事」→「良い」
- ・ 「制作過程（現場づくり）」→「面白い」

Negative 表現：

- ・ 「ホームレース」「ポイ捨て」「人口的痕跡」→「多い」
- ・ 「商業的雰囲気」→「強い・強い+強すぎる」
- ・ 「伝統的食事」→「美味しくない・少ない+すぎる」
- ・ 「サービス態度」「歴史的建築物」→悪い
- ・ 「観光客向けの店舗」→「多い+すぎる」
- ・ 「休憩施設」「娯楽項目」→「少ない」
- ・ 「文化的面」→「薄い」
- ・ 「経済意識」→「強い」

上記より、「歴史文化」「歴史的風景」「歴史的建築物」「歴史的景観」「伝統的街並み景観」との伝統的・歴史的景観が高く評価されていることがわかった。また、現場で伝統的食事をつくる風景を見られることは好評価である。一方、文章を検索して確認すると、伝統的食事の種類や少ない、美味しくないという不評があることから、伝統的食事の種類を増やし、味を改良することに更なる力を入れる必要があると考えられる。

また、「サービス態度」といった商売行為、「ホームレースからお金を要求される」「ポイ捨て」といったマナー問題、及び「人工的痕跡」「文化の薄さ」「商業的雰囲気」「休憩施設・娯楽項目」「観光客向けの店舗」といった開発問題などの幅広い面にネガティブな評価がされている。また、「文化的面→薄さ」から、観光客は伝統的生活文化の価値を課題として認識している。

観光客は観光後、観光地に対して気になったことは「歴史的景観」「歴史的風景」「歴史的建築物」「伝統的街並み」と伝統的景観及び「伝統的食事」の美味しさなどの伝統的資源の価値に対し、好評価をしている。この点は前章までのアンケート調査項目による分析結果と一致している。その一方で、伝統的文化的の薄弱化、商業的雰囲気の強さ、人工的建築物の多さ、サービスの悪さ、観光客向けの店舗が数多くなどの観光開発の問題が強く認識されており、不評価の結果が得られた。特に「サービス」の課題、観光開発のされずぎ（事業者・人工的建築）の課題は前章までの分析結果に加えられる新たな課題である。

7-4-5 ネットワーク分析について

自由記述のデータにネットワーク分析（ことばネットワーク）を行い、単語間の係り受けを検討する。方法としては、単語同士の関係に従って抽出を行った。

w_i を係り元単語、 w_j を係り先単語とする。テキストに出現する、係り受け関係にある単語のうちフィルタ条件に合致したものの組(w_i, w_j)について、その係り受け頻度 K_{ij} を求め、その値が下限値 K 以上であるものを表示する。

ことばネットワーク分析における解析パラメータは次のとおりである。

【係り受け関係抽出】 話題一般（名詞・形容詞・形容動詞・動詞）

【頻度】 K の値を2に設定して、2回以上であるものを抽出する

【抽出する件数の設定】 上記の条件を満たすもののうち、上位20件を抽出する。ただし指定した上位件数を超えても順位が同じものは全て抽出する

【述語属性】 述語属性の違いを区別する

【抽出述語属性】

係り元：なし、否定、可能、不可能、要望、疑問、容易、困難、過度、

係り先：なし、否定、可能、不可能、要望、疑問、容易、困難、過度、

【削除語】 なし

【同一行内で重複する単語・共起】 同一行内で重複する単語を1回出現したとみなす。

7-4-6 ネットワーク分析の結果

図 7-3 は質問「観光後の感想」に対するネットワーク分析の結果である。ここで矢印の根元の単語は条件部を表しており、矢印の先が結論部を表している。例えば、黄色の矢印で表記した「伝統的食事」→「良い」は単語「伝統的食事」が文章中に出現したときに単語「良い」が出現する割合（信頼度）が 0.2 以上であることを意味する。また、矢印の太さは信頼度の大きさに対応しており、単語を表すデータ点の大きさはその単語の出現割合（サポート）の大きさを表しており、データ点の位置には意味がない。すなわち、矢印とその方向のみに意味がある。ネットワークを用いることで、文章中に出現する単語のクラスター（高頻度を用いる単語の集合）を見いたすことができる。

表 7-4 はことばネットワーク係り受け頻度表である。単語間の係り受け頻度を示したものである。

その結果、Cls.1 が大きなクラスターを構成した。Cls.2~Cls.6 は条件部と結論部が1個しか存在しなかった。Cls.1 では、「少ない」が結論部になるが、条件部として「説明板」「道の案内板」「トイレ」「休憩場」「人」が挙げられた。その中で5つの中に4つは基盤

整備であることから、観光客の観光後の感想として基盤整備の不足を挙げる意見が多い。

観光客の感想後のコメントに対する条件部に注目すると、

- A. 「開発→過度」といった開発現況の問題を表すネットワーク
- B. 「伝統的食事→良い」「伝統的生活文化→見る・ない」といった地域側の伝統的資源の問題を表すネットワーク
- C. 「サービス態度→悪い」、「値段→高い」といった商売の問題を表すネットワーク
- D. 「人→多い+すぎる」、「人が多い」、「人が少ない」といった地域の人の問題を表すネットワーク
- E. 「休憩場→少ない」「説明板→少ない」、「トイレ→少ない」「道の案内板→少ない」といった基盤整備の問題を表すネットワーク

以上の5種類の課題が存在することがわかった。テキスト・データの中で「人→少ない」と「人→多い・多すぎる」が同時に出現した。原文を検索して確認すると、「人→少ない」の内容は主に「夜になると人が少ない」である。「人が多い・多すぎる」の内容は主に観光客の数が多いたことが確認できた。伝統的観光地を訪れた観光客は、飲食を高く評価しているが、商品の値段やサービス態度といった商業購買の行為や過剰の観光開発による伝統的生活文化の薄弱化、開発不足による基盤整備の不十分、昼中の人の多さと夜の閑散さを問題視している。

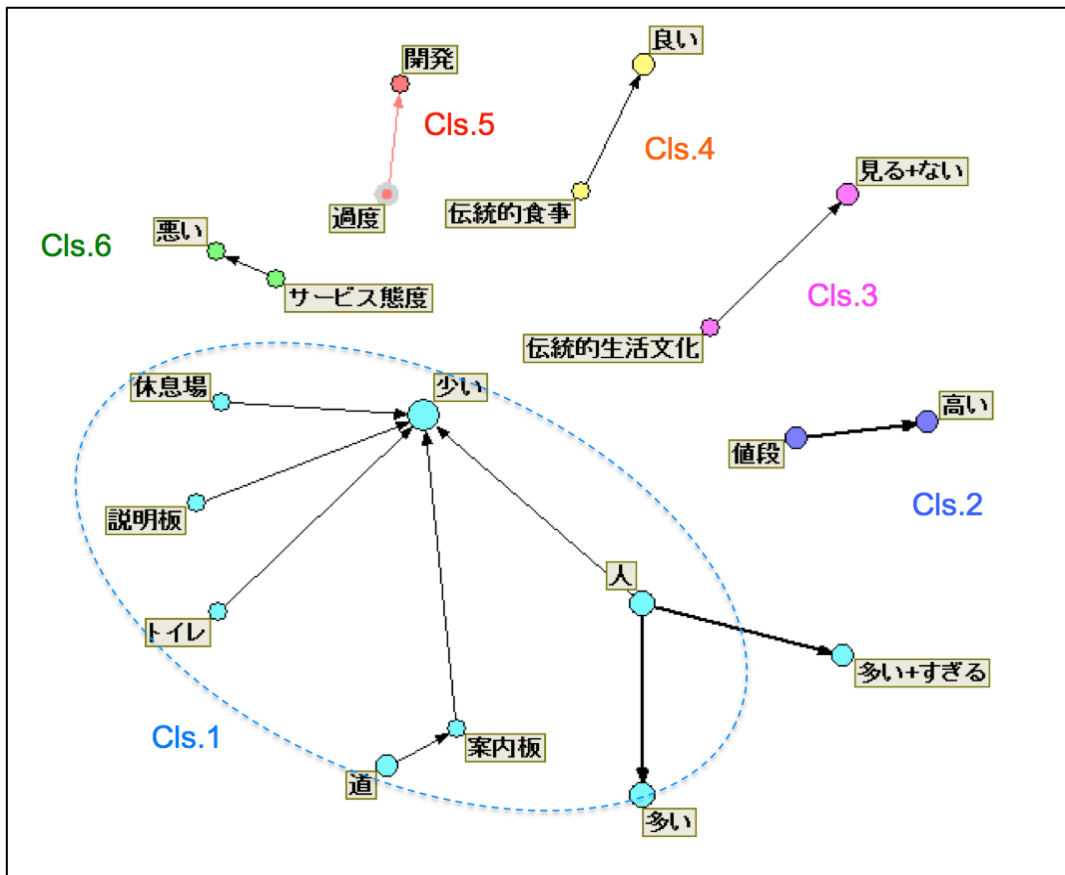


図 7-3 観光客の観光後の感想に対するネットワーク分析の結果

表 7-4 ことばネットワーク係り受け頻度表 (観光後の感想)

係り元単語	係り元品詞	係り先単語	係り先品詞	頻度
人	名詞	多い+すぎる	形容詞	5
値段	名詞	高い	形容詞	5
人	名詞	多い	形容詞	4
トイレ	名詞	少い	形容詞	3
案内板	名詞	少い	形容詞	3
説明板	名詞	少い	形容詞	3
サービス態度	名詞	悪い	形容詞	2
過度	名詞	開発	名詞	2
休憩場	名詞	少い	形容詞	2
人	名詞	少い	形容詞	2
伝統的食事	名詞	良い	形容詞	2
伝統的生活文化	名詞	見る+ない	動詞	2
道	名詞	案内板	名詞	2

7-5 第7章のまとめ

本章では、伝統的観光地を訪れた観光客の観光後の感想を、テキストマイニングの手法を用いて、数値的に分析した。

評判抽出ネットワーク分析によって観光客の感想にかかわる好評と不評を抽出した。

ネットワーク分析によって単語間の関わり合いの強いクラスターを見出し、観光客の感想現状にかかわる主な要素を抽出した。得られた知見を整理すると以下の通りである。

評判ネットワーク分析によって、「歴史的風景」「歴史的建築物」「伝統的町並み景観」「歴史文化」「伝統的食事」といった歴史的・伝統的に対するポジティブな評価が得られた。

また、「食事の調理過程を見せること」が好評であることがわかった。

一方で「ポイ捨て」「落書き」「サービスが悪い」といったゲスト側とホスト側のマナー問題、「商業的雰囲気が強い」「観光客向けの店舗が多すぎる」といった開発問題、「経済意識が強い」「文化的面が薄い」といった意識問題、「休憩施設・娯楽施設が少ない」といった基盤整備、などの幅広い方面にネガティブな評価が得られた。

ネットワーク分析によって、特に「休憩場所、道の案内板や説明板、トイレ」といった基盤整備の不備が主な問題として抽出された。また、ホスト側のサービス態度が悪いこと、過剰な開発、伝統的生活文化の薄弱化、高価な値段などの問題も抽出された。

基盤面への満足度は前章までのアンケート調査の結果では、低くはなかったが、自由記述に答えた多くの観光客は特に基盤面の不備を問題と意識している。

<第7章における注記>

注1) テキストマイニング法は質的研究の手法の一つである。質的研究は作為的な研究ではないが、作為的になりかねない研究である。適切な理論的感受性と適切な理論的なサンプルがあつて初めて適切な質的研究となりえるのである。そこで、質的研究では「主観と客観の融合」というと、格好いいような、それでいて矛盾しているような響きがあるが、質的研究にとっては生命線ともいふべき重要な作業である。つまり、自分の主観や第三者の主観を認識することによって客観に近く作業を意味している。

注2) テキストマイニングの概要は添付資料6に示す。

<第7章における参考文献>

- [1] 株式会社数理システム (2011) : 『Text Mining Studio 操作マニュアル バージョン 4.0』
- [2] 株式会社数理システム (2011) : 『Text Mining Studio 技術資料 バージョン 4.0』
- [3] 株式会社数理システム (2011) : 『Text Mining Studio チュートリアル バージョン 4.0』
- [4] 浜崎隆司・吉田美奈 (2015) : 添い寝時における就眠儀式についての研究-テキストマイニング法による自由記述の分析、The study on the bed-time routine in co-sleeping : Analysis of free description by using text mining method、広島大学大学院教育学研究科学習開発学講座第8号、pp.175-188.
- [5] 金明哲 (2012) : 『テキストマイニングの統計科学入門』、岩波書房.
- [6] ローネン・フェルドマン, ジェイムズ・サンガー, 辻井潤一 (監訳) (2010) : テキストマイニングハンドブック、IBM 東京基礎研究所テキストマイニングハンドブック翻訳チーム、東京電機大学出版局.
- [7] 松村真宏・三浦麻子 (2009) : 人文・社会科学のためのテキストマイニング、誠信書房.
- [8] 野口寛樹 (2012) : 探索的定量研究に基づいたミッションの理解-定款のテキストマイニングから- The Nonprofit Review、Vol. 12、No. 1、pp. 21-33.
- [9] 藤井美和・李政元・小杉考司 (2005) : 福祉・心理・看護のテキストマイニング入門、中央法規出版.
- [10] 王娜 (2016) : 山梨県における NPO 法人経営の持続性意識に関する研究、山梨大学大学院医学工学総合教育部博士論文、pp.60-61.

第 8 章 伝統的観光地の観光客と商業者の意識に関する比較

8-1 第8章の目的

前章まで、伝統的観光地を訪れた観光客の意識を考察してきた。第4章では、観光客の総合満足度を上げるあるいは下げることに特に大きな影響を及ぼす要因を抽出して観光客の意識を考察した。その結果、「住民生活の様子をみる」が総合満足度にポジティブな影響を与え、さらに「夜のライトアップ」と「歴史上人物の物語を知ること」への評価が総合満足度を相乗して高めることが示され、「伝統的な街並み」「歴史的建築物」「伝統的な生活の説明を聞く」の評価が低いと総合満足度にネガティブな影響を及ぼすことを指摘した。第5章においては、「住民の生活様子を見る」の他、「伝統生活の体験」「伝統的な生活の説明を聞く」も、総合満足度に強い影響を与えないまでも、重要度が高く、しかし現状では、満足度が低い要素であることが指摘された。さらにこれらのことから、地域住民の居住の持続や文化の継承の重要性を指摘した。住民の生活文化資源が重要であることが分かり、観光地開発における住民側の意識を明らかにする必要性が課題として残った。

観光客が期待し満足しているものと観光地の商業者が重視しているものは一致しているのか異なるのか、商業者はどのような観光地を目指したいと考えているのか、このような観光客側と地域側の意識を把握し比較することが、今後の伝統的観光地の持続可能性の模索に示唆を与えることができるのではないかと考えられる。

そこで本章では、商業者を対象にアンケート調査を実施し、「商業者の考える重要な観光要素」と「観光客が期待・満足している観光要素」の差異を明らかにし、観光客・商業者の意識の実態に基づいて伝統的観光地の開発・保全の方向づけを考察することを目的とする。

そこで本章では以下の事項を明らかにしたい。

- (1) 商業者が予測している観光客のニーズと、実際の観光客のニーズを比較して、共通点と相違点を明らかにすること
- (2) 商業者の地域づくりに対する意識を明らかにすること

8-2 アンケート調査及び調査の概要

地域住民が多く居住している、黄龍溪古鎮と安仁古鎮の2つ地域を調査対象地とした。

8-2-1 アンケート調査の概要

観光客へのアンケート調査は第3章で説明した通りであり、この期待と満足のデータを用いる。

商業者へのアンケート調査では、以下の2点を把握した。

- (1) 商業者が重視している観光要素（すなわち商業者が考えている「観光客が当観光地に期待する要素」の予測）
- (2) 地域の歴史や景観に対する商業者の意識

(1) では、商業者が「重視している」観光要素と、観光客が「期待している」「満足している」観光要素を比較する。



写真 8-1 商業者向けの調査の様子

8-2-2 アンケート調査の内容

商業者を対象としたアンケート調査は2015年8月下旬～9月下旬に実施した。有効回答数は150人である。

アンケート項目は個人属性の他は以下の通りである。図8-1、図8-2にアンケート調査票を示す。

(1) 商業者が予測した観光客ニーズ

「問1. ここに来た観光客は何を求めていると思いますか」と質問した。

選択肢は、観光客に対して質問した項目（満足）と同一の項目（表8-1）を用い、5段階評価で質問した。

(2) 商業者の地域に対する意識

観光地の魅力を高めるために、その観光地の住民（特に商業者）の意識（地域の歴史文化景観を継承し磨き活用しようとする意識や住民相互が協力しあおうとする意識）は重要である。そこで、

「問2. この古鎮に対して、あてはまる気持ちに1つ○を付けてください」と質問した。

選択肢は、「歴史に対する誇り」、「景観に対する誇り」、「地域の魅力を観光客に伝えたい気持ち」、「住民同士で協力したい気持ち」、「将来に向けて歴史文化を継承したい気持ち」、「将来に向けて景観を磨いていきたい気持ち」の6項目を設定し、5段階評価で質問した。

(3) 商業者の生活に対する満足度

「問3. この古鎮での生活について、あてはまる気持ちに1つ○を付けてください」と質問した。

選択肢は、「観光収入（経済面）」、「商売のやりがい（精神面）」、「生活への満足（総合評価）」の3項目に対し、5段階評価で質問した。

(4) 商業者の行動実態

「問4. 次の行動をしたことがありますか？」と質問した。

選択肢は、「景観を守る行動」「歴史文化を調べる行動」「観光客に生活文化を説明する行動」「観光客に建築物の特徴を説明する行動」「観光客に歴史上の人物物語を説明する行動」の5項目とし、「ある／なし」で質問した。

(5) 商業者が考える地域の方向性

「問5. 今後も観光客が来てくれる地域になるためには、どんな観光地にすべきだと思うか」を質問した。選択肢は「伝統的生活が見られる」「本物の景観」「本物の建築」「伝統食」「伝統的生活で暮らす人の多さ」「観光地の静かさと賑わい」の点について「対極する2文」に対して二者択一で「そう思う」「やや思う」の選択で質問した。

表 8-1 商業者が予測する観光客ニーズの要素

Q1：住民の生活の様子をみる	Q2：伝統的な生活の説明を聞く
Q3：伝統生活の体験（耳搔きなど）	Q4：お茶屋体験
Q5：住民とのふれあい	Q6：伝統的演劇（川劇など）を観る
Q7：個々の歴史的建築物	Q8：伝統的な街並み景観(全体の雰囲気)
Q9：水辺の景観	Q10：緑の景観
Q11：歴史上の有名人物の物語	Q12：地域の歴史文化を知る・学ぶ
Q13：伝統的な食事をする	Q14：伝統にこだわらず食事する
Q15：伝統的な品物を買う	Q16：伝統にこだわらない買い物
Q17：のんびり過ごす（休息）	Q18：麻雀・トランプなどを楽しむ
Q19：友人や家族との団らん	Q20：出会い（観光客同士）
Q21：街の清潔さ	Q22：トイレの清潔さ
Q23：歩きやすい道の舗装	Q24：休憩できる場所
Q25：街の案内板や解説板	Q26：夜のライトアップ

あなたご自身についてお尋ねします。(○をつけてください)

性別	男	女
年齢	()歳	
職業	店の所有: 1 先祖代々住んでいる持ち家 2 購入した持ち家 3 借家 店の種類: 1 宿泊 2 飲食 3 物販() 4 その他()	
建物の歴史	1 年	2 知らない
出身地	省	市 県
居住地区	区	
居住年数	年	
お住まいと店は同じか	同じ ・ 違う	

問1 ここに来た観光客は何を求めていると思いますか。

	求めている	やや求めている	どちらでもない	あまり求めていない	求めていない
住民の生活の様子をみる	5	4	3	2	1
伝統的な生活の説明を聞く	5	4	3	2	1
伝統生活の体験(耳搔きなど)	5	4	3	2	1
お茶屋体験	5	4	3	2	1
住民とのふれあい	5	4	3	2	1
伝統的演劇(川劇など)を観る	5	4	3	2	1
個々の歴史的建築物	5	4	3	2	1
伝統的な街並み景観(全体の雰囲気)	5	4	3	2	1
水辺の景観	5	4	3	2	1
緑の景観	5	4	3	2	1
歴史上の有名人物の物語	5	4	3	2	1
地域の歴史文化を知る・学ぶ	5	4	3	2	1
伝統的な食事をする	5	4	3	2	1
伝統にこだわらず食事する	5	4	3	2	1
伝統的な品物を買う	5	4	3	2	1
伝統にこだわらず買い物をする	5	4	3	2	1
のんびり過ごす(休息)	5	4	3	2	1
麻雀・トランプなどを楽しむ	5	4	3	2	1
友人や家族との団らん	5	4	3	2	1
出会い	5	4	3	2	1
街の清潔さ	5	4	3	2	1
トイレの清潔さ	5	4	3	2	1
歩きやすい道の舗装	5	4	3	2	1
休憩できる場所	5	4	3	2	1
街の案内板や解説板	5	4	3	2	1
夜のライトアップ	5	4	3	2	1

図 8-1 商業者用アンケート用紙 (表)

問2 この古鎮に対して、あてはまる気持ちに1つ○を付けてください。

	ある	少しある	どちらでもない	あまりない	ない
歴史に対する誇り	5	4	3	2	1
景観に対する誇り	5	4	3	2	1
地域の魅力を観光客に伝えたいと思う気持ち	5	4	3	2	1
住民同士で協力したい気持ち	5	4	3	2	1
将来に向けて、歴史文化を継承したいと思う気持ち	5	4	3	2	1
将来に向けて、景観を磨いていきたいと思う気持ち	5	4	3	2	1

問3 この古鎮での生活について、あてはまる気持ちに1つ○を付けてください。

	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
観光による収入に満足していますか？(金銭面)	5	4	3	2	1
商売のやりがいに満足していますか？(精神面)	5	4	3	2	1
ここでの暮らしに満足していますか？(総合評価)	5	4	3	2	1

問4 次の行動をしたことがありますか？

景観を守る活動をしたことがある(花植え・清掃・建築修復など)	ある	無い
地域の歴史文化について調べたことがある	ある	無い
観光客に伝統的な生活文化の特徴を説明したことがある	ある	無い
観光客に伝統的な建築物の特徴を説明したことがある	ある	無い
観光客に歴史上の有名人物の物語を説明したことがある	ある	無い

問5. 今後も観光客が来てくれる地域になるためには、どんな観光地にすべきだと思いますか？ 当てはまる気持ちの強さに○をつけてください。

	←やや そう思う	やや→ そう思う	
伝統的な生活文化は 見られるが娯楽は少ない	-----	-----	娯楽は楽しめるが 伝統的生活文化は少ない
本物の歴史的景観がある	-----	-----	本物でなくても歴史的な雰囲気 があればいい
本物の伝統的建築物がある	-----	-----	建築物は本物にはこだわらない
伝統的な生活文化に沿っ て暮らす人が多い	-----	-----	近代的な生活文化で暮らす人 が多い
静かな観光地	-----	-----	賑やかな観光地
地方の伝統的な食事が食 べられる	-----	-----	伝統的なものよりも、自分の食 べたいものが食べられる

図 8-2 商業者用アンケート用紙 (裏)

8-3 被験者の概要

観光客と商業者の被験者の属性を示す。

表 8-2 に対象地である黄龍溪古鎮と安仁古鎮の観光客の属性をあらためて示す。両地域とも傾向は変わらない。性別は女性が 56%とやや多い。年齢は 20 代以下が 70%を占め、若年層が伝統的地域に惹かれていることが分かる。中高年層の観光客に調査協力を拒否される場合があったため、50 代以上の回答数が実際の来訪者数よりやや少ない結果となっている。約 70%が成都市内からの観光客であり、滞在形態も 8 割(黄龍溪 90%、安仁 75%)が日帰りである。初めての来訪者とリピーターの割合は 4 : 6 である。

表 8-2 観光客の属性

項目		黄龍溪古鎮	安仁古鎮	全体
性別	男性	51 (46%)	46 (42%)	97 (44%)
	女性	59 (54%)	64 (58%)	123 (56%)
年齢	10 代	23 (21%)	33 (30%)	56 (25%)
	20 代	51 (46%)	46 (42%)	97 (44%)
	30 代	21 (19%)	14 (13%)	35 (16%)
	40 代	7 (6%)	10 (9%)	17 (8%)
	50 代	3 (3%)	1 (1%)	4 (2%)
	60 代	5 (5%)	6 (5%)	11 (5%)
居住地	成都市内	83 (75%)	69 (63%)	152 (69%)
	成都市外	27 (25%)	41 (37%)	68 (31%)
滞在	日帰り	98 (90%)	82 (75%)	180 (83%)
	宿泊	11 (10%)	27 (25%)	38 (17%)
来訪回数	はじめて	43 (39%)	46 (42%)	89 (40%)
	2 回以上	67 (61%)	63 (57%)	129 (59%)

(表中の数値は欠損値を除外している)

表 8-3 に商業者の属性を示す。両地域とも傾向は変わらない。女性が 65%、20 代～40 代が 75%と多い。地元（四川省）出身の人と省外からの移住民が半々を占めている。住居の所有形態は、借家が約 78%と殆どで、持家は 22%、うち先祖代々の持ち家は 16%である。業種は、物販商店が 75%（土産物屋、アクセサリー店、玩具店、衣類店など）と多く、次いで飲食店が 21%を占める（黄龍溪は飲食が比較的多い）。

表 8-3 商業者の属性

項目		黄龍溪古鎮	安仁古鎮	全体
性別	男性	31 (44%)	19 (25%)	50 (34%)
	女性	39 (56%)	56 (75%)	95 (66%)
年齢	10 代	4 (6%)	5 (7%)	9 (6%)
	20 代	22 (32%)	15 (21%)	37 (26%)
	30 代	15 (22%)	17 (24%)	32 (23%)
	40 代	15 (22%)	23 (32%)	38 (27%)
	50 代	7 (10%)	6 (8%)	13 (9%)
	60 代	6 (9%)	6 (8%)	12 (9%)
出身地	地元	34 (52%)	44 (59%)	78 (56%)
	その他	32 (48%)	30 (41%)	62 (44%)
所有形態	先祖代々の持ち家	11 (16%)	11 (16%)	22 (16%)
	購入した持ち家	2 (3%)	7 (10%)	9 (6%)
	借家	57 (81%)	52 (74%)	109 (78%)
業種	宿泊	2 (3%)	1 (1%)	3 (2%)
	飲食	20 (29%)	10 (14%)	30 (21%)
	物販商店	48 (69%)	57 (81%)	105 (75%)
	その他	0 (0%)	2 (3%)	2 (1%)

(表中の数値は欠損値を除外している)

8-4 商業者の重視度

8-4-1 分析方法

商業者は、「観光客が何を求めてここを訪れている」と考えているか。これを捉えるため、観光客の満足度と同じ項目を5段階評価で商業者に質問した。そして、重視度を「観光客がく求めている」>および<やや求めている>と思うと回答した人の数/回答者数で算出する。その結果を表8-4に示す。

観光客の意識は表6-4で示した期待と満足の結果を用いて(表8-4の左)商業者の意識と比較する。

8-4-2 商業者の重視度と観光客の評価の関連

商業者も重要と考えている項目(表中●)は観光客の満足度・期待度が高い項目と概ね一致していた。両者の意識が一致する項目は「伝統的な街並み景観(1.6:重視度)」「個々の歴史歴建築物(1.4)」「伝統的な食事(1.3)」であった。商業者の認識は観光客のニーズを捉えており、今後もその質を落とさずに維持していくべき項目である。対象地は伝統的な建築物が保全された地域を売り物にする古鎮であり、観光客が「伝統的な街並み景観」を求めに来るのは当然で重要であろう。それに対して観光客の満足を得ている結果は、現状の街並み空間の開発・保全の状況が概ね適切であるということを示しているだろう。また、伝統食というソフトに関しても、取り組み状況は概ね適切であると言えよう。

一方、観光客が期待以上に満足した項目(観光客の期待度が低くなく(表中-)、満足度が高い項目(表中●))は、商業者の認識も低かった(重視度が高くない(表中-))。「のんびり過ごす(休息)(0.1)」「水辺や緑の自然の景観(0.2)」「友達や家族と団らん(0.4)」であり、これらは商業者も見落としていた地域の持つ魅力であり、ポジティブに認識し検討すべき項目である。古鎮には、路上で寛げる住民(商業者)のゆったりとした雰囲気があり、当たり前なのんびりした生活風景や寛げる空間を意識し大事にしていく必要があるだろう。

さらに、観光客が期待していたにもかかわらず、満足が得られなかった「生活文化を知る(ギャップ-1.1▼)」「歴史文化を知る(-0.7▼)」は、商業者の認識は低い。特に観光客の期待と満足のギャップが最も大きかった「生活文化の体験をする(-1.6▼▼)」は商業者の重視度は極めて低い(重視度-1.0▼)。商業者が意識していないが観光客の評価が高かった「過ごし方」や「自然」に比べて、観光客の評価が極めて低い「生活文化体験」は“商業者側がより努力して提供すべき観光要素”であり、商業者の認識とその結果の施策が観光客のニーズと噛み合っていない可能性が高い。

表 8-4 観光客の期待度・満足度と商業者の重視度

観光要素 ※は歴史文化資源、 無印はそれ以外		観光客の意識						商業者の意識					
		期待度		満足度		ギャップ		重視度					
		標準得点		標準得点				標準得点					
景 観	1.伝統的な街並み景観	※	49.6%	1.6	●	76.1%	1.4	●	-0.2	-	83.9%	1.6	●
	2.個々の歴史的建築物	※	32.3%	0.6	-	73.4%	1.2	●	0.6	-	80.7%	1.4	●
	3.水辺や緑の自然の景観		27.8%	0.3	-	69.1%	1.0	●	0.7	●	63.9%	0.2	-
文 化	4.歴史文化を知る	※	30.9%	0.5	-	45.0%	-0.2	-	-0.7	▼	69.8%	0.7	-
	5.生活文化を知る	※	34.6%	0.7	-	42.7%	-0.4	-	-1.1	▼	64.8%	0.3	-
	6.生活文化の体験をする	※	42.3%	1.2	●	41.1%	-0.4	-	-1.6	▼▼	46.2%	-1.0	▼
	7.住民とのふれあい	※	8.2%	-0.9	-	35.8%	-0.7	-	0.2	-	55.3%	-0.3	-
	8.伝統的演劇を観る	※	2.3%	-1.3	▼	22.5%	-1.4	▼	-0.1	-	48.9%	-0.8	-
飲 食 購 買	9.伝統的な食事	※	49.1%	1.6	●	72.9%	1.2	●	-0.4	-	78.6%	1.3	●
	10.伝統的な土産物	※	19.6%	-0.2	-	42.7%	-0.4	-	-0.2	-	62.2%	0.1	-
	11.伝統にこだわらない食事		11.4%	-0.7	-	42.2%	-0.4	-	0.3	-	56.6%	-0.2	-
	12.伝統にこだわらない買い物		4.1%	-1.2	▼	32.1%	-0.9	-	0.3	-	39.4%	-1.4	▼
保 養	13.のんびり過ごす(休息)		27.8%	0.3	-	70.2%	1.1	●	0.8	●	62.0%	0.1	-
	14.麻雀など		4.6%	-1.1	▼	37.6%	-0.6	-	0.5	-	55.3%	-0.3	-
	15.友達や家族と団らん		23.2%	0.0	-	69.3%	1.0	●	1.0	●	66.4%	0.4	-
	16.出会い		3.2%	-1.2	▼	21.1%	-1.5	▼	-0.3	-	30.0%	-2.1	▼▼
標準偏差σ			16.3%	1.0		19.0%	1.0		0.7		14.7%	1.0	
平均値μ			23.2%	0.0		49.6%	0.0		0.0		60.3%	0.0	

標準得点： $z=(x-\mu)/\sigma$ (x :期待度または満足度または重視度、 μ :それらの平均値、 σ :それらの標準偏差)

ギャップ:「満足度標準得点-期待度標準得点」の差

● $\mu + \sigma$ 以上、▼ $\mu - \sigma$ 以下、-その中間、▼▼ $\mu - 2\sigma$ 以下

8-4-3 地域別の検討

観光客の期待度・満足度と商業者の重視度を地域別にみたものを表 8-5 に示す。標準得点が偏差値以上に高いか低いかを記号で表記した。

観光客が期待に比して満足した「水辺や緑の自然の景観」は黄龍溪のみの特徴であった。逆に期待されている伝統的の食事は黄龍溪では期待に対して満足度が大きく下がっており、重要な改善項目にあたる。

のんびり過ごす・麻雀といった保養の機能は特に安仁でポジティブなギャップが大きく、引き伸ばすべき要素である。逆に期待されている伝統的街並み景観は安仁で満足度がやや劣っており、改善項目にあたる。

生活文化体験は特に安仁の商業者は意識が低く、改善する必要がある。黄龍溪では商業者はやや認識はしているものの結果として観光客の満足は得られておらず、その方法に問題があるようである。例えば黄龍溪では伝統的な菓子づくりのパフォーマンスなどを盛んにおこなっているが、観光客の求める生活文化とは異なるようだ。

表 8 -5 観光客の期待度・満足度・商業者の重視度（地域別）

観光要素	黄龍溪古鎮				安仁古鎮			
	観光客		商業者		観光客		商業者	
	期待度	満足度	ギャップ	重視度	期待度	満足度	ギャップ	重視度
1.伝統的な街並み景観	●	●	-	●	●	-	-	●
2.個々の歴史的建築物	-	●	●	●	-	-	-	●
3.水辺や緑の自然の景観	-	●	●	-	-	-	-	-
4.歴史文化を知る	-	-	▼	-	-	-	-	-
5.生活文化を知る	-	-	▼	-	-	-	▼	-
6.生活文化の体験をする	●	▼	▼▼	-	●	▼	▼▼	▼
7.住民とのふれあい	-	-	-	-	-	-	-	-
8.伝統的演劇を観る	▼	-	-	-	▼	▼	-	▼
9.伝統的な食事	●	-	▼	●	●	●	-	●
10.伝統的な土産物	-	-	-	-	-	-	▼	-
11.伝統にこだわらない食事	-	-	-	-	-	-	-	-
12.伝統にこだわらない買い物	▼	-	-	▼	▼	▼	-	▼
13.のんびり過ごす（休憩）	-	●	-	-	-	●	●	-
14.麻雀など	▼	-	-	-	▼	-	●	-
15.友達や家族と団らん	-	●	●	-	-	●	●	-
16.出会い（観光客同士）	▼	▼	-	▼▼	▼	▼	-	▼▼

● $\mu + \sigma$ 以上、▼ $\mu - \sigma$ 以下、-その中間、▼▼ $\mu - 2\sigma$ 以下

8-5 地域に対する事業者の意識

事業者の「地域の歴史・景観・文化に対する意識」を表 8-6 に、「観光地として目指したい方向」を表 8-7 に、「行動の実際」を表 8-8 に、「生活現状に対する意識」を表 8-9 に示す。

表 8-6 は 5 段階評価で質問し、その気持ちが「ある」「少しある」と答えた人の割合を示す。いずれも高い割合であり、黄龍溪の方が全体に意識が高い。表 8-9 は「今後も観光客が来てくれる地域になるために、どんな観光地にすべきだと思うか」を 2 者択一でどちらの気持ちが強いかを質問した結果である。生活文化、本物の歴史景観、本物の伝統建築、伝統食に重きを置くべきだと考える人が殆どを占め、黄龍溪の方が全体にその意識が高い。住民自身の伝統的生活の実践と静かな観光地を指向する意識は黄龍溪では高いが、安仁では約半数程度に下がる。

一方、表 8-8 は行動の有無を質問し「ある」と答えた人の割合を示す。歴史を調べ観光客に説明したり生活文化や建築を説明する行動を実際に行っているのは安仁の方が多い。意識と行動にはあまり関連が無さそうである。

黄龍溪は古鎮周辺の開発がやや過剰であり、安仁は開発が不足気味である。観光客の意識（表 8-9）からもそのことがみてとれる。黄龍溪では過剰な開発に対する反動で伝統資源への意識が高まり、安仁では開発不足が近代的な生活や賑やかな観光地を指向する意識に結びついているとも考えられる。

事業者の暮らしへの満足度（表 8-10）は、金銭面、精神面、総合評価ともに黄龍溪が高い。伝統的資源が暮らしを豊かにする実感が伝統的資源を重視する意識に結びついているともみてとれるが、表 8-11（各項目間の相関係数の平均値を示す）から、暮らしの満足と意識や行動の間に関連はみられず、暮らしと行動、意識と行動の相関は黄龍溪の方が低い。

表 8-6 商業者の地域に対する意識

地域に対する意識	安仁	黄龍溪	全体
歴史に対する誇り	88%	98%	93%
景観に対する誇り	80%	98%	89%
地域の魅力を観光客に伝えたい気持ち	78%	88%	83%
住民同士で協力したい気持ち	76%	94%	85%
将来に向けて歴史文化を継承したい気持ち	88%	93%	91%
将来に向けて景観を磨いていきたい気持ち	88%	98%	93%
平均	83%	95%	89%

表 8-7 商業者の観光地の方向性に対する意識

観光客に来てもらうためにどんな観光地になるべきですか (下記 2 項目の二者択一選択)	安仁	黄龍溪	全体
伝統的生活文化が見られるが娯楽は少ない	81%	94%	88%
娯楽は楽しめるが伝統的生活が見られない	19%	6%	13%
本物の歴史的景観がある	84%	88%	86%
本物でなくても歴史的雰囲気があればいい	16%	12%	14%
本物の伝統的建築がある	81%	91%	86%
建築物は本物にこだわらない	19%	9%	14%
地方の伝統的な食事が食べられる	78%	82%	80%
伝統的な食べ物より自分の食べたいものが食べられる	22%	18%	20%
伝統的生活文化に沿って生活する人が多い	58%	79%	69%
近代的生活文化で暮らす人が多い	42%	21%	32%
静かな観光地	48%	76%	62%
賑やかな観光地	52%	24%	38%

表 8-8 商業者の行動実態

次の行動をしたことがありますか	安仁	黄龍溪	全体
景観を守る活動（花植え・清掃・建築修復等）	30%	48%	39%
地域の歴史文化について調べた	74%	63%	69%
観光客に伝統的な生活文化の特徴を説明した	78%	51%	65%
観光客に伝統的な建築物の特徴を説明した	78%	41%	60%
観光客に歴史上の有名人物の物語を説明した	72%	27%	49%
平均	66%	46%	56%

表 8-9 観光客の地域に対する印象

開発程度	黄龍溪		安仁		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
開発しすぎ	59	54%	14	13%	73	33%
適正	39	35%	47	43%	86	39%
開発不足	12	11%	49	45%	61	28%

表 8-10 商業者の暮らしに対する意識

生活に対する満足度	安仁	黄龍溪	全体
観光収入に満足していますか。（金銭面）	32%	44%	38%
商売のやりがいに満足していますか。（精神面）	52%	60%	56%
ここでの暮らしに満足していますか。（総合評価）	60%	73%	66%

表 8-11 商業者の意識・暮らし・行動の相関

意識	暮らし	行動	
0.68	0.33	0.38	意識
安仁	0.58	0.34	暮らし
		0.51	行動
黄龍溪	0.5	0.24	意識
	0.57	0.06	暮らし
		0.32	行動

8-6 第8章のまとめ

観光客の意識と商業者の意識を比較し定量的にその実態を捉えた。

観光客も商業者も重視している要素は「伝統的な街並み景観」「個々の歴史的建築物」「伝統的な食事」であり、これらは概ね観光客の満足が得られていることから、今後も持続的に保全・改善をしていくべき観光資源である。ただし、安仁では街並み景観に改善の余地があり、黄龍溪では伝統食に改善の余地がある。

観光客も商業者も見落としていたが、観光客の満足度が高かった要素は「のんびり過ごす（特に安仁）」「団らん」「水辺や緑（黄龍溪）」であった。伝統的な街並みやのんびりした人の営みの雰囲気になりながら、また自然景観になりながら、豊かな時間を過ごすことが評価されたと考えられる。古鎮では建築物の保全や歴史の学習が主な施策と捉えられがちであるが、伝統的建築や景観のみならず、総合的な雰囲気（暮らし向き）や寛げる空間の維持と向上が観光地魅力の厚みを増やすための新たな課題となりそうである。

観光客が期待していたにもかかわらず、満足が得られなかった「生活文化の体験をする」「生活文化を知る」「歴史文化を知る」は、商業者はその重要性を認識していなかった。これは喫緊に改善方策を検討することが必要な課題であると言える。第4章では「生活文化を知る（見る）」が総合満足度を左右する重要な要素として指摘され、第6章の「期待」と「満足」のギャップの分析からは、特に「体験」が重要な要素と指摘された。商業者は生活文化を重視する意識は高い。しかし、「生活文化体験」に観光客が満足していないことから、現状の提供の内容が観光客のニーズと噛み合っていない可能性が高い。今後は「生活文化の体験・知る」の内容の実態と意識について、さらに詳細な現地調査を重ねていく必要がある。

商業者の歴史・景観・文化を重視する意識は高い。しかし、安仁にみるように、開発が遅れているという認識が近代的な生活を指向させているようである。また、暮らしと意識と行動の間には関連が見られず、経済的な活性化は必ずしも意識や行動に良い影響を与えない可能性も示唆された。一方、安仁では黄龍溪より意識が若干低いものの、行動を実践する人は多く、商業者の当たり前で気づいていないかもしれない行動の実態を前向きに評価し、意識啓発に繋げていくことが、先の「体験」や「地域を知る」観光客のニーズとの合致に繋がっていくのではないかと考えられる。

観光の意識が急激に変化している中国において、伝統的な空間は当然の背景として、そこでの寛ぎや体験を求める観光客ニーズと、商業者の意識との乖離を明らかにし、いくつかの開発・保全の方向付けを提案することができた。

<第8章における注記>

注1) 中国における伝統的観光地の中には、古鎮から住民を退居させ、再開発をおこなって、テーマパーク化する事例も少なくない。

<第8章における参考文献>

- [1] 秦蓉 (2007): 历史文化明鎮的旅游开发、乐山师范学院学报、Vol.22、No.1、pp.79-81.
- [2] 杨国才 (2002): 白族千年古村“诺邓”的保护与发展研究、云南民族大学学报(哲学社会科学版)、Vol.19、No.2、pp.67-74.
- [3] 张冬婷・邱扶东 (2011): 国内外古鎮旅游研究综述、旅游学刊、Vol.26、No.3、pp.86-92.
- [4] 郑世卿・王大悟 (2012): 烏鎮旅游发展模式解析[J]、地域研究与开发、pp.85-94.
- [5] 仓平 (2002): 朱家角古鎮旅游功能定位与开发问题讨论、上海商业职业技术学院学报、Vol.3、No.3、pp.45-46.
- [6] 徐宏・何焱 (2013): 古鎮旅游开发中当地居民“旅游参与者”与开发商的利益博弈、北京第二外国语学院学报、Vol.1、pp.70-79.
- [7] 周学军・武晓琳 (2008): 论古鎮的保护与旅游开发-以四川省双流县黄龙溪古鎮为例-、知识经济、Vol.1、pp.131-132.
- [8] 王惠・陈紫薇・张凯 (2014): 古村落居民行为对游客心理承载力影响研究、中南林业科技大学学报(社会科学版)、Vol.8、No.6、pp.1-5.
- [9] 劉岩・万可・李力・下川敏雄・大山勲 (2016): 成都市および近郊地域における観光地開発の現況-中国における伝統的観光地の顧客ニーズ調査-、日本感性工学会論文集、Vol.15、No.1、pp.163-172.
- [10] 羽生冬佳・森田義規・小久保恵三・十代田朗・津々見崇 (2006): 来訪者の観光地評価の構造に関する研究、日本造園学会 69 (4)、pp.301-306.
- [11] 柳雅聡・大山勲 (2014): 観光地における観光客と住民の観光に対する意識に関する研究、土木学会関東支部、第41回技術研究発表会、IV-14.

第9章 考察

9-1 各章の結論の相互関係

観光客の意識を複数の分析手法によって多面的に明らかにしてきた。本章では前章までの分析結果を統合して、結論に向けて要約していきたい。

CS 分析は、各観光要素の満足度をもとに、「重点的に維持していくべき要素」「改善すべき要素（うち、重点的に改善すべき要素）」を抽出する手法である。しかし観光客の満足度向上に対する影響度合いの優劣の評価は曖昧である。

CART 法は、対象地に対する総合満足度を目的変数とし、各観光要素の満足度を説明変数として、どの観光要素が総合満足度を上げるか下げるかについて、特に影響の大きな観光要素を影響の度合いも含めて評価できる方法である。つまり、「総合満足度を上げるために短期的・即効的な効果を狙うための方策」を検討するために優れた手法である。しかし、多くの人が満足している、あるいは不満である、というような評価が分けない要素に対しては感度が劣るため、長期的な方策を検討するためには見落としがある。

期待度と満足度の比較による分析は、CS 分析を補完できる。たとえば、改善分野と評価される要素は現状の満足度が低い要素が挙げられるが、改善分野と評価された要素であっても、もともと観光客の期待が薄ければ、改善すべき要素と取りあげる必要はないかもしれない。CS 分析の影響優劣の曖昧さをある程度補完できる。

一方で、現状で観光客が期待していない要素は今後の政策において無視して良いかという、そうでない場合も考えられる。現状の観光客は気づいていないが、地域の側は魅力ある要素として磨き、新たに発信すべきだと考えるなら、積極的に改善すべきかもしれない。そこで、地域（ここでは商業者）が重要と考えている要素を把握し、観光客の期待・満足と比較を行った。

ここでは、重点的に維持・継承すべき観光要素が、重点的に改善すべき観光要素かを判断する基準について説明しておく。

- 1) 重点的に維持・継承の要素：
 - A. CART 法で、抽出された観光要素。これは総合的満足度を上げるために短期的・即効的な効果を持っている要素である。
 - B. CART 法の分析では総合満足度への寄与を見いだせなかったが、高い期待通りに満足度が得られており、かつ重点維持分野にあり、かつ商業者も重視している要素。
- 2) 重点的に改善すべき要素：
 - A. CART 法で、抽出された観光要素。
 - B. CART 法の分析では総合満足度への寄与を見いだせなかったが、高い期待通りに満足度が得られておらず、かつ重点維持分野にあり、かつ商業者も見落とししている要素。

まとめれば、表 9-1 の通りである。

表 9-1 観光要素の維持・継承・改善にかかわる判断基準

判断基準	重点的に維持・継承の要素	重点的に改善すべき要素
CART 法	抽出されている	抽出されている
期待度	高い	高い
満足度	高い（期待通りに満足度が得られている）	低い（期待したにもかかわらず、期待通りの満足度が得られていない）
CS分析	重点維持分野にある	重点改善分野にある
商業者	重視している	見落としている

注：CART 法は総合的満足度に強い影響を与える要素を抽出されることに優れた方法であるが、総合的満足度に強い影響を与える要素を抽出される結果では、26 個の観光要素から、6 個が抽出され、それ以外の 20 個の観光要素に言及されていない。したがって、CART 法による総合的満足度に強い影響を与える要素として抽出されていなかったが、重点的に改善すべき要素である可能性がある。

分析結果の全体を表 9-2 に示す。

表中の符号の意味は以下のとおりである。

CART 法： ※※：総合的満足度に最も強い影響を与える要素

-※：総合的満足度にネガティブな影響を強く与える要素

+※：総合的満足度にポジティブな影響を強く与える要素

CS 分析： ◆：改善度による分析で「改善すべき要素」と判定された要素

期待度、満足度、期待度と満足度のギャップ、商業者の重視度：

●： $\mu + \sigma$ 以上

▼： $\mu - \sigma$ 以下、

-： $\mu - \sigma$ 以上～ $\mu + \sigma$ 以下

▼▼： $\mu - 2\sigma$ 以下

μ ：平均値

σ ：標準偏差

この表を参照しながら、以下で、観光要素ごとに、重要な要素と考えられる順に整理していく。

1) 観光客も地域もその価値を認識しており、継続して重点的に維持すべき要素

① 「伝統的街並み景観」「個々の歴史的建築物」（建築景観）

CS分析で「重点維持分野」としてあげられた（伝統的街並み景観は改善も必要と指摘されている）。「期待度・満足度」とともに高く、期待した通りの満足度が得られている（特に伝統的町並み景観は期待が大きい）。また、CART法では総合的満足度に強い影響を与える要素として抽出され、「伝統的街並み景観」への不満は総合的満足度を低める作用（ネガティブな影響）をしていた。地域側の商業者も「伝統的街並み景観」を重視しており、観光客意識と商業者意識は一致している。

この2要素は古鎮を訪れる観光客にとっての最大の目的であり、それが満たされていることは当然であるが、期待度が高いにも係わらず、偽物の街並み景観を見破った人たちの不満があったため、期待が満たされない状況がネガティブな影響を与えたのであろう。現状でも全般に満足度が高いことから、今後も重点的に維持・保全すべき要素であるが、より期待度が高くしかし課題のある「伝統的町並み景観」はさらに改善が望まれる。

② 「伝統的な食事をする」「お茶屋体験」（伝統的食）

CS分析で「伝統的食事をする」は重点維持分野としてあげられ、「お茶屋体験」は維持分野としてあげられている。「伝統的な食事をする」「お茶屋体験」といった伝統的食事へ期待度は高く、「伝統的食事をする」への満足度は高いが、「お茶屋体験」への満足度は中位である。「伝統的な食事をする」「お茶屋体験」といった伝統的食事には期待した通りの満足度が得られており、ギャップが生じていない。地域側の商業者も、伝統的食事を重視としている。CART法では総合的満足度に強い影響を与える要素として抽出されていない。おそらく多くの人々が満足で、満足-不満のばらつきが小さかったため、CART法の分析では総合満足度への寄与を見いだせなかったと考えられる。

観光客も地域もこの資源を重要と考えており、現状では観光客の期待に対する満足も高く、引き続き維持すべき重要な要素であると言える。

2) 観光客は期待していたが不満で、地域も重視しておらず、今後、重点的に改善すべき要素

① 「生活文化を体験する」

CS分析で「重点改善分野」にあげられ、改善度の分析からも「改善すべき要素」にあげられている。期待度は高いが満足度は低く、期待度と満足度に極めて大きなマイナスのギャップが生じている。一方、CART法では、総合的満足度に強い影響を与える要素としては抽出されていない。おそらく、多くの人々が不満（期待していた体験がほとんど得られていない）で、満足-不満のばらつきが小さかったため、CART法の分析では総合満足度への寄与を見いだせなかったと考えられる。また、地域側の商業者は、生活文化の体験をかなり軽視している。

以上のことから「生活文化（体験）」は、地元は全く見落としていた要素であるが、観光客は期待に反して大きな不満を持っており、今後は喫緊に改善をはかる必要がある。

る要素であると言えよう。

② 「住民の生活様子を見る」「伝統的な生活の説明を聞く」（生活文化）

CS 分析で「重点改善分野」にあげられ、改善度の分析からも「改善すべき要素」にあげられている。期待度と満足度は中位であるが、期待通りの満足が得られておらず、期待度と満足度にマイナスのギャップが生じている。また、CART 法では、どちらの要素も総合的満足度に強い影響を与える要素として抽出され、特に、「住民の生活様子を見る」は総合的満足度に最も強い影響を与える作用をしており、「伝統的な生活の説明を聞く」への不満は総合的満足を低める作用（ネガティブな影響）をしていた。そして、地域側の事業者は「住民の生活様子を見る」「伝統的な生活の説明を聞く」といった生活文化の重要性をあまり認識していない。

以上のことから「生活文化（見る・学ぶ）」は、地元は見落としした要素であるが、地域の満足度を高めるための強い即効性があり、観光客は期待に反して不満を持っており、今後は喫緊に改善をはかる必要がある要素であると言える。

③ 「住民とのふれあい」

CS 分析で「改善分野」にあげられ、改善度の分析からも「改善すべき要素」にあげられている。期待度と満足度は中位であり、期待度と満足度にギャップは生じていない。また、CART 法では、総合的満足度に強い影響を与える要素として抽出されておらず、地域側の事業者は、住民とのふれあいをあまり重視していない。

「住民とのふれあい」は「生活文化の体験」よりも期待が小さく、CART 法でも強い影響を与える要素ではないと見なされたが、前項の「生活文化を体験する」の改善をはかるためには「住民とのふれあい」は必要不可欠であろう。「住民とのふれあい」は地元も見落とししていた要素であるが、「生活文化を体験する」とともに改善をはかる必要がある要素であると捉えるべきである。

④ 「地域の歴史文化を知る・学ぶ」「歴史上の有名人物の物語」の歴史文化

この2要素は、CS 分析で「改善分野」にあげられ、「歴史上の有名人物の物語」は「改善すべき要素」にあげられている。期待度と満足度も中位であるが、期待通りの満足が得られておらず、期待度と満足度にマイナスのギャップが生じている。また、CART 法では、「歴史上の有名人物の物語」は総合的満足度に強い影響を与える要素として抽出され、「歴史上の有名人物の物語」への満足は総合的満足を高める作用（ポジティブな影響）をしていた。一方で、地域側の事業者は「地域の歴史文化を知る・学ぶ」「歴史上の有名人物の物語」といった歴史文化の重要性をあまり認識していない。

以上のことから「歴史文化（知る・学ぶ）」は、地元は見落としした要素であるが、地域の満足度を高めるための即効性があり、観光客は期待に反して不満を持っており、今後は特に改善をはかる必要がある要素であると言えよう。

3) 観光客も地域もその価値を認識していなかったが、今後、重点的に維持すべき要素

①「水辺の景観」「緑の景観」（自然景観）

CS 分析で「重点維持分野」かつ「改善すべき要素」にあげられている。期待度・満足度は中位であるが、期待度より満足度が高いというプラスのギャップが生じている。また、CART 法では、総合的満足度に強い影響を与える要素としては抽出されていない。また、地域側の事業者は自然景観をあまり重視していない。

以上のことから「自然景観」は地域の満足度を高めるための即効性は少ないが、また、地元は見落としていた要素であるが、観光客は期待以上に満足しており、今後は磨くべき要素であると言えよう。

②「のんびり過ごす（休息）」

CS 分析で「重点改善分野」としてあげられている。期待度・満足度は中位であるが、期待以上の満足が得られており、期待度と満足度にプラスのギャップが生じている。また、CART 法では、総合的満足度に強い影響を与える要素として抽出されていない。また、地域側の事業者は、「のんびり過ごす（休息）」を見落としている。

以上のことから「休息」は地域の満足度を高めるための即効性は少ないが、また、地元は見落としていた要素であるが、観光客は期待以上に満足しており、今後は磨くべき要素であると言えよう。

③「友人や家族との団らん」

CS 分析で「維持分野」としてあげられている。期待度・満足度は中位であるが、期待以上の満足が得られており、期待度と満足度にプラスのギャップが生じている。また、CART 法では、総合的満足度に強い影響を与える要素として抽出されていない。また、地域側の事業者は、「友人や家族との団らん」を見落としている。

以上のことから「友人や家族との団らん」は地域の満足度を高めるための即効性は少ないが、また、地元は見落としていた要素であるが、観光客は期待以上に満足しており、今後は磨くべき要素であると言えよう。

4) 観光客も地域もその価値に期待しておらず満足も低く、維持・改善の効果は薄い要素

①「伝統的な土産物」

CS 分析で「改善分野」としてあげられている。CART 法では総合的満足度に強い影響を与える要素として抽出されていない。観光客の期待度も満足度も中位であり、ギャップは生じていないが、地域側の事業者は、伝統的な土産物をあまり重視していない。「伝統的な土産物」はあまり改善要素とはしては消極的であるが、期待度・満足度が中位であるので、やや改善の余地はあるかもしれない。

②「伝統にこだわらない食事」

CS 分析で「改善分野」としてあげられている。CART 法では総合的満足度に強い影響を与える要素として抽出されていない。観光客の期待度も満足度も中位であり、ギャップは生じていないが、地域側の事業者は、伝統にこだわらない食事をあまり重視していない。したがって、「伝統にこだわらない食事」はあまり改善要素としては

消極的であるが、期待度・満足度が中位であるので、やや改善の余地はあるかもしれない。

③ 「伝統にこだわらない買い物」

CS 分析で「改善分野」としてあげられている。CART 法では総合的満足度に強い影響を与える要素として抽出されていない。観光客の満足度は中位であるが、期待度は低く、地域側の商業者も重視度は低い。したがって、「伝統にこだわらない買い物」は改善要素とは言えない。

④ 「麻雀などを楽しむ」

CS 分析で「改善分野」としてあげられている。CART 法では総合的満足度に強い影響を与える要素として抽出されていない。観光客の満足度は中位であるが、期待度は低く、地域側の商業者も重視度は低い。したがって、「麻雀」は改善要素とは言えない。中国では余暇活動として麻雀は盛んに行われる活動であるが、今回の結果からは古鎮観光においては景観や生活文化や休息や伝統食に比べて麻雀の位置づけは低い。

⑤ 「伝統的演劇（川劇や踊り）を観る」

CS 分析で「改善分野」としてあげられている。CART 法では総合的満足度に強い影響を与える要素として抽出されていない。期待度も満足度も低く、地域側の商業者も重視していない。したがって、「伝統的演劇」は改善要素とは言えない。テーマパーク化した古鎮には伝統的演劇を見せる施設を設けるところが多く、対象地にも施設が見られるが、今回の結果からはその効果は疑問視される。

⑥ 「出会い（観光客同士）」

CS 分析で「改善分野」としてあげられている。CART 法では総合的満足度に強い影響を与える要素として抽出されていない。期待度も満足度も低く、さらに期待度と満足度にギャップが生じていない地域側の商業者も極めて重視度が低い。したがって、「出会い（観光客同士）」は改善要素とは言えない。

5) 基盤整備の要素

基盤整備の要素については CS 分析と CART 法のみ分析である。一方自由記述回答をテキストマイニングで分析した結果からは、特に基盤整備に対する不満の声が多く聞かれた。

① 「休息できる場所」「街の清潔さ」「歩きやすい歩道」

「休息できる場所」「街の清潔さ」は「重点維持分野」としてあげられ、「歩きやすい歩道」については「維持分野」としてあげられ、この3要素は観光客の満足度は高い。現状を維持していく要素とみなすことができるが、テキストマイニング分析結果からはさらに改善すべき要素とすべきである。

② 「街の案内板や解説板」「トイレの清潔さ」

「街の案内板や解説板」「トイレの清潔さ」は「重点維持分野」としてあげられたが、観光客の満足度は中位である。同様に改善すべき要素であろう。

③ 「夜のライトアップ」

「夜のライトアップ」は「重点改善要素」としてあげられた。さらに CART 法では、総合的満足度に強い影響を与える要素として抽出され、総合的満足度を高める作用（ポジティブな影響）をしていた。対象地の空間状況の比較結果を勘案すると、ライトアップされた地区では総合満足度を引き上げ、ライトアップが不足の地区では総合満足度を下げたことが推察された。しかし、現状でライトアップの評価が高いのは住民が居住していない錦里であり、住民が居住している地区においては、地区の状況と住民の意向によって慎重に整備を検討すべきである。

以上をまとめると、

現状維持および改善に努力すべき要素は次の通りである。

- (1) 観光客も地域もその価値を認識しており、継続して重点的に維持すべき要素は、【伝統的建築景観（「伝統的街並み景観」「個々の歴史的建築物」）】、【伝統的食（「伝統的な食事をする」「お茶屋体験」）】であった。
- (2) 観光客は期待していたが不満で、地域も重視しておらず、今後、重点的に改善すべき要素は、【生活文化（「生活文化を体験する」・「住民の生活様子を見る」「伝統的な生活の説明を聞く」・「住民とのふれあい」）】、【歴史文化（「地域の歴史文化を知る・学ぶ」「歴史上の有名人物の物語」）】であった。
- (3) 観光客も地域もその価値を認識していなかったが、今後、重点的に維持すべき要素は、【自然景観（「水辺の景観」「緑の景観」）】、【休憩団らん（「のんびり過ごす（休息）」・「友人や家族との団らん」）】であった。
- (4) 満足への影響が強く改善する検討余地がある要素は【「夜のライトアップ」】であった。また基盤整備は全般的に満足度は高いが、一方で不満の声もあり、改善を検討する余地がある。

一方、維持改善の効果が薄い要素は次の通りである。

- (5) 観光客も地域もその価値に期待しておらず満足も低く、維持・改善の効果は薄い要素は、「伝統的な土産物」と「伝統にこだわらない食事」であった。
- (6) 同様に改善の効果はかなり薄い要素は「伝統にこだわらない買い物」・「麻雀などを楽しむ」・「伝統的演劇（川劇や踊り）を観る」・「出会い（観光客同士）」であった。

表 9-2 各観光要素に関する課題

観光要素		CART 法	CS 分析	期待度	満足度	ギャップ	商業者	
景観	伝統的な街並み景観	-※	重点維持分野	●	●	-	●	
	個々の歴史的建築物	-※	重点維持分野	-	●	-	●	
	水辺や緑の自然の景観		重点維持分野	-	-	●	-	
			重点維持分野	◆	-	-	-	
文化	歴史文化を知る		改善分野	-	-	▼	-	
		+※	改善分野	◆	-	-	-	
	生活文化を知る	※※	重点改善分野	-	-	▼	-	
		-※	重点改善分野	◆	-	-	-	
			重点改善分野	◆	●	▼	▼	
	生活文化を体験する		改善分野	◆	-	-	-	
	住民とのふれあい		改善分野	◆	-	-	-	
	伝統的演劇（川劇や踊り）を観る		改善分野	▼	▼	-	-	
	飲食購買	伝統的な食事		重点維持分野	●	●	-	●
				維持分野		-	-	-
伝統的な土産物			改善分野	-	-	-	-	
伝統にこだわらない食事			改善分野	-	-	-	-	
保養	伝統にこだわらない買ひ物		改善分野	▼	-	-	▼	
	のんびり過ごす（休息）		重点維持分野	-	-	●	-	
	麻雀などを楽しむ		改善分野	▼	-	-	-	
	友人や家族との団らん		維持分野	-	-	●	-	
	出会い（観光客同士）		改善分野	◆	▼	▼	-	▼▼
				維持分野		●		
基盤整備	なし		重点維持分野		●			
			改善分野		-			
			重点維持分野		●			
			重点維持分野		-			
			重点維持分野		●			
		+※	重点改善分野	◆		-		

9-2 第9章のまとめ

- (1) 伝統的町並み景観、歴史建造物は現在の状況を維持する。ただし、闇雲な景観整備ではなく、その当時から景観を形成する歴史的・文化的価値という本物性が欠けると、観光客の不満を招く恐れがある。
- (2) 伝統的食も重要だったものがわかった。中国では食文化が推奨されており、今後も維持すべき重要な要素とみなされる。
- (3) 観光客も地元も軽視していた生活文化に触れることは重要な改善が必要である。
- (4) 自然と団らん、休息は、古鎮観光では観光客も地元も軽視されていたが、美しい自然景観や歴史的建築景観に優れた古鎮では、ゆったりとした時間が流れる中でんびりするということが重要な要素であることを示している。

以上の分析から、建築物などのハードだけではなく、それらを生み出す生活文化（ソフト）が注目されている現状において

- A. 中国で進行しているテーマパーク型の開発政策から、そこに生活する人が生活文化を継承しその表れである本物の景観が生まれ持続していくような開発・保全の政策に転換する必要性が高まっていることを、根拠をもって示すことができた。
- B. 娯楽型から「地域の伝統的な本物の生活文化を知りたい」という段階に移行し、表面的な景観や気軽な食や土産物だけに満足せずその背景にある過去から現在に受け継がれる生活文化の発見を求める段階に成熟しつつあると言える。
- C. マスツーリズムからオルタナティブ観光への進化において従来言われている体験学習型への移行がその先の段階だとすれば、その段階は顕在化している状況にあると言える。

現代は、従来型のマスツーリズムの弊害を克服する「持続可能な観光」の創出が課題となっており、その中から新たな観光形態が生み出されていると予想される。観光の大衆化と新たな観光形態が同時発展する中国では全国各地で中央政府、地方自治体や地域の有志、NPO や旅行業者など幅広い主体が協働・連携することによって持続可能な観光を掲げた観光開発が行われている。本研究で得られた知見は、中国成都市周辺という一部の地域における結果ではあるが、中国の中でも特に伝統的資源を活かす観光施策を進めている先進的地域の結果であり、中国国内観光の観光客ニーズの重要な傾向の一端を示しているものと考えられる。今後伝統的地域の観光地化における様々な問題が生じる地域において、持続的な観光振興に寄与するという点においても重要であると考えられる。

第10章 結論と今後の課題

10-1 結論

中国四川省成都市の伝統的資源を観光資源とした観光地を研究対象地とし、そこを訪れた観光客の意識を明らかにした。第1章では、本論文の社会的・学術的背景、研究の目的、研究方法、既往研究と研究位置付け、論文の構成などについて述べた。第2章では、四川省の概況と観光状況、成都市の観光産業の発展及び選定した研究対象地の概況を概説した。第3章～第8章は本研究の本論部分であり、以下を明らかにした。

- ① 観光客の総合的満足度に正の影響と負の影響を与える要素を、定量的・統計的な方法を用いて定量的に明らかにした。
- ② 観光地の強み資源（維持すべき観光要素）と弱み資源（改善すべき観光要素）を明らかにした。
- ③ 観光客の観光前の期待と観光後の満足を比較し、観光前後における期待と満足のギャップがある／ない観光要素を明らかにした
- ④ 観光客の自由記述によって補足的に新たな課題を抽出した
- ⑤ 商業者と観光客の意識を比較し、定量的にその実態を捉えることができた。

繰り返しになるが、研究構成の流れに沿って得られた成果を要約し、特に重要と思われる結論を述べる。

1) 研究対象（四川省成都市周辺の古鎮）の現状把握（第2章）

アンケート調査を展開するための基礎的な知見の整理として、文献調査、現地調査により、観光客の伝統的地域に対する評価に影響を与えると考えられる要素を抽出した。

「住民の生活の様子を見る」「伝統的な生活の説明を聞く」「伝統生活の体験（耳搔きなど）」「お茶屋体験」「住民とのふれあい」「伝統的演劇（川劇など）を観る」「伝統的街並み景観（全体の雰囲気）」「個々の歴史的建築物」「水辺の景観」「緑の景観」「歴史上の有名人物の物語」「地域の歴史文化を知る・学ぶ」「伝統的食事をする」「伝統にこだわらない食事をする」「伝統的な品物を買う」「伝統にこだわらない買い物」「のんびり過ごす（休息）」「麻雀・トランプなどを楽しむ」「友人や家族との団らん」「出会い（観光客同士）」「街の清潔さ」「トイレの清潔さ」「歩きやすい道の舗装」「休憩できる場所」「街の案内板や解説板」「夜のライトアップ」の26要素である。

また、本論文の研究対象地である成都市周辺の古鎮の観光発展状況を把握した上で調査対象地を選別した。

成都是歴史的遺産が豊富で、1982年には国家歴史文化名城に指定されている。また2000年に始まった西部大開発の拠点都市として経済も活性化している。世界文化遺産に認定されている歴史的建造物が点在しており、多くの文化が残っている。

以下の理由を踏まえ、交通の条件や調査許可等の実現性及び、観光と保全の観光程度が異なる比較対象となることを考慮に入れて成都市内の寛窄巷子、文殊院、錦里及び成都郊外の黄龍溪古鎮と安仁古鎮を研究対象として選定した。

- (1) かつては共同体の居住地機能を果たしていたこと。
- (2) 各時代伝統的建築技術、建築様式、空間形態及び水路・道路、地誌、環境の形成を反映した伝統的な景観と空間を現在も有していること。
- (3) 各時代の歴史的風土、生活様式・生活習慣、食事、民族風俗、祭礼、伝統的芸術・パフォーマンスといった伝統的文化を現在も有していること。
- (4) 現在では観光地として機能しており、観光開発が進んでいることによって著名な観光名所となっているが、伝統的資源を主な観光資源の一つとして活用していること。
- (5) 伝統的資源の状況が良好に保存されており、活用に向け施設などの基盤整備が進められている。

2) 観光客の属性、開発印象及び理由、嗜好性などに対する単純集計（第3章）

研究を展開するための基礎的な情報の整理として、観光客の属性、観光開発印象の嗜好性といった個人状況を分析した。得られた知見を以下に整理する。

- (1) 男性と女性が半々で、20代～30代が6割と多い。地域別では、性別、年齢は大きな偏りはない。職業では、錦里、文殊院、黄龍溪古鎮と安仁古鎮は学生が多いのに対して寛窄巷子は会社員が多かった。また、滞在は日帰りが9割と多いが、安仁古鎮は宿泊率がやや高かった（25%）。
- (2) 「訪問回数」は、2回以上訪問経験がある人の割合（56.0%）は初めて訪問経験があると回答した人の割合（44.0%）より10%程度少なかった。地域別には、錦里及び黄龍溪は2回以上の訪問が多いのに対して寛窄巷子、文殊院及び安仁ははじめての訪問が比較的に高い。
「訪問意思決定者」は、訪問意思決定者は友人や家族が多く（48%）、次いで自分（36%）、であった
「同行者」は、友人（48%）、家族（17%）が多くを占めた。
- (3) 観光地毎の印象の違いをみると、偽物の建物が多い錦里と黄龍溪古鎮は過剰観光開発傾向との評価が多く、一方、安仁古鎮は観光開発不足傾向にあると評価された。
- (4) 観光客の嗜好性ではいずれの地域でも同じ傾向が見られ、娯楽施設・偽物の伝統的建築物より伝統的生活文化、本物の歴史的景観、伝統的食事といった伝統的資源が好まれていた。

3) 観光客の総合的満足に強い影響を及ぼす要素の探索 (第4章)

観光客の意識における総合的満足度の側面に注目した。アンケート調査を用いて、総合的満足度に影響を及ぼすと考えられる要素を網羅的に設定し、それらの総合的満足へのポジティブな影響とネガティブな影響を明らかにした。順序カテゴリカル応答に対するCART法を用いて総合的満足度に特に強く影響を与える観光要素を抽出した。得られた知見を以下に整理する。

- (1) 多くの観光客は5つの対象地に対して概ね満足している傾向が見られる。(5段階評価で平均値は3.72~3.7:すなわち「やや満足」)このことから、テーマパーク型・娯楽型の観光開発であっても現在の観光客のニーズを概ね満たしていることがわかった。
- (2) 観光地に対する観光客の総合的満足度に強い影響を及ぼす観光要素を分類樹木によって探索した。その結果、強い影響を与えていたのは「住民の生活の様子を見る」「夜のライトアップ」「歴史上の有名人物の物語」「伝統的街並み景観(全体の雰囲気)」「伝統的な生活の説明を聞く」「歴史的建築物」の6つの要因であった。この6つの要因のうち、5つは「生活文化」や「伝統的建築物」の地域の伝統資源に関する要因であり、「住民の生活の様子」「歴史上の有名人物の物語」「伝統的な生活の説明」といった生活文化要素への満足が総合的満足度を高める大きな影響を与えていた。一方「伝統的街並み景観」「歴史的建築物」への不満は満足度を低める作用をしていた。「休息」や「麻雀・団らん」などの娯楽や「伝統的な食や土産」など気軽に文化を楽しむ活動は影響を与えていなかった。
- (3) 地域別に見ると、満足度の低いノード2は錦里が多い。本物ではない建築が影響したと考えられる。次に満足度の低いノード3は黄龍溪古鎮が多い。古鎮周辺のテーマパーク型の開発が影響したと考えられる。満足度のやや高いノード6は錦里が多い。夜のライトアップの効果と考えられた。

CART法は、目的変数である総合的満足度を左右する説明変数を抽出する優れた方法であり、その結果から、上記(2)の6つの要素の改善に力を注ぐことが有効であることが示された。

4) 観光地の弱み資源と強み資源の抽出 (第5章)

CART法は、評価の分かれる(評価にばらつきの大きな)観光要素に反応する。誰もが満足する要素あるいはだれもが不満の要素は、特に改善の必要は無いと見なしてしまう。そこで、第5章では、CS分析を用いてより総合的な分析を行った。

- (1) 地域全体での「満足度偏差値と重要度偏差値」の分析結果からは以下のことが示された。

今後も維持・継承していくべき強み資源(観光客は現状での満足度が高く、かつ重視している資源)として、「伝統的街並みの景観(全体の雰囲気)」「個々の歴史的建築物」「緑や水辺の自然景観」「伝統的な食事」といった地域資源、「街の清潔さ」「トイレの清潔さ」「休憩できる場所」といった基盤整備が挙げられた。

観光客は重視していながら、現状では満足度が低く、最優先で改善をするべき弱み資源としては「住民の生活様子を見る」「伝統的生活の説明を聞く」「伝統的生活文化を体験する」「夜のライトアップ」が挙げられた。

伝統的資源を有する観光地を訪れた観光客満足度は基盤整備の充実、伝統的建築、自然環境のような有形の観光資源に支えられており、さらに伝統的生活文化、歴史的文化、街並みの全体の雰囲気のような無形の観光要素を磨くことで満足度をさらに高める可能性が示めされた。

- (2) 改善度の分析からは「住民の生活様子を見る」「伝統的な生活の説明を聞く」「伝統生活の体験」「住民とのふれあい」「地域の歴史上人物の物語」などいずれも伝統的生活を送る住民が関わる要素が挙げられた。歴史を継承して生活する住民を地域外への流出させない施策が必要であると考察した。次に「水辺・緑の景観」「街並みの景観」「ライトアップ」の改善度もやや高かった。景観の整備が次の課題であることが示された。

- (3) 地域によって、課題が相違しているので、地域毎にそれぞれの課題と対処策を整理した。

A. 錦里では、今後も維持・継承していくべき強み資源として、「伝統的街並みの景観(全体の雰囲気)」「個々の歴史的建築物」「緑の自然景観」といった地域資源、「トイレの清潔さ」といった基盤整備、「友人や家族との団らん」が挙げられた。

観光客は重視していながら、現状では満足度が低く、最優先で改善をするべき弱み資源として「伝統的生活の説明を聞く」「歴史上の有名人物の物語」といった歴史・生活文化、買い物、麻雀が挙げられた。

観光客の満足度は伝統的街並み、歴史建築物、緑の景観、トイレの衛生面に支えられており、さらに、生活文化の説明、歴史的文化、買い物などの観光要素を磨くことで満足度の向上につながる可能性が示された。

また、「住民の生活の様子を見る」「伝統的な生活の説明を聞く」の改善度が高い。さらに「歴史上の有名人物の物語」、「地域の歴史文化を知る・学ぶ」の要因が改善範囲に入っている。この結果から、地域側にかかわる歴史文化、伝統的生活に関する見る・聞くといった文化面が課題となっていた。

現状では、居住者はないので伝統的生活文化が見られないが、三国時代を背景とした錦里はその時代の歴史文化を説明することに取り組む施策が必要であると考察した。

- B. 寛窄巷子では、今後も維持・継承していくべき強み資源として、「伝統的街並みの景観（全体の雰囲気）」「個々の歴史的建築物」「伝統的食事」「お茶屋体験」といった地域資源、「夜のライトアップ」といった基盤整備が挙げられた。

観光客は重視していながら、現状では満足度が低く、最優先で改善をするべき弱み資源（重点改善分野）として「住民生活の様子を見る」「伝統的生活の説明を聞く」「歴史上の有名人物の物語」「地域の歴史文化を知る・学ぶ」といった歴史・生活文化、非伝統的飲食・買い物、水辺の景観が挙げられた。

観光客の満足度は、歴史的景観、伝統的食事・お茶屋体験、ライトアップに支えられており、さらに歴史・生活文化、非伝統的飲食・買い物などの観光要素を磨くことで満足度を高める可能性が示された。

改善度の分析から、「水辺の景観」「歴史上の有名人物の物語」、「緑の景観」は改善度の前3位を占めている。さらに、「伝統的な生活の説明を聞く」、「住民の生活の様子を見る」、「個々の歴史的建築物」の要因が改善範囲に入っている。

寛窄巷子は住民がほとんど移住したので、現状では、住民にかかわる伝統的生活文化の改善が困難であるが、街区や建物には歴史的遺構が残っており、それらを過去の生活文化を絡めながら歴史説明図などを利用して観光客に伝え、歴史的景観の保存と継承に取り組み、また、観光客が望む自然景観をより豊かにするなどの政策が考えられると考察した。

- C. 文殊院では、今後も維持・継承していくべき強み資源として、「伝統的街並みの景観（全体の雰囲気）」「個々の歴史的建築物」「伝統的食事」といった地域資源、「歩きやすい道の舗装」「トイレの清潔さ」といった基盤整備、「歴史文化を知る・学ぶ」、「のんびり休息」が挙げられた。

観光客は重視していながら、現状では満足度が低く、最優先で改善をするべき弱み資源として「お茶屋体験」「歴史上の有名人物の物語」といった歴史・生活文化、「夜のライトアップ」といった基盤整備、「住民とのふれあい」が挙げられた。

観光客の満足度は、伝統的街並み景観・歴史的景観に浸りながら、家族や友人とのんびり過ごすことに支えられており、さらに歴史的・伝統的買い物・体験、住民とのふれあいなどの観光要素を磨くことで満足度を高める可能性が示された。

改善度の分析から、「住民とのふれあい」、「地域の歴史文化を知る・学ぶ」が挙げられた。

周辺に居住している住民が歴史文化を紹介することによって観光客とのふれあいの機会を増やすなどの施策が考えられた。また、「夜のライトアップ」の改善度がやや高いが、文殊院は（第2章2-4-3）参観時間が限られており、宗教的空間との関連で整備には検討する必要がある。

- D. 黄龍溪古鎮では、今後も維持・継承していくべき強み資源として、「個々の歴史的建築物」「緑の景観」といった地域資源、「街の清潔さ」「歩きやすい道

の舗装」「トイレの清潔さ」といった基盤整備、「友人や家族との団らん」が挙げられた。

観光客は重視していながら、現状では満足度が低く、最優先で改善をするべき弱み資源（重点改善分野）として「住民とのふれあい」「住民の生活の様子を見る」、「お茶屋体験」「伝統的生活の体験（耳がき）」「伝統的演劇を観る」といった伝統的生活文化、「伝統的品物を買う」「伝統的にこだわらない買い物」といった買い物が挙げられた。

観光客の満足度は、個々の歴史的建築物、緑の景観といった目に見えるような有形の資源に支えられており、さらに地域住民自身にかかわる伝統的生活文化に関連する要素、買い物を磨くことで満足度を高める可能性が示された。

改善度の分析から、「伝統的生活の体験（耳かきなど）」、「住民とのふれあい」「住民の生活の様子を見る」、「伝統的な生活の説明を聞く」などいずれも伝統的生活を送る住民自身との関わるに関連する要素が挙げられた。

黄龍溪古鎮は住民もまだ多く居住しているので、伝統的生活文化の薄弱化を止めるには地元住民の流出防止への問題を解決する糸口となると考えられる。また、「伝統的品物を買う」、「伝統的にこだわらず買い物をする」「道の案内板や説明板」が改善範囲に入っている。買い物への取り組みや街の案内板の説明の充実が必要である。

- E. 安仁古鎮では、今後も維持・継承していくべき強み資源として、「地域の歴史文化を知る・学ぶ」「緑の景観」といった地域資源、「街の清潔さ」「休憩できる場所」といった基盤整備、「のんびり過ごす」が挙げられた。

観光客は重視していながら、現状では満足度が低く、最優先で改善をするべき弱み資源として「水辺の景観」「住民とのふれあい」「伝統的品物を買う」といった地域資源、伝統にこだわらない食事、ライトアップが挙げられた。

観光客の満足度は、個々の歴史的建築物、緑の景観、基盤整備の充実といった目に見えるような資源に支えられている。

改善度の分析から、「住民とのふれあい」、「伝統的な生活の説明を聞く」といった住民自身の課題、「街の案内板や説明板」「夜のライトアップ」といった基盤整備、「伝統的品物を買う」、「伝統にこだわらない食事する」「伝統的買い物」といった飲食購買が挙げられた。

対策として、地域住民を観光活動に積極的に参与させることによって観光客との交流や住民の生活文化を見る・知る・体験を促進できると考えられる。観光客の滞在（第3章3-4-1被験者の概要）では、安仁古鎮の宿泊の割合は他の4つの地域と比較して一番高いことから、観光客のニーズが高い要素であることが見て取れた。しかし、夜のライトアップは伝統的要素とは異なるものの、空間整備の課題であるために、地域住民の居住環境のあり方との整合性を図りながら整備すべきか検討する必要があると考えられる。また、飲食・買い物を豊かにする必要があると考えられる。

5) 観光客の期待度、満足度及び期待と満足度のギャップに関する分析 (第6章)

第6章では、観光客の観光前の期待度、観光後の満足度を分析し、期待度と満足度のギャップを考察した。(1) 期待度 (2) 満足度 (3) 期待と満足度のギャップで得られた結果を示す。

(1) 期待度

観光客が観光前に高い期待度を持っていた要素は、「伝統的な街並み景観」、「伝統的な食事」、「伝統的文化の体験をする」であった。次いで、「生活文化を知る」、「個々の歴史的建築物」、「歴史文化を知る」が挙げられた。地域別には寛窄巷子、錦里、黄龍溪古鎮と安仁古鎮では、いずれも「伝統的街並み景観」が最も期待されている要素として挙げられ、次いで、「個々の歴史的建築物」と「自然景観」が挙げられた。それに対して、文殊院は、「個々の歴史的建築物」「水辺や緑の自然の景観」が最も期待される要素として挙げられ、「伝統的街並み景観」は中間の期待度を得た。また、黄龍溪古鎮は水辺や緑の景観に富んでいるので「自然景観」は他地域より高く期待されていた。

「生活文化を知る」「生活文化の体験を知る」「歴史文化を知る」といった伝統的文化の面からみると、観光客は自然景観や歴史的建築物を見ることのみならず、文化を体験することも望んでいることがわかる。一方で、これらに密接に関連するはずの「住民とのふれあい」に期待する観光客はほとんどいないことは、原住民が少なくなってしまう現状を反映している可能性が考えられる。

「伝統的食事・伝統的土産物」に対する期待度が「伝統にこだわらない食事・買い物」より高いことから、観光客は地域の伝統的な飲食や購買に期待していることがうかがえる。そして食事と比較すると、観光客は買い物にあまり期待していないことがわかった。地域別にみると、寛窄巷子、錦里、黄龍溪と安仁古鎮は、伝統的食に上位の期待度を得られているが、文殊院は中位の期待度である。

休養行動からみると、伝統的観光地を訪れた観光客は、主に「友達や家族との団らん」や「のんびり過ごすこと」に対して中位の期待度を持っているが、「観光客同士の出会い」にはあまり期待していない。

(2) 満足度

景観について高い満足度を得た要素は、「伝統的街並み景観」「個々の歴史建築物」であった。次いで、「水辺の景観」「緑の景観」はやや満足度を得ている。歴史的景観や自然景観は満足を得ている。

地域別に比較してみると、錦里は「個々の歴史建築物」の満足度は他地域に比べてやや低い。偽物の建築物が見破られた可能性がある。緑や水辺の自然景観では、黄龍溪古鎮と文殊院は高い満足度を得た。黄龍溪古鎮は水辺資源に優れており、水路沿いには植栽が整備されていることが要因と考えられる。一方で文殊院は水辺や水路といった水資源に欠けているが、緑景観に富んでいるから、緑の景観に高い満足度を得た

と考えられる。それに対して、寛窄巷子、錦里、安仁古鎮は水辺資源や緑の自然資源に欠けていることが低い満足度の原因と考えられる。

文化面では、「地域の歴史文化を知る・学ぶ」「住民の生活様子を見る」「歴史の有名人物の物語」「伝統的な生活の説明を聞く」「住民とのふれあい」「伝統的生活の体験（耳かきなど）」「伝統的演劇を見る」といった伝統的文化にかかわる文化要素は、ほぼ中位或いは比較的下位の満足であった。

基本行動では、「伝統的な食事をする」が高い満足度を示し、「伝統的にこだわらない食事」に対して、「伝統的な食」のほうが観光客に好まれていることが見てとれる。一方で「伝統的な品物を買う」「伝統的にこだわらない買い物をする」においてはいずれも中位で高い満足度を示していない。そして、「のんびり過ごす」「友達や家族との団らん」の満足度が高く、「出会い」の満足度が低いことがわかった。観光客は知り合いとゆっくり過ごすことに満足していることがうかがわれる。

地域別にみると、「伝統的な食事をする」についてはいずれの地域でも、上位或いは中位の満足度を得ており、大きな差異が見られない。その中で、錦里と黄龍溪古鎮は上位の満足度を満たしているのに対して、寛窄巷子、文殊院、安仁古鎮（満足度得点 0.8）は中位の満足度を得ている。「お茶屋体験」は地域によって差異が顕著である。安仁古鎮は上位の満足度を得ている。安仁古鎮以外の他の地域では、お茶屋体験に対し、中位或いは比較的低い満足度にとどまっている。

基盤整備から見ると、「トイレの清潔さ」「歩きやすい道の舗装」「休憩できる場所」「街の清潔さ」は高い満足度を得ているが、「街の案内板や説明板」「夜のライトアップ」に対する満足度が低いことから、街の説明板や夜のライトアップが不備であることが考えられる。

地域別に見ると、「歩きやすい道の舗装」については、いずれの地域でも、上位の満足度を得ていることから、歩きやすさの基盤整備は充実していると考えられる。「街の清潔さ」「トイレの清潔さ」といった環境衛生では、寛窄巷子、錦里の方がその他の地域より比較的充実している。特に、寛窄巷子は環境の衛生面、高い評価を得て、90%に達している。「休憩できる場所」では、郊外の黄龍溪古鎮と安仁古鎮は、市内の寛窄巷子、錦里、文殊院より高い満足度であった。また、「夜のライトアップ」に対する満足度は地域によって顕著な違いが見られる。特に、錦里は蜀漢時代の街並みを再現した観光地であり、舞台も存在することから、錦里商店街をネオンの光が染め、昼間とは一味違う夜景に包まれた街並を満喫することができるように、夜になっても非常に明るくライトアップされている。そのために、ライトアップに対し、錦里は圧倒的に満足度を得ている。「街の案内板や説明板」に対する満足度は低い（寛窄巷子は中位の満足度であるが、それ以外の4つの地域は下位の満足である）ことから、街の説明板に不備であることに起因することが考えられる。

(3) 期待と満足のギャップ

観光要素を景観、文化類、飲食購買、保養に分類して見てみると、以下の傾向が見られた。

- A. 景観：地域全体的には、歴史的街並み景観や個々の歴史的建築物や自然景観に期待通りの満足度を得ている。地域別にみると、寛窄巷子、文殊院、黄龍溪古鎮と安仁古鎮は期待度も満足度が高い。錦里は伝統的観光地ではないが、伝統的街並み・伝統的風景を再現している観光地であり、そのことが期待に対して若干満足度を下げている原因と考えられる。
- B. 文化：いずれの調査地域も「伝統的な生活の説明を聞く」、「伝統的生活の体験をする」、「住民の生活の様子を見る」といった伝統的生活文化に対しては、期待が大きかったにもかかわらず満足が得られなかった。
地域別には、寛窄巷子、文殊院、錦里は成都市市内に位置しており、完全に観光地として機能しているので伝統的生活文化が希薄化していると考えられる。
- C. 飲食購買：期待していた要素で満足も得られた項目は「伝統的食」である。「伝統的買い物」や「伝統にこだわらない食・買い物」にあまり期待していなかったし、それほどの満足度の得られていない。
地域別にみると、伝統的食事では、錦里と安仁古鎮には最も高い期待を寄せ、期待通りの満足も得られている。次いで、文殊院はあまり期待していなかったが、満足が得られている。寛窄巷子と黄龍溪古鎮は期待が大きかったにもかかわらず満足が得られなかった。特に黄龍溪古鎮では、伝統的食事への期待に対して満足度が大きく下がっており、重要な改善項目にあたる。地域別の満足度を参照すると、黄龍溪古鎮は「伝統的食事に対する満足度が高いが、「お茶屋体験への満足度が下がっていることから、お茶屋体験が不満だったことが伝統的食事にネガティブな影響を与えたと考えられる。
- D. 保養：「のんびり過ごす」「友人や家族の団らん」はあまり期待していなかったにもかかわらず、満足が得られた項目として挙げられている。

地域別には「のんびり過ごす（休息）」、「友達や家族との団らんに対し、期待通りの満足或いは期待していた以上の満足が得られている。観光客は伝統的地域を来訪する際、伝統的街並み、歴史的建造物、緑や水辺の自然景観といった景観類を求めるだけでなく、古鎮の伝統的景観や人々のゆったりした暮らしぶりや住民のおもてなしの雰囲気の中をのんびり過ごしたり、休憩したり、散策したりすることに期待し、満足していると考えられる。それに対して、観光客は出会いや麻雀などに対して関心を示していなかった。

6) テキストマイニング法による自由記述に関する分析 (第7章)

第7章では、伝統的観光地を訪れた観光客の観光後の感想を、評判抽出ネットワーク分析によって観光客の感想にかかわる好評と不評を抽出し、ネットワーク分析によって単語間の関わりの強いクラスターを見出し、観光客の感想現状にかかわる主要素を抽出した。前章までの成果と異なる新たな知見は以下の通りである。

- (1) 食事に関する現場作りの風景が好評されていることがわかった。一方で「ホームレース」「ポイ捨て」「落書き」「サービスが悪い」といったゲスト側とホスト側のマナー問題、「商業的雰囲気強い」「観光客向けの店舗が多すぎる」といった開発問題、「経済意識強い」「文化的面が薄い」といった意識問題、「休憩施設・娯楽施設が少ない」といった基盤整備などの幅広い方面にネガティブな評価が得られた。
- (2) ネットワーク分析については、休憩場所、道の案内板や説明板、トイレといった基盤整備の不備が主な問題として抽出された。また、ホスト側のサービス態度が悪いこと、過剰な開発、伝統的生活文化の薄弱化、値段の高価などの問題も抽出された。基盤面への満足度は前章までのアンケート調査の結果では、低くはなかったが、多くの観光客は特に基盤面の不備を問題と意識している。

7) 観光客と商業者の意識の比較 (第8章)

第3章から第7章まで観光客の意識を中心として分析を展開した。観光客の意識と商業者の意識を比較し定量的にその実態を捉えた。

- (1) 観光客も商業者も重視している要素は「伝統的な街並み景観」「個々の歴史的建築物」「伝統的な食事」であり、これらは概ね観光客の満足が得られていることから、今後も持続的に保全・改善をしていくべき観光資源である。
- (2) 観光客も商業者も見落としていたが、観光客の満足度が高かった要素は「のんびり過ごす(特に安仁)」「団らん」「水辺や緑(黄龍溪)」であった。伝統的な街並みやのんびりした人の営みの雰囲気に浸りながら、また自然景観に浸りながら、豊かな時間を過ごすことが評価されたと考えられる。古鎮では建築物の保全や歴史の学習が主な施策と捉えられがちであるが、伝統的建築や景観のみならず、総合的な雰囲気(暮らし向き)や寛げる空間の維持と向上が観光地魅力の厚みを増やすための新たな課題となりそうである。
- (3) 観光客が期待していたにもかかわらず、満足が得られなかった「生活文化の体験をする」「生活文化を知る」「歴史文化を知る」は、商業者はその重要性を認識していなかった。これは喫緊に改善方策を検討することが必要な課題であると言える。第4章では「生活文化を知る(見る)」が総合満足度を左右する重要な要素として指摘され、第6章の「期待」と「満足」のギャップの分析からは、特に「体験」が重要な要素と指摘された。商業者は生活文化を重視する意識は高い。しかし、「生活文化体

験」に観光客が満足していないことから、現状の提供の内容が観光客のニーズと噛み合っていない可能性が高い。今後は「生活文化の体験・知る」の内容の実態と意識について。さらに詳細な現地調査を重ねていく必要がある。

- (4) 商業者の歴史・景観・文化を重視する意識は高い。観光の意識が急激に変化している中国において、伝統的な空間は当然の背景として、そこでの寛ぎや体験を求める観光客ニーズと、商業者の意識との乖離を明らかにし、いくつかの開発・保全の方向付けを提案することができた。

8) 考察 (第9章)

第9章では、第4章から第8章まで多角度から分析し得られた結論を統合した。

現状維持および改善に努力すべき要素は次の通りであった。

- (7) 観光客も地域もその価値を認識しており、継続して重点的に維持すべき要素は、【伝統的建築景観（「伝統的街並み景観」・「個々の歴史的建築物」）】、【伝統的食（「伝統的な食事をする」「お茶屋体験」）】であった。重点的に維持すべき要素であるがその本物性が問われる。
- (8) 観光客は期待していたが不満で、地域も重視しておらず、今後、重点的に改善すべき要素は、【生活文化（「生活文化を体験する」・「住民の生活様子を見る」・「伝統的な生活の説明を聞く」・「住民とのふれあい」）】、【歴史文化（「地域の歴史文化を知る・学ぶ」・「歴史上の有名人物の物語」）】であった。
- (9) 観光客も地域もその価値を認識していなかったが、今後、重点的に維持すべき要素は、【自然景観（「水辺の景観」・「緑の景観」）】、【休息団らん（「のんびり過ごす（休息）」・「友人や家族との団らん」）】であった。自然景観や団らん・休憩の行動は、古鎮の歴史的環境と重なることによってその魅力を高めていると考察した。
- (10) 満足への影響が強く改善する検討余地がある要素は【「夜のライトアップ」】であった。また基盤整備は全般的に満足度は高いが、一方で不満の声もあり、改善の是非は検討する余地がある。

一方、維持改善の効果が薄い要素は次の通りであった。

- (11) 観光客も地域もその価値に期待しておらず満足も低く、維持・改善の効果が薄い要素は、「伝統的な土産物」と「伝統にこだわらない食事」であった。
- (12) 同様に改善の効果はかなり薄い要素は「伝統にこだわらない買い物」・「麻雀などを楽しむ」・「伝統的演劇（川劇や踊り）を観る」・「出会い（観光客同士）」であった。

重点的に維持あるいは改善する要素（1）～（3）から、中国での古鎮観光における観光客意識の現状は、娯楽型からオルタナティブ観光へ転換しつつある途上にあると考察した。受け入れ側はそれに対応できておらず、観光地開発政策の転換が望まれることを指摘した。

10-2 提言

以上の結論で得た成果を踏まえて、伝統的観光地の開発活動を持続的に展開するための提案を行う。

提案-1：歴史的・文化的・自然的景観にかかわる課題に関する提案

	<ul style="list-style-type: none">■ 「伝統的街並み景観（全体の雰囲気）」■ 「個々の歴史的建築物」■ 「緑や水辺の自然景観」
結論	<p>第4章：「歴史的建築物」「伝統的街並み景観」への不満は総合的満足度を低める作用をしていた。</p> <p>第5章：満足度が高く、今後も維持する・継承していくべき地域の強み資源</p> <p>第6章：「伝統的街並み景観」と「個々の歴史的建築物」では、期待通りの満足を得ており、ギャップが発生していない。「緑や水辺の自然景観」では、期待した以上の満足を得ており、プラスのギャップが生じている。</p> <p>第7章：「歴史建築物」「伝統的街並み」が高評価されている。</p> <p>第8章：観光客も商業者も「伝統的街並み景観」「個々の歴史的建築物」を重視している。「水辺や緑の自然景観」では、観光客も商業者も見落としているが、観光客の満足度が高かった。</p>

歴史的景観と自然的景観は魅力ある地域づくりにおいて欠かせない存在であると考えられる。特に近年では、歴史的景観、自然景観を地域資源として活用する試みがあり、各地で様々な施策が展開されている。

本研究の結論からは、歴史的景観と自然的景観に対しては、高い期待通りに、或いは期待した以上の満足度が得られたので、現時点の景観は観光客のニーズに充分に応えられていることが示されている。今後は、この景観を維持・継承する必要がある。

また、過剰な観光開発の影響で歴史的建築物への不満が生み出されたことから、今後の開発中、歴史的建築物の中核となるものを保ちながら、新たな建築の波の浸食を避けるように修繕する作業に更なる力を入れて進める必要があると考えられる。

今回調査対象地の錦里は偽物の歴史的建築物であるが、蜀漢時代の街並みを再現した観光地であり、舞台も存在することから、錦里商店街をネオンの光が染め、昼間とは一味違う夜景に包まれた溢れる雰囲気のある街並を満喫することができるので、「個々の歴史的建築物」への満足は低かったが、「伝統的街並み景観（全体の雰囲気）」への満足が高かった。

提案-2：歴史的・伝統的文化に関する提案

	<ul style="list-style-type: none"> ■ 住民の生活の様子を見る ■ 伝統的な生活の説明を聞く ■ 伝統生活の体験（耳がきなど） ■ 地域の歴史文化を知る・学ぶ ■ 歴史上の有名人物の物語
結論	<p>第4章：「住民の生活の様子を見る」「歴史上の有名人物の物語」「伝統的な生活の説明を聞く」が総合的満足度に強い影響を与える。満足度を高めることに最も強く影響した要因は「住民の生活様子を見る」ことである。「歴史上の有名人物の物語」が総合的満足度にポジティブな影響を与えるが、「伝統的な生活の説明を聞く」が総合的満足度にネガティブな影響を与える。</p> <p>第5章：観光客は重視していながら、現状では満足度が低く、最優先で改善をするべき弱み資源として「住民の生活様子を見る」「伝統的生活の説明を聞く」「伝統的生活文化を体験する」が挙げられた。改善度の分析から「住民の生活様子を見る」「伝統的な生活の説明を聞く」「伝統生活の体験」「住民とのふれあい」「地域の歴史上人物の物語」などいずれも伝統的生活を送る住民との関わる要素が挙げられた。</p> <p>第6章：「歴史文化を知る」「生活文化を知る」「生活文化の体験をする」では、期待したにもかかわらず、満足度を得られなかったのがマイナスのギャップが発生している。</p> <p>第7章：伝統的生活文化の薄弱化を問題として認識されている。</p> <p>第8章：観光客が期待していたにもかかわらず、満足が得られなかった「歴史文化を知る」「生活文化を知る」「生活文化の体験をする」は、商業者はその重要性を認識していない。</p>

(1) 地域住民の流失を防止すること

地域住民の知恵と手による積み重ねて形成されてきた生活文化資源は主に風土、民俗文化、人情・民話・礼儀、行事、生活様式などである。それらの資源は住民の生活とその環境を形成している。したがって、「歴史文化を知る」、「生活文化を知る」、「生活文化の体験をする」、「住民の生活様子を見る」、「伝統的生活の説明を聞く」などの伝統的文化を見る・聞く・体験するといった無形の文化的な生活資源を守る・継承することが極めて重要である。伝統的生活文化を守る・継承する役割を担うのは生活環境の創造者・主人公としての住民の存在抜きが極めて重要であると考えられる。しかし、観光開発による地域住民の流失が深刻である。したがって、地域住民の流失を防止することは緊急な課題となっている。

地域住民の流失を防止するために具体的な対応として以下の2点を挙げる。

- 1) 中国では、伝統的地域を観光地として開発する中で、伝統的建築物は重視されているが、地域住民を観光資源の重要な部分として認識していない。そのような背景の影響で、伝統的資源を有する地域では、観光開発を順調に進めるために、地域住民に移住させるための補助政策を制定している。もちろん、住民には移住するか、元の居場所に戻るかの選択を与えるが、賃貸して利益を得たり、居住生活環境の悪化などの理由で移住した住民は少なくない。以上の背景を踏まえて、地域住民に移住させる補助政策を制定することから、地域住民を地域に残させるような政策に変換する認識が必要であると考えられる。
- 2) 伝統的地域に居住し生活している住民は、交通、ネオン、照明、衛生（トイレ、下水）、防音、プライバシー、コミュニティサービスなどにおいて、不満に思っていることが多く見られる。こうした生活環境の質を持続的に維持し向上させること^{注1)}が、地域住民を地域に留まらせることに特に重要ではないかと考えられる。

(2) 地域住民に地域資源を再認識させ、意識を実践に移すこと

「住民の生活の様子を見る」「伝統的生活の説明を見る・聞く・体験する」にかかわる内容は観光地に居住している住民のライフスタイルの変化とともに変わっている。しかしながら、住民が居住し、日々の生活風景が見られ、生活文化を体験できるなどのことが望まれていることは事実である。したがって、観光地の住民にとって、観光資源は見慣れた日常生活の一部分にすぎないかもしれない。日常の生活環境が観光資源になさせると、人々の暮らしている街並みや、文化、民俗、風景、生活様式、人情、サービスといった当たり前のものが独特の美しさ、魅力、快適さを持った固有資源としてより深く認識させることが重要である。

本研究では、伝統的生活文化保存・継承を持続的にするには地域住民が地域資源へ誇り・愛着度が高いことがわかったが、伝統的文化が観光資源の重要な一部分として認識されておらず、観光客の伝統的文化を求めているニーズに応えられなかったのである。したがって、伝統的文化を観光資源の一部分として再認識させる取り組みが必要であり、意識から実践に移すことが課題となると考えられる。

(3) 伝統的文化と経済効果との結合

観光客が求めているのは、地域の自然環境の美しさや観光施設の便利さだけでなく、街並み、独特の雰囲気、友好空間などのアメニティの高さ、飲食や宿泊などにかかわるホスピタリティーなど、さまざまな生活文化の充実も求めている。伝統的文化の方面においては、観光客の期待度と満足度に大きなギャップが生じている。ギャップの発生した一つの原因として、伝統的文化が地域住民に見落とされていると考えられる。

伝統的文化、特に伝統的生活文化が、食事・買い物・お茶屋などが経済効果に密接結びつけていることと異なり、経済効果につながらないので重視されていると考えられる。したがって、伝統的文化をどのように経済効果に結びつけるかに焦点をあて、提案する。

今回調査対象地の黄龍溪古鎮と安仁古鎮は住民が多く居住しているが、観光客は住民とのふれあいの機会がないようである。観光客に直接地域住民の生活と労働に参加するチャ

ンスを与え、伝統的生活文化を見る・体験することをさせる直接的な対策が考えられる。伝統的地域には地域住民の伝統的生活や日常生活に関わる数多くの古い農具と紡織車を集中し、展示することによって、地域住民の生活文化を知らせる。また餃子、煎餅、切り紙、巾着の刺繍などの地域伝統的な食・お土産物の作り方を体験する場所を設置し、思う増分に伝統的地域の風俗習慣・生活習慣・生活様式を体験させる。それは地域の伝統的生活文化にかかわる要素を活用し、地域住民自分自身の収入を増やすことにつながることもできるし、観光客のニーズに応えられると思われる。

提案-3：伝統的食に関する提案

	<ul style="list-style-type: none"> ■ 伝統的食事をする ■ 伝統的土産物を買う ■ 伝統にこだわらない食事をする ■ 伝統にこだわらない買い物を買う
結論	<p>第5章：観光客は重視しており、現状での満足度が高く、今後も維持・継承していくべき強み資源として、「伝統的な食事をする」が挙げられた。</p> <p>第6章：「伝統的食事をする」「伝統的土産物を買う」「伝統にこだわらない食事をする」「伝統にこだわらない買い物を買う」では期待と満足にギャップが生じていないが、飲食購買に関する観光要素別への期待度と満足度が相違している。「伝統的食事をする」は高い期待通りの満足が得られている。それ以外の要素は期待が弱い期待通りの満足が得られている。第5章では改善すべき要素として「伝統にこだわらない買い物」が挙げられたが、期待度が弱く、改善要素とは言えないと判断する。</p> <p>第7章：食事に関する現場作りの風景が高評価されているが、「サービスが悪い」「経済意識が高い」「値段が高い」などの問題が挙げられた。</p> <p>第8章：「伝統的食事をする」の面では、商業者も重視しているし、観光客も期待度・満足度も高い。</p>

肥沃な土地で豊富な食べ物があることから、四川省は昔から「天府之国（物産の豊かな土地）」と言われ、独自の食文化を育んできた。とにかく多彩な味つけは、類を見ない。

本研究の結論からは、「伝統的食事をする」に対しては、高い期待通りに、或いは期待した以上の満足度が得られたので、現時点の伝統的食事の面は観光客のニーズに充分に応えられていることが示されている。伝統的食事は時代とともに変容しつつあるが、四川省においては、盆地で高温多湿の地域ならではの独特な食が形成されていることは変わらない。調査対象地により伝統的食事の種類が多少の違いが見られるとは言え、湿気除去に効果のある辛い料理が多いことは共通している。今後は、伝統的食事を維持・継承する必要がある。

また、観光客のグルメを求める様々なニーズにも応え、国内外集まる人々を魅了し続けるよう、食・買い物との出会いや楽しさ高めるために、伝統的食事の継承を重視していると同時に伝統的でない飲食店・日常用品から定番品まで揃う多種多様な物販も求められる。

提案-4：観光行動に関する提案

<ul style="list-style-type: none"> ■ のんびり過ごす（休息） ■ 友人や家族との団らん 	
結論	<p>第6章：「のんびり過ごす（休息）」「友人や家族との団らん」では、期待した以上の満足度が得られている。</p> <p>第8章：観光客も商業者も「のんびり過ごす（休息）」「友人や家族との団らん」を見落としている。</p>

観光行動にかかわる「のんびり過ごす（休息）」、「家族や友人との団らん」では、観光客は期待した以上の満足度が得られており、プラスのギャップが生じたことから、観光客は伝統的地域資源に満喫していることがうがわれた。

「のんびり過ごす（休息）」、「家族や友人との団らん」などの観光行動は独立の要素ではなく、地域側のすべての資源に依存すると考えられる。つまり、観光客は基盤整備の充実さ（主に環境の衛生面）、歴史建築物の保存状況、自然景観、及び伝統的街並み全体の雰囲気に入りながら、団らんしたり、のんびり過ごしたり、伝統的食事を楽しむ、豊かな時間消費に満足していると考えられる。したがって、観光客の観光行動に対応しつづけるには、建築物の保全・整備のみならず、緑や水や夜の景観といった街を構成している様々な要素の集合体を豊かにする対策が必要であることが考えられる。

また、商業者は「のんびり過ごす（休息）」「友人や家族との団らん」を見落としているという結論から、建築物の保全・整備、緑や水や夜の景観といった街を構成している様々な有形の資源に取り組むだけでなく、地域の商業者・住民が来訪者に示す善意・協力・熱情的なホスピタリティを提供する認識を啓発することが課題となっている。

提案-5：基盤整備に関する提案

	<ul style="list-style-type: none"> ■ 街の清潔さ ■ トイレの清潔さ ■ 歩きやすい道の舗装 ■ 休憩できる場所 ■ 街の案内板や説明板 ■ 夜のライトアップ
<p>結論</p>	<p>第4章：総合的満足度にポジティブな影響を与える強い要素は「夜のライトアップ」である。</p> <p>第5章：観光客は重視しており、現状での満足度が高く、今後も維持・継承していくべき強み資源として、「街の清潔さ」「トイレの清潔さ」「休憩できる場所」が挙げられた。改善すべき要素として「夜のライトアップ」が挙げられた。</p> <p>第6章：地域側の環境衛生度を重視している。</p> <p>第7章：道の案内板や説明板の不足との問題が挙げられている。</p>

第5章の今後も維持・継承していくべき強み資源として、「街の清潔さ」「トイレの清潔さ」「休憩できる場所」が挙げられた結果から、基盤整備においては、観光客はトイレや街の清潔さといった環境衛生面に概ね満足していることから、現時点では、観光地域の環境衛生を維持する必要がある。一方、自由記述意見からは、基盤整備面の更なる改善が必要とする意見が多くを占め、トイレや街の清潔さも含めて道の案内板や説明板と休憩できるベンチの数を増やすなどの基盤整備に更に力を入れる必要がある。

「夜のライトアップ」に対しては、地域側の固有資源ではないが、観光客のニーズが高いし、総合的満足度を高めることにつながっているから、「夜のライトアップ」の改善が必要となる。しかし、「夜のライトアップ」は地域住民の居住環境のあり方との整合性を図りながら整備する必要があると考えられる。一つの具体的な提案として時限的なライトアップがある。つまり、限られているシーズン・時間の中で照明することである。

提案-6：商業者に関する提案

結論	<p>第8章： 観光客も商業者も重視している要素は「伝統的な街並み景観」「個々の歴史的建築物」「伝統的な食事」である。</p> <p>観光客も商業者も見落としていたが、観光客の満足度が高かった要素は「のんびり過ごす（特に安仁）」「団らん」「水辺や緑（黄龍溪）」であった。</p> <p>観光客が期待していたにもかかわらず、満足が得られなかった「生活文化の体験をする」「生活文化を知る」「歴史文化を知る」は、商業者はその重要性を認識していなかった。</p> <p>商業者の歴史・景観・文化を重視する意識は高い。</p>
----	--

商業を観光地で営む商業者は、観光客に対してもてなす立場と、地域の住民として活動する立場の2つの役割を持つ。

観光客向けの場合は、観光客には商業者が単なる物販だけではなく、観光地域コミュニティの担い手として認識されている。そのため、商業者は観光客に示す善意・協力・熱情・ホスピタリティーを存分に表現する必要が高まっている。また、観光客に示した善意・協力・情熱を与えることによって商業の売り上げを伸ばすことができると考えられる。

地域の一員としての場合は、観光地域の住民と観光客を結びつける役割を果たし、観光客と住民とのふれあいの機会はあまりないので商業者は観光客と地域住民の架け橋となる必要がある。

提案-7：マナーに関する提案

自由記述の分析結果では、マナー問題が挙げられた。マナー問題への対応を以下のように提案する。

地域側は観光客のマナー問題を収集して分類し、それぞれのマナー問題を観光客に理解してもらい取り組み（リーフレット、ステッカー動画など）^{注2)}を行う。観光客ニーズに対する地域の努力を観光客に知ってもらう。

以上の具体的な提案を踏まえて、伝統的資源を観光資源とした観光地の観光開発の現況を明らかにし、伝統的地域の活性化、特に伝統的地域の観光開発をよりよい持続的方向に示唆を与えることができると考えられる。

10-3 今後の研究課題

本研究は四川省成都市市内寛窄巷子、錦里、文殊院及び郊外の黄龍溪古鎮と安仁古鎮を研究対象地として取り上げ、観光客の意識構造に焦点をあて、伝統的地域への総合的満足度にポジティブとネガティブな影響を与える要素を明らかにし、それぞれの調査地域の観光資源の弱み資源と強み資源の特徴を明らかにし、観光客の期待と満足および両者のギャップ、観光客と商業者の意識の比較を分析していったうえで伝統的資源を観光資源とした観光地に対する持続性観光の可能性を考察して改善すべき方向を示した。中国における伝統的建築物が数多く残された伝統的文化に優れた伝統的地域の持続可能な観光の展開に関して参考となるものと考えられる。

しかしながら、本研究は成都市周辺の典型的な代表観光地を研究事例として来訪した観光客の意識を考察することに限られ、それ以外の観光開発の関係者には言及していない。よって、伝統的資源を有する伝統的観光地に関する研究をより幅広く進めるために、残されている次の4つの研究課題があげられる。

- (1) 伝統的生活文化にかかわる多種多様な形態を確認し、どのような形態が観光客のニーズに応えるかに関する調査
- (2) 伝統的資源を観光資源とした他の異なるタイプの観光地の事例に関する調査
- (3) 伝統的資源を観光資源とした持続可能な観光に対する政策決定者の意識構造に関する検討
- (4) 一般地域住民の意識構造に関する検討

(1) 伝統的生活文化にかかわる多種多様な形態を確認し、どのような形態が観光客のニーズに応えるかに関する調査

本研究では、観光客は期待していたが不満で、地域も重視しておらず、今後、重点的に改善すべき要素は「伝統的生活文化」であることを明らかにしたが、しかしながら、伝統的生活文化にかかわる様々な形態（生活文化が表れた具体的な内容）はまだ不明確であり、また、どの伝統的生活文化の形態が観光客のニーズに応えるかを明らかにしていない。したがって、伝統的生活文化の内容及び観光客のニーズを満たしているかを検討することが今度の検討する課題の一つと考えられる。

(2) 伝統的資源を観光資源とした他の異なるタイプの観光地の事例に関する調査

本研究が明らかにした地域資源の特徴は成都市周辺の伝統的地域という事例から考察したものであり、他の事例に対応する可能性があると考えられるが、観光地のタイプ、住民居住状況、開発程度、開発計画などによって異なる可能性が十分にあると考えられる。したがって、他のいくつかの観光地開発整備の事例分析により、伝統的資源を観光資源とした観光地の開発中における観光資源の特徴の普遍性を検討すること、また、地域資源の特徴別による観光開発計画・政策の健全化を検討することが今度の検討する課題の一つと考えられる。

(3) 伝統的観光地の持続可能な観光に対する政策決定者の意識構造に関する検討

伝統的生活文化資源の欠如を解決するためには、観光開発による地域住民流出を防止し、移住した住民を地域に呼び込むなどのような直接的対策が考えられるが、地域の開発計画・具体的な開発手順及び地域住民の移転安置手段・政策などに関する政策決定者の意識調査が残されている今後の検討課題の一つと考えられる。

(4) 一般地域住民の意識構造に関する検討

本研究は、事例分析から伝統的観光地を来訪した観光客の意識構造（地域を総合的満足度に影響を及ぼす要素）、観光客と商業者（地域側に住んでいる方）の意識比較を分析したが、しかし、観光に直接に関わっていない一般の地域住民に与える影響及び観光開発に対する意識・評価を明らかにしていない。特に移住した住民の動向や考え方を明らかにすることは残された今後の検討課題の一つと考えられる。

なお、今後も伝統的資源に優れている地域においては、今回の研究成果がそれらの事例にも活用され、当該地域の復興支援、及び伝統的資源にかかわる文化的・歴史的な有形・無形資源の保存・活用に役立つことを切に願うものである。

<第10章における注記>

注1) 例えば、浙江省の各地では、古村鎮の外見と住民生活の質の改善を目標とした総合的な区画整理が実施された。例えば、河川の掃除、古い橋の補修、街の景観の改善、下水道の整備、公衆トイレの改築、電力・電気通信・有線テレビの導入、路面交通の改良などがあげられる。

注2) 京都市では、外国人観光客の方向けに、日本・京都の習慣や文化の啓発を目的として以下の取り組みが行われている。

- ① 外国人観光客に日本・京都の文化や習慣を正しく理解してもらうために、世界最大の旅行情報サイト「TRIP ADVISOR」を運営するトリップアドバイザー株式会社と連携し、リーフレットを作成した。
- ② トイレの使用方法をわかりやすく周知できるように、イラストを中心とした啓発ステッカーを作成した。
- ③ 京都国際観光大使ジェフ・バーブランド氏によるマナー啓発動画を作成した。

<第10章における参考文献>

- [1] 韓魯安：中国観光産業の課題と持続可能な観光への若干の展望、金沢大学学術情報リポジトリ人間社会環境研究、第15号、pp.165-188、2008.
- [2] 亀井由紀子：歴史的環境保全地区における住民活動の機能評価に関する研究 - 樺原市今井町重要伝統的建造物群保存地区を事例として - 、日本建築学会系論文集、Vol.76、No.670、pp.2381-2386、2011.
- [3] 吉田倫子・上村信行・宇高雄志：町並み保存地区内外の住民の町並み保存に対する意識の差異 - 竹原重要伝統的建造物群保存地区を事例として - 、日本建築学会計画系論文集、No.618、pp.89-96、2007.
- [4] 上村信行・吉田宗人・吉田倫子・宇高雄志：町並み保存地区における住民意識の時系列分析による伝建区制度の評価-竹原市竹原重要伝統的建造物群保存地区を事例として-、日本建築学会計画系論文集、Vol.78、No.688、pp.1283-1291、2013.
- [5] 菊地淑人：祭礼を支える「組」組織とそれをとりまく社会変化-岐阜県高山市旧城下町地域における伝統的祭礼を事例として-、日本建築学会計画系論文集、Vol.77、No.681、pp.2659-2664、2012.
- [6] 山村高淑：中国の観光開発における地方民族文化資源の位置づけと開発方針に関する研究-雲南省における観光開発の経緯と「民族風情」概念の位置づけについて、日本建築学会近畿支部研究報告集、1999.
- [7] 経済産業大臣平沼赳夫：伝統的工芸品産業の振興の基本的な方向、経済産業省公示第五百十九号.
- [8] 掘川紀年（2007）：日本を変える観光力-地域再生への道を探る、昭和堂出版社.
- [9] 横山秀司（2006）：観光のための環境景観学-真のグリーン・ツーリズムにむけて、古今書院.
- [10] 前田勇（1978）：観光概論、学文社株式会社.
- [11] 結城登美雄（2009）：地域の再生シリーズ①-地元学からの出発：この土地を生きた人々の声に耳を傾ける、農文協.
- [12] 国立大学法人山梨大学生命環境学部地域社会システム学科編集（2014）：地域社会システム論 - 地域活性化を豊かさ・まちづくり・自然資源・人材戦略・財産の保護から考える - 、農文協プロダクション.

謝辞

本研究を遂行するにあたり、現地調査及びアンケート調査をもとに分析を行っており、データの収集から、調査の実施、研究計画の確立まで、本当に多くの方々のご支援とご指導を賜りました。この場を借りてお力添えを頂いた方々に感謝の言葉を述べさせていただきます。

まず、山梨大学に在籍した博士後期課程3年半、さらに研究生としての半年を合わせ、山梨大学環境社会創生工学部の大山勲先生には、本論文作成を始めて以来、終始懇切なるご指導とご鞭撻を賜わり、親身なご助言と力強い励ましをいただきました。研究を進める中で、何度も研究が行き詰まった時に、適切な指摘、アドバイスをいただき、論文の課題の設定、学術論文の作成など研究の全般にわたり、的確な助言と適切なご指導をいただきました。学問的に甚だ身術な私に丁寧かつ熱心に教えてくださったことは今後の人生にとってもかけがえのない宝物となると思います。研究活動で温かいご支援をいただいていたばかりではなく、日常生活でも家族のように親身なお世話をくださったことで博士課程の三年半を有意義に過ごすことができました。この場を借りて、生活から学問まで多大なご配慮をいただきました大山勲先生に深く感謝の意を示すとともに、お礼を申し上げます。

そして、アンケート作成時から、本研究の伝統的観光地の持続発展可能性についてご指導をくださり、博士論文の完成に至るまで大変お世話になった北村先生に厚く御礼を申し上げます。

論文の分析手法である順序カテゴリカル CART 法や結果の解釈において、和歌山医学大学の下川敏雄教授により多大なご指導とご示唆を賜りました。ここに厚く御礼を申し上げます。

また、論文審査の際には山梨大学の指導教官としての高橋智子先生、島崎洋一先生、秦康範先生、佐々木邦明先生からも、論文の構成、論理の関係、分析結果、課題発見、研究成果の応用などについて終始懇切丁寧・貴重なご指導と温かな励ましやご助言いただきました。篤くお礼を申しあげます。先生の方々からいただいたご助言・ご鞭撻を、今後の努力の糧にしてゆきたいと思っております。

さらに、現地調査にあたりお世話になった西南交通大学交通運輸学院の楊鵬准教授、李力講師、及び聞き取り調査やアンケート調査に応じてくださった皆様にも感謝の意を申し上げます。

末筆ながら、平素より本研究の完結に至るまで惜しめない力添えをくださった王娜さん、万可さん、その他在籍中4年間にお世話になったゼミや現場での活動を通して多くの刺激や示唆、楽しい時間を与えてくれた大山研究室のメンバーの様々な支援に対して、ここに感謝の気持ちを表すとともに、皆様の明るい未来と幸せな人生を心からお祈り申し上げます。また、自分の研究生活の研究室の先輩・同級生及び後輩の皆様にも、お互い切磋琢磨して、たくさんの方を教わりました。

その他、助けていただいた多くの皆様には記して感謝を申しあげます。

これまで行ってきた研究の一端ではありますが、博士論文という形で一区切りをつけることができました。皆さまのご支援、ご協力の賜物ではありますが、博士への進学や長きに海外留学など、自分の思う道を辛抱強く見守り続けており、いつも陰ながら精神的にも経済的にも支えてくれた父、母、兄、姉にも、この場を借りて深い感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。

添付資料

資料1 中国歴史文化名城

中華人民共和国国家歴史文化名城（state-list famous historical and culture cities）は、中華人民共和国の文化遺産保護制度の一つ。中華人民共和国国務院が1982年に制定した制度である。北京大学の侯仁之らが提案した。歴史的価値や記念的価値が高く、現在も継続して使われている都市を保護する制度である。現在102市がリストされている。1982年、1986年、1994年と三回にわたって公布され、2001年2件、2004年1件が追加された。このほかに、各省政府が指定した歴史文化名城もある。

分類

- ・ 古都型 - 都城遺跡があり、古都にふさわしい風格がある都市。北京、西安など。
- ・ 伝統風貌型 - 歴史的に蓄積された建築群を残す町並み。平遥、韓城など。
- ・ 風景名勝型 - 自然環境に優れた特色がある都市。桂林、蘇州など。
- ・ 地方民族特色型 - 地域的、民族的に独自の特色を有する都市。麗江、拉薩（ラサ）など。
- ・ 近現代史跡型 - 歴史上の一大事件を反映する史跡がある都市。上海、遵義など。
- ・ 特殊産業型 - 特定の産業で歴史的に突出する都市。自貢、景德鎮など。
- ・ 一般史跡型 - 全域に文物古跡が分布し、歴史的伝統を体言する都市。長沙、済南など。

第1回指定 北京市 - 承徳市 - 大同市 - 南京市 - 蘇州市 - 揚州市 - 杭州市 - 紹興市 - 泉州市 - 景德鎮市 - 曲阜市 - 洛陽市 - 開封市 - 荊州区 - 長沙市 - 広州市 - 桂林市 - 成都市 - 遵義市 - 昆明市 - 大理市 - ラサ市 - 西安市 - 延安市

第2回指定 天津市 - 保定市 - 平遥県 - フフホト市 - 瀋陽市 - 上海市 - 鎮江市 - 徐州市 - 常熟市 - 楚州区 - 寧波市 - 亳州市 - 歙県 - 寿県 - 福州市 - 漳州市 - 南昌市 - 済南市 - 安陽市 - 南陽市 - 睢陽区 - 武漢市 - 襄陽市 - 潮州市 - 重慶市 - 閬中市 - 宜賓市 - 自貢市 - 鎮遠県 - 麗江市 - シガツェ市 - 韓城市 - 榆林市 - 武威市 - 張掖市 - 敦煌市 - 銀川市 - カシュガル市

第3回指定 邯鄲市 - 正定県 - 新絳県 - 代県 - 祁県 - 吉林市 - 集安市 - ハルビン市 - 衢州市 - 臨海市 - 長汀県 - 贛州市 - 青島市 - 聊城市 - 鄒城市 - 臨淄区 - 鄭州市 - 浚県 - 随州市 - 鍾祥市 - 岳陽市 - 肇慶市 - 仏山市 - 梅州市 - 雷州市 - 柳州市 - 瓊山区 - 樂山市 - 都江堰市 - 瀘州市 - 建水県 - 巍山イ族回族自治県 - ギャンツェ県 - 咸陽市 - 漢中市 - 天水市 - 同仁県

増補 山海関区 - 鳳凰県 - 濮陽市 - 安慶市 - 泰安市 - 海口市 - 金華市 - 績溪県 - トゥルファン市 - テケス県 - 無錫市 - 南通市 - 北海市 - 嘉興市 - 宜興市 - 中山市 - 太原市 - 蓬萊市 - 会理県 - クチャ県 - グルジャ市 - 泰州市 - 会沢県 - 煙台市 - 青州市 - 湖州市 - チチハル市 - 常州市 - 瑞金市 - 恵州市 - 温州市 - 高郵市 - 永州市

資料2 中国歴史文化名鎮

中国歴史文化名鎮（Chinese historical and cultural towns）は、中華人民共和国の文化遺産保護制度の一つ。建設部と国家文物局が制定した文化遺産保護制度のうち、国家級の歴史文化地区に対して制定される名称。文化遺産が豊富で歴史的価値または記念する意義深い地域で、また過去の伝統風情と地方の民族の特色のある地域に制定される。通常、中国歴史文化名村と同時に発表される。2017年現在、181件がリストされている。

2003年より6回に亘って発表されている。

第一回 2003年10月8日公布 10カ所

第二回 2005年9月16日公布 34カ所

第三回 2007年5月31日公布 41カ所

第四回 2008年10月14日公布 58カ所

第五回 2010年7月22日公布 38カ所

第六回 2014年3月7日公布 71カ所

選定条件と基準

建設部と国家文物局の制定している選定条件と選定基準は、主に下記のものである。

- ・ 歴史的価値と風情・特色：建築遺産、文化遺産、史跡、伝統文化が比較的集中しており、過去の風情を残していたり、民族の特色を表していたりしており、かつ歴史・文化・芸術・科学的価値の高いもの。特に清代以前の建築または中国の共産主義革命史で重大な影響のあった伝統建築群、記念物、遺跡などで、基本的に保存状態の良いもの。
- ・ 保存の程度：地区内の歴史建築群、建築そのもの、その細部および周辺環境が基本的に当時のまま保存されていることまたはすでに過去破壊されて場合はある程度修復されていること。または当時の建築または周辺環境が破壊されていた際は、骨子の部分または細部が保存、または構造・様式が残されていること。
- ・ 規模：地区内の歴史建築の面積が5,000平方メートル以上あること。
- ・ 管理体制の整備：管理組織、専任スタッフ、専用の保護基金が準備されていること。

制定されている地区

北京市	武安市伯延鎮 (6)
密雲区古北口鎮 (4)	蔚県代王城鎮 (6)
天津市	山西省
西青区楊柳青鎮 (4)	靈石県静升鎮 (1)
河北省	臨県磧口鎮 (2)
蔚県暖泉鎮 (2)	襄汾県汾城鎮 (3)
永年県広府鎮 (3)	平定県娘子関鎮 (3)
邯鄲市峰峰鉅区大社鎮 (4)	沢州県大陽鎮 (4)
井陘県天長鎮 (4)	天鎮県新平堡鎮 (5)
涉県固新鎮 (5)	陽城県潤城鎮 (5)
武安市冶陶鎮 (5)	沢州県周村鎮 (6)
内モンゴル自治区	興化市沙溝鎮 (5)

カラチン旗王爺府鎮 (4)
 ドロンノール県多倫諾爾鎮 (4)
 豊鎮市隆盛莊鎮 (6)
 フレ旗庫倫鎮 (6)
 遼寧省
 新賓滿族自治県永陵鎮 (2)
 海城市牛莊鎮 (4)
 東港市孤山鎮 (6)
 綏中県前所鎮 (6)
 吉林省
 四平市鉄東区葉赫鎮 (4)
 吉林市竜潭区烏拉街鎮 (4)
 黒竜江省
 海林市横道河子鎮 (3)
 黒河市愛輝区瓊瑋鎮 (4)
 上海市
 金山区楓涇鎮 (2)
 青浦区朱家角鎮 (3)
 浦東新区新場鎮 (4)
 嘉定区嘉定鎮街道 (4)
 嘉定区南翔鎮 (5)
 浦東新区高橋鎮 (5)
 青浦区練塘鎮 (5)
 金山区張堰鎮 (5)
 青浦区金沢鎮 (6)
 浦東新区川沙新鎮 (6)
 江蘇省
 昆山市周莊鎮 (1)
 蘇州市呉江区同里鎮 (1)
 蘇州市呉中区甬直鎮 (1)
 蘇州市呉中区木渚鎮 (2)
 太倉市沙溪鎮 (2)
 姜堰市溱潼鎮 (2)
 泰興市黄橋鎮 (2)
 南京市高淳区淳溪鎮 (3)
 昆山市千灯鎮 (3)
 東台市安豊鎮 (3)
 昆山市錦溪鎮 (4)
 揚州市江都区邵伯鎮 (4)
 海門市余東鎮 (4)
 常熟市沙家浜鎮 (4)
 蘇州市呉中区東山鎮 (5)
 無錫市錫山区蕩口鎮 (5)
 永泰県嵩口鎮 (4)
 江陰市長涇鎮 (5)
 張家港市鳳凰鎮 (5)
 蘇州市呉江区黎里鎮 (6)
 蘇州市呉江区震沢鎮 (6)
 東台市富安鎮 (6)
 揚州市江都区大橋鎮 (6)
 常州市新北区孟河鎮 (6)
 宜興市周鉄鎮 (6)
 如東県栟茶鎮 (6)
 常熟市古里鎮 (6)
 浙江省
 嘉善県西塘鎮 (1)
 桐郷市烏鎮鎮 (1)
 湖州市南潯区南潯鎮 (2)
 紹興市柯橋区安昌鎮 (2)
 寧波市江北区慈城鎮 (2)
 象山県石浦鎮 (2)
 紹興市越城区東浦鎮 (3)
 寧海県前童鎮 (3)
 義烏市仏堂鎮 (3)
 江山市廿八都鎮 (3)
 仙居県皕灘鎮 (4)
 永嘉県岩頭鎮 (4)
 杭州市富陽区竜門鎮 (4)
 徳清県新市鎮 (4)
 景寧シエ族自治県鶴溪鎮 (5)
 海寧市塩官鎮 (5)
 嵊州市崇仁鎮 (6)
 永康市芝英鎮 (6)
 松陽県西屏鎮 (6)
 岱山県東沙鎮 (6)
 安徽省
 肥西県三河鎮 (3)
 六安市金安区毛坦廠鎮 (3)
 歙県許村鎮 (4)
 休寧県万安鎮 (4)
 宣城市宣州区水東鎮 (4)
 涇県桃花潭鎮 (6)
 黄山市徽州区西溪南鎮 (6)
 銅陵市郊区大通鎮 (6)
 福建省
 上杭県古田鎮 (1)
 邵武市和平鎮 (2)
 宜都市枝城鎮 (4)

寧徳市蕉城区霍童鎮 (5)
 平和県九峰鎮 (5)
 武夷山市五夫鎮 (5)
 順昌県元坑鎮 (5)
 竜岩市永定区湖坑鎮 (6)
 武平県中山鎮 (6)
 安溪県湖頭鎮 (6)
 古田県杉洋鎮 (6)
 屏南県双溪鎮 (6)
 寧化県石壁鎮 (6)
 江西省
 浮梁県瑶里鎮 (2)
 貴溪市上清鎮 (3)
 横峰県葛源鎮 (4)
 吉安市青原区富田鎮 (5)
 萍郷市安源区安源鎮 (6)
 鉛山県河口鎮 (6)
 上饒市広昌区馱前鎮 (6)
 金溪県澣湾鎮 (6)
 吉安県永和鎮 (6)
 鉛山県石塘鎮 (6)
 山東省
 桓台県新城鎮 (4)
 微山県南陽鎮 (6)
 河南省
 禹州市神垕鎮 (2)
 淅川県荊紫関鎮 (2)
 社旗県賒店鎮 (3)
 開封県朱仙鎮 (4)
 鄭州市惠済区古滎鎮 (4)
 確山県竹溝鎮 (4)
 郊県塚頭鎮 (5)
 遂平県嵒岈山鎮 (6)
 滑県道口鎮 (6)
 光山県白雀園鎮 (6)
 湖北省
 監利県周老嘴鎮 (2)
 紅安県七里坪鎮 (2)
 洪湖市瞿家湾鎮 (3)
 監利県程集鎮 (3)
 鄖西県上津鎮 (3)
 咸寧市咸安区汀泗橋鎮 (4)
 陽新県竜港鎮 (4)
 石柱トゥチャ族自治県西沱鎮 (1)
 潜江市熊口鎮 (5)
 鍾祥市石牌鎮 (6)
 随県安居鎮 (6)
 麻城市岐亭鎮 (6)
 湖南省
 竜山県里耶鎮 (2)
 長沙市望城区靖港鎮 (4)
 永順県芙蓉鎮 (4)
 綏寧県寨市鎮 (5)
 瀘溪県浦市鎮 (5)
 洞口県高沙鎮 (6)
 花垣県辺城鎮 (6)
 広東省
 広州市番禺区沙湾鎮 (2)
 呉川市呉陽鎮 (2)
 開平市赤坎鎮 (3)
 珠海市香洲区唐家湾鎮 (3)
 陸豊市碣石鎮 (3)
 東莞市石竜鎮 (4)
 惠州市惠陽区秋長街道 (4)
 普寧市洪陽鎮 (4)
 中山市黄圃鎮 (5)
 大埔県百侯鎮 (5)
 珠海市斗門区斗門鎮 (6)
 仏山市南海区西樵鎮 (6)
 梅州市梅県区松口鎮 (6)
 大埔県茶陽鎮 (6)
 大埔県三河鎮 (6)
 広西チワン族自治区
 霊川県大圩鎮 (2)
 昭平県黄姚鎮 (3)
 陽朔県興坪鎮 (3)
 興安県界首鎮 (6)
 恭城ヤオ族自治県恭城鎮 (6)
 賀州市八歩区賀街鎮 (6)
 鹿寨県中渡鎮 (6)
 海南省
 三亜市崖州区 (3)
 儋州市中和鎮 (4)
 文昌市鋪前鎮 (4)
 定安県定城鎮 (4)
 重慶市
 合川区涪灘鎮 (1)
 貴陽市花溪区青岩鎮 (2)

潼南区双江鎮 (1)
 渝北区竜興鎮 (2)
 江津区中山鎮 (2)
 西陽トゥチャ族ミャオ族自治県竜潭鎮 (2)
 北碚区金刀峽鎮 (3)
 江津区塘河鎮 (3)
 綦江区東溪鎮 (3)
 九竜坡区走馬鎮 (4)
 巴南区豊盛鎮 (4)
 銅梁区安居鎮 (4)
 永川区松溉鎮 (4)
 榮昌区路孔鎮 (5)
 江津区白沙鎮 (5)
 巫溪県寧廠鎮 (5)
 開県温泉鎮 (6)
 黔江区濯水鎮 (6)
 四川省
 邛崃市平楽鎮 (2)
 大邑県安仁鎮 (2)
 閬中市老観鎮 (2)
 宜賓市翠屏区李荘鎮 (2)
 双流県黄竜溪鎮 (3)
 自貢市沿灘区仙市鎮 (3)
 合江県堯壩鎮 (3)
 古藺県太平鎮 (3)
 巴中市巴州区恩陽鎮 (4)
 成都市竜泉駅区洛帶鎮 (4)
 大邑県新場鎮 (4)
 広元市昭化区昭化鎮 (4)
 合江県福宝鎮 (4)
 資中県羅泉鎮 (4)
 屏山県竜華鎮 (5)
 富順県趙化鎮 (5)
 犍為県清溪鎮 (5)
 自貢市貢井区艾葉鎮 (6)
 自貢市大安区牛仏鎮 (6)
 平昌県白衣鎮 (6)
 古藺県二郎鎮 (6)
 金堂県五鳳鎮 (6)
 宜賓県横江鎮 (6)
 隆昌県雲頂鎮 (6)

習水県土城鎮 (2)
 黄平県旧州鎮 (3)
 雷山県西江鎮 (3)
 安順市西秀区旧州鎮 (4)
 安順市平壩区天竜鎮 (4)
 赤水市大同鎮 (6)
 松桃ミャオ族自治県寨英鎮 (6)
 雲南省
 禄豊県黒井鎮 (2)
 劍川県沙溪鎮 (3)
 騰衝市和順鎮 (3)
 孟連タイ族ラフ族ワ族自治県娜允鎮 (4)
 賓川県州城鎮 (5)
 洱源県鳳羽鎮 (5)
 蒙自市新安所鎮 (5)
 チベット自治区
 ネドン区昌珠鎮 (3)
 サキヤ県薩迦鎮 (4)
 陝西省
 銅川市印台区陳炉鎮 (4)
 寧強県青木川鎮 (5)
 柞水県鳳凰鎮 (5)
 神木県高家堡鎮 (6)
 旬陽県蜀河鎮 (6)
 石泉県熨斗鎮 (6)
 澄城県堯頭鎮 (6)
 甘肅省
 宕昌県哈達鋪鎮 (2)
 榆中県青城鎮 (3)
 永登県連城鎮 (3)
 古浪県大靖鎮 (3)
 秦安県隴城鎮 (4)
 臨潭県新城鎮 (4)
 榆中県金崖鎮 (5)
 青海省
 循化サラール族自治県街子鎮 (6)
 新疆ウイグル自治区
 ピチャン県魯克沁鎮 (2)
 霍城県恵遠鎮 (3)
 コクトカイ県可可托海鎮 (6)

資料3 中国歴史文化名村

中国歴史文化名村（英訳：China's historic and cultural villages）は、中華人民共和国の文化遺産保護制度の一つ。建設部と国家文物局が制定した文化遺産保護制度のうち、国家級の歴史文化地区に対して制定される名称。文化遺産が豊富で歴史的価値または記念する意義深い地域で、また過去の伝統風情と地方の民族の特色のある地域に制定される。通常、中国歴史文化名鎮と同時に発表される。2017年現在、107件がリストされている。

2003年より6回に亘って発表されている。

第一回 2003年10月8日公布 12カ所

第二回 2005年9月16日公布 24カ所

第三回 2007年5月31日公布 36カ所

第四回 2008年10月14日公布 36カ所

第五回 2010年7月22日公布 61カ所

第六回 2014年3月7日公布 107カ所

選定条件と基準

建設部と国家文物局の制定している選定条件と選定基準は、主に下記のものである。

- ・ 歴史的価値と風情・特色：建築遺産、文化遺産、史跡、伝統文化が比較的集中しており、過去の風情を残していたり、民族の特色を表していたりしており、かつ歴史・文化・芸術・科学的価値の高いもの。特に清代以前の建築または中国の共産主義革命史で重大な影響のあった伝統建築群、記念物、遺跡などで、基本的に保存状態の良いもの。
- ・ 保存の程度：地区内の歴史建築群、建築そのもの、その細部および周辺環境が基本的に当時のまま保存されていることまたはすでに過去破壊されて場合はある程度修復されていること。または当時の建築または周辺環境が破壊されていた際は、骨子の部分または細部が保存、または構造・様式が残されていること。
- ・ 規模：地区内の歴史建築の面積が5,000平方メートル以上あること。
- ・ 管理体制の整備：管理組織、専任スタッフ、専用の保護基金が準備されていること。

制定されている地区

指定された村は以下の通りである。

第一回

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1、北京市门头沟区斋堂镇底下村 | 河北省邢台县路罗镇英谈村 |
| 2、山西省临县碛口镇西湾村 | 山西省平遥县岳壁乡梁村 |
| 3、浙江省武义县俞源乡俞源村 | 山西省高平市原村乡良户村 |
| 4、浙江省武义县武阳镇郭洞村 | 山西省阳城县北留镇郭峪村 |
| 5、安徽省黟县西递镇西递村 | 山西省阳泉市郊区义井镇小河村 |
| 6、安徽省黟县宏村镇宏村 | 内蒙古自治区包头市石拐区五当召镇五当召村 |
| 7、江西省乐安县牛田镇流坑村 | |

- 8、福建省南靖县书洋镇田螺坑村
- 9、湖南省岳阳县张谷镇张谷英村
- 10、广东省佛山市三水区乐平镇大旗头村
- 11、广东省深圳市龙岗区大鹏镇鹏城村
- 12、陕西省韩城市西庄镇党家村

- 江苏省苏州市吴中区东山镇陆巷村
- 江苏省苏州市吴中区西山镇明月湾村
- 浙江省桐庐县江南镇深澳村
- 浙江省永康市前仓镇厚吴村
- 安徽省黄山市徽州区潜口镇唐模村

- 安徽省歙县郑村镇棠樾村
- 安徽省黟县宏村镇屏山村

第二回

- 北京市门头沟区斋堂镇灵水村
- 河北省怀来县鸡鸣驿乡鸡鸣驿村
- 山西省阳城县北留镇皇城村
- 山西省介休市龙凤镇张壁村
- 山西省沁水县土沃乡西文兴村
- 内蒙古土默特右旗美岱召镇美岱召村
- 安徽省歙县徽城镇渔梁村
- 安徽省旌德县白地镇江村
- 福建省连城县宣和乡培田村
- 福建省武夷山市武夷乡下梅村
- 江西省吉安市青原区文陂乡溪陂村
- 江西省婺源县沱川乡理坑村
- 山东省章丘市官庄乡朱家峪村
- 河南省平顶山市郟县堂街镇临沚寨（村）
- 湖北省武汉市黄陂区木兰乡大余湾村
- 广东省东莞市茶山镇南社村
- 广东省开平市塘口镇自力村
- 广东省佛山市顺德区北滘镇碧江村
- 四川省丹巴县梭坡乡莫洛村
- 四川省攀枝花市仁和区平地镇迤沙拉村
- 贵州省安顺市西秀区七眼桥镇云山屯村
- 云南省会泽县娜姑镇白雾村
- 陕西省米脂县杨家沟镇杨家沟村
- 新疆鄯善县吐峪沟乡麻扎村

- 福建省晋江市金井镇福全村
- 福建省武夷山市兴田镇城村
- 福建省尤溪县洋中镇桂峰村
- 江西省高安市新街镇贾家村
- 江西省吉水县金滩镇燕坊村
- 江西省婺源县江湾镇汪口村
- 山东省荣成市宁津街道办事处东楮岛村
- 湖北省恩施市崔家坝镇滚龙坝村
- 湖南省江永县夏层铺镇上甘棠村
- 湖南省会同县高椅乡高椅村
- 湖南省永州市零陵区富家桥镇干岩头村
- 广东省广州市番禺区石楼镇大岭村
- 广东省东莞市石排镇塘尾村
- 广东省中山市南朗镇翠亨村
- 广西壮族自治区灵山县佛子镇大芦村
- 广西壮族自治区玉林市玉州区城北街道办事处高山村
- 贵州省锦屏县隆里乡隆里村
- 贵州省黎平县肇兴乡肇兴寨村
- 云南省云龙县诺邓镇诺邓村
- 青海省同仁县年都乎乡郭麻日村

第三回

- 北京市门头沟区龙泉镇琉璃渠村
- 河北省井陘县于家乡于家村
- 河北省清苑县冉庄镇冉庄村

第四回

- 河北省涉县偏城镇偏城村
- 河北省蔚县涌泉庄乡北方城村
- 山西省汾西县僧念镇师家沟村
- 山西省临县碛口镇李家山村
- 山西省灵石县夏门镇夏门村
- 山西省沁水县嘉峰镇窰庄村
- 山西省阳城县润城镇上庄村

- 浙江省龙游县石佛乡三门源村
- 安徽省黄山市徽州区呈坎镇呈坎村
- 安徽省泾县桃花潭镇查济村
- 安徽省黔县碧阳镇南屏村
- 福建省福安市溪潭镇廉村
- 福建省屏南县甘棠乡漈下村

- 12 山西省万荣县高村乡阎景村
- 13 山西省新绛县泽掌镇光村
- 14 江苏省无锡市惠山区玉祁镇礼社村
- 15 浙江省建德市大慈岩镇新叶村
- 16 浙江省永嘉县岩坦镇屿北村
- 17 浙江省金华市金东区傅村镇山头下村

福建省清流县赖坊乡赖坊村
 江西省安义县石鼻镇罗田村
 江西省浮梁县江村乡严台村
 江西省赣县白鹭乡白鹭村
 江西省吉安市富田镇陂下村
 江西省婺源县思口镇延村
 江西省宜丰县天宝乡天宝村
 山东省即墨市丰城镇雄崖所村
 河南省郟县李口乡张店村
 湖北省宣恩县沙道沟镇两河口村
 广东省恩平市圣堂镇歇马村
 广东省连南瑶族自治县三排镇南岗古排村
 广东省汕头市澄海区隆都镇前美村
 广西壮族自治区富川瑶族自治县朝东镇秀水村
 四川省汶川县雁门乡萝卜寨村
 贵州省赤水市丙安乡丙安村
 贵州省从江县往洞乡增冲村
 贵州省开阳县禾丰布依族苗族乡马头村
 云南省石屏县秀秀镇郑营村
 云南省巍山县永建镇东莲花村
 宁夏回族自治区中卫市香山乡南长滩村
 新疆维吾尔自治区哈密市回城乡阿勒屯村
 贵州省石阡县国荣乡楼上古寨村

第五回

01 北京市顺义区龙湾屯镇焦庄户村
 02 天津市蓟县渔阳镇西井峪村
 03 河北省井陘县南障城镇大梁江村
 04 山西省太原市晋源区晋源镇店头村
 05 山西省阳泉市义井镇大阳泉村
 06 山西省泽州县北义城镇西黄石村
 07 山西省高平市河西镇苏庄村
 08 山西省沁水县郑村镇湘峪村
 09 山西省宁武县涇山乡王化沟村
 10 山西省太谷县北洸镇北洸村
 11 山西省灵石县两渡镇冷泉村
 22.江苏省苏州市吴中区东山镇三山村
 23.江苏省高淳县漆桥镇漆桥村
 24.江苏省南通市通州区二甲镇余西村
 25.江苏省南京市江宁区湖熟街道杨柳村
 26.浙江省苍南县桥墩镇碗窑村
 27.浙江省浦江县白马镇嵩溪村

18 浙江省仙居市白塔镇高迁村
 19 浙江省庆元县松源镇大济村
 20 浙江省乐清市仙溪镇南阁村
 21 浙江省宁海县茶院乡许家山村
 22 浙江省金华市婺城区汤溪镇寺平村
 23 浙江省绍兴县稽东镇冢斜村
 24 安徽省休宁县商山乡黄村
 25 安徽省黟县碧阳镇关麓村
 26 福建省长汀县三洲乡三洲村
 27 福建省龙岩市新罗区适中镇中心村
 28 福建省屏南县棠口乡濑头村
 29 福建省连城县庙前镇芷溪村
 30 福建省长乐市航城街道琴江村
 31 福建省泰宁县新桥乡大源村

第六回

1.北京市房山区南窖乡水峪村
 2.河北省沙河市柴关乡王硃村
 3.河北省蔚县宋家庄镇上苏庄村
 4.河北省井陘县天长镇小龙窝村
 5.河北省磁县陶泉乡花驼村
 6.河北省阳原县浮图讲乡开阳村
 7.山西省襄汾县新城镇丁村
 8.山西省沁水县嘉峰镇郭壁村
 9.山西省高平市马村镇大周村
 10.山西省泽州县晋庙铺镇拦车村
 11.山西省泽州县南村镇冶底村
 12.山西省平顺县阳高乡奥治村
 13.山西省祁县贾令镇谷恋村
 14.山西省高平市寺庄镇伯方村
 15.山西省阳城县润城镇屯城村
 16.吉林省图们市月晴镇白龙村
 17.上海市松江区泗泾镇下塘村
 18.上海市闵行区浦江镇革新村
 19.江苏省苏州市吴中区东山镇杨湾村
 20.江苏省苏州市吴中区金庭镇东村
 21.江苏省常州市武进区郑陆镇焦溪
 65.江西省峡江县水边镇湖洲村
 66.山东省招远市辛庄镇高家庄子村
 67.湖北省利川市谋道镇鱼木村
 68.湖北省麻城市歧亭镇杏花村
 69.湖南省永顺县灵溪镇老司城村
 70.湖南省通道侗族自治县双江镇芋头村

- 28.浙江省缙云县新建镇河阳村
- 29.浙江省江山市大陈乡大陈村
- 30.浙江省湖州市南浔区和孚镇荻港村
- 31.浙江省磐安县盘峰乡榉溪村
- 32.浙江省淳安县浪川乡芹川村
- 33.浙江省苍南县矾山镇福德湾村
- 34.浙江省龙泉市西街街道下樟村
- 35.浙江省开化县马金镇霞山村
- 36.浙江省遂昌县焦滩乡独山村
- 37.浙江省安吉县鄣吴镇鄣吴村
- 38.浙江省丽水市莲都区雅溪镇西溪村
- 39.浙江省宁海县深甽镇龙宫村
- 40.安徽省泾县榔桥镇黄田村
- 41.安徽省绩溪县瀛洲镇龙川村
- 42.安徽省歙县雄村乡雄村
- 43.安徽省天长市铜城镇龙岗村
- 44.安徽省黄山市徽州区呈坎镇灵山村
- 45.安徽省祁门县闪里镇坑口村
- 46.安徽省黟县宏村镇卢村
- 47.福建省龙岩市新罗区万安镇竹贵村
- 48.福建省长汀县南山镇中复村
- 49.福建省泉州市泉港区后龙镇土坑村
- 50.福建省龙海市东园镇埭尾村
- 51.福建省周宁县浦源镇浦源村
- 52.福建省福鼎市磻溪镇仙蒲村
- 53.福建省霞浦县溪南镇半月里村
- 54.福建省三明市三元区岩前镇忠山村
- 55.福建省将乐县万全乡良地村
- 56.福建省仙游县石苍乡济川村
- 57.福建省漳平市双洋镇东洋村
- 58.福建省平和县霞寨镇钟腾村
- 59.福建省明溪县夏阳乡御帘村
- 60.江西省婺源县思口镇思溪村
- 61.江西省宁都县田埠乡东龙村
- 62.江西省吉水县金滩镇桑园村
- 63.江西省金溪县琉璃乡东源曾家村
- 64.江西省安福县洲湖镇塘边村
- 105.青海省班玛县灯塔乡班前村
- 107.青海省玉树县安冲乡拉则村
- 71.湖南省通道侗族自治县坪坦乡坪坦村
- 72.湖南省绥宁县黄桑坪苗族乡上堡村
- 73.湖南省绥宁县关峡苗族乡大园村
- 74.湖南省江永县兰溪瑶族乡兰溪村
- 75.湖南省龙山县苗儿滩镇捞车村
- 76.广东省广州市花都区炭步镇塍头村
- 77.广东省江门市蓬江区棠下镇良溪村
- 78.广东省台山市斗山镇浮石村
- 79.广东省遂溪县建新镇苏二村
- 80.广东省和平县林寨镇林寨村
- 81.广东省蕉岭县南礫镇石寨村
- 82.广东省陆丰市大安镇石寨村
- 83.广西壮族自治区阳朔县白沙镇旧县村
- 84.广西壮族自治区灵川县青狮潭镇江头村
- 85.广西壮族自治区富川瑶族自治县朝东镇福溪村
- 86.广西壮族自治区兴安县漠川乡榜上村
- 87.广西壮族自治区灌阳县文市镇月岭村
- 88.重庆市涪陵区青羊镇安镇村
- 89.四川省泸县兆雅镇新溪村
- 90.四川省泸州市纳溪区天仙镇乐道街村
- 91.贵州省江口县太平镇云舍村
- 92.贵州省从江县丙妹镇岜沙村
- 93.贵州省黎平县茅贡乡地扪村
- 94.贵州省榕江县栽麻乡大利村
- 95.云南省保山市隆阳区金鸡乡金鸡村
- 96.云南省弥渡县密祉乡文盛街村
- 97.云南省永平县博南镇曲硐村
- 98.云南省永胜县期纳镇清水村
- 99.西藏自治区吉隆县吉隆镇帮兴村
- 100.西藏自治区尼木县吞巴乡吞达村
- 101.西藏自治区工布江达县错高乡错高村
- 102.陕西省三原县新兴镇柏社村
- 103.甘肃省天水市麦积区麦积镇街亭村
- 104.甘肃省天水市麦积区新阳镇胡家大庄村
- 106.青海省循化撒拉族自治县清水乡大庄村

資料4 伝統的生活文化



住民の生活の様子 - 路上の麻雀



地域住民の行商の買い物



地域住民の日常生活の風景



野菜の干し



洗濯の干し

安仁古鎮における伝統的生活文化の風景



地域住民の日常生活の風景



地域住民の行商の買い物

住民の生活の様子 - 井戸の洗濯



住民の生活の様子 - 路上の麻雀

黄龍溪古鎮における伝統的生活文化の風景

資料5 伝統的食



寛窄巷子の焼き串



錦里の燻製兔頭

錦里の撒尿牛丸



文殊院の洞子口張老二涼粉

文殊院の周新華三大炮



黄龍溪古鎮のお漬物

安仁古鎮の劉血旺

資料6 テキストマイニングの概要

ナラティブ・データを用いたいわゆる「質的研究」は、当事者の経験の内実や主観的意味付けを記述する上で有効である。しかし、分析プロセスの客観性が十分担保されていない。また、質的データの分析では、主観的に多様な解釈ができる中で、自らの解釈の必然性を見出すことが必要になる。自然言語処理技術の発達に生きる近年では、大量のナラティブ・データをテキストマイニングの手法を用いて統計的に分析することが可能になっている。近年、NLP（Natural Language Processing、自然言語処理）技術の飛躍的な発展に伴い、テキスト・データを定量化し、それをデータ分析する手法、すなわち、テキストマイニング法が脚光を浴びている。とくに、企業のマーケティング・リサーチにおいて、テキストマイニングのニーズは急激に高まっている。また、介護・看護分野などでは、ヒアリング調査あるいは自由回答でとられたアンケート・データに対してテキストマイニング手法を用いて分析する研究が積極的に行われている。

テキストマイニングとは、おおまかに定義すると、ユーザが一連のツールを利用して文書集合を対話的に分析する方法である。テキストマイニングは、ビッグデータ分析のなかで重要な役割を担う方法の一つである。テキストマイニングは、テキスト・データ（非構造化データ）を数量化することで、定量的研究で用いられる諸種の統計的方法を活用する方法である。具体的には、テキスト・データを形態素分析により単語に分解し、単語の出現頻度、あるいは複数の単語の同時出現頻度などを用いて数量化し、テキストが出現した時間との関係に基づく時系列分析、あるいは同時出現頻度による分割表に基づく多変量解析手法を行う。

テキストマイニングのメリットについて、松村は以下のように指摘している。「テキストマイニングは、テキスト・データを計算機で定量的に解析して有用な情報を抽出するための様々な方法の総称であり、自然言語処理、統計解析、データマイニングなどの基盤技術の上に成り立っている。テキストマイニング分析は、従来は人手で行うしか術がなかったため分析者の負担が非常に大きく、大量のテキスト・データを分析することは現実的にはほとんど不可能であった。また、テキスト・データのような定性的なデータは、大量のデータを分析しないと安定した傾向を見いだすことが難しく、ここにもテキスト・データを分析対象にすることの難しさがあった。しかし、テキストマイニングによるアプローチは大量のテキスト・データを統一的な視点から少ない労力で分析することを可能にする。また、様々な分析の切り口や分析手法を適用して仮説を比較・検討できるようになるので、分析の質も向上する。このような理由から、テキストマイニングはテキスト・データを扱う人文・社会科学の学生や研究者にとって、分析データの量及び分析結果の質を飛躍的に高めるブレイクスルーをもたらす可能性を秘めている。」

テキストマイニングは、情報源に潜在する興味深いパターンを試行錯誤しながら見つけ出し、有用な情報を得ることを目指している。金はテキストマイニングが言語学、企業の経営学及び生物学などの領域への適用性について以下のように論じている。「情報大航海の時代と言われている昨今、データの山から効率よく情報や知識を探しだすことを目的としたデータサイエンスの一分野である。情報処理システムの構築と普及にともないテキスト・データが大量に流通、蓄積されるようになっている。企業では、企業内のテキスト・

データを企業経営に有効に活用するため、テキストマイニングのシステムを構築するケースが増えており、コールセンターの顧客とのやりとりの記録、社内の日誌、社会調査やマーケティング調査における自由回答文、ブログにおける商品のニーズや評価などにおけるテキストマイニングの成功事例が数多く報告されている。」「一方、言語学や文体学の分野では、計量言語学、計量文体学、コーパス言語学が注目されている。コーパス(corpus)は、電子化された自然言語の文章から成る巨大なテキスト・データを指す。コーパス言語学は、大量のテキスト・データから言語の使用パターンを分析するものであり、近年注目されている。コーパスから言語の使用パターンを見つけ出すことは一種のテキストマイニングである。」「情報処理の分野でのテキストの計量的な分析は、テキストマイニングと呼ばれ、広い分野で応用されている。企業では、サービスの一環としてコールセンターを設けて顧客への対応を行うと同時にそのやりとりを、顧客の声を分析するための記録として残す。また、インターネットの普及にともない、ウェブページや電子メールなどを介し、電子化された顧客の意見を収集することやアンケート調査をおこなうことも急速に増えている。このような膨大なテキスト・データに隠された顧客の声から抽出した情報・知識をマーケティング戦略に生かして効果を得たという報告も少なくない。また、ITの普及のおかげで、企業内では営業日報、医療分野では医者・看護師・薬剤師の所見、知的所有権の分野では特許、メディア関係では新聞などのデータベース、一般社会ではウェブページなど電子化されたテキストが急速に増え続けている。これらの膨大なテキストを何らかの特徴別に分類したり、トピックを抽出したりする計量的研究が急速に進んでいる。・・・(省略)・・・ゲノム(genome)とは、生物のもつ遺伝情報の全体を指す。・・・(省略)・・・四つの核酸塩基はアデニン、シトシン、グアニン、チミンであり、それぞれ文字A、C、G、Tで表記して用いる。したがって、DNAの情報を記録したものはこれらの文字列により構成されるテキストとみなすことができる。・・・(省略)・・・また、生体内でタンパク質の合成や遺伝情報の遺伝に重要な役割を果たすRNAの核酸塩基は基本的にアデニン、グアニン、シトシン、ウラシルの4種で構成され、それぞれ文字A、G、C、Uで表記して用いる。したがって、RNAを表記したのもテキストとみなすことができる。近年、テキスト解析のアプローチでゲノムデータの解析がおこなわれている。

近年、NLP(Natural Language Processing、自然言語処理)技術の飛躍的な発展に伴い、テキスト・データを定量化し、それをデータ分析する手法、すなわち、テキストマイニング法が脚光を浴びている。とくに、企業のマーケティング・リサーチにおいて、テキストマイニングのニーズは急激に高まっている。また、介護・看護分野などでは、ヒアリング調査あるいは自由記述でとらえたアンケート・データに対してテキストマイニング手法を用いて分析する研究が積極的に行われている²⁾。他方、これまで行われてきた観光開発にかかわる観光客や地元住民に関する調査では、数量的なデータに基づき、統計学的手法での解釈が主とされており、観光分野の研究におけるテキストマイニングの利用は今の段階ではまだ緒についたところである。

テキストマイニング法は、膨大なデータの集積から何らかの知識(傾向、法則等)を導出する方法を他探る研究である。したがって、何か明確な目的があって行う研究というより、何が分かるかはわからないが、有意義なものを探し出したいという場合にも用いられる。これまで行われてきた観光客意識構造に関する調査では、数量的なデータに基づき、統計学的手法での解釈が主とされ、自由記述の項目は、考察の際の補足的な資料として扱われるにすぎなかった。しかし、自由記述の内容は記入した本人の感想にのみ該当するだ

けでなく、他の観光客の感想にも当てはまる場合が少なくない。また、多数の自由記述を分析することにより、回答者の中で共有された経験や意識のバリエーションだけでなく、匂いや音など、想定していなかった感覚的な部分についても捉えることができると考えられる。

資料7 自由記述（中国語）

番号	中国語
1	休息的地方少，没有地图，车太多
2	资料馆找不到解说员
3	没太注意，整体上看没看到立体的传统生活
4	没太注意，没兴趣
5	向更深入的了解当地居民的生活，历史建筑物
6	没看到当地居民的生活状态
7	没看到当地居民，游客太多了，都在不停地走，一点也感受不到安静的氛围，街道虽然清洁，但是商业气息太浓
8	交通比方方便，可以去其他的古镇
9	价格高的惊人
10	东西太贵
11	东西太贵
12	看不到当地居民的生活方式。虽然是古街，但是开发过度，商品过于重复
13	当地小吃还可以就是价格太贵
14	传统小吃种类太少了
15	传统美食的制作过程挺有意思
16	传统小吃味道不好而且量还少
17	传统小吃种类太少，面对游客的费非地方小吃太多
18	娱乐项目设施太少
19	能玩的地方太少
20	能玩的地方太少
21	一根面挺有意思，人太多了，令人烦躁
22	夜景不错，挺美
23	到了晚上人太少了
24	休息的地方少，椅子有点儿脏
25	找不到地方休息
26	休息的地方少
27	节假日人太多，道路有点窄
28	很满意
29	都是现代建筑物
30	物价太高，景色少，人太多
31	感受不到文化的氛围
32	传统文化氛围不足
33	特别想看四川生传统的艺术文化，但是时间太赶，没看到

- 34 食物卫生是一个大问题
- 35 吃的种类很多，但是能吃的太少
- 36 吃的东西价格太贵
- 37 射击游戏等游戏的地方太少
- 38 过于商业化
- 39 过于商业化，一点意思都没有
- 40 过于商业化
- 41 过于商业化
- 42 商业化
- 43 商业化氛围太浓
- 44 除了商业化氛围以外的气氛啥都感觉不到，完全感觉不到传统历史文化氛围
- 45 商店太多，价格太高
- 46 人太多，维持治安的人太少。道路两旁买东西的小车太多。没有方向指示牌
- 47 人太多太吵
- 48 人太多
- 49 人太多
- 50 人太多
- 51 人太多很吵，没有啥特别的地方
- 52 整体上还可以，挺满意的
- 53 整体的开发计划感觉还是可以的，但是开发过度，人太多，没有一个良好的氛围
- 54 整体氛围还是很好的，但是游客们貌似只是看看，对历史文化啥的都没啥兴趣
- 55 东西价格太贵
- 56 玩麻将啊
- 57 绿色景观少，开发过度
- 58 感觉挺好的
- 59 优点：传统建筑物，传统美食，缺点：累了都没地方做
- 60 关于历史文化的介绍太少了
- 61 没有关于历史文化的介绍
- 62 历史文化的介绍无
- 63 历史景观还是不错的，但是看不到当地居民的生活
- 64 历史景观不错，绿化不足
- 65 历史建筑还是不错的
- 66 有优秀的历史文化。但是看不到生活文化
- 67 开发过度，看不到传统的生活文化
- 68 商店和景观都集中在入口处，但是里面东西太少
- 69 希望多设置点解说和路标
- 70 传统的街区景观还是很漂亮的

- 71 街道设计不合理，休息的地方太少，人太多
- 72 房屋建筑保存的很好，但是商业气息太重，服务态度十分恶劣
- 73 开发过度导致失去了自己的特色
- 74 游客休息的设施少
- 75 关于古镇历史介绍比较少，街道的指示板也很好
- 76 掏耳朵还是不错的
- 77 掏耳朵
- 78 什么是地方传统文化，完全搞不懂
- 79 具有地方特色的商品太少了
- 80 地铁口没有电梯
- 81 想看一下当地居民的生活方式
- 82 开发过度，想体验一下川剧
- 83 池中有鱼
- 84 在成都带了5天，看到的传统美食几乎相同，关于古镇居民的安置挺好的。当地居民的传统艺术的种类比较少，店铺过于重复，过于重视经济利益，传统文化比较薄弱
- 85 看不到传统文化生活，即使有也感觉好不真实
- 86 商店关门太早，到了夜晚太安静，都没有路灯
- 87 感觉不到真实的历史文化，没有到当地居民的生活，住民的经济意识好强
- 88 看不到传统街区景观，历史建筑物的人工痕迹太重
- 89 理解安仁古镇的历史文化。希望不要过度开发
- 90 乱扔垃圾，乞讨要钱的行为太多
- 91 晒晒太阳，看看花儿
- 92 厕所太少，然后还有的卫生间不能用
- 93 卫生间太少，不好找，还要钱。街道的解说板太少了
- 94 厕所太少街道的解说板太少了
- 95 厕所太少了
- 96 宣传力度不够，好多人都不知道
- 97 传统美食，历史建筑物服务态度太差
- 98 能喝茶的地方太少
-

資料8 自由記述（日本語）

番号	日本語
1	座る場が少ない，地図が少ない，街路中に走る自動車が多い
2	資料館内に解説員がいないので困る
3	注目していない。全体から見ると、伝統生活の再現は立体的ではない
4	注目していない、興味が無い
5	住民生活の様子と歴史的な資源をもっと見たい
6	住民の伝統的生活を見ることができなかった
7	住民が見当たらない、観光客が多すぎ、皆歩いて、静かな雰囲気でない、道は清潔だが、商業的雰囲気が強すぎ。
8	周りの古鎮へ行くのが便利、
9	値段が驚くほど高い
10	値段が高い
11	値段が高い
12	住民生活の様子を見ることができなかった。古い街とはいえ、完全に開発が進んでいる、商品の重複度も高い
13	伝統的食事は良いが、値段が高い
14	伝統的食事の不足
15	伝統的食事の制作過程が面白い
16	伝統的食事がおいしくない、量も少ない
17	伝統的食事が少なすぎ、観光客向けのものが多すぎ
18	娯楽項目が少ない
19	遊ぶ場がない
20	遊ぶ場がない
21	一根面、人が多すぎ、煩い
22	夜景が良い
23	夜、人が少ない
24	休息施設が少ない，ベンチが汚い
25	休息施設が少ない
26	休息施設が少ない
27	休日人が多い、道が狭い
28	相当満足
29	現代建物ばかり
30	物価が高い、景色が少ない、人が多い
31	文化的雰囲気が無い
32	文化的雰囲気が不足

- 33 四川省伝統芸能を見たかったが、時間の都合で見ることが出来なかった
- 34 食事の衛生問題
- 35 食べ物の種類は多いが、食べれる物が少ない
- 36 食べ物の値段が高い
- 37 射撃ゲーム等、ゲームする場が少ない
- 38 商業化しすぎ
- 39 商業化しすぎて、面白くない
- 40 商業化しすぎ
- 41 商業化しすぎ
- 42 商業化
- 43 商業的雰囲気がつよい
- 44 商業の雰囲気以外何も感じとれない、歴史的な雰囲気がまったくない
- 45 商店が多い、値段が高い
- 46 人が混雑している、治安維持する人が少ない、道の両側に屋台が混雑；方向指示する看板が無い
- 47 人が多すぎてうるさい
- 48 人が多すぎ
- 49 人が多すぎ
- 50 人が多すぎ
- 51 人が多くて煩い、特徴が分からない
- 52 全体的満足
- 53 全体的計画は良い、しかし開発しすぎ、人も多い、観光に良い雰囲気ではない
- 54 全体的雰囲気は良いと思う、しかし観光客は見るだけで、歴史等に興味はない
- 55 品物の値段が高すぎ
- 56 麻雀をする
- 57 緑の景観が少ない、過度の開発
- 58 良い感じ
- 59 良い点：伝統建築、伝統食事・悪い点：休息施設が少ない
- 60 歴史文化の解説が少ない
- 61 歴史解説が無い
- 62 歴史的物語
- 63 歴史的風景が素晴らしい。伝統的生活文化が見られない
- 64 歴史的景観が素晴らしい。緑化が不足している
- 65 歴史的建築物が素晴らしい。
- 66 歴史文化が素晴らしい。伝統的生活文化が見られない
- 67 開発しすぎ、伝統的な生活が見られない

- 68 景観や商店が入り口に集中しすぎ、中のものが少ない
69 解説や案内は数多く設置してほしい
70 伝統的街並みが素晴らしい
71 街路の計画が不合理、休息施設が少ない、人が多い
72 建築物の保存は良く出来ている。しかし、商業化しすぎて、サービス態度も悪い
73 観光客向けの開発がしすぎて、自分の特徴が失われている
74 観光客の休息施設が少ない
75 古鎮の説明が少ない、案内板や説明板が少なく、見られない
76 伝統的生活体験に対する耳がきがいい
77 耳がき
78 地域の伝統的文化は一体何かわからない
79 地域の特色のある商品はない
80 地下鉄の駅にエレベータが無い
81 地域住民の生活様子を見たい
82 開発しすぎ、川劇を体験したい
83 池の中に魚が入っている
84 成都の五日目、見てきた伝統的食事はほぼ同じ、古鎮住民の定住政策は良いと思う。住民の伝統的芸能の数が少ない、店舗の重複が問題。経済的の面に強調しすぎ、文化的面がやや薄い、街路の分布が合理的。
85 伝統的生活が見られない。伝統的文化があっても不真実さが感じられている
86 閉店がはやい。夜になると静かになってライトアップが見られない
87 本物の歴史文化が感じられない。住民の生活様子が見られない。住民の経済意識が強い
88 伝統的街並みが見られない。歴史的建造物は人工的痕跡が多い
89 安仁の歴史文化を理解すること。過度の開発を避けてほしい
90 ポイ捨てが多い、ホームレースからお金を求められる
91 ひなたぼっこ、花見
92 トイレ不足、そして、その中で一つのトイレが使えない
93 トイレが少なく、探しにくい、それに有料。道の案内板や説明板が少ない。
94 トイレが少ない、道の案内板や説明板が少ない
95 トイレが少ない
96 その場の宣伝が少ない、知る手段が少ない
97 伝統的食事、歴史的建築、サービス態度が悪い
98 お茶の施設が少ない
-

資料9 観光産業の法律法規について

第十七届五中全会《中共中央関与制定国民経済と社会発展第十二次五年計画の意見》で“積極發展観光業”が提出された。国家旅遊局は2010年12月に「中国旅游産業“十二五”(第12次5ヵ年期間)發展計画綱要」を策定した。2011～2015年の第19章健全な政策法規と標準化システムを参照にし、具体的には以下のとおりである。

・ 発展のアイデア

政策法規や標準化システムは観光業の発展のための重要な保障であり、“十一五”の期間、中国の観光政策法規のシステムが絶えず健全であり、發展環境をも改善された。《観光法》の制定は全国人民代表大会の立法過程に含まれており、新たな《旅行社条例》を実施し、さらに、数多くの地方観光法規を發表した上で、観光市場の規範と秩序ある發展を促進した。区域観光計画は整然と推進され、国家観光局が“十一五”期間では全国的な力で主要な地域観光を計画した。観光の標準化と制度構築が強化されている。国と地方の観光基準が提案されており、観光基準は観光目的地のサービスの質を向上させるための重要な手段となっている。観光業の發展速度を促進するために各レベルの党委員会と政府は、明確に政策文書の多くを導入している。それにもかかわらず、中国の観光産業の發展のための政策環境は依然として多くの不公正な面があり、法制環境の建設も“基本法の空白が多く、部門法の停滞の状況、相關法律のリード”の状態にある。観光法規システムは未だ不健全で、市場の外部環境を改善する必要がある。“第12次5ヵ年”期間、真剣に《国务院関与加速發展観光業の意見》の導入を把握するため、観光総合立法、観光計画と標準化建設、観光事業の財政支援等を強化し、観光開発用地の需要への確保を保障しており、さらに公正かつ有利な政策環境の形成を促進し、総合的に観光政策規制や標準化システムを推進している。

・ 工作中心

1. 積極的に《観光法》の関連法規の健全化促進

計画に従って《観光法》の立法が進められている。新たな發展趨勢への適応のために、特に、個人旅行、インバウンドとアウトバウンド観光と産業の統合、観光市場の監督、資源保護、雇用規範の策定を加速させ、観光関連法規、比較的完全な観光法規や規制システムを向上するため、観光産業の健全な發展は一定の法的保護を提供する必要である。

2. 観光計画の強化

専門知識の集中、社会参加の促進、様々な観光計画の取り決め、各レベルに注意を払い、異なる類別の観光計画を協調するために良い観光プランを推進している。全体的な都市計画の準備及び調整、土地利用計画、海洋機能区計画、インフラ整備計画、村・鎮計画等は観光開発のニーズを考慮し、様々な計画や観光計画のコントロールに焦点を当て、十分に配慮する必要がある。観光計画は法定計画の序列の実施を強化することである。

3. 標準のシステムを改善するための標準実施の強化

観光国家標準、業界標準、地方基準と企業標準、観光の標準システムとの間での確立

と改善、《全国観光標準化工作計画》の実施、《全国観光標準システム表》と《全国観光標準 工作規定》が改訂された。観光標準化のモデル省、モデル都市、モデル企業の工作を展開するために、観光標準化の宣伝と執行を拡大する。全業界の観光標準化とチーム建設を強化し、観光標準の専門化、制度化のレベルを向上させる。全国の観光サービスの質、サービス資格、観光サービスの施設、観光サービスの情報、観光環境の衛生、旅行安全、旅行サービスの環境保護等の標準化、観光産業のサービスの質を高める。観光標準システムの建設は観光ホテル、旅行代理店、景区、観光購買と観光娯楽業等市場の品質レベルの管理メカニズムを推進する。関連業界の標準システムと完全かつ科学的な観光サービスを形成する。積極的に参加し、国際観光基準の研究を促進し、開発するために、我々の観光標準を国際レベルに推進する。

4.観光事業の財政支援の強化

観光産業の不当な料金をコントロールするために、各地域の経済発展の状況と観光産業の経営特徴により、国と地方の税負担を調整する。主要な観光建設プロジェクトに税收と行政事業の管理費を含め、状況に応じて適切な優遇または減税を与える。資格のある観光企業は、リストラされた労働者及び出稼ぎ労働者等の再雇用の税優遇政策を享受することができる。投資された都市鉄道輸送、道路や橋梁などの観光業の発展に役立つ主要インフラ整備のプロジェクトに対し、投資の回収期間内において営業税を適当に減免する事である。観光事業の専用交通車両、船舶などの輸送設備に、減価償却方法で減価処理を採用し、所得税の控除の前が可能になる。観光資格が有する微型企業に対し、適当な減税を享受できる。国際・国内航空路線の分岐空港の離着陸の建設費用を一定の割引率で優遇する。観光産業の広告宣伝費及び事業推進費の支出に対し税法規定による控除することが可能である。

5.合理的に観光開発の用地の需要の保障

観光計画と土地利用の全体計画の繋がり、観光産業の発展のため土地利用は全体計画の中で合理的に土地の取得、国家産業政策、投資額の大きさ、市場の見通しが良い重要な観光プロジェクトへ土地利用の供給に対して、優先順位を取り決める。観光企業は丘、斜面、荒れ地、砂漠の島々、鉱山の地盤沈下地域等の土地開発や観光プロジェクトの開発利用の企業を支えていく。土地利用計画及び都市計画と結び付けを前提として、関連政策に従って、建設用地供給の手続きを優先する。自然生態環境の観光用地の保護に対し、農民は自主的に農地請負の目的や性質を変更しないことを前提として、法に従って有償の使用ができる。農村集団経済組織を支援し、協力的な方法で集団建設用地を活用するため、土地集団所有制と農村用地の変更がないことを前提として、合作方式で中小型観光企業の投資と開発を実施する。科学的に海岸地域を経済的かつ集中的な土地利用政策を行い、最適な開発区、重点開発区、制限された開発区と禁止開発区を焦点に当てて策定・研究し、海岸線、海洋資源を合理的に使用し、そして主要な国家プロジェクト建設のニーズを確実にするために集中的に促進する必要がある。

6.より良い公平な観光産業の政策環境の推進

観光企業の使用水、電気、ガスの価格と一般的な工業企業と同様に政策を実行する。公式レセプションサービスの社会化と市場化を促進しており、旅行代理店を政府の調達やアウトソーシングサービスの参加を勧め、合理的な政策環境を作成する。個人観光、家族観

光、小規模グループでの観光等の発展形勢に準拠するために、自家用車のビジネス観光客の資格要件を緩和する。農家楽、民俗村等の経営状況によって、消防許可証と特種経営許可証に関連する政策を調整し、農村観光の発展のために、より良い有利な政策環境を作成する。団体観光の観光客は星レベルホテルへの宿泊に対し、非主食の価格調整ファンドが免除される。公共の福祉事業の分野で民間資本の参加に関する投資プロジェクトは、国営投資と同等の価格政策で、インフラやプロジェクトにおける民間設備投資は、都市インフラの手数料金免除政策を支える政策を享受する。観光公益用土地は計画方式で提供する。観光産業の設立資本金の制限を緩和し、新しく設立された観光事業の登録資本金が分割で注入し、資本金の分割払いを登録できる。

資料10 観光業の改革・発展促進に関する国務院の若干の意見

【要点】

- 2014年8月21日に「観光業の改革・発展促進に関する国務院の若干の意見」（中国語名「国务院关于促进旅游业改革发展的若干意见」、以下「意見」）が発表された。
- 中国政府は、ここ数年、内需拡大・産業構造の転換・雇用創出・内陸部発展等の効果が期待できる観光業の育成に力を入れてきた。2009年12月に「観光業の発展加速に関する国務院の意見」、2013年2月に「国民観光・レジャー綱要(2013～2020年)」が相次いで発表され、2013年10月には「改正旅行法」も施行されている。経済の急減速回避が求められていることもあり、観光業の改革・発展をさらに加速するための具体策がこの「意見」で示された。
- 「意見」では、科学的な観光理念の確立(法に基づく監督管理や企業経営等の推進、工業化・IT化・都市化・農業近代化と結びつけた形での観光業発展の促進等)により、2020年までに国内観光消費支出を5.5兆元、国民1人当たり年間平均観光旅行回数を4.5回、GDPに占める観光業のシェアを5%以上にすると目標が立てられた。この目標を実現するために4つの措置が打ち出されている。具体的には、1) 観光業の発展のけん引力増強(観光業に対する規制緩和と地域統合の促進、互恵的な国際地域提携・協力体制の構築等)、2) 観光業の発展空間の拡大(国内のレジャー旅行、生活・文化体験旅行、修学旅行、シニア旅行、買い物旅行等の促進)、3) 観光業の発展環境の改善(観光客の利便性を高めるための交通インフラの整備、旅の安全への取り組み強化、旅行会社等を対象とした信用情報システムの構築、景勝地入場料の合理化等)、4) 観光業発展促進策の強化(政府公共機関・企業等を対象とする「有給休暇制度」の実施促進、観光関連インフラの整備促進、財政・金融・土地供給面での支援強化、人材育成の促進等)である。
- また、「意見」の末尾には、抽出された「23の重点任務」とそのタイムスケジュールが添付されている。今後、それに基づき、関係政府機関が2015年末までにこれらの重点任務を遂行していく予定である。

【構成(概要)】

- 科学的な観光理念の確立:革新的な観光理念の形成促進と観光業の発展パターンの転換加速により、2020年までに国内観光消費支出が5.5兆元、国民1人当たり年間平均観光旅行回数が4.5回、GDPに占める観光業のシェアが5%以上になることを目標とする。
- 観光業の発展のけん引力増強:具体的には、1 観光業に対する規制緩和と地域統合の促進、2 観光協会の役割強化、3 観光仲介業の発展促進、4 観光関連企業の競争力向上、5 国内外の観光サービス基準の統一、6 互恵的な国際(地域)提携・協力体制の構築、7 辺境旅行に対する政策支援の強化、8 トランジット時の「外国人向け72時間ビザなし滞在制度」の拡充等。
- 観光業の発展空間の拡大:国内のレジャー旅行、生活・文化体験旅行、修学旅行、シニア旅行、買い物旅行等を促進する。具体的には、1 国内観光需要の増加を見込ん

だ都市・農村計画の制定、2 観光資源(古き良き町・村落等)の開発促進、3 伝統的な文化を体験できるツアー商品の開発、4 夏休み等を利用した修学ツアー商品の多様化、5 高齢者向け観光サービスの充実、6 ショッピングモールと関連施設の建設・整備による買い物ツアーの質向上等。

- ・ 観光業の発展環境の改善:観光客の利便性を高めるための交通インフラの整備、旅の安全への取り組み強化、旅行会社等を対象とした信用情報システムの構築、景勝地入場料の合理化等。具体的には、1) 観光地へのアクセスを分かりやすくするための案内標識の増設、2) 観光ロープウェイや大型遊具施設などに対する定期点検の実施強化、3) 格安ツアー等による詐欺被害防止の徹底化、4) 「改正旅行法」に基づいた「強引なショッピングの斡旋」や「強制的な現地オプションツアー販売」等の取締強化、5) 入場料設定基準の統一等。
- ・ 観光業発展促進策の強化:政府公共機関・企業等を対象とする「有給休暇制度」の実施促進、観光関連インフラの整備促進、財政・金融・土地供給面での支援強化、人材育成の促進等の政策を実施する。具体的には、1) 法に基づく有給休暇の取得、2) 観光地での公共施設(駐車場・トイレ等)の増設、3) 観光業発展基金の設立や条件を満たした旅行会社の上場、4) 観光用地管理制度の整備、5) 観光ガイドの能力評価制度・給与制度の整備等を促す政策等。

参考・引用文献

<中国語文献> (アルファベット順)

- 仓平 (2002) : 朱家角古镇旅游功能定位与开发问题讨论、上海商业职业技术学院学报、Vol.3、No.3、pp.45-46.
- 国务院法制办农业资源环保制司・住房与城乡建设部法规司、城乡规划司 (2009) : 历史文化名城名镇名村保护条例释义、知识产权出版社.
- 符灵芝 (2013): 古鎮旅遊開發研究 - 以洪江古商城為例、The research of the old town tourism development case of HongJiang Ancient Commercial Town、北京林業大学修士論文.
- 何永彬 (2002) : 谈乡村古镇旅游产品开发、海峡两岸观光休闲农业与乡村旅游发展—海峡两岸观光休闲农业与乡村旅游发展学术研讨会论文集 (下)、pp.398-400.
- 李益彬 (2012) : Conception on Tourism Resources Protection and Development of East Sichuan Ancient Towns、Proceedings of 2012 International Conference on Social Science and Education(ICSSE 2012)、Vol.10、pp.143-147.
- 李俊・陈琴・张述林・蒋焜富 (2011) : 古镇民俗资源保护与传承研究、绵阳师范学院学报、Vol.30、No.2、pp.101-105.
- 罗明义 (2001) : 旅游经济分析、云南大学出版社.
- 李天元 (2003) : 旅游学概论、南开大学出版社
- 秦蓉 (2007) : 历史文化名镇的旅游开发、乐山师范学院学报、Vol.22、No.1、pp.79-81.
- 阮仪三・王慧・王林 (1999) : 历史文化名城保护理论与规划、同济大学出版社.
- 阮仪三・吴承照 (2001) : 历史城镇可持续发展机制和对策、城市发展研究、Vol.8、No.3.
- 王惠・陈紫薇・张凯 (2014) : 古村落居民行为对游客心理承载力影响研究、中南林业科技大学学报 (社会科学版)、Vol.8、No.6、pp.1-5.
- 翁雨晴・李万莲 (2012) : 消费者皖北旅游意愿及其影响因素分析、绥化学院学报、Vol.31、No.1、pp.176-178.
- 王林・王骏 (1987) : 历史街区保护名城的保护内容及方法、城市规划.
- 王文亮 (2001) : 中国観光業詳説、日本橋報社.
- 吴必虎 (2001) : 区域旅游规划原理、中国旅游出版社.
- 徐宏・何焱 (2013) : 古镇旅游开发中当地居民“旅游参与者”与开发商的利益博弈、北京第二外国语学院学报、Vol.1、pp.70-79.

- 杨福泉（2015）：略论“大香格里拉”品牌及丽江市、迪庆州文化与旅游的互动发展、中南民族大学学报（人文社会科学版）、Vol.34、No.1、pp.398-400.
- 杨国才（2002）：白族千年古村“诺邓”的保护与发展研究、云南民族大学学报(哲学社会科学版)、Vol.19、No.2、pp.67-74.
- 张冬婷·邱扶东（2011）：国内外古镇旅游研究综述、旅游学刊、Vol.26、No.3、pp.86-92.
- 郑世卿·王大悟（2012）：乌镇旅游发展模式解析[J]、地域研究与开发、pp.85-94.
- 周建明·张高攀（2009）：旅游小城镇旅游资源的开发与保护、中国建筑工业出版社.
- 周学军·武晓琳（2008）：论古镇的保护与旅游开发-以四川省双流县黄龙溪古镇为例、知识经济、Vol.1、pp.131-132.
- 翟丽丽(2014):成都市宽窄巷子历史文化街区游客景观偏好实证研究、经营管理者、Vol.16、pp.102.
- 张荣光·廖治学·骆毓燕（2012）：基于 SEM 的游客需求要素分层分析与满意度关系研究-以九寨沟景区为例-、西南民族大学学报（人文社会科学版）、Vol.10、pp.142-146.
- 钟章奇·李山·王铮·闫丹·刘华婷（2014）：中国旅游业空间分异的 ABS 分析、地理研究、Vol.33、No.8.
- 赵勇·张捷·李娜·梁莉(2006):历史文化村镇保护体系及方法研究、地理科学、pp.497-505.
- 周学军·武晓琳（2008）：论古镇的保护与旅游开发-以四川省双流县黄龙溪古镇为例-、知识经济、Vol.1、pp.131-132.

<日本語文献> (50音順)

- 石村貞夫・石村友二郎 (2011) : SPSS による多変量データ解析の手順、東京図書.
- 石森秀三 (2008) : 観光立国時代における観光創造—大交流時代における観光創造、北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院、pp.1-20.
- 井門隆夫 (2005) : 観光・旅行分野における顧客満足度調査について、日本オペレーションズ・リサーチ学会.
- 上村信行・吉田宗人・吉田倫子・宇高雄志 (2013) : 町並み保存地区における住民意識の時系列分析による伝建区制度の評価—竹原市竹原重要伝統的建造物群保存地区を事例として—、日本建築学会計画系論文集、Vol.78、No.688、pp.1283-1291.
- 内田治 (2011) : すぐわかる SPSS によるアンケートの統計的検定、東京調所株式会社.
- 内田治・菅民郎 (2006) : 『EXCEL 品質管理』のための統計分析の本、エスミ株式会社.
- 王金偉 (2016) : 自然災害地における「負の遺産」の観光マネジメントに関する研究—中国四川省「北川地震遺跡区」を事例として、西山徳明・西川克之・花岡拓郎、平井健文編『自然災害復興における観光創造』CATS 叢書第 9 号 : 8 章 87-96、北海道大学観光学高等研究センター.
- 王金偉 (2015) : 中国の自然災害地における負の遺産解説に対する観光客の意識と評価—四川省「北川震災跡区」を事例として—、観光研究日本観光研究学会機関誌、Vol.27、No.1、pp.41-54.
- 王娜 (2016) : 山梨県における NPO 法人経営の持続性意識に関する研究、山梨大学大学院医学工学総合教育部博士論文.
- 株式会社数理システム (2011) : 『Text Mining Studio 操作マニュアル バージョン 4.0』
- 株式会社数理システム (2011) : 『Text Mining Studio 技術資料 バージョン 4.0』
- 株式会社数理システム (2011) : 『Text Mining Studio チュートリアル バージョン 4.0』
- 韓魯安 (2008) : 中国観光産業の課題と持続可能な観光への若干の展望、金沢大学学術情報リポジトリ人間社会環境研究、第 15 号、pp.165-188.
- 金明哲 (2007) : R によるデータサイエンス (データ解析の基礎から最新手法まで)、森北出版株式会社.
- 金明哲 (2012) : 『テキストマイニングの統計科学入門』、岩波書房.
- 外国人観光客受入に関する実態調査事業報告書、沖縄県、2016.
- 亀井由紀子 (2011) : 歴史的環境保全地区における住民活動の機能評価に関する研究—榎原市今井町重要伝統的建造物群保存地区を事例として—日本建築学会系論文集、Vol.76、No.670、pp.2381-2386.
- 菊地淑人 (2012) : 祭礼を支える「組」組織とそれをとりまく社会変化—岐阜県高山市旧城下町地域における伝統的祭礼を事例として—、日本建築学会計画系論文集、Vol.77、No.681、pp.2659-2664.
- 倉澤知久・十代田朗・津々見崇 (2012) : 旅行雑誌に見る町並み観光地の魅力に関する研究、第 27 回日本観光研究学会全国大学学術論文集、pp.125-128.

- 経済産業大臣平沼赳夫：伝統的工芸品産業の振興の基本的な方向、経済産業省公示第五百十九号。
- 国立大学法人山梨大学生命環境学部地域社会システム学科編集（2014）：地域社会システム論-地域活性化を豊かさ・まちづくり・自然資源・人材戦略・財産の保護から考える-、農文協プロダクション。
- 佐野充・田中絵里子（2012）：日本の伝統的地域景観、日本大学文理学部自然科学研究所研究紀要、No.47、pp.41-52.
- 清水苗穂子（2015）：中国における新たなエコツーリズムの潮流-国際環境 NGO の試み東アジア研究、第 42 号、pp.52.
- 下川敏雄・杉本知之・後藤昌司(2013)：樹木構造接近法（R で学ぶデータサイエンス 9）、共立出版。
- 下川敏雄・辻光宏・後藤昌司（2013）：順序カテゴリカル応答に対する多変量適応型回帰スプライン法の開発、計算機統計学会シンポジウム論文集、pp.173-176.
- 周晟・池田孝之、周旭（2008）：中国・湖南省における「農家楽」の実態に関する考察-朱洲市市域を事例として-、日本建築学会計画系論文集、Vol.73、No.632、pp.2139-2146.
- 鈴木聡士・沼田真吾（2010）：CS 分析を活用した札幌都心の質的満足度評価、工学研究・北海学園大学大学院工学研究科紀要（10）、pp.3-8.
- 菅民郎（2001）：『EXCEL で学ぶ多変量解析入門』第 5 章「CS 分析」、オーム社。
- 菅民郎（2004）：アンケートデータの分析、現代数学社。
- 孫岳龍（2009）：持続可能な社会の構築に向けた街並み保存再生の研究-中国成都市の「寛窄巷子」の保存再生案を中心として-、青森大学地域問題研究所-地域社会研究、Vol.17.
- 高橋光幸（1999）：中国の観光開発における地方民族文化資源の位置づけと開発方針に関する研究-雲南省における観光開発の経緯と「民族風情」概念の位置づけについて、日本建築学会近畿支部研究報告集。
- 高田誠マルセール・大西隆（2010）：観光開発による創作的景観の形成過程と地域住民評価に関する研究-中国上海市金山区中洪村における農民画を題材とした観光開発を事例として、A STUDY IN THE PROCESS OF TOWNSCAPE CREATION BY TOURISM DEVELOPMENT AND THE REGIONAL EVALUATION - IN case of Jin Shan village in Shang China、日本建築学会計画系論文集第 75 巻第 652 号、pp.1433-1439.
- 張広帥・森重昌之（2010）：中国の新農村建設における郷村観光の重要性に関する研究-大連市を事例として」、日本計画行政学会第 33 回全国大会研究報告要旨集、pp.133-136.
- 出口満・伊香賀俊治・白石靖幸・星旦二・大津由紀子・川久保俊・竹之下忠英・奥村公美（2009）：住民の住まい・コミュニティに対する意識と健康面の相関分析、日本建築学会関東支部研究報告集、pp.37-40.
- 樋口正美他（2005）：CS の推進・向上策とその実際、日本テクノセンター。
- 土肥健夫（1991）：リゾート再生と地域振興、学芸出版社。
- 展鳳彬（2009）：中国の新型観光農家楽-四川省・成都市を事例に-、同志社大学大学院政策科学研究科、pp.241-246.

- 佟碩 (2006) : 中国人観光者の首都圏-日観光への志向についての研究、立教ビジネスデザイン研究、第 3 号、pp.267-279.
- 南学・中西良文 (2010) : CS 分析を利用した授業の評価と改善-授業種別ごとの CS 分析結果の比較-、三重大学教育学部附属教育実践総合センター紀要第 30 号、pp.39-43.
- 日本建築学会編 (2004) : シリーズ地球環境建築・専門編 1-地域環境デザインと継承 (第二版)、彰国社.
- 日本都市計画学会関西支部新しい都市計画教程研究会 (2011) : 都市・まちづくり学入門、学芸出版社.
- 野瀬元子、古屋秀樹 (2008) : 日光と箱根における観光者の CS ポートフォリオ分析-外国人観光者と日本人観光客の比較-、土木学会第 63 回年次学術講演会、pp.679-680、.
- 野口寛樹 (2012) : 探索的定量研究に基づいたミッションの理解-定款のテキストマイニングから-」 The Nonprofit Review、Vol.12、No.1、pp.21-33.
- 羽生冬佳・森田義規・小久保恵三・十代田朗 (2006) : 来訪者の観光地評価の構造に関する研究ランドスケープ研究、日本造園学会誌-journal of the Japanese Institute of Landscape Architecture 69 (4)、pp.301-306.
- 浜崎隆司・吉田美奈 (2015) : 添い寝時における就眠儀式についての研究-テキストマイニング法による自由記述の分析、The study on the bed-time routine in co-sleeping : Analysis of free description by using text mining method、広島大学大学院教育学研究科学習開発学講座第 8 号、pp.175-188.
- 葉華・浅野聡・戸沼幸市 (1997) : 中国における歴史的環境保全のための歴史文化名城保護制度に関する研究-名城保護制度の枠組みの整備過程の特徴と課題、日本建築学会計画系論文集、No.494、pp.195-203.
- 日野淳一、小野由樹子、松永敏子、会田雅彦 (2006) : 顧客満足とサービス因子の評価構造に関する研究、Special edition paper、JR EAST Technical Review-No.16、pp.47-52.
- 古麗扎尔阿不都肉苏里 (2010) : 新疆ウイグル自治区における持続可能な観光発展、神戸大学大学院総合人間科学研究科.
- 藤吉普人・牛野正・九鬼康彰・星野敏 (2007) : 顧客満足度調査を用いた農産物直売所への顧客ニーズの把握と施設の改善方向、農村計画学会誌、26 巻論文特集号、pp.329-224.
- 藤井美和・李政元・小杉考司 (2005) : 福祉・心理・看護のテキストマイニング入門、中央法規出版.
- 馮旭・山崎寿一 (2013) : 中国における「歴史文化名鎮名村」保護制度の展開とモデル計画事例に関する考察-1980 年以降の「面」的保護に着目して-、日本建築学会計画系論文集第 78 巻第 684 号、pp.373-382.
- 掘川紀年 (2007) : 日本を変える観光力-地域再生への道を探る、昭和堂出版社.
- 松本幸正・塚本弥八郎 (2004) : CS 分析の考え方を導入した授業評価アンケートの分析と授業改善ポイントの定量化、京都大学高等教育研究第 10 号、pp.21-32.
- 松村真宏・三浦麻子 (2009) : 人文・社会科学のためのテキストマイニング、誠信書房.
- 万可・劉岩・李力・大山勲・下川敏雄 (2015) : 中国の成都市及び近郊地域における伝統的観光地の顧客に対するニーズに関する影響要因解析、日本計算機統計学会第 29 回

大会.

- 万可 (2016) : 中国成都市における伝統的観光地の観光客と商業者の意識に関する研究、山梨大学大学院医学工学総合教育部修士論文.
- 前田勇 (1978) : 観光概論、学文社株式会社.
- 結城登美雄 (2009) : 地域の再生シリーズ①-地元学からの出発: この土地を生きた人々の声に耳を傾ける、農文協.
- 柳雅聡・大山勲 (2014) : 観光地における観光客と住民の観光に対する意識に関する研究、土木学会関東支部、第 41 回技術研究発表会、IV-14.
- 柳雅聡 (2014) : 観光客と住民の観光地に対する意識に関する研究-忍野八海を対象として -、山梨大学大学院医学工学総合教育学部土木環境工学専攻修士論文.
- 山本祐子・圓川隆夫 (2000) : 顧客満足度とロイヤリティの構造に関する研究、日本経営工学会論文誌、Vol.51、No.2、pp.144-152.
- 山口和範・高橋淳一・竹内光悦 (2004) : よくわかる多変量データ解析の基本と仕組み、秀和システム.
- 山崎寿一・馮旭 (2011) : 生活地名による集落空間の分析手法-雲南省西双版纳ダイ族集落・曼海を例に一、日本建築学会計画系論文集、No.666、pp.1415-1422.
- 山村高淑 (1999) : 中国の観光開発における地方民族文化資源の位置づけと開発方針に関する研究-雲南省における観光開発の経緯と「民族風情」概念の位置づけについて、日本建築学会近畿支部研究報告集.
- 山村高淑 (1999) : 中国雲南省の観光開発における地方民族文化資源の位置づけと開発方針に関する研究 - 麗江地区における観光開発の経緯とその戦略について -、日本建築学会大会学術講演梗概集.
- 山村高淑・張天新・藤木庸介・平田隆行・門永琢・柏原誉・金世峰 (2005) : 麗江旧市街地中心部における保護民居の実態とその保全上の課題について-観光地化が世界遺産都市・麗江に与える空間的・社会的インパクトに関する研究その 2、日本建築学会大会学術講演梗概集.
- 山村高淑 (2006) : 開発途上国における地域開発問題としての文化観光開発 - 文化遺産と観光開発をめぐる議論の流れと近年の動向、Cultural Tourism Development as a Regional Development Issue in Developing Countries: The Latest Trend of Issues and Studies concerning the Relationship between Cultural Heritage and Tourism Development、西山徳明編『文化遺産マネジメントとツーリズムの持続的関係構築に関する研究』、国立民族学博物館調査報告 61、pp.11-54.
- 山村順次(1990) : 観光地域論 地域形成と環境保全、古今院.
- 吉田倫子・上村信行・宇高雄志 (2007) : 町並み保存地区内外の住民の町並み保存に対する意識の差異-竹原重要伝統的建造物群保存地区を事例として一、日本建築学会計画系論文集、No.618、pp.89-96.
- 横山秀司 (2006) : 観光のための環境景観学-真のグリーン・ツーリズムにむけて、古今書院.
- 楊慶雲 (2004) : 市街地開発整備の事業化システムの考察-土地利用権回収-譲渡方式と土

地区画整理事業方式を中心として-、山梨大学大学院工学研究科博士後期課程博士論文。

劉岩・万可・李力・下川敏雄・大山勲（2016）：成都市および近郊地域における観光地開発の現況-中国における伝統的観光地の顧客ニーズ調査-、A Study on Current Situation of Tourism Development in Chengdu and the Suburb Area - Investigation of Affecting Factors of Tourist for Traditional Tourism Area in China - 、日本感性工学会論文、Vol.15、No.1、pp.163-172.

劉蘭芳（2014）：農村住民による観光資源の保全意識工場及び農村観光開発の方策に関する研究-遼寧省南大山地域を事例として-、日本国際観光学会論文集（第 21 号）、pp.191-195.

劉蘭芳（2013）：中国における農村資源を活用した観光開発による地域活性化に関する研究-遼寧省における都市近郊農村及び中山間地域農村の意識調査を通じて-、東洋大学国際地域学研究科国際地域学博士論文。

ローネン・フェルドマン，ジェイムズ・サンガー，辻井潤一（監訳）（2010）：テキストマイニングハンドブック、IBM 東京基礎研究所テキストマイニングハンドブック翻訳チーム、東京電機大学出版局。

< 英語文献 > (50 音順)

- Archer, K.J. rpartOrdinal (2010): An R package for deriving a classification tree for predicting ordinal response, Journal of Statistical Software.
- Breiman, L. Friedman, J.H. Olshen, R.A. and Stone, C.J. (1984) : Classification and Regression Trees, Wadsworth.
- De'ath G (2002) : Multivariate regression trees : a new technique for constrained classification analysis. Ecology, 83(4), pp.1103-1117.
- LiPing A.CAI. (2002) : COOPERATIVE BRANDING FOR RURAL DESTINATIONS. ANNALS OF TOURISM RESEARCH, Vol.29, No.3, pp.720-742.
- Pekoglu B.an (2006) : Architectural Evaluation Method for Conservation of Traditional Dwellings [J]. Building Environment, Vol41, No.3 pp.386-394.
- Wickens E (2002) : The sacred and the profane : A tourist typology [J] . Annals of Tourism Research. 29 (3), pp.834-851.
- Yan Liu , Isao Oyama , Shaowei Ning , and Li Li : A study on Chinese ancient town tourism policy based on tourist satisfaction survey—in Chengdu city and the Suburb Area、sustainability 2017, 9, 1087, pp.1-13.

<インターネット>

中華人民共和国旅遊局：<http://www.cnta.gov.cn>
中華人民共和国国家統計局：<http://www.stats.gov.cn/tjsj/nds/>
中国旅遊研究院：<http://www.ctaweb.org>
四川省統計局：<http://www.sc.stats.gov.cn>
四川旅遊政務網：<http://www.scta.gov.cn/sclj/>
成都旅遊政務網：<http://www.cdta.gov.cn>
成都統計信息網：<http://www.cdstats.chengdu.gov.cn/list.asp?ClassID=020703>
人民網日本語版-人民日報：<http://j.people.com.cn>
中国網：<http://japanese.china.org.cn>
ふれあい中国（中国旅行の専門サイト）：<http://www.chinatrip.jp>
四川旅遊資訊：<http://www.tsichuan.com/index.htm>
中国旅遊・中国ツアー：<http://www.arachina.com>
中国百度百科：<http://www.arachina.com>
中国古镇网：<http://www.sozhen.com>
ウィキペディアフリー百科事典：<https://ja.wikipedia.org/wiki/顧客満足>
ブランド用語集：<http://japanbrand.jp/dic/>
デジタル大辞泉：<http://www.daijisen.jp/digital/>
日本大百科全書：<https://japanknowledge.com/contents/nipponica/index.html>
日本能率協会総合研究所：
http://jmar-im.com/cs/survey/?utm_source=yahoo&utm_medium=cpc&utm_campaign=ss
はじめてのCS：<http://www.hajimetenocs.jp/index.html>